

多治見市 高齢者保健福祉計画策定のための
高齢者実態調査結果

令和8年8月

多治見市

－ 目 次 －

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査方法等	2
3 回収結果	2
4 調査・分析にあたって	3
 第 2 章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	 5
1 回答者の属性	6
(1) 性 別	6
(2) 年 齢	6
(3) 居住地域	7
(4) 認定状況	8
(5) 調査票の記入者	8
(6) 家族構成	9
2 生活の状況	10
(1) 日中、一人になることがあるか	10
(2) 介護・介助が必要か	11
(3) 介護・介助が必要になった原因	12
(4) 主な介護・介助者	13
(5) 現在の経済的な暮らしの状況	14
(6) 現在の住まい	15
3 からだを動かすこと	16
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか	16
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	16
(3) 日頃 15 分くらい続けて歩いているか	17
(4) 過去 1 年の転倒経験	17
(5) 転倒に対する不安は大きいのか	18

4 外 出	19
(1) 外出頻度	19
(2) 昨年と比べて外出頻度が減っているか	20
(3) 外出を控えているか	21
(4) 外出を控える理由	22
(5) 移動手段	24
(6) 自動車運転免許証の返納意向	27
(7) 自動車運転免許証を返納した場合の移動手段	29
(8) 自動車運転免許証を返納しない理由	29
(9) 以前に比べて歩く速度が遅くなったか	32
5 食 べ る こ と	33
(1) 身長・体重	33
(2) BMI	34
(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	35
(4) お茶や汁物でむせるか	35
(5) 口の渇きが気になるか	36
(6) 歯磨きを毎日しているか	36
(7) 歯の数と入れ歯の利用状況	37
(8) 毎日入れ歯の手入れをしているか	38
(9) 噛み合わせはよいか	38
(10) 6か月で2～3kg以上の体重減少があったか	39
(11) 共食の機会	40
(12) 1日の食事の回数	41
6 毎日の生活	42
(1) 物忘れが多いと感じるか	42
(2) バスや電車を使って1人で外出するか	42
(3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか	43
(4) 食品・日用品の買い物をする人	44
(5) 自分で食事の用意をしているか	45
(6) 食事の用意をする人	46

(7) 自分で請求書の支払いをしているか	47
(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか	47
(9) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか	48
(10) その日の活動を自分で判断できるか	49
(11) 人に自分の考えをうまく伝えられるか	50
(12) 食事は自分で食べられるか	51
(13) いつも同じことを聞くなどと言われるか	52
7 地域活動	53
(1) 会・グループ等への参加頻度	53
(2) 地域活動への参加意向	54
(3) 地域にあるとよいサービス	56
(4) 地域でできる支援	58
8 就 労	60
(1) 現在の就労状況	60
(2) 就労状況にみた地域活動への参加意向	61
(3) 引退後の経過年数	62
9 たすけあい	63
(1) 周りの人との助け合いの状況	63
(2) 家族や友人以外の相談相手	64
(3) 友人・知人と会う頻度	67
(4) 1か月間に会った友人・知人の人数	68
(5) よく会う友人・知人との関係	69
10 健 康	71
(1) 健康状態	71
(2) 幸福度	72
(3) 過去1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったか	74
(4) 過去1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめないことがよくあったか ..	75
(5) 喫 煙	76
(6) 飲 酒	77

(7) 現在、治療中または後遺症のある病気	78
1 1 認知症施策	81
(1) 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか	81
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度	82
(3) 認知症に対するイメージ	83
(4) 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか	85
(5) 認知症サポーターの認知度	86
1 2 人生の最終段階	88
(1) 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか ...	88
(2) 人生の最終段階を過ごしたい場所	89
1 3 多治見市の高齢者保健福祉施策	92
(1) 災害時に不安に感じる事	92
(2) かかりつけ医はいるか	96
(3) 訪問診療をしてくれる医師はいるか	97
(4) 訪問診療の利用意向	98
1 4 生活機能評価	99
(1) 運動機能の低下者	99
(2) 転倒リスクのある高齢者	101
(3) 閉じこもり傾向の該当者	102
(4) 咀嚼機能の低下者	103
(5) 口腔機能の低下者	104
(6) 低栄養	107
(7) 認知機能の低下者	109
(8) うつ傾向の該当者	110
(9) 手段的自立度（I A D L）の低下者	112
(10) C P S	114

第3章 在宅介護実態調査 117

1 回答者の属性	118
(1) 聞き取りを行った相手	118
(2) 性別	118
(3) 年齢	119
(4) 要支援・要介護度	119
(5) 家族構成	120
(6) 現在抱えている傷病	121
2 介護保険サービス等	123
(1) 現在、利用している介護保険サービス以外の支援・サービス	123
(2) 在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービス	124
(3) 施設入所の検討状況	125
(4) 介護保険サービスの利用状況	126
(5) 利用している介護保険サービス	127
(6) 利用している介護予防・日常生活支援総合事業	127
(7) サービスの組み合わせ	128
(8) 介護保険サービスを利用しない理由	129
(9) 訪問診療の利用状況	130
3 主な介護者の状況	131
(1) 家族・親族からの介護の頻度	131
(2) 主な介護者は誰か	132
(3) 主な介護者の性別	132
(4) 主な介護者の年齢	133
(5) 主な介護者が行っている介護	134
(6) 主な介護者が不安に感じる介護	136
4 介護と仕事の両立	138
(1) 介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人がいるか	138
(2) 主な介護者の勤務状況	139
(3) 介護をするにあたり、働き方の調整をしているか	140

(4) 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援	141
(5) 主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか	142
5 多治見市の高齢者保健福祉施策	143
(1) 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか ...	143
(2) 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか	144
(3) 認知症カフェへの参加意向	145
(4) 認知症カフェに望むこと	146
(5) 認知症の人が自分らしく、地域で生活するために必要なこと	147
(6) 多治見市の高齢者福祉に関する意見	148
 第4章 事業所調査	 149
I 在宅生活改善調査	150
(1) 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合	150
(2) 過去1年間に自宅等から居所を変更した人の行先	150
(3) 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳	151
(4) 事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いか .	151
(5) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者	151
(6) 現在、家族介護者の負担になっている介護	153
(7) 生活の維持が難しくなっている理由	154
(8) 充実が必要な生活支援	155
(9) 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更	156
(10) 介護老人福祉施設に入所できていない理由	157
(11) 介護老人福祉施設以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由	157
 II 介護人材実態調査	 158
(1) 資格の取得状況	158
(2) 常勤職員・非常勤職員の割合	159
(3) 性・年齢別の雇用形態の構成比	159
(4) 職員1人あたりの1週間の勤務時間	161
(5) 平日・土日別の職員1人・1日あたり訪問介護サービス提供時間	162

(6) 介護職員数の変化	162
(7) 前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所	163
(8) 過去 1 年間の介護職員の職場の変化	163
(9) 訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳	164
(10) 採用や人材定着に関する課題	165
(11) 人材確保に関して、多治見市に期待するサポート	167
Ⅲ 居所変更実態調査	169
(1) 現在の入所・入居者の要支援・要介護度	169
(2) 過去 1 年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合	169
(3) 過去 1 年間の施設・居住系サービスの入居及び退居の流れ	170
(4) 居所変更した人の要支援・要介護度	173
(5) 居所変更した理由	174
(6) 受け入れ可能な医療処置の種類	174
(7) 医療処置が必要な入所・入居者数の割合	175
調査票	177

第 1 章

調査の概要

1 調査の目的

本調査は、新たな「多治見市高齢者保健福祉計画」の策定にあたって、高齢者の健康状態や生活習慣、保健福祉サービスの利用状況やニーズ、事業所の現状等を把握し、基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査方法等

本調査は図表 1－1 のとおり実施しました。

図表 1－1

区分	①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	②在宅介護実態調査	③事業所調査		
			i 在宅生活改善調査	ii 介護人材実態調査	iii 居所変更実態調査
調査対象者	多治見市在住の65歳以上の高齢者（要介護認定を受けている人を除く）	要支援・要介護認定を受けている高齢者及びその介護者	居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護事業所	施設・居住系サービス、通所系サービス、訪問系サービス事業所	住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、グループホーム、特定施設、介護老人保健施設、介護医療院、介護老人福祉施設
抽出方法	無作為抽出	介護認定調査対象者全数	市内の事業所全数		
配布・回収	郵送による配布、郵送・WEBによる回収	認定調査員による聞き取り	郵送・電子メールによる配布、回収		
調査期間	令和7年12月8日～12月25日	令和7年10月1日～令和8年2月27日	令和7年12月23日～令和8年1月23日		

3 回収結果

回収結果は図表 1－2 のとおりです。

図表 1－2

区 分		配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		3,002	2,308	2,297	76.5%
②在宅介護実態調査		133	133	128	96.2%
③事業所調査	i 在宅生活改善調査	28	12	12	42.9%
	ii 介護人材実態調査	150	47	47	31.3%
	iii 居所変更実態調査	64	24	24	37.5%

4 調査・分析にあたって

- 図表中のn（Number of Caseの略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示しています。
- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が100%にならない場合があります。
- クロス集計の表やグラフを見やすくするため、性、年齢などの比較対象となる項目の「不明」、「無回答」を表示していません。したがって、比較対象となる項目の合計は全体の合計と一致しない場合があります。
- 複数回答が可能な質問の場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をします。したがって、各項目の比率の合計は、通常100%を超えています。
- 本報告書中の表、グラフ、本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略してある場合があります。

第2章

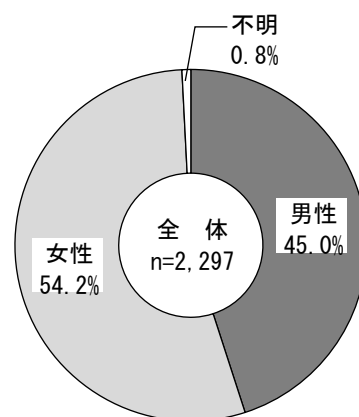
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 回答者の属性

(1) 性別

■回答者の性別は、「男性」が45.0%、「女性」が54.2%となっています。

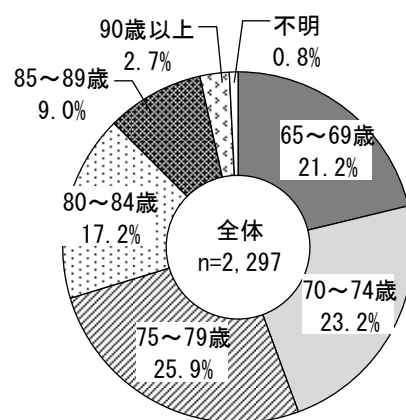
図表 2-1 性別



(2) 年齢

■回答者の年齢は、「75～79歳」が25.9%と最も高く、次いで「70～74歳」が23.2%です。また、〈75歳以上〉が54.8%となっています。

図表 2-2 年齢



(3) 居住地域

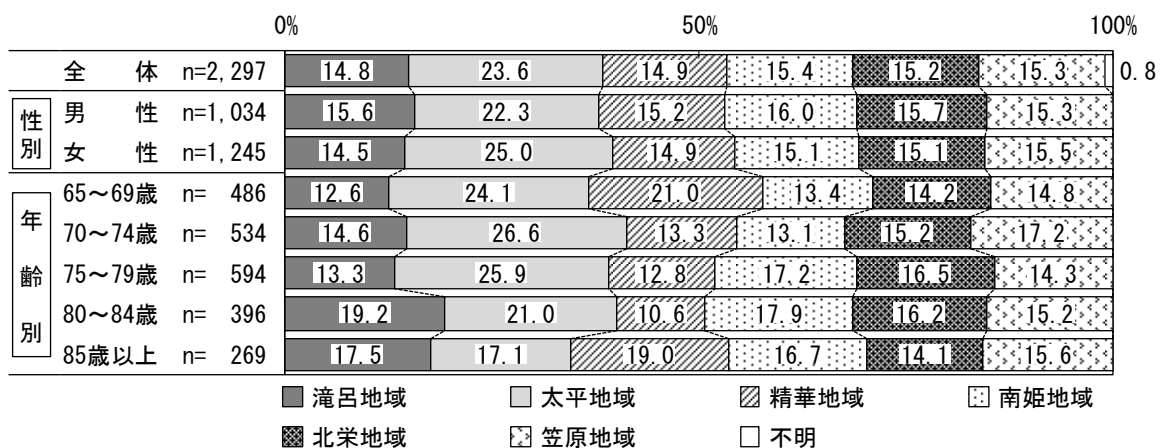
■回答者の小学校区は、図表2-3のとおりです。

■回答者の日常生活圏域は、図表2-4のとおりです。「太平洋地域」が23.6%と最も高く、次いで「南姫地域」(15.4%)、「笠原地域」(15.3%)、「北栄地域」(15.2%)、「精華地域」(14.9%)、「滝呂地域」(14.8%)の順となっています。

図表2-3 小学校区



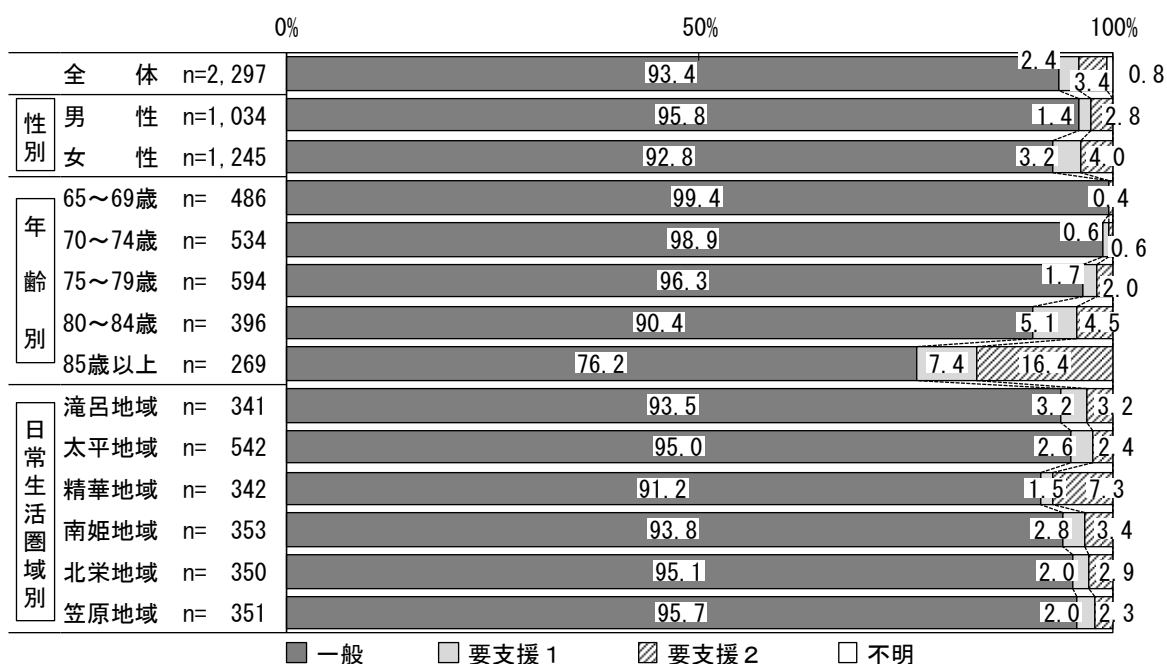
図表2-4 日常生活圏域



(4) 認定状況

- 回答者の認定状況は、「一般」が93.4%を占め、「要支援2」が3.4%、「要支援1」が2.4%となっており、〈要支援1・2〉は、5.8%です。
- 〈要支援1・2〉は、年齢別にみると、85歳以上になると著しく上昇します。また、日常生活圏域別にみると、精華地域はその他の地域に比べてやや高くなっています。

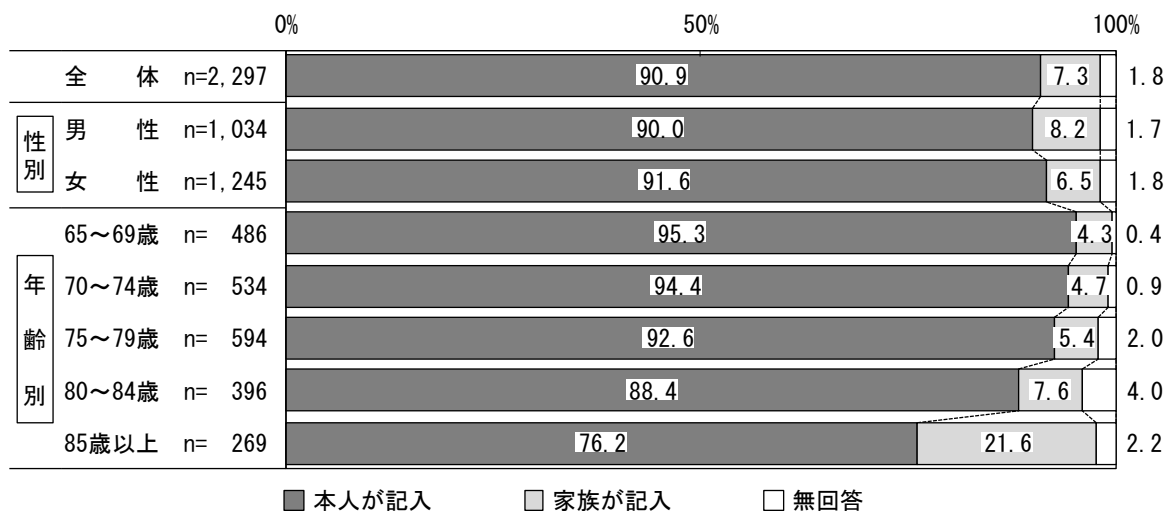
図表2-5 認定状況



(5) 調査票の記入者

- 調査票の記入者は、「本人が記入」が90.9%を占めており、次いで「家族が記入」の順となっています。
- 年齢が高くなるにしたがい「家族が記入」が上昇し、「本人が記入」が低下しています。

図表2-6 調査票の記入者



■家族の続柄として図表２－７の内容が記載されていました。

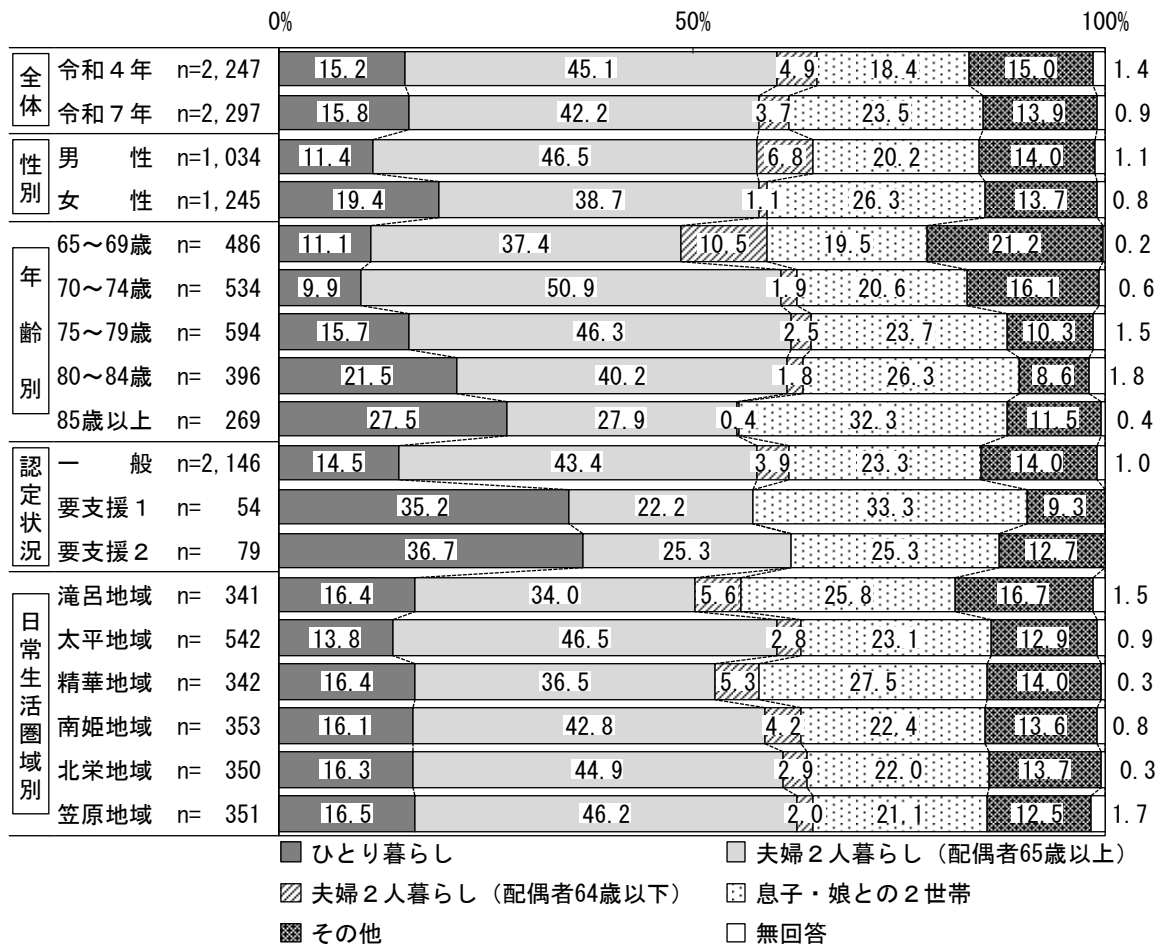
図表２－７ 家族の続柄

・妻 66件	・夫 18件	・母 3件
・息子 36件	・配偶者 4件	・子の配偶者 2件
・娘 19件	・きょうだい 3件	・義妹

(6) 家族構成

- 家族構成は「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が42.2%と最も高く、これに「ひとり暮らし」（15.8%）を加えた〈高齢者のみ世帯〉が58.0%となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が高く、「ひとり暮らし」及び「息子・娘との２世帯」が低くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」が低下し、「ひとり暮らし」及び「息子・娘との２世帯」が上昇する傾向にあります。85歳以上は、「ひとり暮らし」が27.5%となっており、4人に1人以上が独居です。
- 認定状況別にみると、要支援１・２の35%程度が「ひとり暮らし」となっています。
- 日常生活圏域別にみると、滝呂地域及び精華地域はその他の地域に比べて〈高齢者のみ世帯〉が低い割合です。

図表２－８ 家族構成

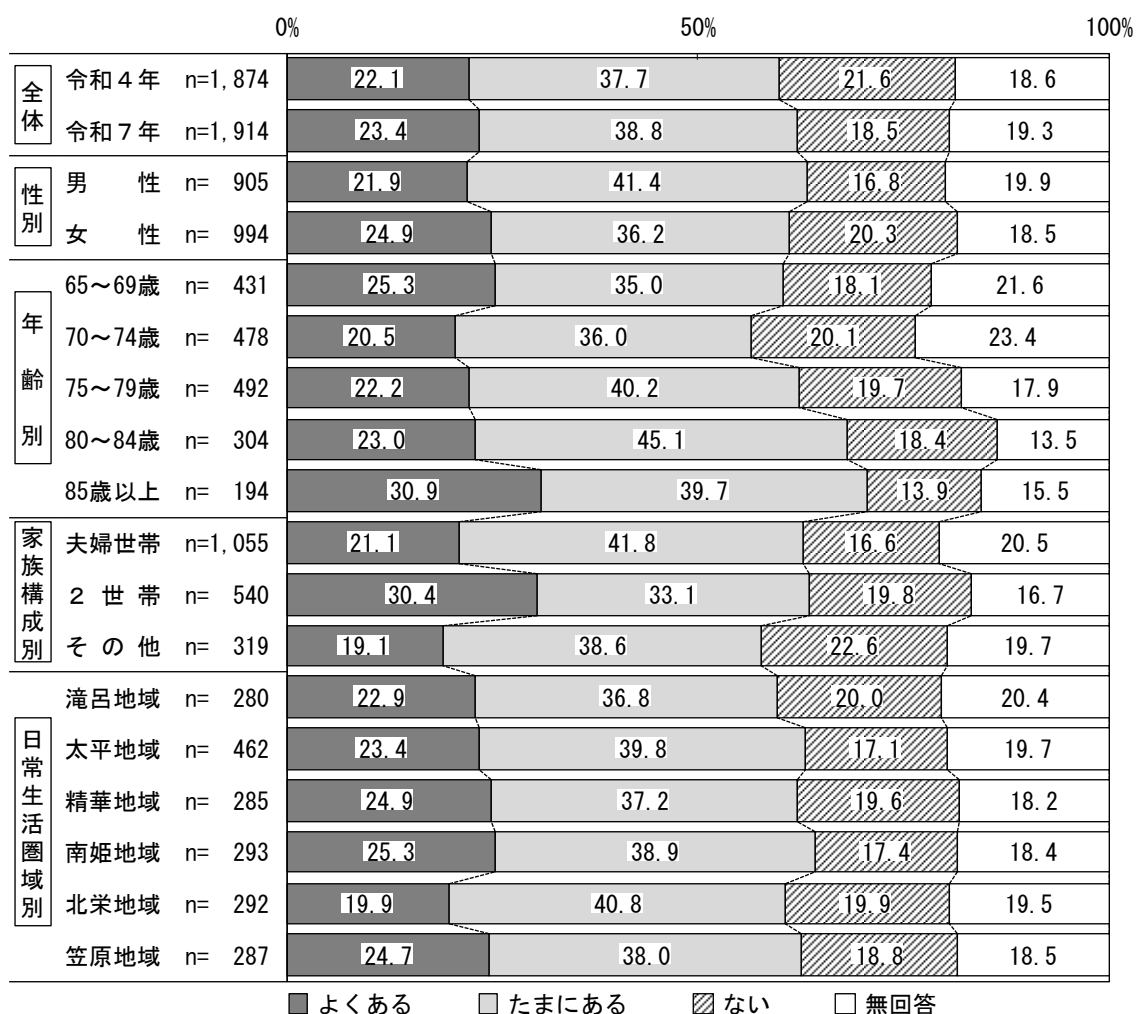


2 生活の状況

(1) 日中、一人になることがあるか

- 同居者がいる人に、一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」が38.8%と最も高く、次いで「よくある」(23.4%)、「ない」(18.5%)の順となっています。
- 「よくある」は、年齢別にみると、85歳以上はその他の年齢層に比べて高くなっています。また、家族構成別にみると、2世帯が高くなっています。さらに、日常生活圏域別にみると、北栄地域はやや低い割合であることも特徴としてあげられます。

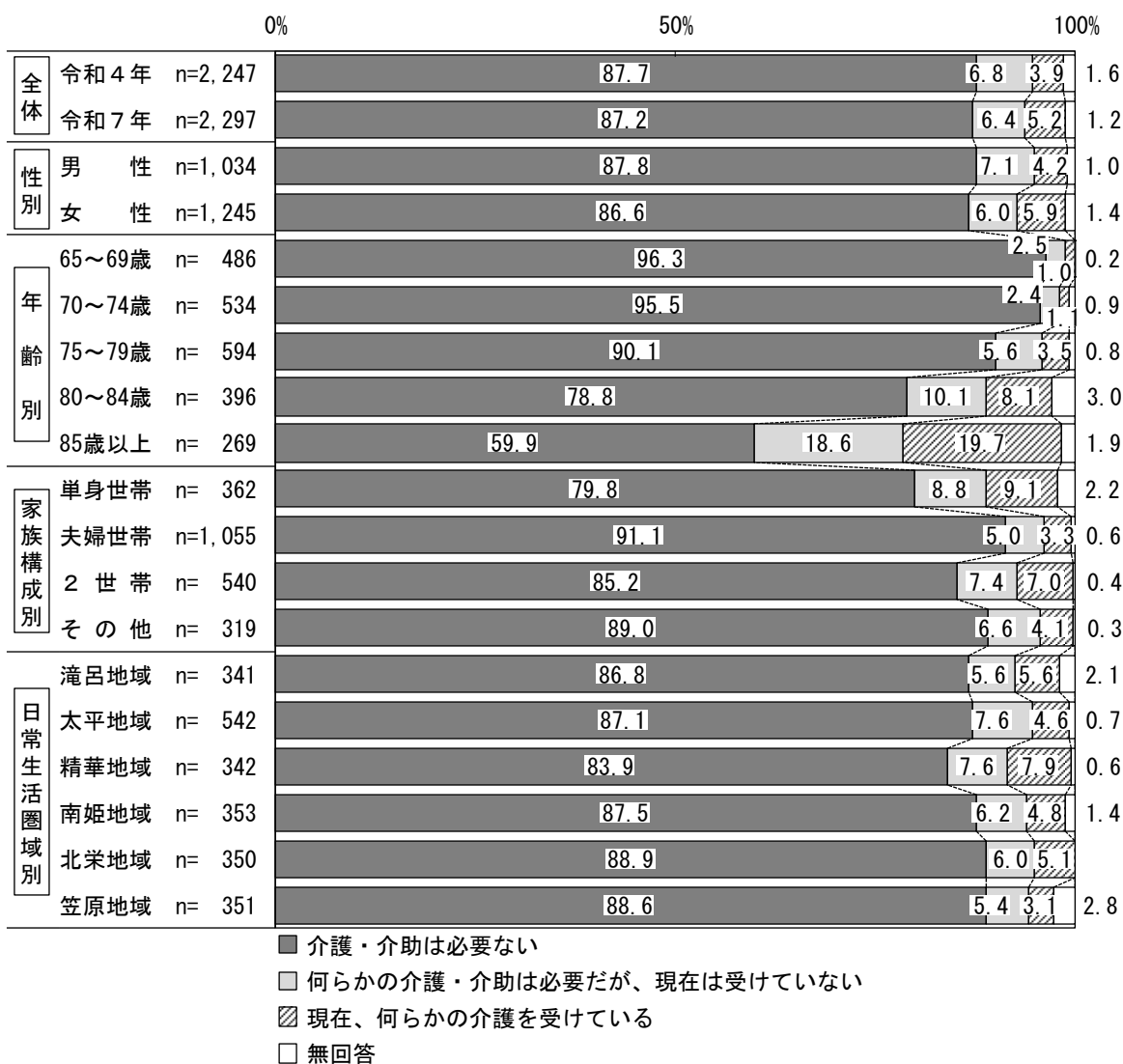
図表2-9 日中、一人になることがあるか（同居者がいる人）



(2) 介護・介助が必要か

- 普段の生活で介護・介助が必要かたずねたところ、「介護・介助は必要ない」が87.2%を占めており、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.4%、「現在、何らかの介護を受けている」が5.2%となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「介護・介助は必要ない」が低下し、85歳以上になると「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」及び「現在、何らかの介護を受けている」がともに20%程度となります。

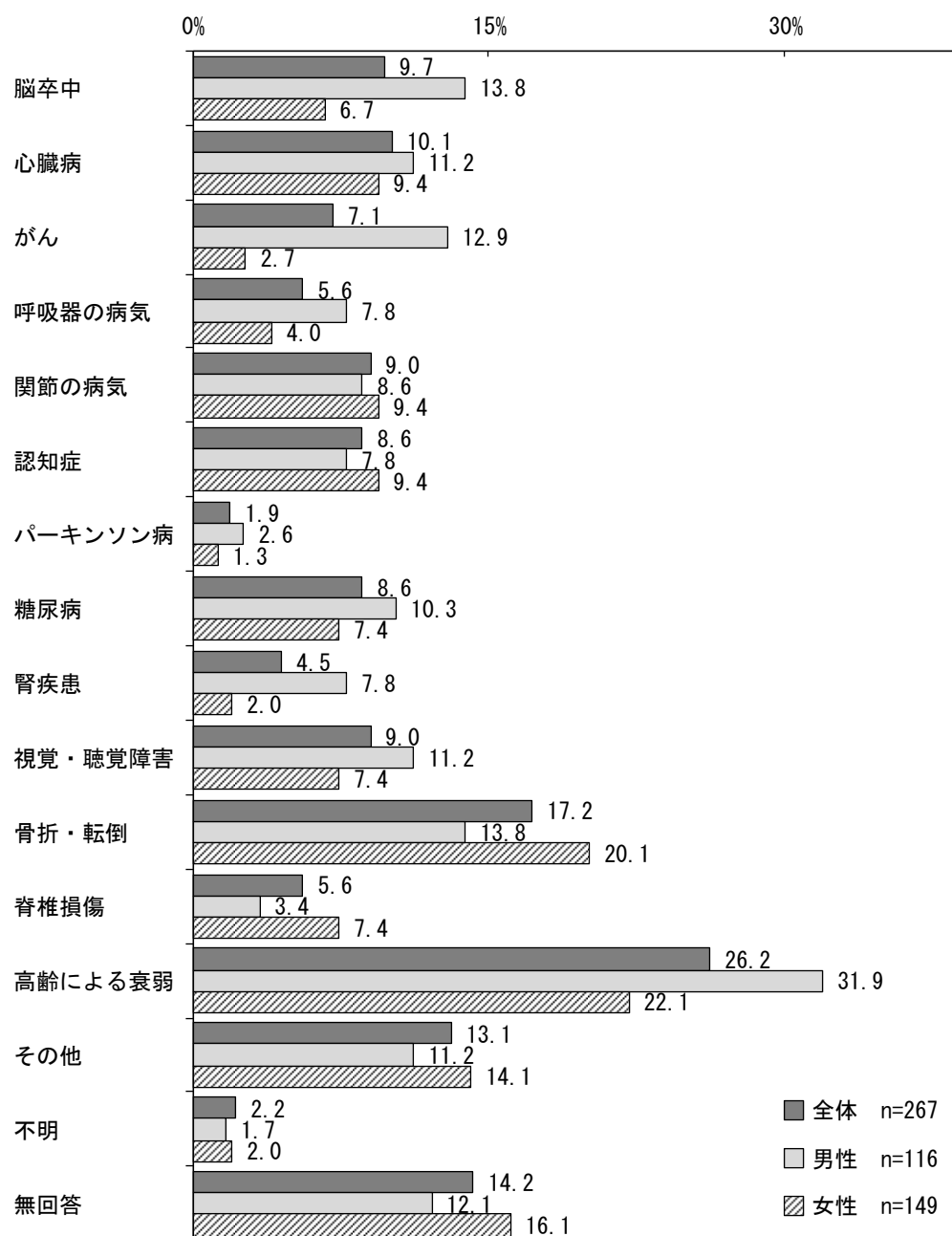
図表 2-10 介護・介助が必要か



(3) 介護・介助が必要になった原因

- 「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の介護・介助が必要になった原因は、「高齢による衰弱」が26.2%と最も高く、次いで「骨折・転倒」(17.2%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「がん」及び「高齢による衰弱」が10ポイント前後高くなっています。

図表2-11 介護・介助が必要になった原因（介護・介助が必要な人、複数回答）



■ その他として図表 2 - 12の内容が記載されていました。

図表 2 - 12 介護・介助が必要になった原因（その他、介護・介助が必要な人、複数回答）

- | | |
|-----------|-----------------|
| ・腰痛 4 件 | ・成人スティル病 |
| ・歩行困難 3 件 | ・水頭症 |
| ・頸椎症 | ・自律神経失調症 |
| ・頸髄損傷 | ・三叉神経痛 |
| ・嚥下障害 | ・手の痺れ |
| ・皮膚病 | ・高血圧 |
| ・統合失調症 | ・抗リン脂質抗体症候群 |
| ・腸閉塞 | ・間質性肺炎 |
| ・先天性身体障害 | ・甲状腺低下 |
| ・脊柱管狭窄症 | ・うつ病 |
| ・脊髄小脳変性症 | ・7～8年前の病気による副作用 |

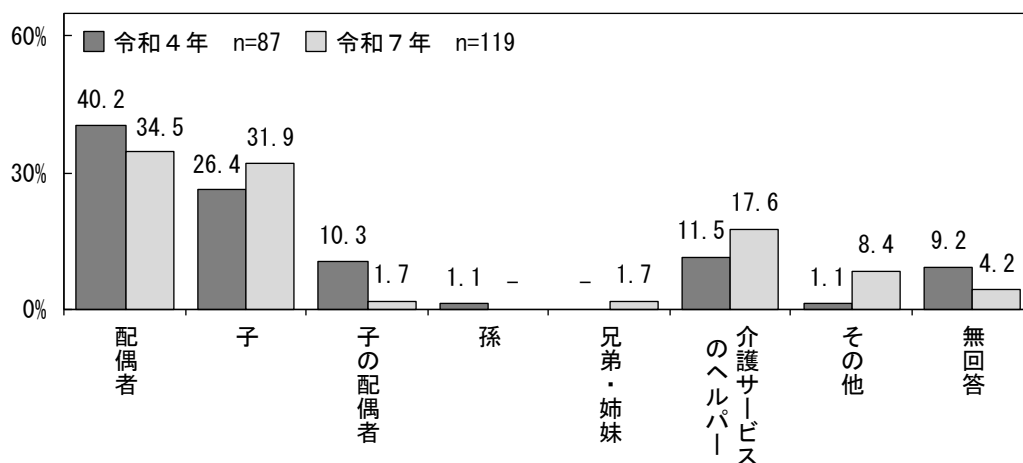
(4) 主な介護・介助者

■ 「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の主な介護者は「配偶者」が34.5%と最も高く、次いで「子」(31.9%)、「介護サービスのヘルパー」(17.6%)の順となっています。

■ 令和4年度調査と比較すると、「子」、「介護サービスのヘルパー」が上昇し、「配偶者」、「子の配偶者」が低下しており、それぞれ5ポイント以上の差があります。

■ その他として図表 2 - 14の内容が記載されていました。

図表 2 - 13 主な介護・介助者（介護を受けている人、複数回答）



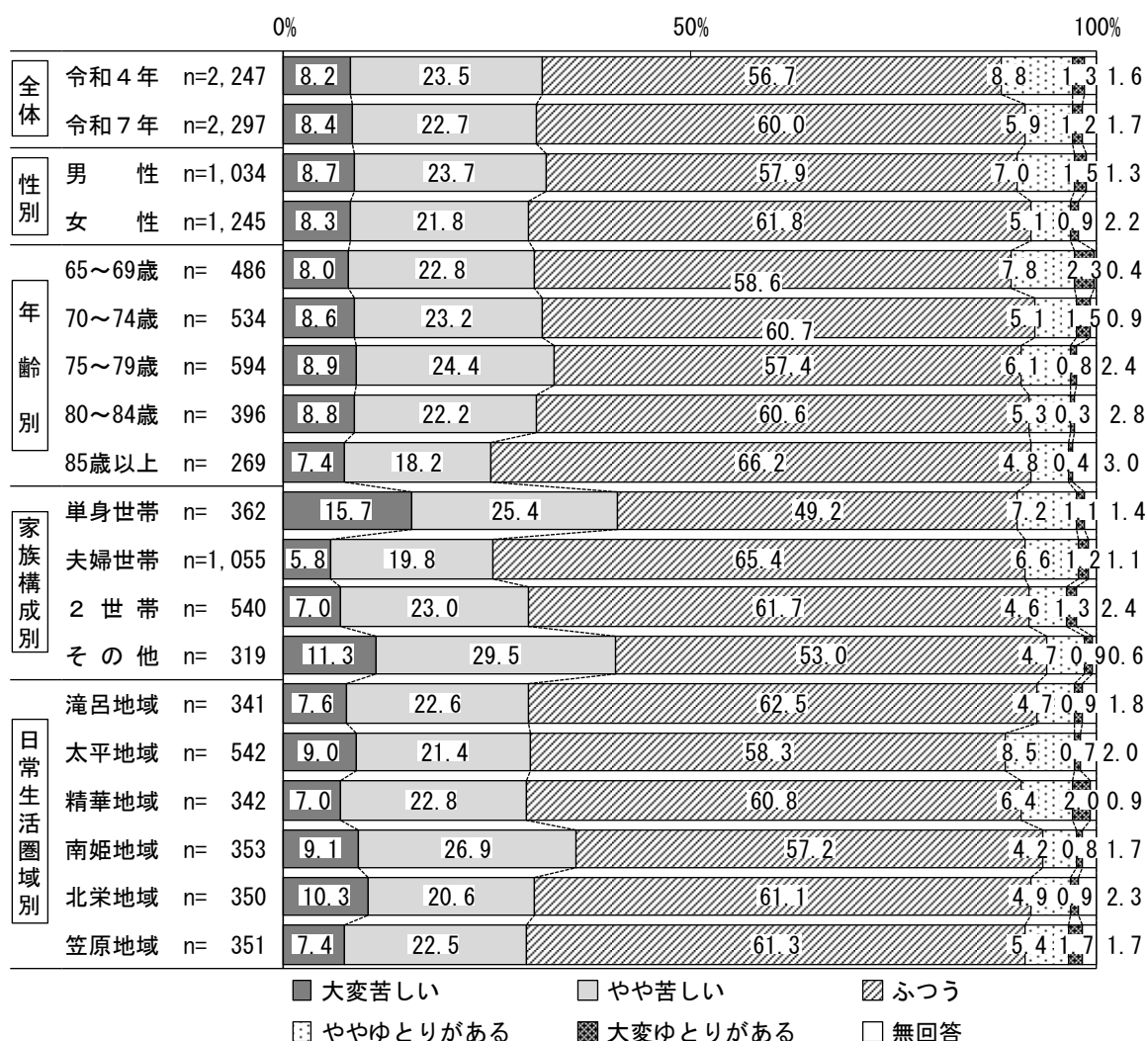
図表 2 - 14 主な介護・介助者（その他、介護を受けている人、複数回答）

- | | |
|------------|-------------|
| ・母（義母） 3 件 | ・訪問看護 |
| ・病院 2 件 | ・看護師 |
| ・姪 | ・住宅型有料老人ホーム |

(5) 現在の経済的な暮らしの状況

- 現在の経済的な暮らしの状況をたずねたところ、「ふつう」が60.0%と最も高く、次いで「やや苦しい」(22.7%)、「大変苦しい」(8.4%)の順となっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計した〈経済的に苦しい〉は31.1%です。
- 〈経済的に苦しい〉は、年齢別にみると、85歳以上はその他の年齢層に比べて低くなっています。家族構成別にみると、単身世帯及びその他の世帯はそれ以外の世帯に比べて高くなっており、40%を超えています。さらに、日常生活圏域別にみると、南姫地域はその他の地域に比べてやや高いことも特徴としてあげられます。

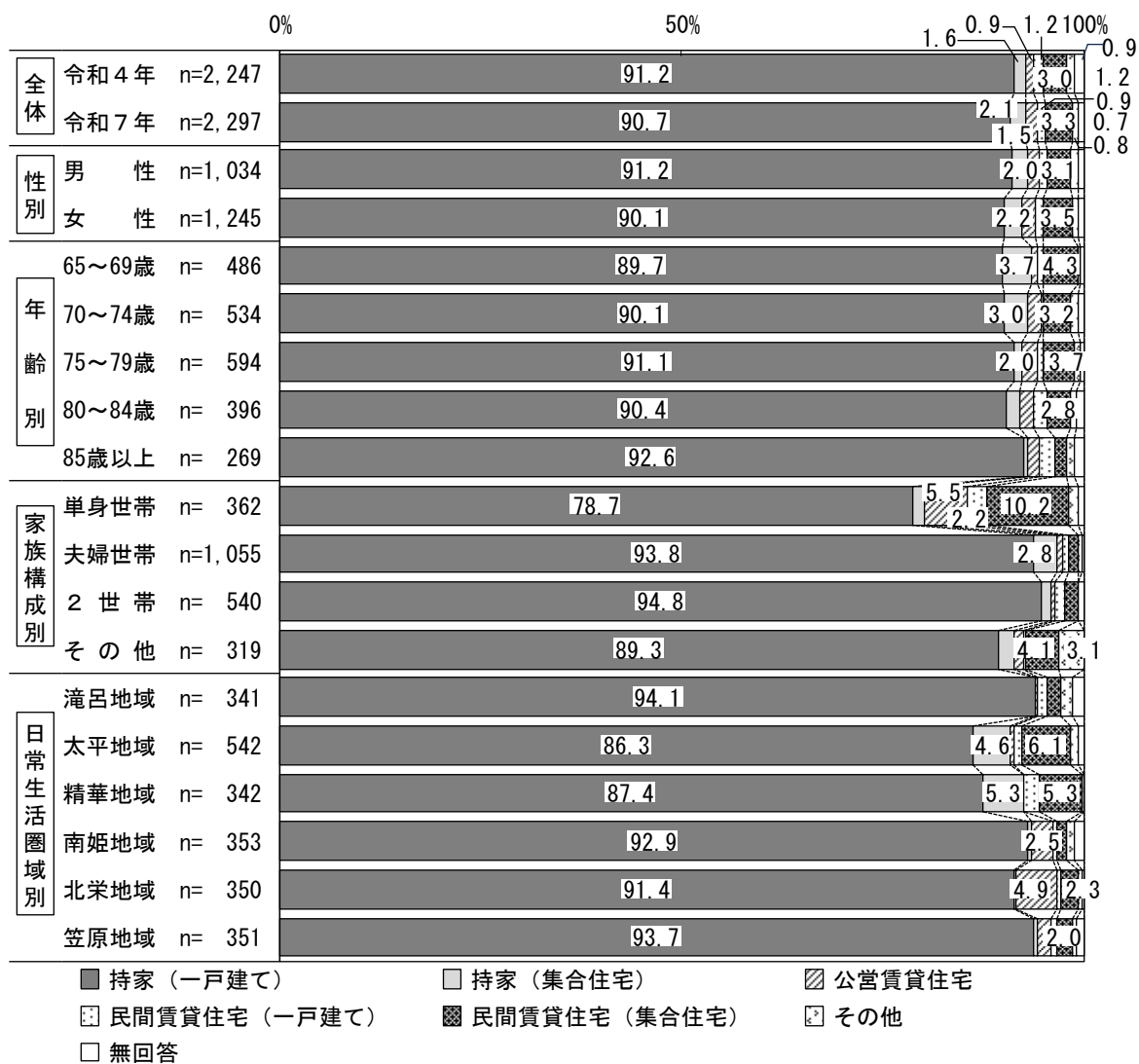
図表2-15 現在の経済的な暮らしの状況



(6) 現在の住まい

- 現在の住まいをたずねたところ、「持ち家（一戸建て）」が90.7%を占めています。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「民間賃貸住宅（集合住宅）」が高くなっています。

図表 2-16 現在の住まい



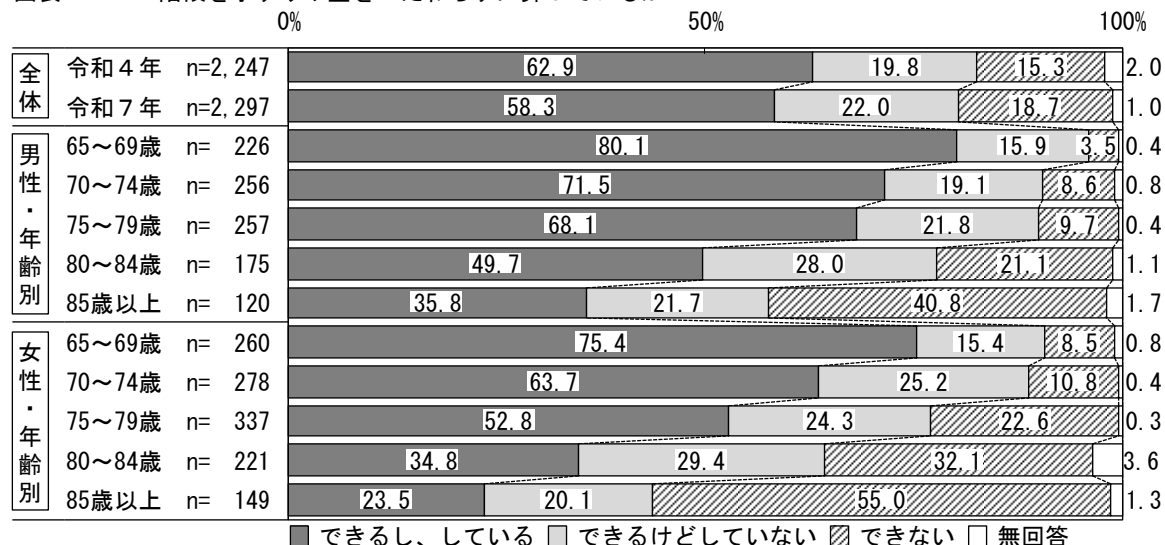
※全体以外の2%未満の数値は省略しました。

3 からだを動かすこと

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

- 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかたずねたところ、「できるし、している」が58.3%となっています。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「できない」が高くなっており、特に女性は85歳以上になると「できない」が過半数を占めます。

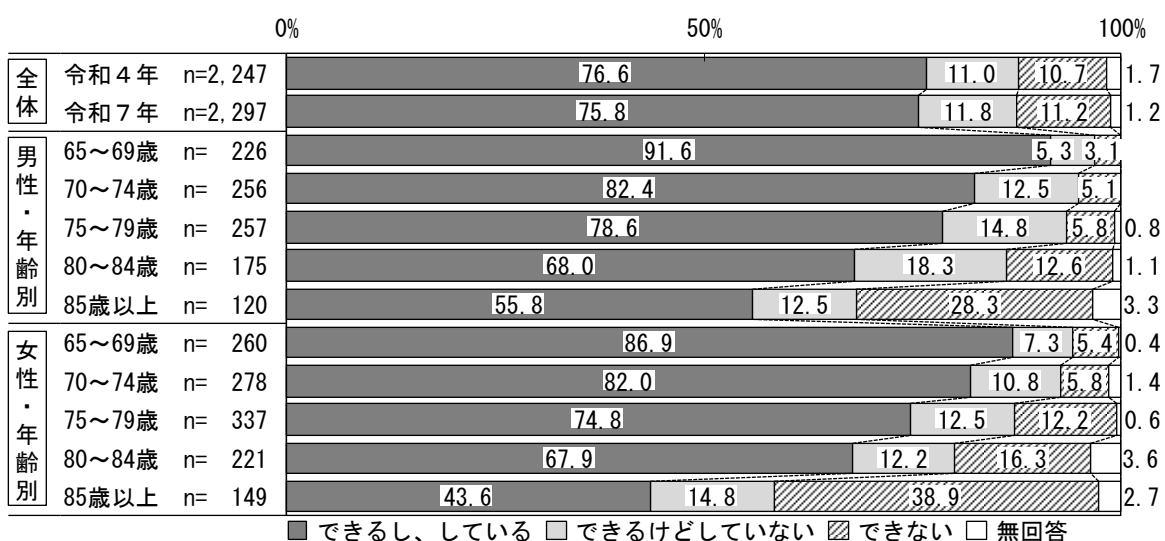
図表2-17 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかたずねたところ、「できるし、している」が75.8%となっています。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「できない」が高くなっており、特に女性は85歳以上になると40%近くまで上昇します。

図表2-18 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

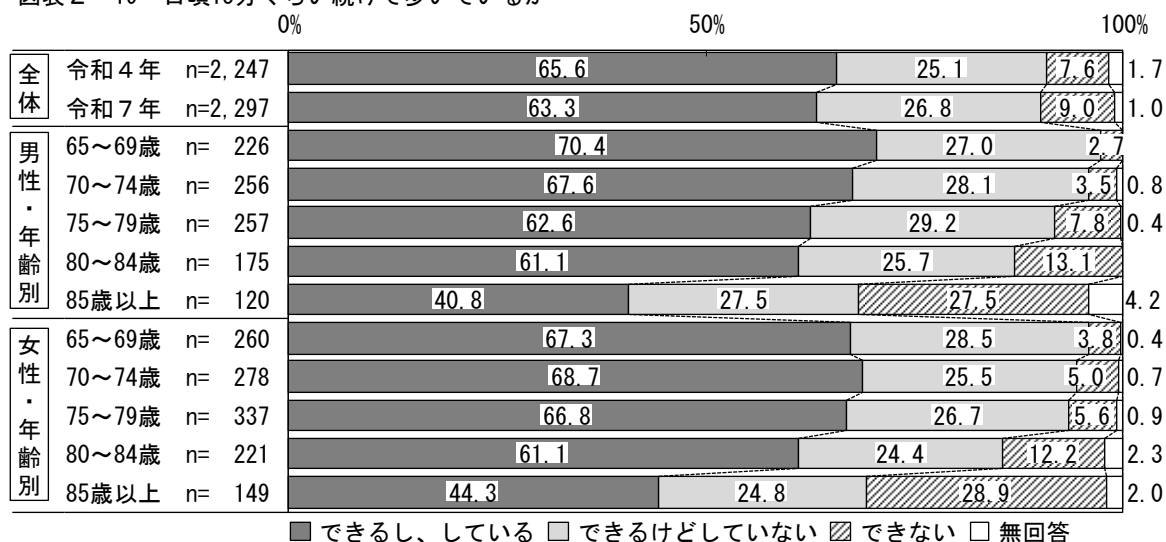


(3) 日頃15分くらい続けて歩いているか

■日頃15分くらい続けて歩いているかたずねたところ、「できるし、している」が63.3%となっています。

■性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「できない」が高くなり、85歳以上になると著しく上昇します。

図表2-19 日頃15分くらい続けて歩いているか

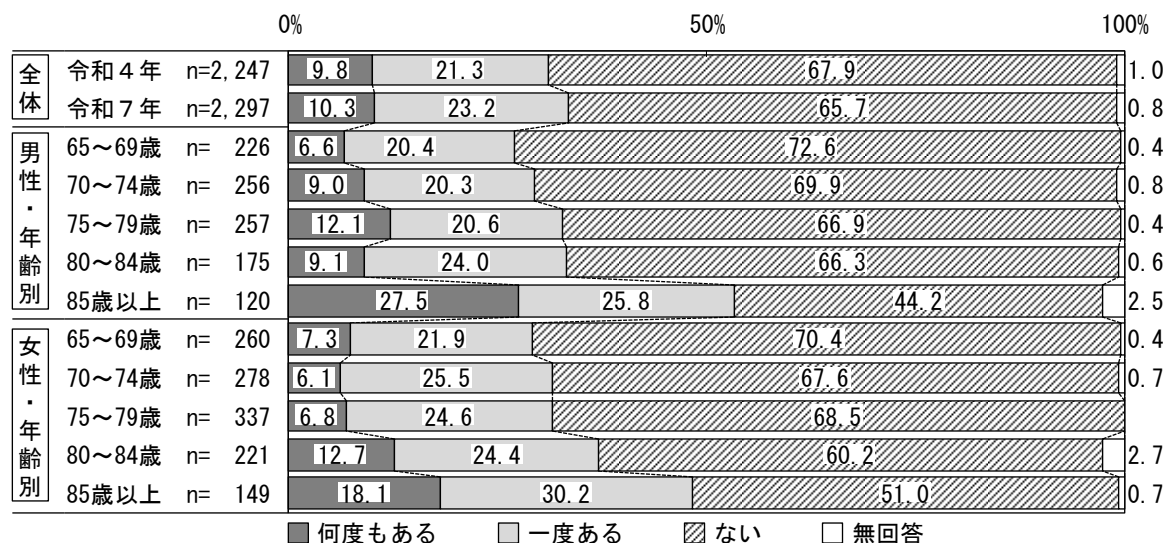


(4) 過去1年の転倒経験

■過去1年の転倒経験をたずねたところ、「何度もある」が10.3%、「一度ある」が23.2%となっており、これらを合計した〈ある〉が33.5%です。

■性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい〈ある〉が上昇する傾向にあり、男女ともに85歳以上になると50%前後の高い割合となります。

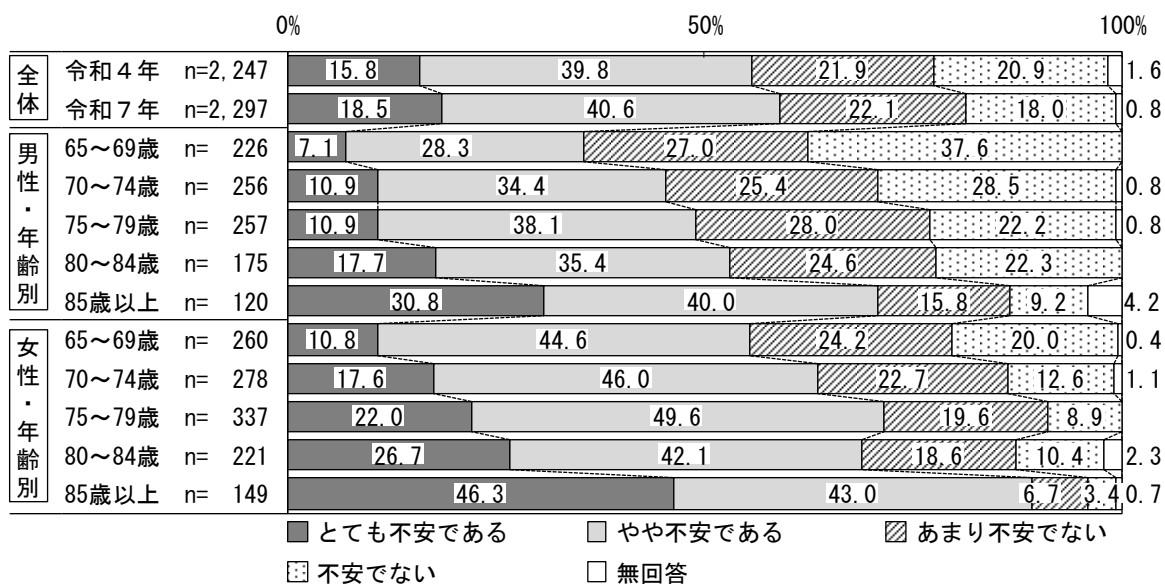
図表2-20 過去1年の転倒経験



(5) 転倒に対する不安は大きい

- 転倒に対する不安は大きいかたずねたところ、「とても不安である」が18.5%、「やや不安である」が40.6%となっており、これらを合計した〈不安である〉が59.1%です。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい〈不安である〉が上昇する傾向にあり、特に女性は85歳以上になると89.3%を占めます。

図表 2-21 転倒に対する不安は大きい

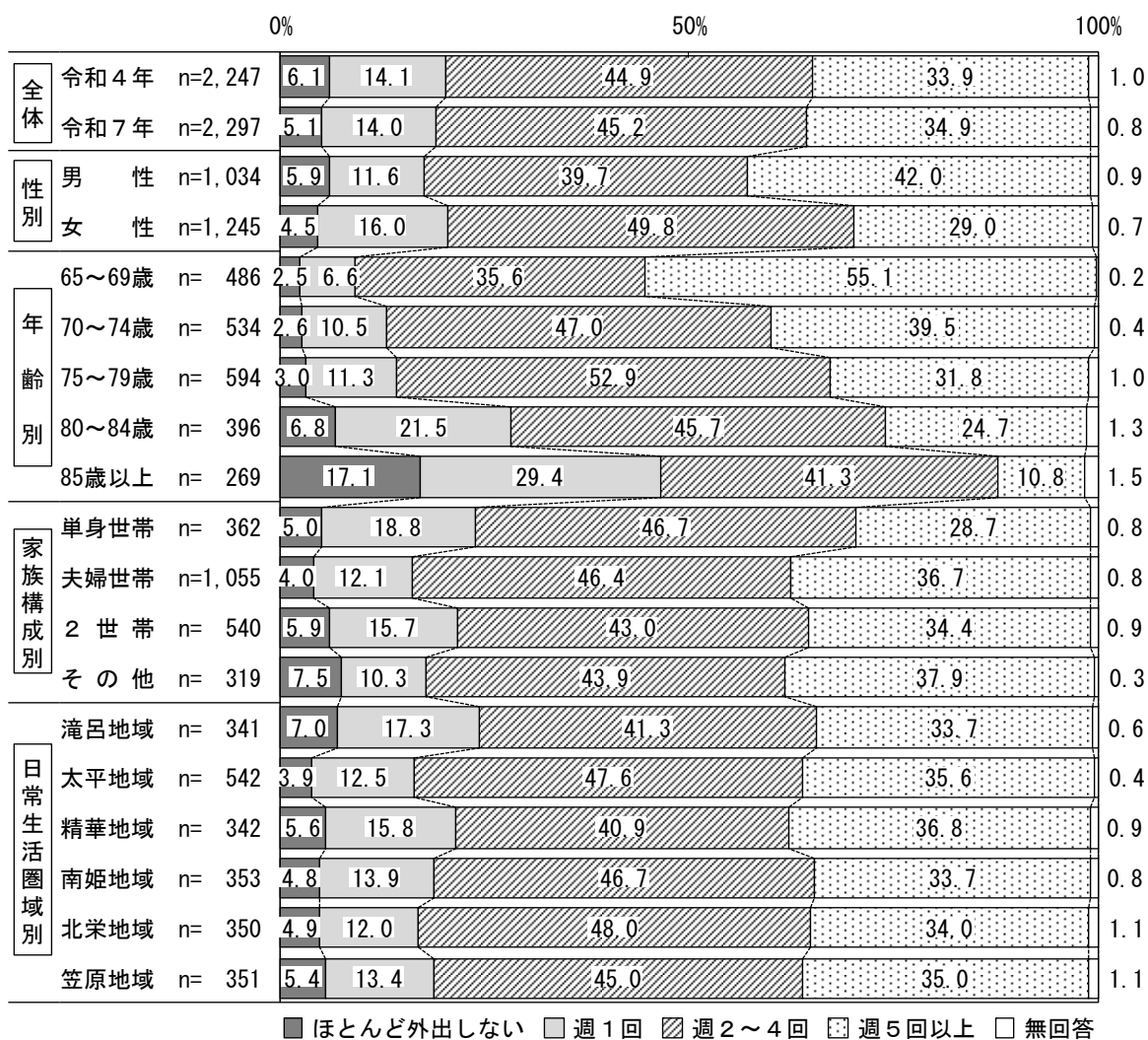


4 外 出

(1) 外出頻度

- 外出頻度をたずねたところ、「週2～4回」が45.2%と最も高く、次いで「週5回以上」(34.9%)の順となっています。「ほとんど外出しない」は5.1%となっており、これに「週1回」(14.0%)を加えた〈週1回以下〉が19.1%です。
- 〈週1回以下〉は、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると46.5%となります。また、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べてやや高くなっています。

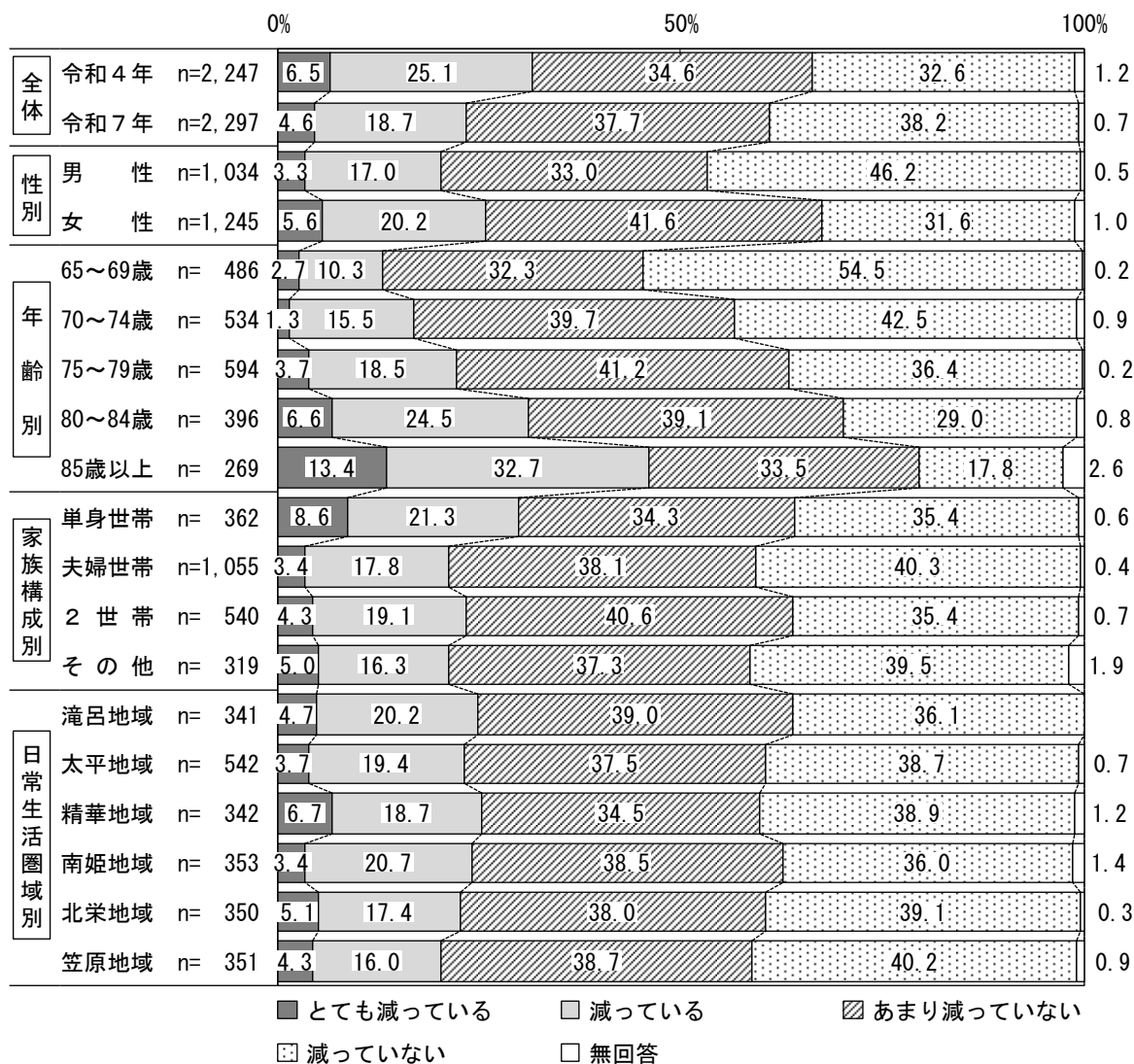
図表2-22 外出頻度



(2) 昨年と比べて外出頻度が減っているか

- 昨年と比べて外出頻度が減っているかたずねたところ、「とても減っている」が4.6%、「減っている」が18.7%となっており、これらを合計した〈外出頻度は減っている〉が23.3%です。令和4年度調査と比較すると〈外出頻度は減っている〉が8.3ポイント低下しています。
- 〈外出頻度は減っている〉は、性別にみると、女性は男性に比べて5.5ポイント高くなっています。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上では46.1%となります。家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べてやや高くなっています。さらに、日常生活圏域別にみると、笠原地域はやや低いことも特徴としてあげられます。

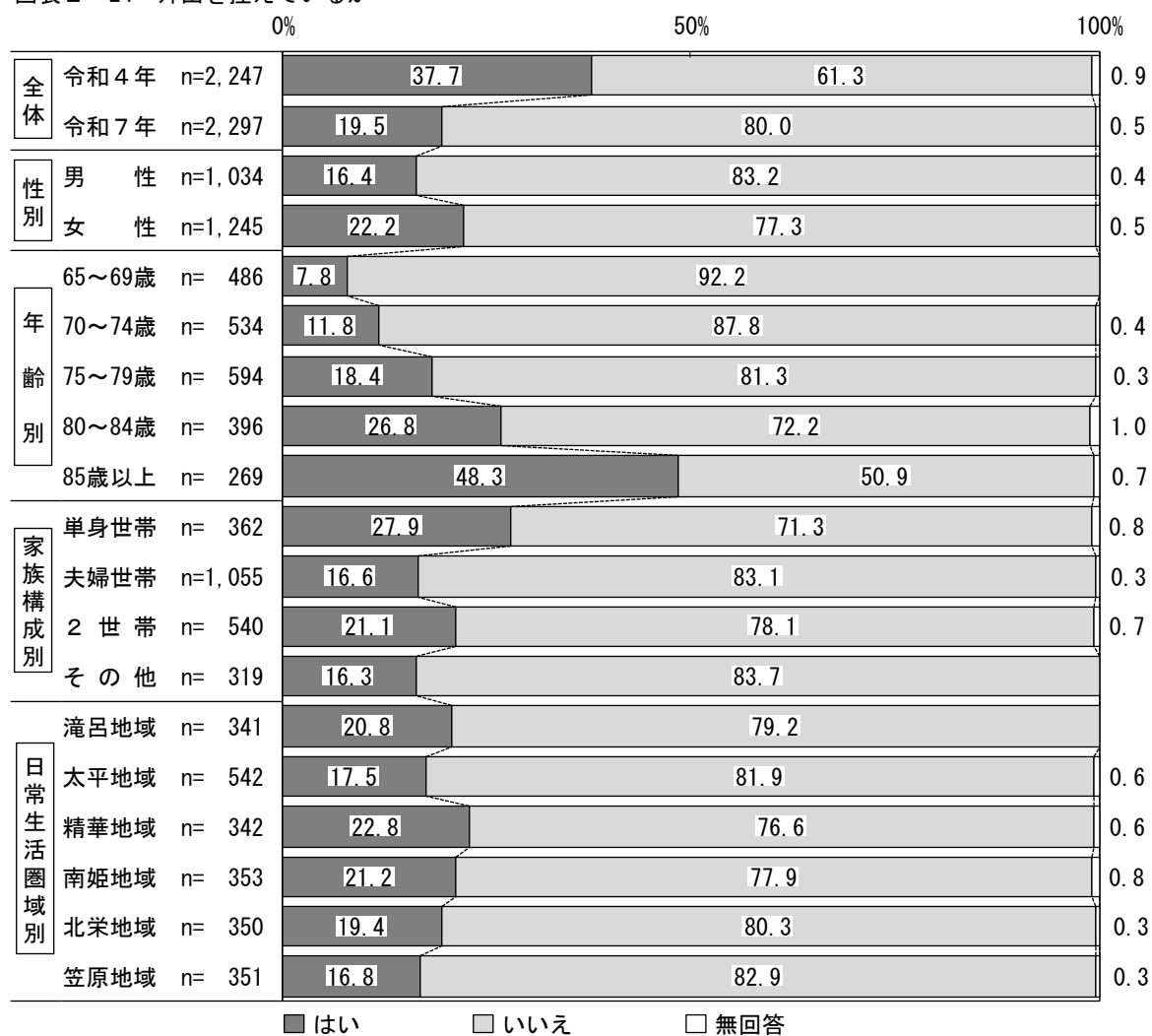
図表2-23 昨年と比べて外出頻度が減っているか



(3) 外出を控えているか

- 外出を控えているかたずねたところ、外出を控えている（「はい」）のは19.5%となっており、令和4年度調査と比較すると、18.2ポイント低下しています。
- 外出を控えているのは、性別にみると、女性は男性に比べて5.8ポイント高くなっています。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上では48.3%となります。さらに、家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べてやや高い割合です。

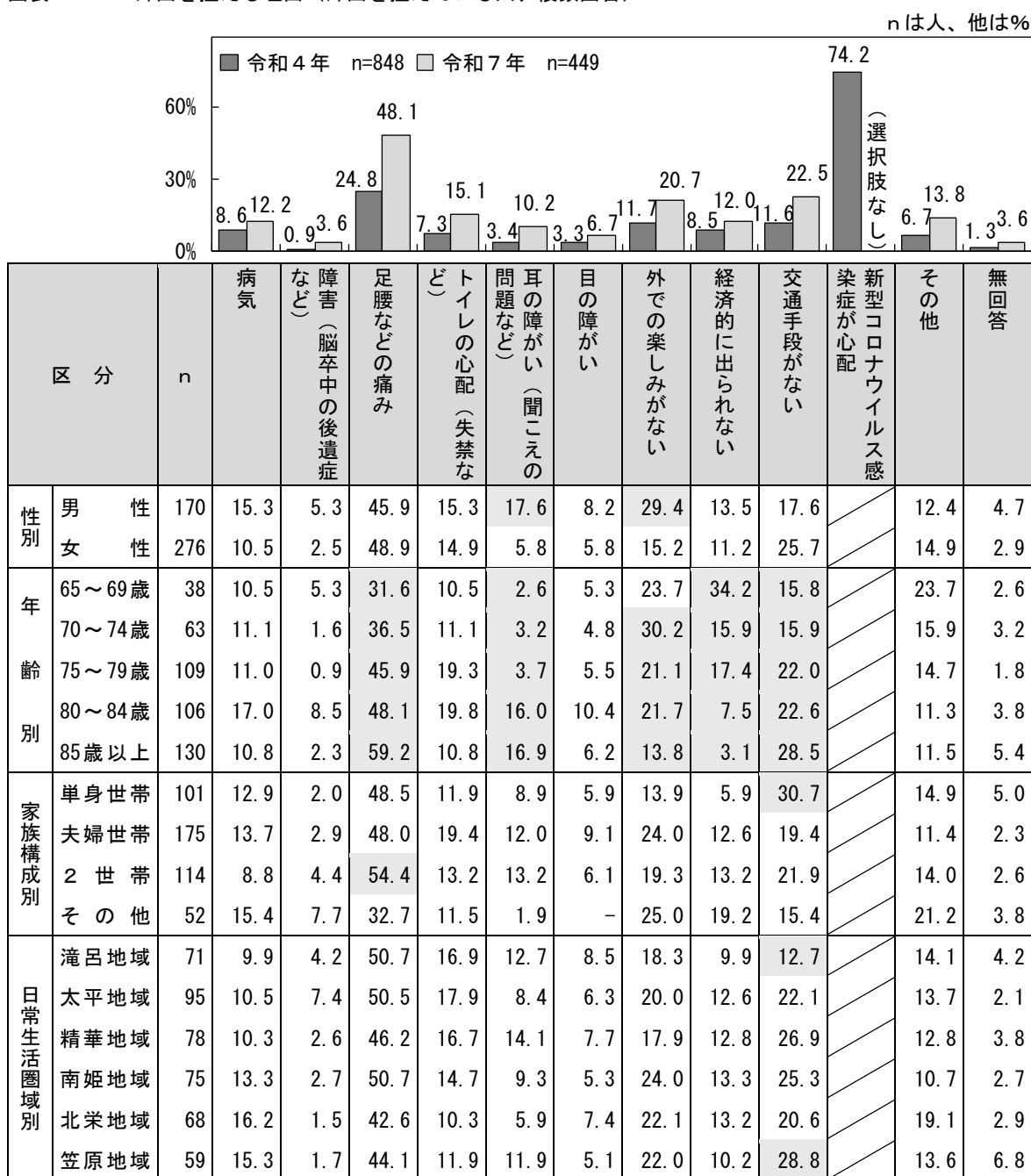
図表 2-24 外出を控えているか



(4) 外出を控える理由

■外出を控えている人にその理由をたずねたところ、「足腰などの痛み」が48.1%と最も高く、次いで「交通手段がない」(22.5%)、「外での楽しみがない」(20.7%)の順となっています。令和4年度調査は「新型コロナウイルス感染症が心配」が70%以上を占めていましたが、現在はその影響も収まり、足腰の痛みや外出手段の不足をはじめとする、生活上の課題が全般的に上昇しています。

図表2-25 外出を控える理由（外出を控えている人、複数回答）



- 性別にみると、男性は女性に比べて「耳の障がい（聞こえの問題など）」及び「外での楽しみがない」が高く、それぞれ10ポイント以上の差があります。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「足腰などの痛み」、「耳の障がい（聞こえの問題など）」及び「交通手段がない」が上昇し、「経済的に出られない」が低下します。また、70～74歳をピークに「外での楽しみがない」が低下傾向にあります。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「交通手段がない」が、2世帯は「足腰などの痛み」がそれ以外の世帯に比べて高い割合です。
- 日常生活圏域別に「交通手段がない」をみると、滝呂地域は12.7%と低くなっている一方で、笠原地域は28.8%のやや高い割合です（図表2－25）。
- その他として図表2－26の内容が記載されていました。

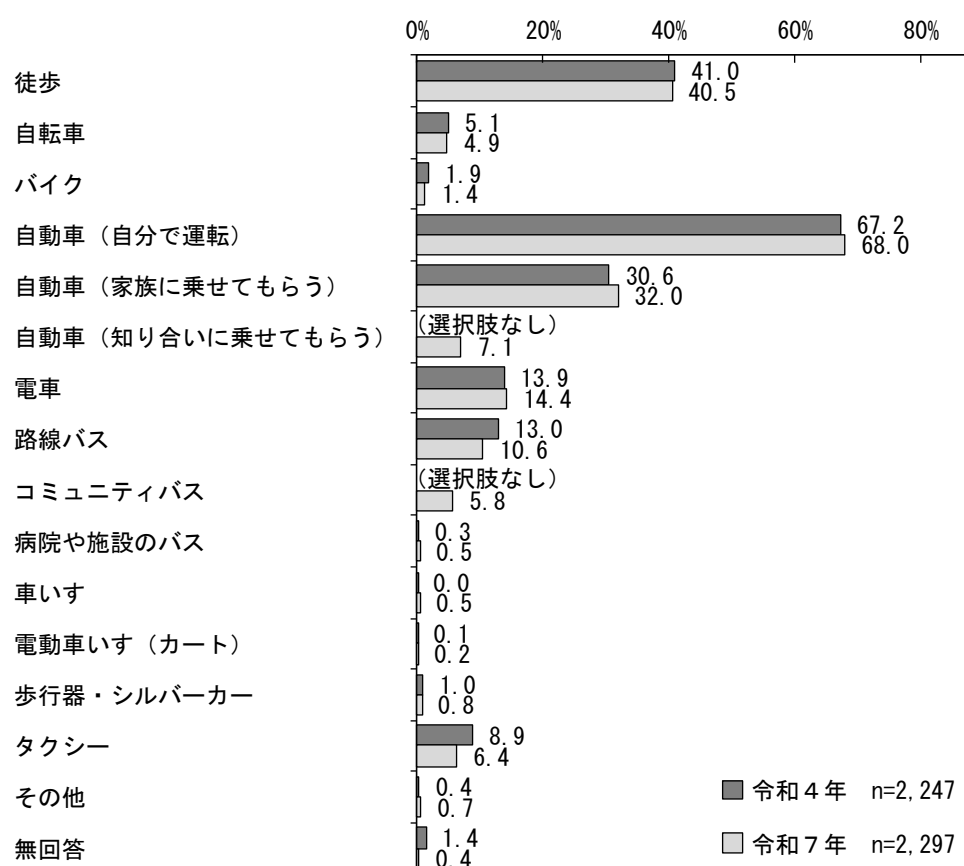
図表2－26 外出を控える理由（その他、外出を控えている人、複数回答）

【健康状態や身体機能の低下】26件 ・感染症予防（新型コロナウイルス、インフルエンザ） 10件 ・身体状況の悪化 3件 ・歩行困難 3件 ・歩行器を使っているので遠出ができない ・入院中 ・病院へ行くことが多い ・体幹がふらつく。友だちやご近所さん、妹等の車が頼り ・息切れで数メートルしか歩けないため ・三叉神経痛手術後 ・休養 ・疲れる ・同行する人がいない ・めまい 【家族の事情】9件 ・介護や家族支援等のため 6件 ・介護のため 2件 ・家族が外へ出ることをいやがる	【外出意欲】14件 ・用事がない 3件 ・自宅にすることを好む 2件 ・面倒 2件 ・家でやることがある 2件 ・友だちもいないし、近所の人とも話をしない ・無駄な外出は避けている ・近くで用を足し、遠出をしなくなった ・年齢とともに外に出たくなくなりました ・理由はない 【外出への不安】6件 ・転倒の不安 3件 ・1人では危ないから ・外出する自信がない ・イノシシ出現中 【環境・経済的要因】2件 ・市之倉ハイランドは袋小路なのでどこにも行けない。医者にも行きづらい ・物価が高くなり儉約している 【仕事や就労のため】2件 ・仕事をしている 2件
--	--

(5) 移動手段

■外出する際の移動手段をたずねたところ、「自動車（自分で運転）」が68.0%と突出して高くなっており、次いで「徒歩」（40.5%）、「自動車」（家族にさせてもらう）（32.0%）の順となっています。

図表 2-27 移動手段（複数回答）



※令和 4 年度調査では、「自動車（家族にさせてもらう）」、「自動車（知り合いにさせてもらう）」の選択肢は「自動車（人にさせてもらう）」でした。本グラフでは、比較をするため、「自動車（家族にさせてもらう）」として表示しています。

- 性別にみると、男性は女性に比べて「自動車（自分で運転）」が高く、「自動車（家族に乘せてもらう）」が低くなっており、それぞれ20ポイント以上の差があります。また、女性は男性に比べて「コミュニティバス」が5.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「自動車（自分で運転）」及び「電車」が低下し、「自動車（家族に乘せてもらう）」、「自動車（知り合いに乘せてもらう）」及び「タクシー」が上昇する傾向にあります。しかし、80～84歳の53.0%、85歳以上の25.3%が「自動車（自分で運転）」と回答しています。

図表 2-28 移動手段（性・年齢別、複数回答）

単位：nは人、他は%

区 分	性 別		年 齢 別				
	男性	女性	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
n	1,034	1,245	486	534	594	396	269
徒歩	39.7	40.6	39.7	41.9	41.1	44.9	29.0
自転車	7.2	3.1	6.2	6.2	4.2	3.8	3.3
バイク	2.1	0.9	2.1	1.7	1.5	0.5	1.1
自動車（自分で運転）	81.3	56.8	85.8	81.1	70.7	53.0	25.3
自動車（家族に乘せてもらう）	19.4	42.5	22.0	25.1	31.6	39.4	53.9
自動車（知り合いに乘せてもらう）	4.7	9.1	6.0	5.4	7.4	8.3	10.0
電車	14.5	14.0	21.0	17.2	13.3	8.8	5.9
路線バス	9.6	11.2	9.9	10.9	10.3	11.9	8.9
コミュニティバス	3.1	8.1	3.7	5.4	4.2	7.3	11.9
病院や施設のバス	0.4	0.6	0.2	－	0.3	0.3	2.6
車いす	0.7	0.4	0.4	0.2	0.2	－	3.0
電動車いす（カート）	0.2	0.2	－	－	0.2	－	1.1
歩行器・シルバーカー	0.5	1.0	－	0.4	0.7	0.5	3.7
タクシー	3.6	8.6	2.3	2.4	3.5	12.4	18.6
その他	0.4	0.9	0.4	0.2	0.7	0.8	1.9
無回答	0.3	0.6	0.2	－	－	0.8	2.2

- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「自動車（自分で運転）」及び「自動車（家族に乗せてもらう）」が低く、「路線バス」、「コミュニティバス」及び「タクシー」が高くなっています。
- 日常生活圏域別にみると、太平地域はその他の地域に比べて「徒歩」が高くなっています。また、笠原地域は「自動車（自分で運転）」が74.4%を占めています。さらに、南姫地域は「路線バス」が2.5%と非常に低い割合であることも特徴としてあげられます。
- その他として図表2-26の内容が記載されていました。

図表2-29 移動手段（家族構成・日常生活圏域別、複数回答）

単位：nは人、他は%

区 分	家族構成別				日常生活圏域別					
	単身世帯	夫婦世帯	2世帯	その他	滝呂地域	太平地域	精華地域	南姫地域	北栄地域	笠原地域
n	362	1,055	540	319	341	542	342	353	350	351
徒歩	43.6	39.3	41.7	39.5	45.2	51.5	38.6	37.7	36.6	25.9
自転車	5.2	5.5	3.3	5.3	3.8	6.5	8.8	3.4	5.1	1.1
バイク	1.9	1.4	0.9	1.6	0.9	1.7	0.9	1.4	1.1	2.6
自動車（自分で運転）	56.4	74.7	60.6	73.0	62.2	66.2	67.8	70.3	67.4	74.4
自動車（家族に乗せてもらう）	19.9	30.6	43.0	30.1	33.1	34.1	29.8	30.6	34.0	29.3
自動車（知り合いに乗せてもらう）	11.0	5.0	8.1	8.2	6.5	8.7	6.7	8.5	5.4	6.0
電車	16.0	15.5	13.0	12.2	9.4	17.5	15.8	16.7	14.9	9.1
路線バス	16.0	10.2	8.9	8.2	11.4	14.6	8.8	2.5	11.7	11.4
コミュニティバス	11.3	3.8	6.1	5.6	7.9	8.5	5.0	4.2	4.9	3.1
病院や施設のバス	1.1	0.2	0.6	0.6	0.9	0.2	1.2	0.6	-	0.3
車いす	0.6	0.3	0.7	0.9	1.2	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3
電動車いす（カート）	0.3	0.1	0.4	-	-	-	0.6	0.6	-	-
歩行器・シルバーカー	3.3	0.2	0.7	-	1.5	0.7	0.6	0.6	1.4	-
タクシー	13.0	4.5	7.4	3.1	5.6	6.5	7.0	8.5	6.9	3.4
その他	1.9	0.3	0.7	0.3	0.6	0.2	0.3	0.8	1.4	0.9
無回答	0.6	0.2	0.6	0.6	0.3	0.4	0.3	0.6	-	1.1

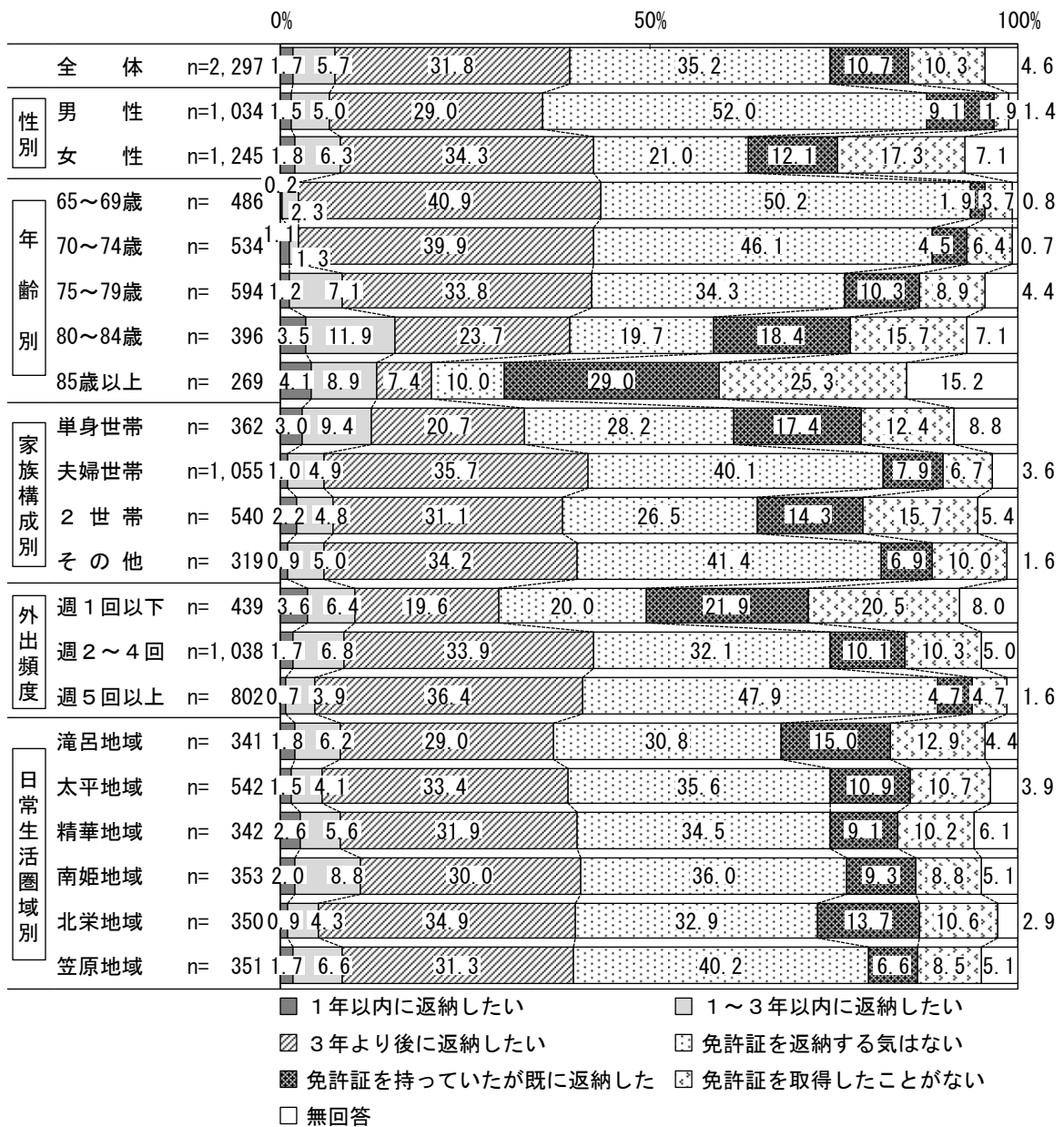
図表2-30 移動手段（その他、複数回答）

- ・ よぶくるバス 8件
- ・ デイサービスの送迎 3件
- ・ 友人
- ・ 高速バス
- ・ ランニング

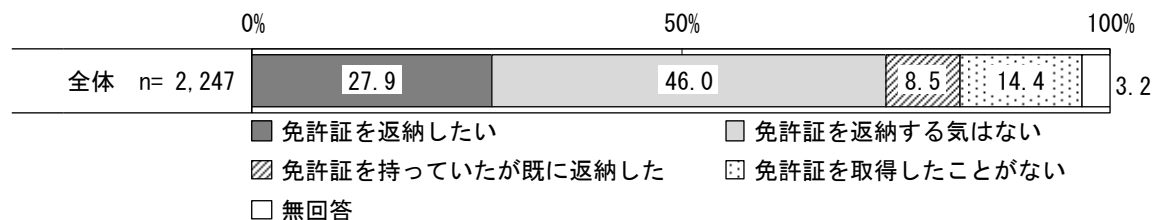
(6) 自動車運転免許証の返納意向

- 自動車運転免許証の返納意向をたずねたところ、「免許証を返納する気はない」が35.2%と最も高く、次いで「3年より後に返納したい」(31.8%)、「免許証を持っていたが既に返納した」(10.7%)の順となっています。〈3年以内に返納したい〉と考えているのは、7.4%です。一方で、「3年より後に返納したい」及び「免許証を返納する気はない」を合計した〈当面は免許証を返納する予定はない〉が67.0%となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「免許証を返納する気はない」が31.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい、「3年より後に返納したい」及び「免許証を返納する気はない」が低下し、「免許証を持っていたが既に返納した」が上昇します。また、〈3年以内に返納したい〉は、80～84歳が15.4%と最も高くなっています。一方で、80～84歳の43.4%、85歳以上の17.4%が〈当面は免許証を返納する予定はない〉と回答しています。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて〈3年以内に返納したい〉が12.4%と高くなっています。また、夫婦世帯及びその他の世帯は〈当面は免許証を返納する予定はない〉がともに75%以上を占めています。
- 外出頻度別にみると、頻度が高くなるにしたがい〈当面は免許証を返納する予定はない〉が上昇します。
- 日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて〈当面は免許証を返納する予定はない〉がやや低くなっています。

図表 2-31 自動車運転免許証の返納意向



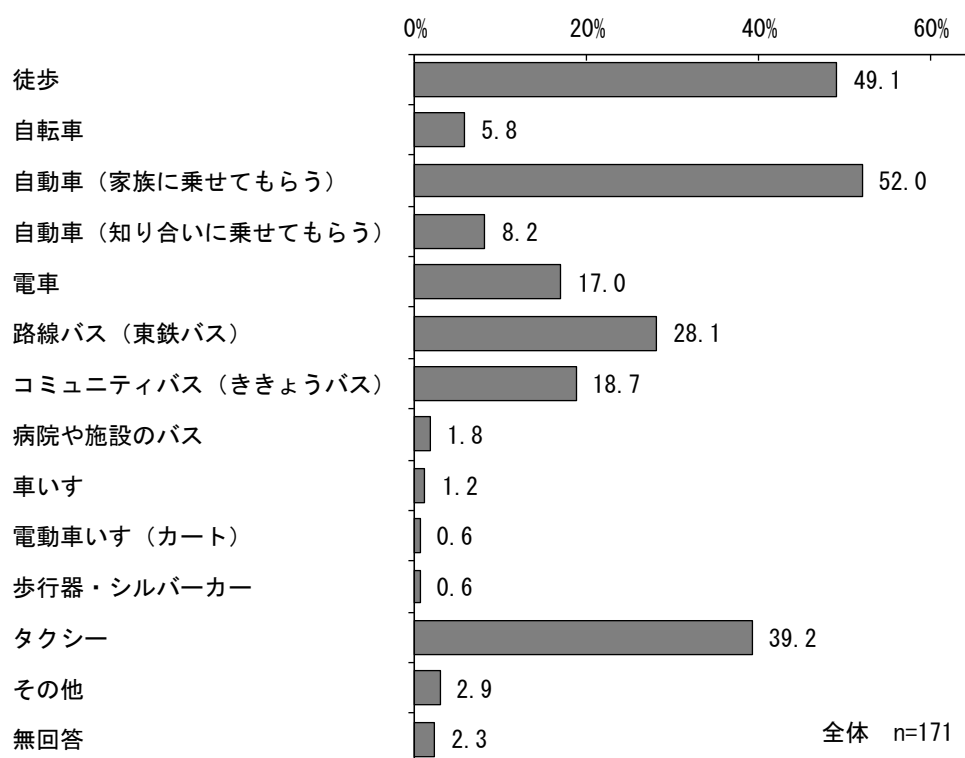
【参考】自動車運転免許証の返納意向（令和4年度調査）



(7) 自動車運転免許証を返納した場合の移動手段

- 自動車運転免許証を3年以内に返納した人に、返納後の移動手段をたずねたところ、「自動車（家族に乗せてもらう）」が52.0%と最も高く、次いで「徒歩」（49.1%）、「タクシー」（39.2%）の順となっています。
- 「その他」として「施設に入所する」、「よぶくるバス」、「三輪バイク」、「今後なので不明」、「手段はないです。コミュニティバスをもっと団地の中にも走らせてほしいです。バスは時間もコースも当てにならないです」の記載がありました。

図表 2-32 自動車運転免許証を返納した場合の移動手段（3年以内に返納したい人、複数回答）

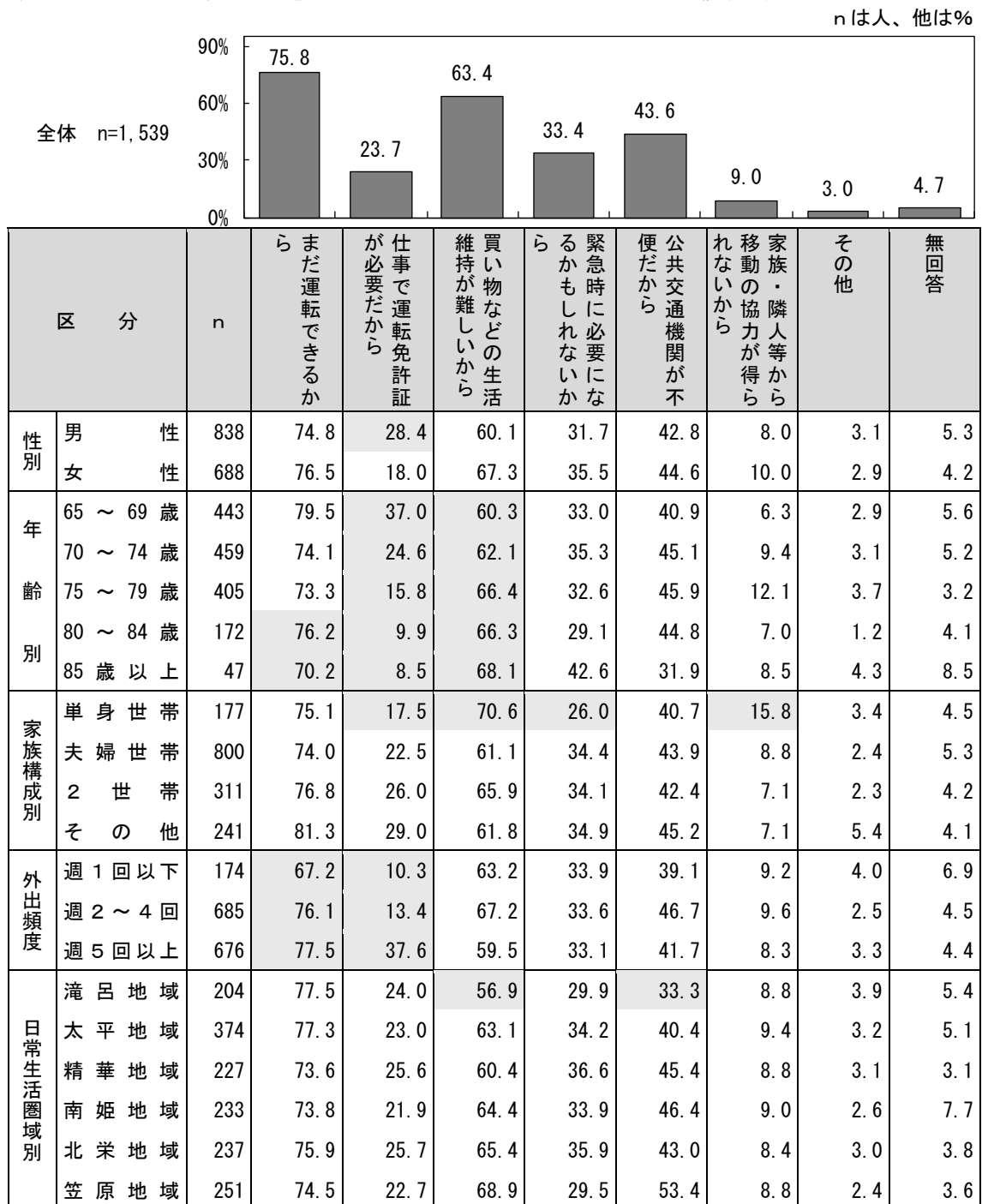


(8) 自動車運転免許証を返納しない理由

- 当面は免許証を返納する予定はない人にその理由をたずねたところ、「まだ運転できるから」が75.8%と最も高く、次いで「買い物などの生活維持が難しいから」（63.4%）、「公共交通機関が不便だから」（43.6%）の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「仕事で運転免許証が必要だから」が10.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「買い物などの生活維持が難しいから」が上昇し、「仕事で運転免許証が必要だから」が低下します。また、80～84歳の76.2%、85歳以上の70.2%が「まだ運転できるから」と回答しています。

- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「買い物などの生活維持が難しいから」及び「家族・隣人等から移動の協力が得られないから」が高く、「仕事で運転免許証が必要だから」及び「緊急時に必要になるかもしれないから」が低くなっています。
- 外出頻度別にみると、頻度が高くなるにしたがい「まだ運転できるから」及び「仕事で運転免許証が必要だから」が上昇しています。
- 日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて「買い物などの生活維持が難しいから」及び「公共交通機関が不便だから」が低い割合です。

図表 2-33 自動車運転免許証を返納しない理由（返納する予定がない人、複数回答）



■ その他として図表 2 - 34の内容が記載されていました。

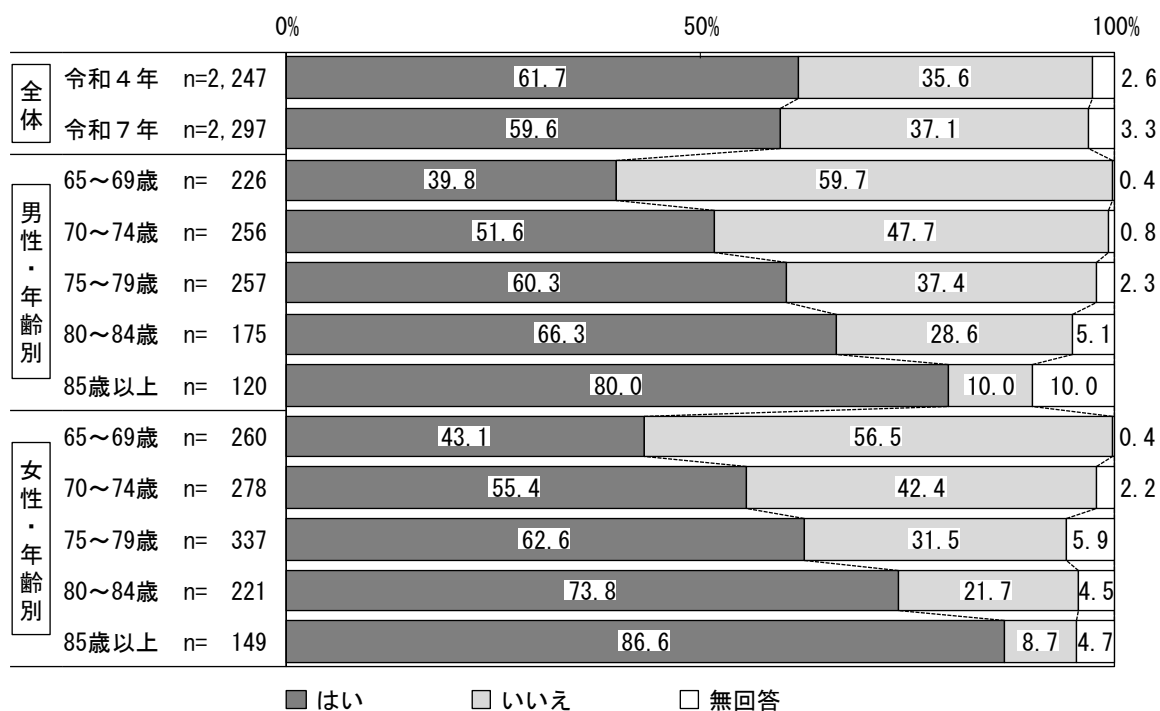
図表 2 - 34 自動車運転免許証を返納しない理由（その他、返納する予定がない人、複数回答）

【家族の介護や支援のため】12件 ・ 家族を送迎するため 4 件 ・ 配偶者の介護や通院に必要 4 件 ・ 親の世話で必要 2 件 ・ 障がい者である子どものため ・ 身内の様子を見に行くから 【社会参加や趣味の活動のため】11件 ・ 趣味の活動のために必要 3 件 ・ ボランティアで必要 2 件 ・ レジャーや旅行に必要 2 件 ・ スポーツ施設への移動 2 件 ・ 仕事で車が必要だから ・ ドライブが好き 【通院や買い物など日常生活に必要】10件 ・ 通院に必要 7 件 ・ 歩行が困難なため 2 件 ・ 自力で動き回るのが困難。車なら移動できる	【移動の自由や利便性維持のため】8件 ・ 交通機関が不便だから 2 件 ・ 便利だから ・ 返す必要がない ・ 安全性の高い運転支援システムのある車に買い替えたし、将来はもっと便利で、より安全な車が提供されると思うから ・ 家族による送迎は期待できないため。今年6,000円分のチケットがいただけると連絡が来ましたが1回100円引きではなくて6,000円分使ったら終わりにしてほしいです。タクシーも使用可にしてほしい ・ 免許証を返納すると、自由に動けないので、ストレスがたまるように思う ・ 80歳まで運転するつもり 【健康のため】5件 ・ 認知症予防や脳の活性化のため 4 件 ・ 公共交通機関利用時に流行性の高いウイルス等の感染を避けたい
--	---

(9) 以前に比べて歩く速度が遅くなったか

- 以前に比べて歩く速度が遅くなった（「はい」）のは、59.6%です。
- 歩く速度が遅くなった人の割合を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると80%台となります。

図表 2-35 以前に比べて歩く速度が遅くなったか

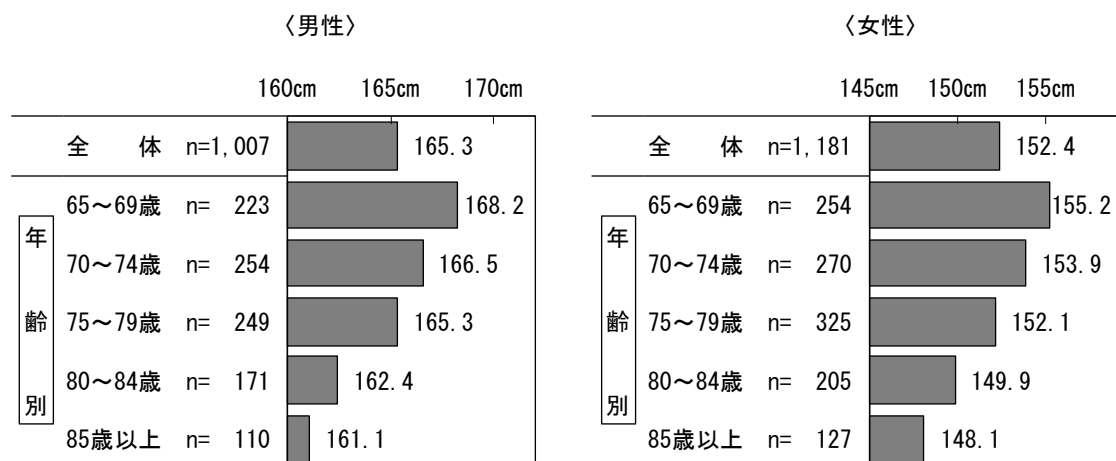


5 食べること

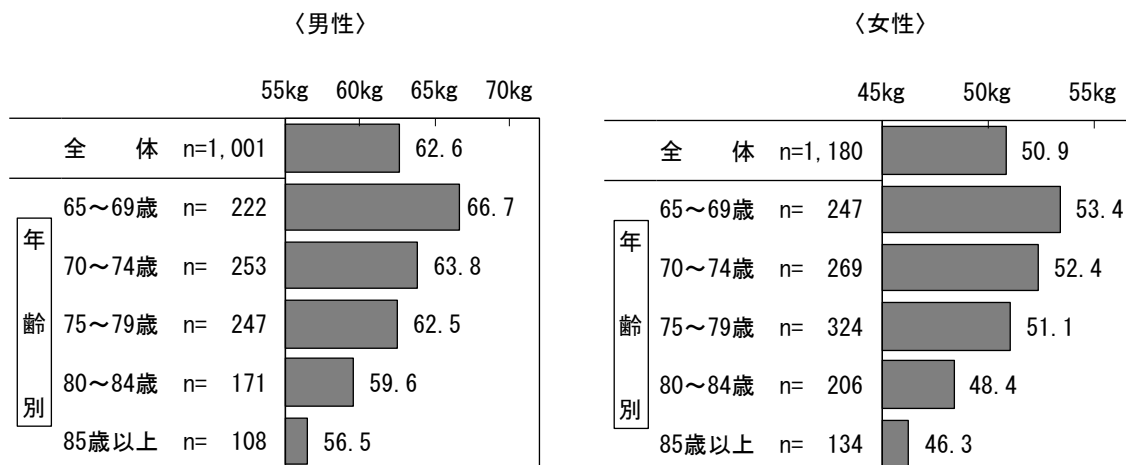
(1) 身長・体重

■身長の平均は、男性が165.3cm、女性が152.4cm、体重の平均は、男性が62.6kg、女性が50.9kgです。年齢が高くなるにしたがい身長は低く、体重は軽くなっています。

図表 2-36 身長



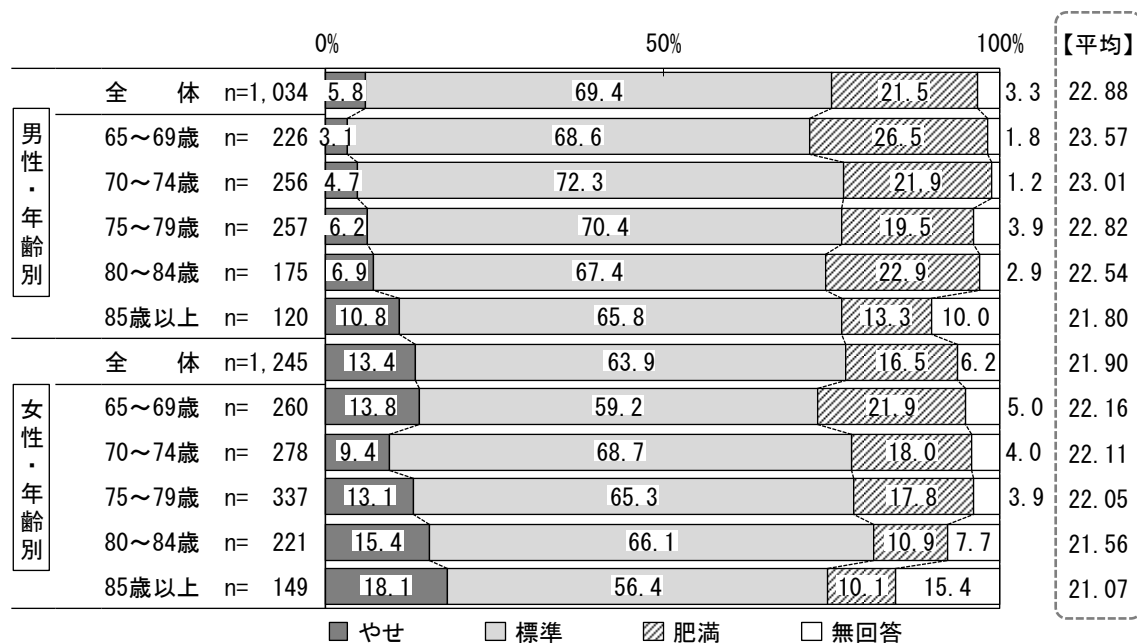
図表 2-37 体重



(2) BMI

- 回答者の身長と体重からBMIを算出しました。BMIとは、体重（kg）を身長（m）の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。
- 「やせ」に該当するのは、男性が5.8%、女性が13.4%です。「肥満」に該当するのは、男性が21.5%、女性が16.5%です。男女ともに年齢が高くなるにしたがい「やせ」が高くなる傾向にあります。

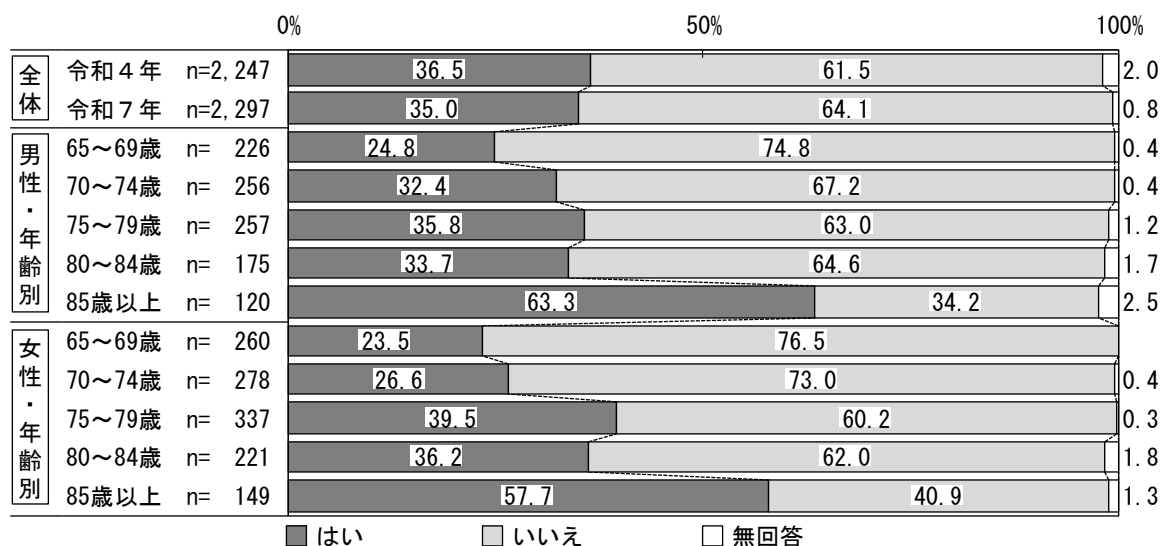
図表2-38 BMI



(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

- 半年前に比べて固いものが食べにくくなった（「はい」）と回答したのは35.0%です。
- 性・年齢別にみると、男女ともに85歳以上になると「はい」が著しく上昇し、男性が63.3%、女性が57.7%となります。

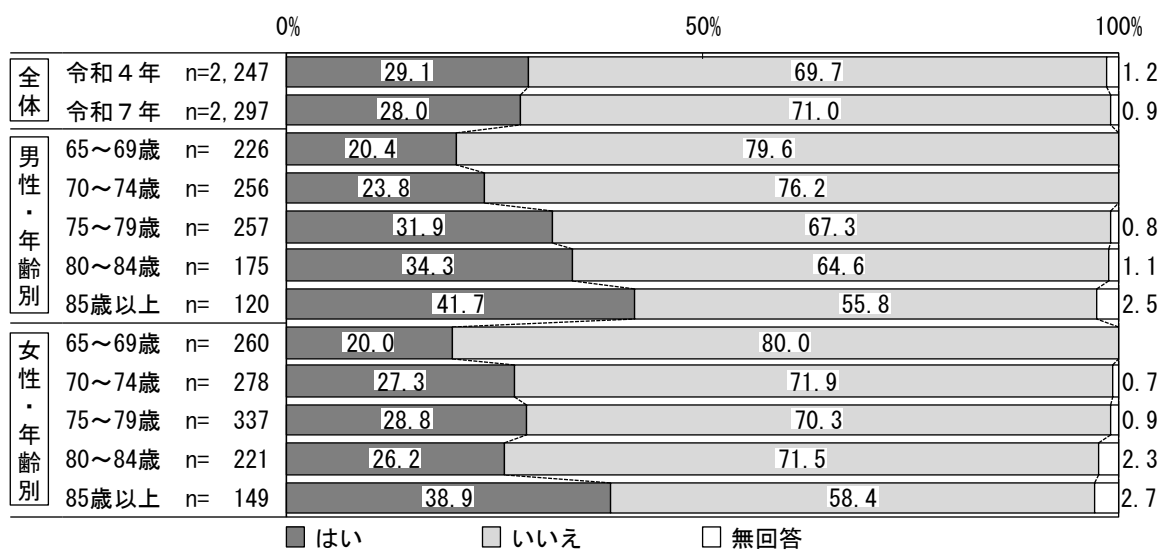
図表 2-39 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



(4) お茶や汁物でむせるか

- お茶や汁物でむせる（「はい」）と回答したのは28.0%です。
- 「はい」を性・年齢別にみると、男性は年齢が高くなるにしたがい上昇し、女性は85歳以上になると著しく高くなります。

図表 2-40 お茶や汁物でむせるか

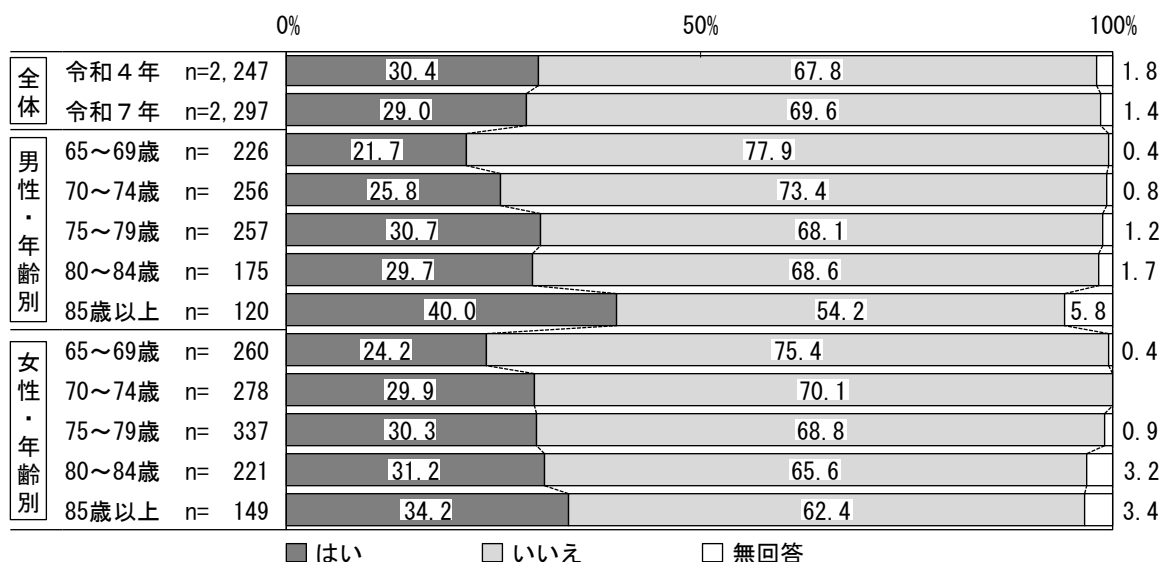


(5) 口の渇きが気になるか

■口の渇きが気になる（「はい」）と回答したのは29.0%です。

■「はい」を性・年齢別にみると、男性は年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、85歳以上になると著しく高くなります。また、女性は年齢が高くなるにしたがい緩やかに上昇します。

図表 2-41 口の渇きが気になるか

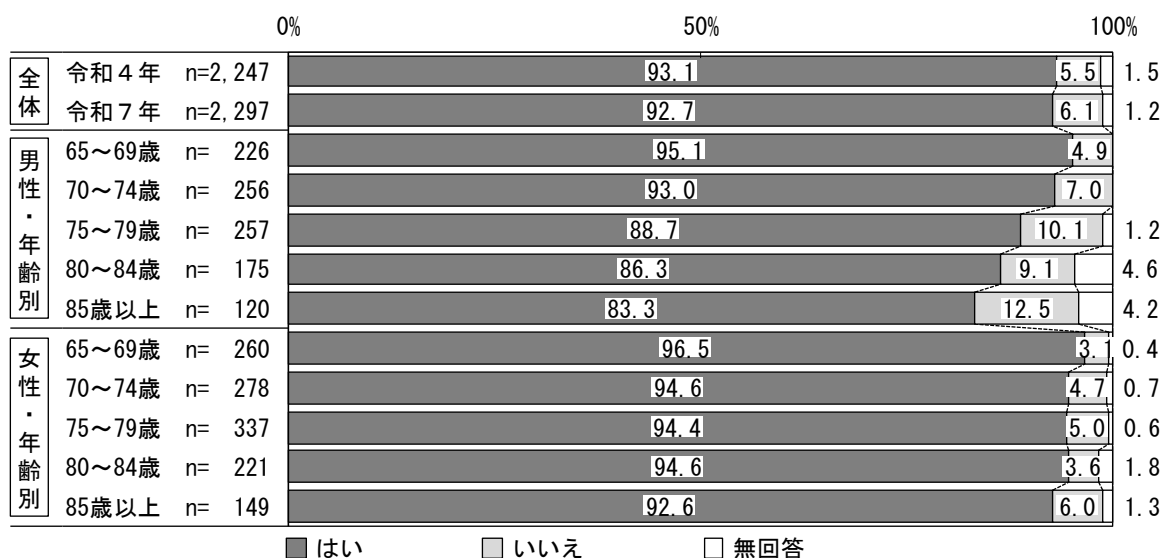


(6) 歯磨きを毎日しているか

■歯磨きを毎日している（「はい」）と回答したのは92.7%です。

■「はい」を性・年齢別にみると、男性は年齢が高くなるにしたがい低下し、85歳以上では83.3%となります。

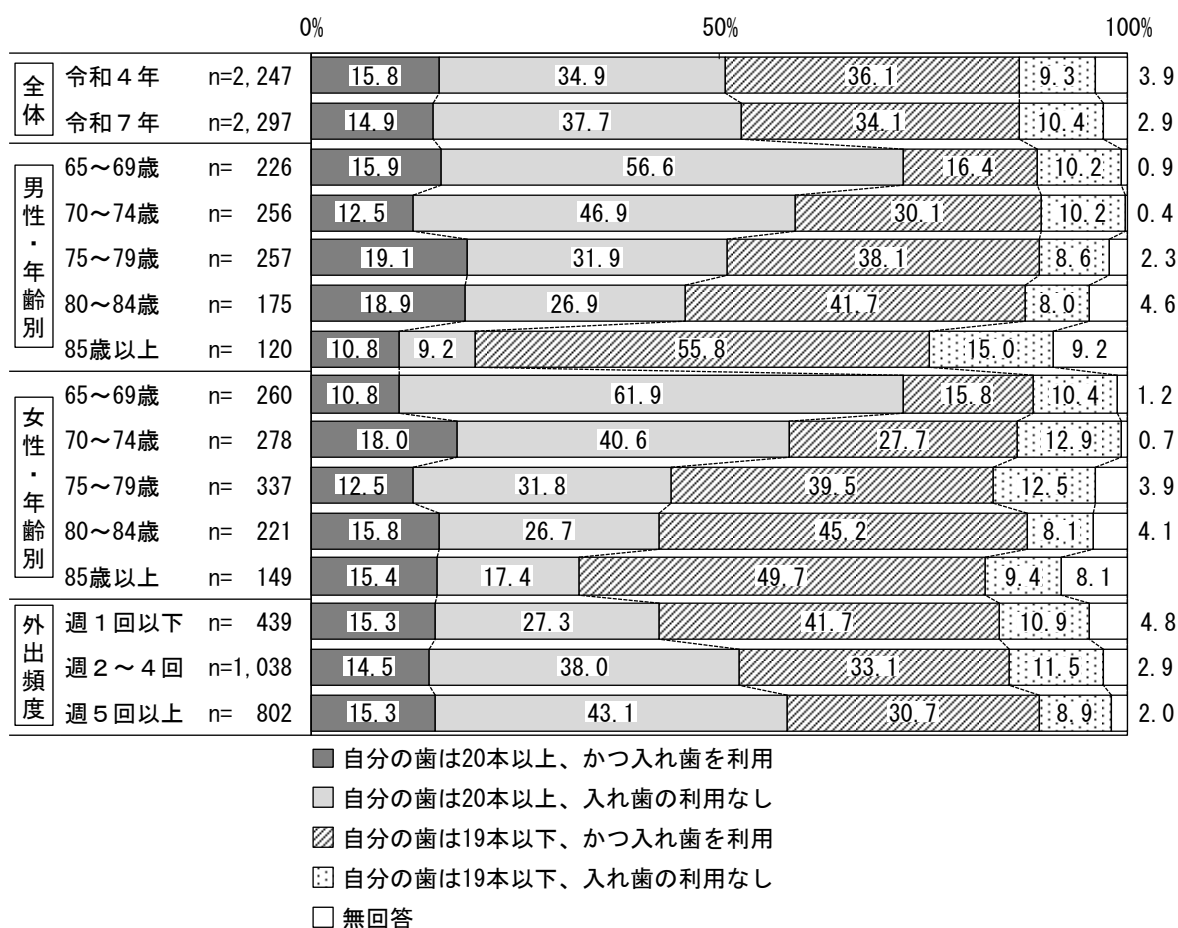
図表 2-42 歯磨きを毎日しているか



(7) 歯の数と入れ歯の利用状況

- 歯の数と入れ歯の利用状況をたずねたところ、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が37.7%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(34.1%)の順となっています。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が低下し、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が上昇します。特に男性は85歳以上になると「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が著しく低下します。
- 外出頻度別にみると、外出頻度が高くなるにしたがい、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が上昇します。

図表 2-43 歯の数と入れ歯の利用状況

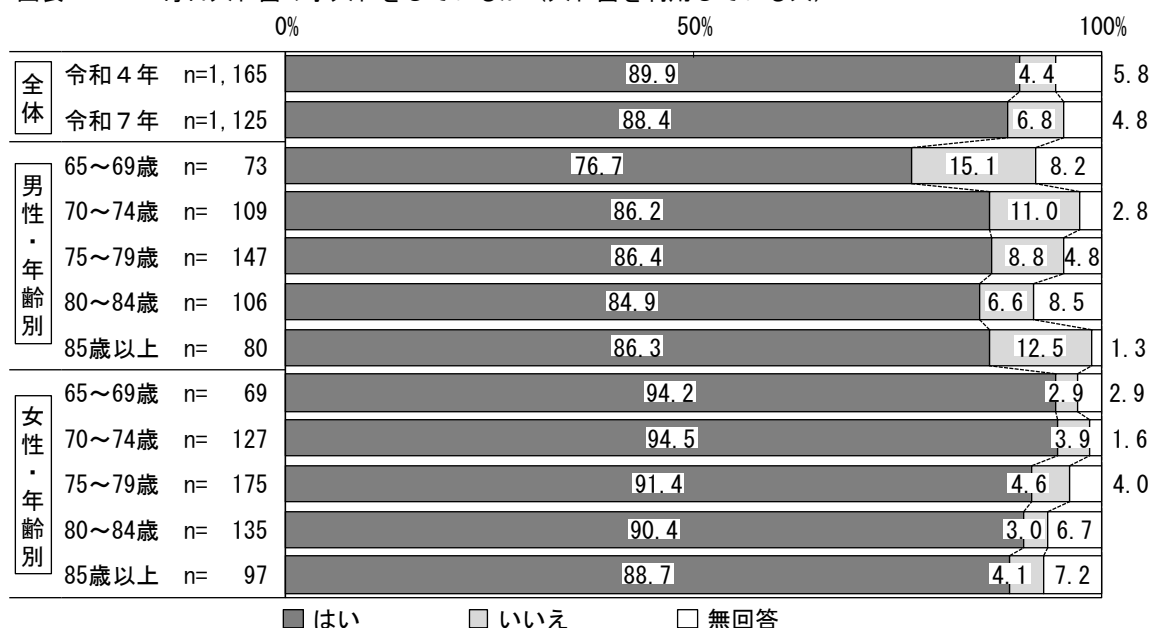


(8) 毎日入れ歯の手入れをしているか

■ 入れ歯を利用している人で、毎日入れ歯の手入れをしている（「はい」）と回答したのは、88.4%です。

■ 性・年齢別にみると、男性はいずれの年齢においても「はい」が女性を下回っています。

図表 2-44 毎日入れ歯の手入れをしているか（入れ歯を利用している人）

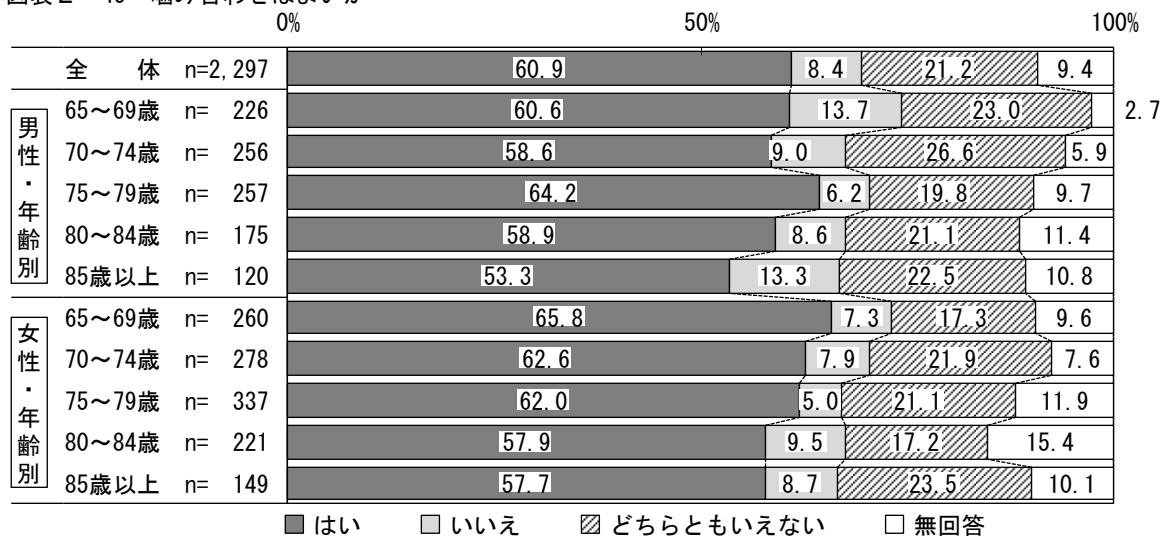


(9) 噛み合わせはよいか

■ 噛み合わせはよいかたずねたところ、「はい」が60.9%、「どちらとも言えない」が21.2%、「いいえ」が8.4%です。

■ 性・年齢別にみると、女性は年齢が高くなるにしたがい「はい」が低下しています。

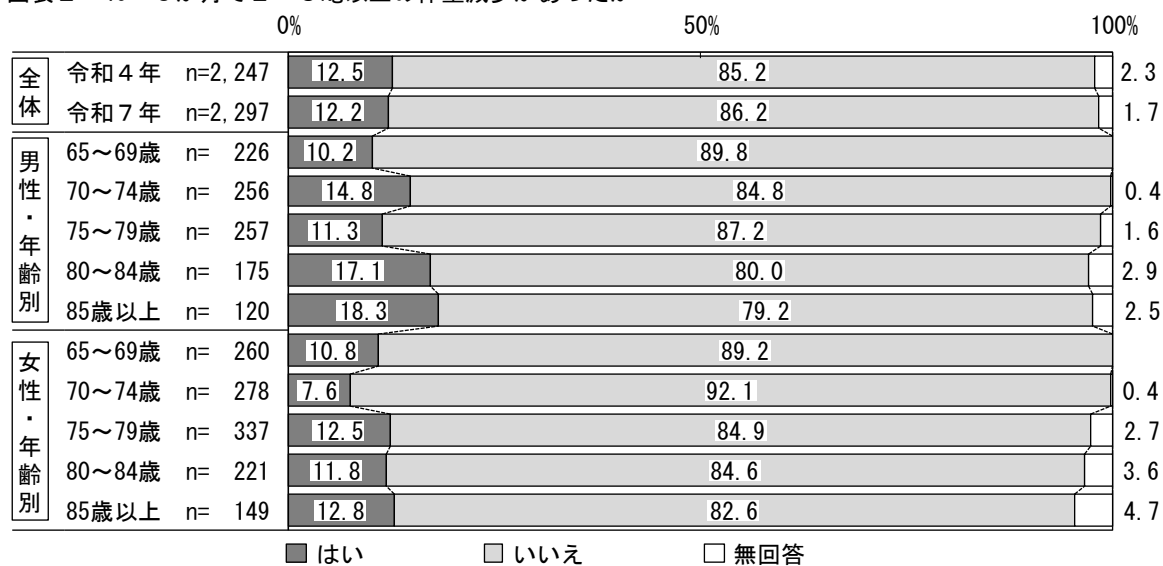
図表 2-45 噛み合わせはよいか



(10) 6か月で2～3 kg以上の体重減少があったか

■ 6か月で2～3 kg以上の体重減少があった（「はい」）と回答したのは12.2%です。

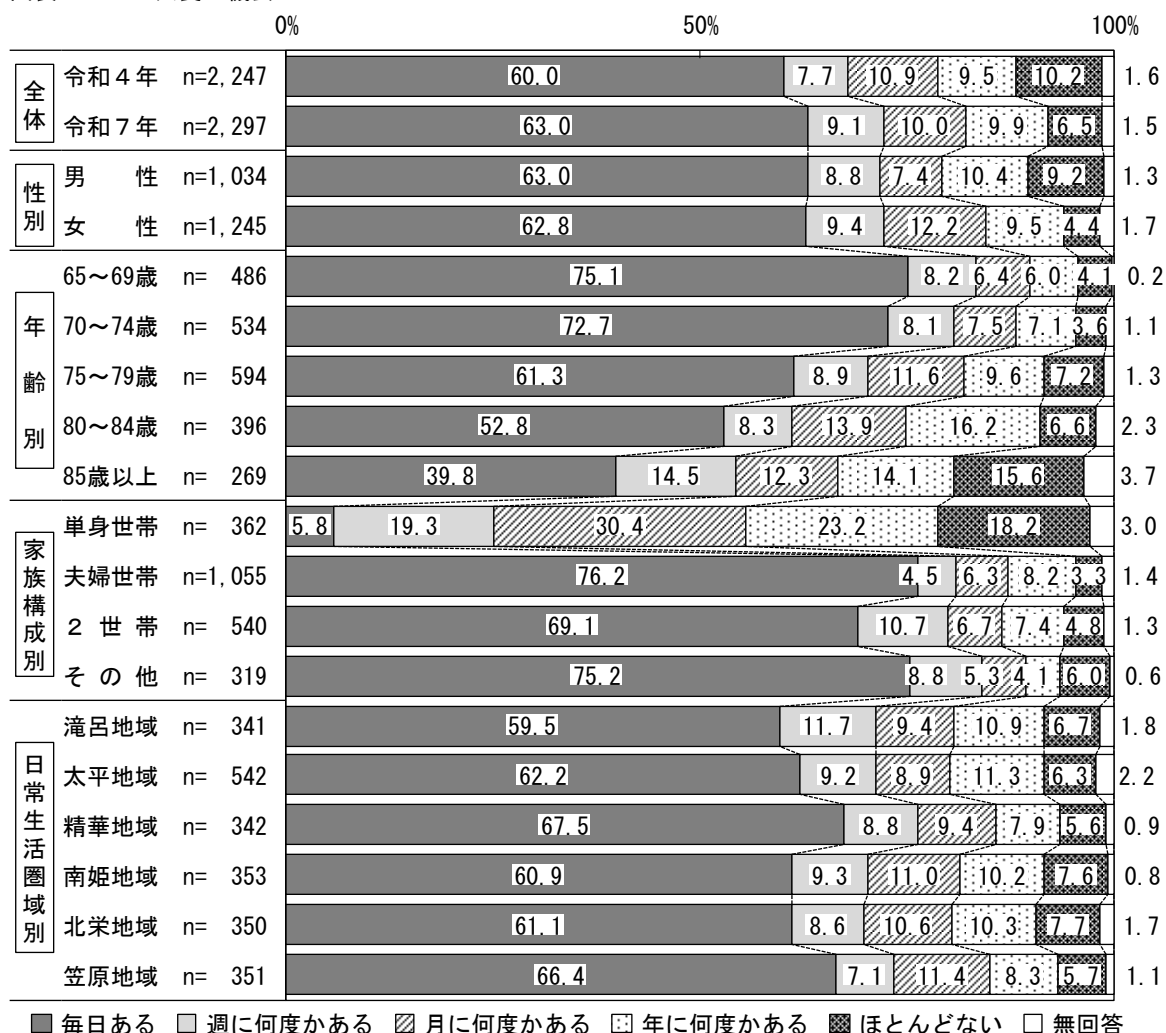
図表2-46 6か月で2～3 kg以上の体重減少があったか



(11) 共食の機会

- 誰かと一緒に食事をすることがあるかたずねたところ、「毎日ある」が63.0%と最も高く、次いで「月に何度かある」(10.0%)、「年に何度かある」(9.9%)の順となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「毎日ある」が低下し、「週に何度かある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」、「ほとんどない」が上昇する傾向にあります。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「毎日ある」が5.8%と非常に低く、「週に何度かある」、「月に何度かある」、「年に何度かある」、「ほとんどない」が高くなっています。

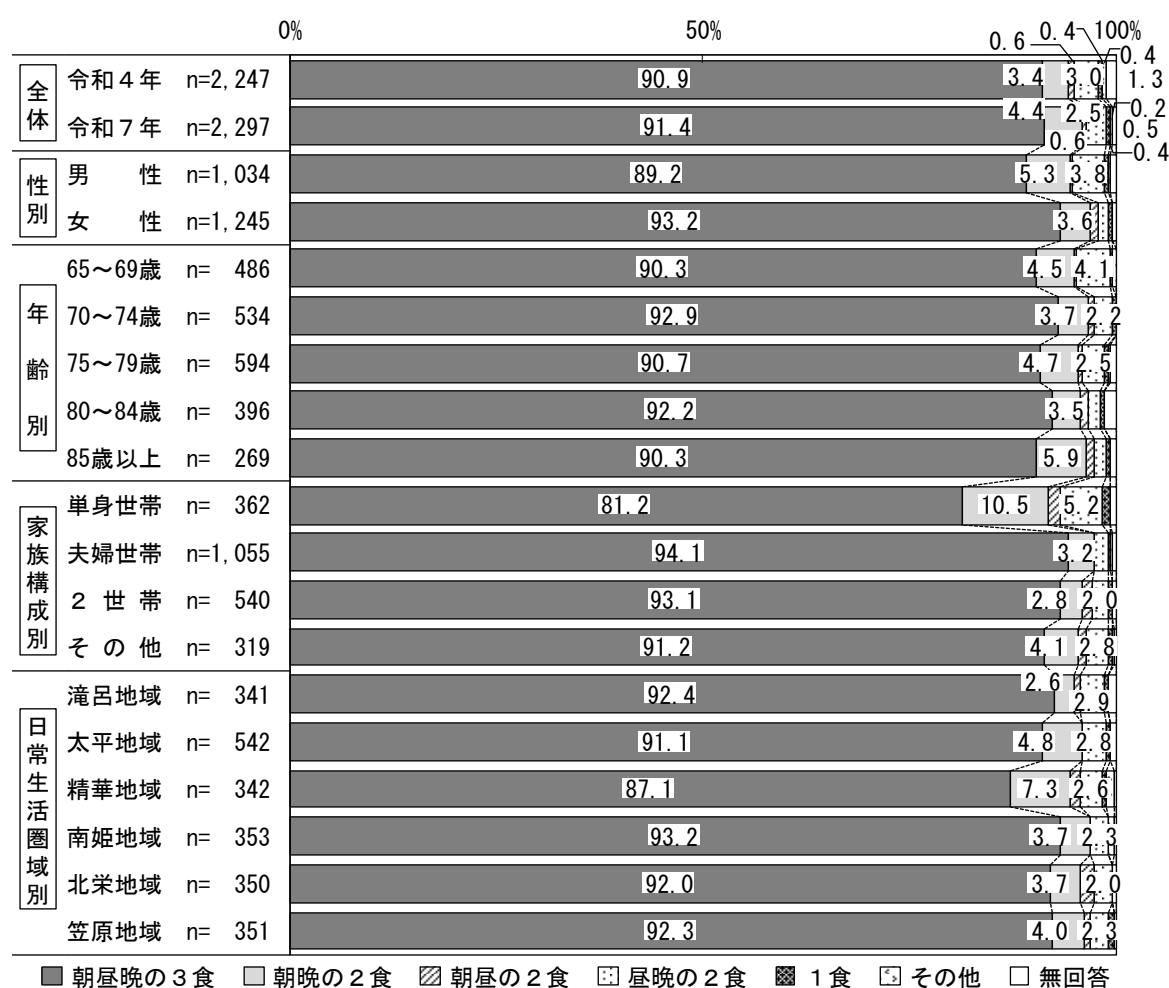
図表 2-47 共食の機会



(12) 1日の食事の回数

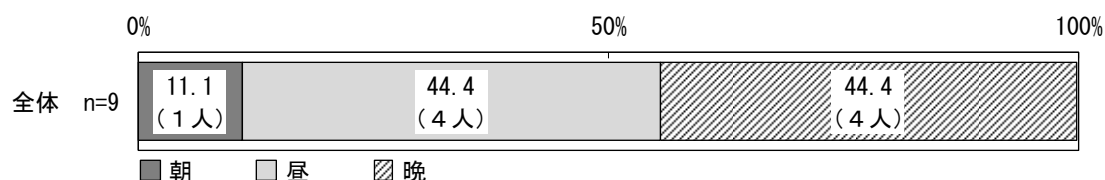
- 1日の食事の回数は、「朝昼晩の3回」が91.4%を占めています。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「朝昼晩の3回」の低い割合です（図表2-48）。
- 「その他」として「時々、朝夕2食」（2件）、「朝昼晩、夜間（0時頃）」、「仕事のある日は3食、ない日は朝晩の2食」の記載がありました。
- また、1日の食事の回数が「1回」と回答した9人に、いつ食事をするのかたずねたところ、「昼」と「夜」がそれぞれ44.4%（4人）となっています（図表2-49）。

図表2-48 1日の食事の回数



※全体以外の2%未満の数値は省略しました。

図表2-49 食事のタイミング（1日の食事回数が1食の人）

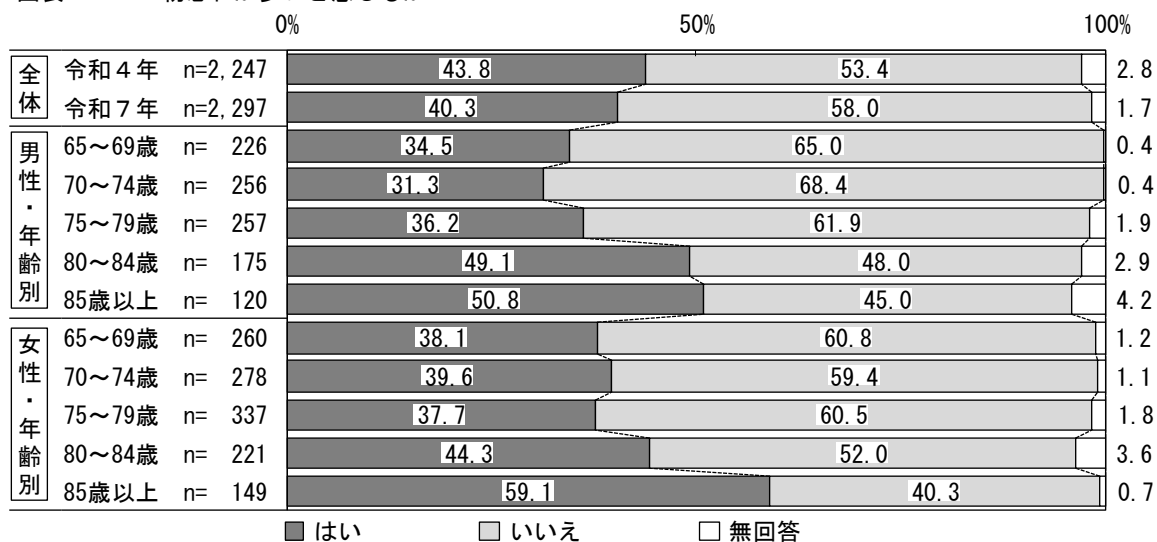


6 毎日の生活

(1) 物忘れが多いと感じるか

- 物忘れが多いと感じる（「はい」）と回答したのは40.3%です。
- 「はい」を性・年齢別にみると、男女ともに、年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、85歳以上になると過半数を占めます。

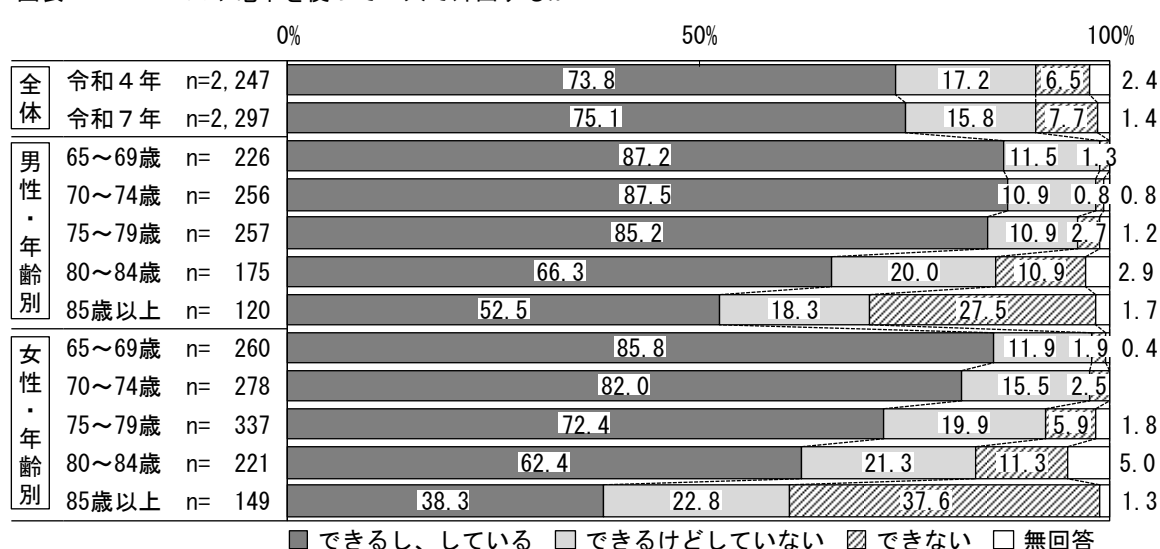
図表 2-50 物忘れが多いと感じるか



(2) バスや電車を使って1人で外出するか

- バスや電車を使って1人で外出するかたずねたところ、「できるし、している」が75.1%を占めています。
- 「できるし、している」を性・年齢別にみると、男性の80歳未満は85%以上を占めていますが、その後は急激に低下し、85歳以上になると50%台となります。女性は年齢が高くなるにしたがい低下し、85歳以上では38.3%です。

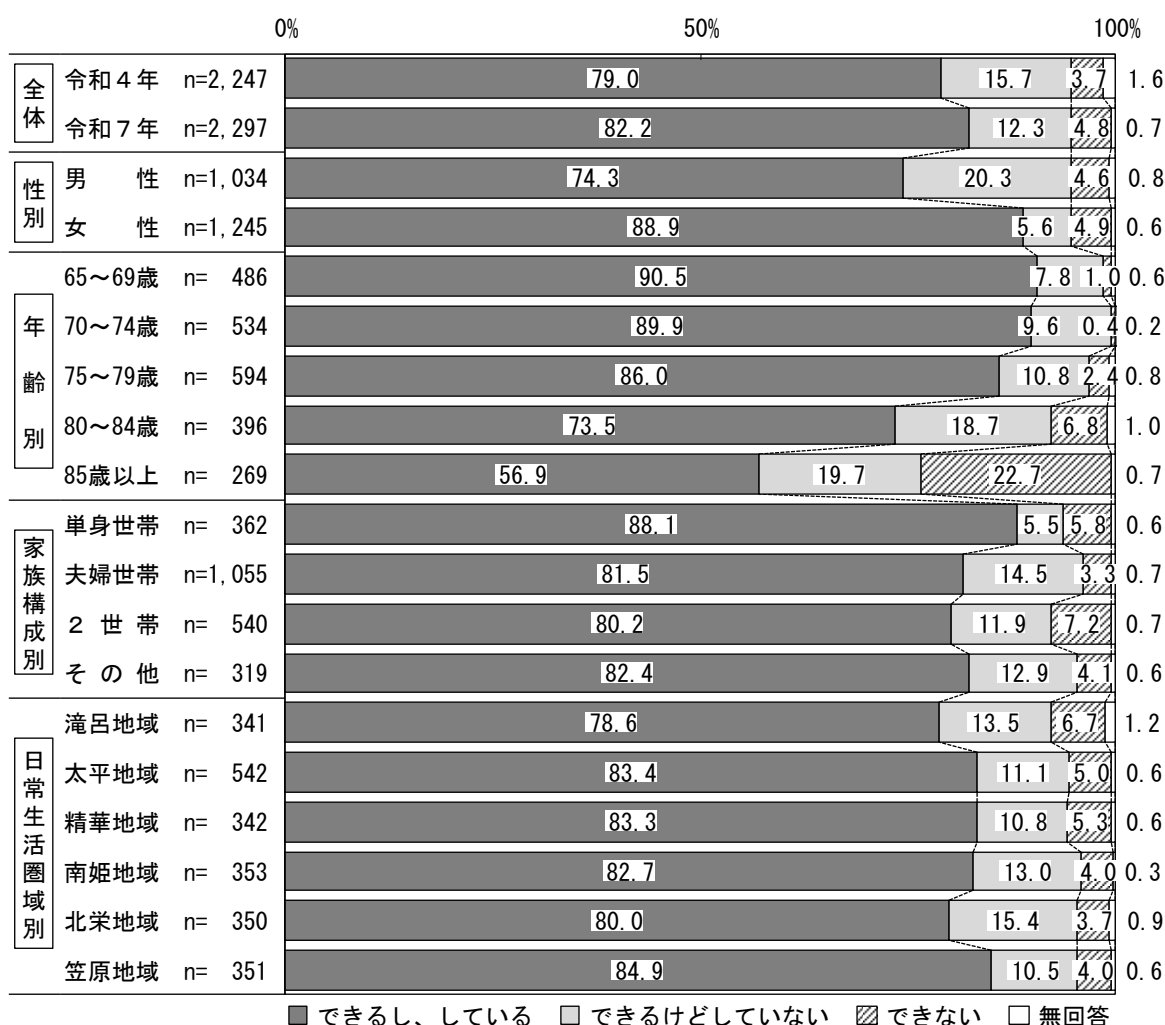
図表 2-51 バスや電車を使って1人で外出するか



(3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

- 自分で食品・日用品の買い物をしているかたずねたところ、「できるし、している」が82.2%を占めています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて「できるし、している」が14.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、85歳以上になると「できない」が著しく高くなります。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「できるし、している」が88.1%の非常に高い割合です。

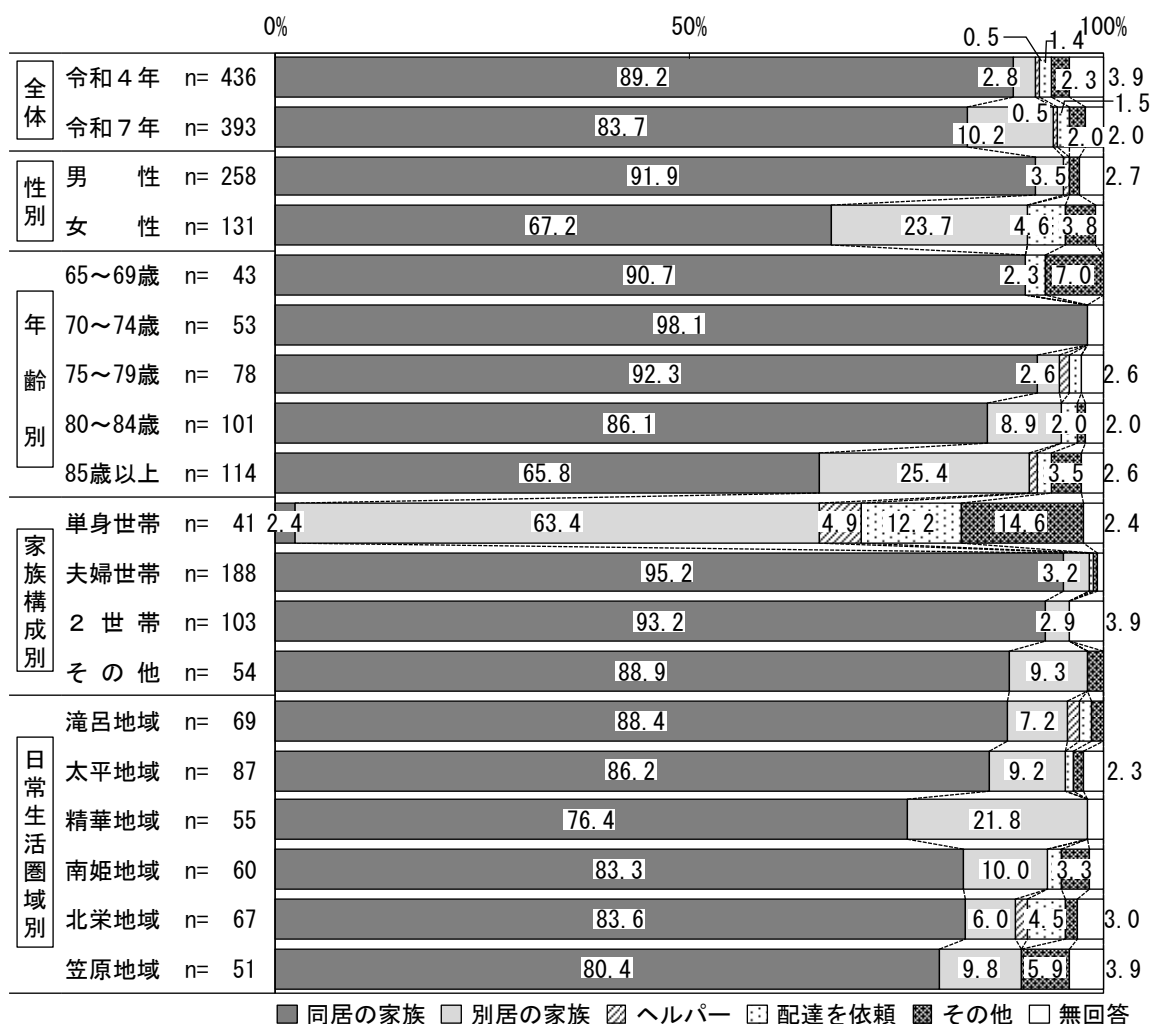
図表2-52 自分で食品・日用品の買い物をしているか



(4) 食品・日用品の買い物をする人

- 食品・日用品の買い物を「できるけどしていない」または「できない」と回答した人に、誰が買い物をしているかたずねたところ、「同居の家族」が83.7%を占めています。令和4年度調査と比較すると、「同居の家族」が低下し、「別居の家族」が上昇しており、それぞれ5ポイント以上の差があります。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「同居の家族」が高く、「別居の家族」が低くなっており、それぞれ20ポイント以上の差があります。
- 年齢別にみると、85歳以上になると「別居の家族」が著しく上昇します。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「別居の家族」が63.4%を占める高い割合です。

図表2-53 食品・日用品の買い物をする人（しない人・できない人）

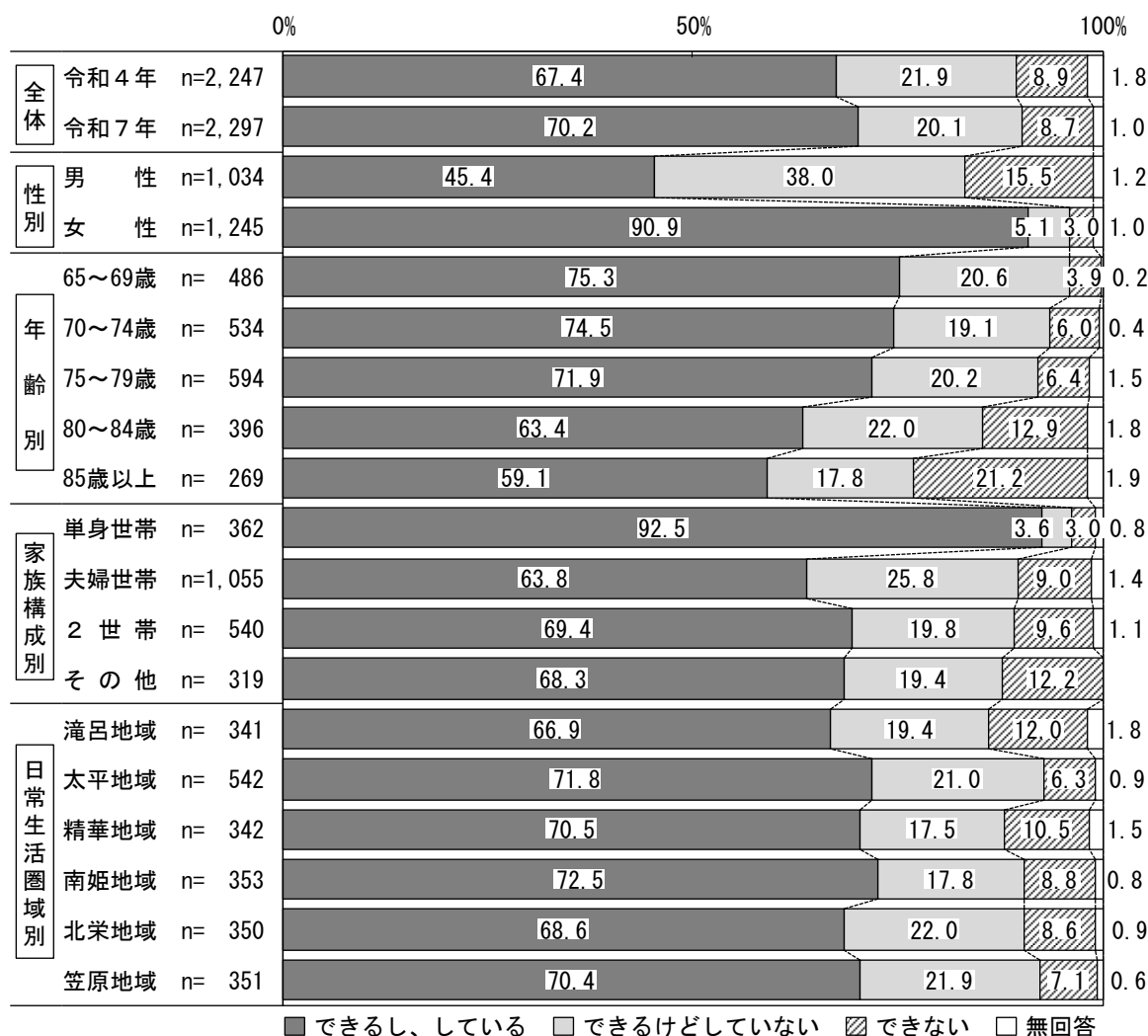


※全体以外の2%未満の数値は省略しました。

(5) 自分で食事の用意をしているか

- 自分で食事の用意をしているかたずねたところ、「できるし、している」が70.2%を占めています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「できるけどしていない」及び「できない」が高く、「できるし、している」が低くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「できない」が上昇し、「できるし、している」が低下しています。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「できるし、している」が92.5%の非常に高い割合です。

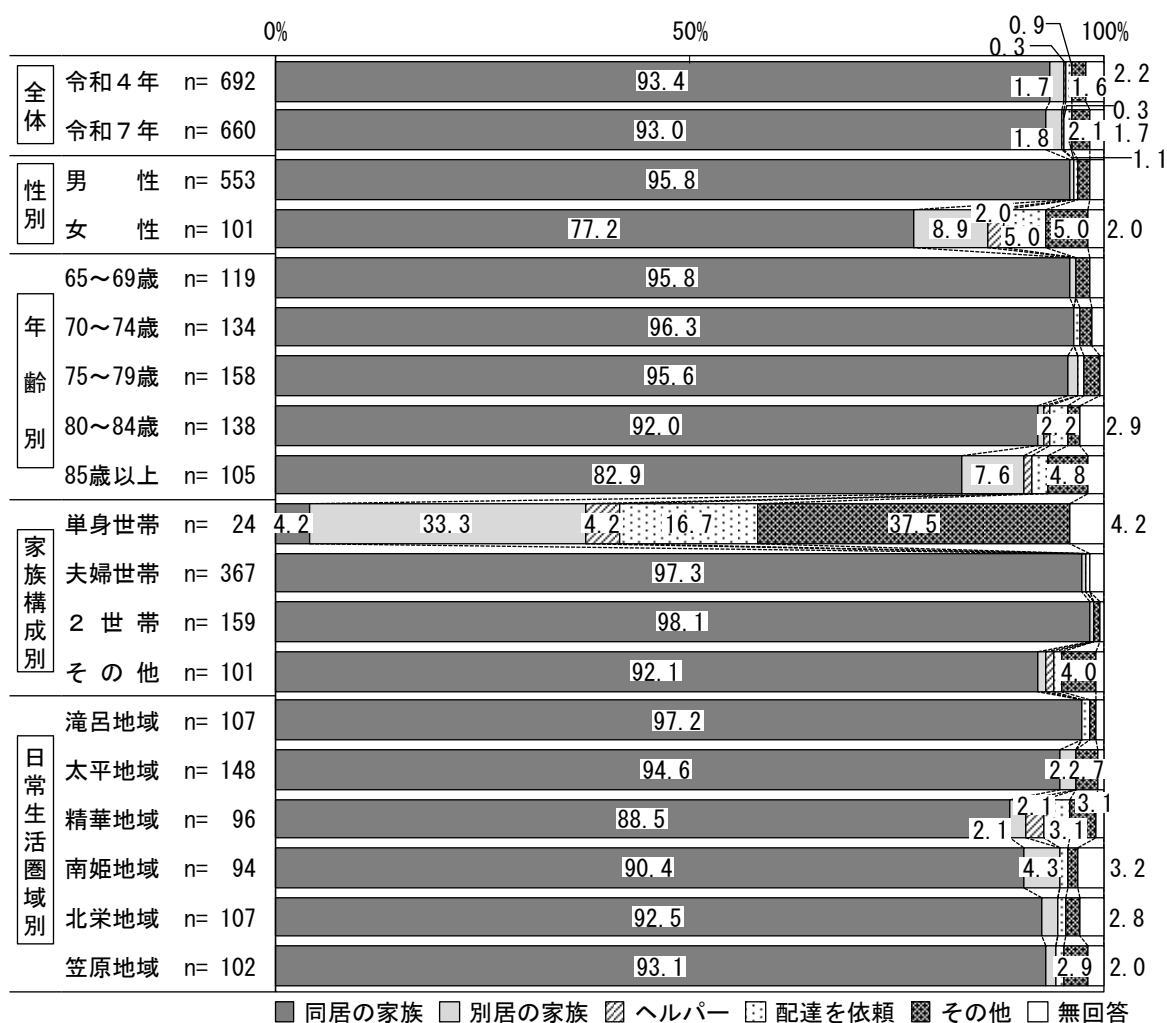
図表 2-54 自分で食事の用意をしているか



(6) 食事の用意をする人

- 食事の用意を「できるけどしていない」または「できない」と回答した人に、誰が用意をしているかたずねたところ、「同居の家族」が93.0%を占めています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「同居の家族」が18.6ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、85歳以上になると「同居の家族」が低下します。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「別居の家族」及び「配達を依頼」が高い割合です。

図表 2-55 食事の用意をする人（しない人・できない人）

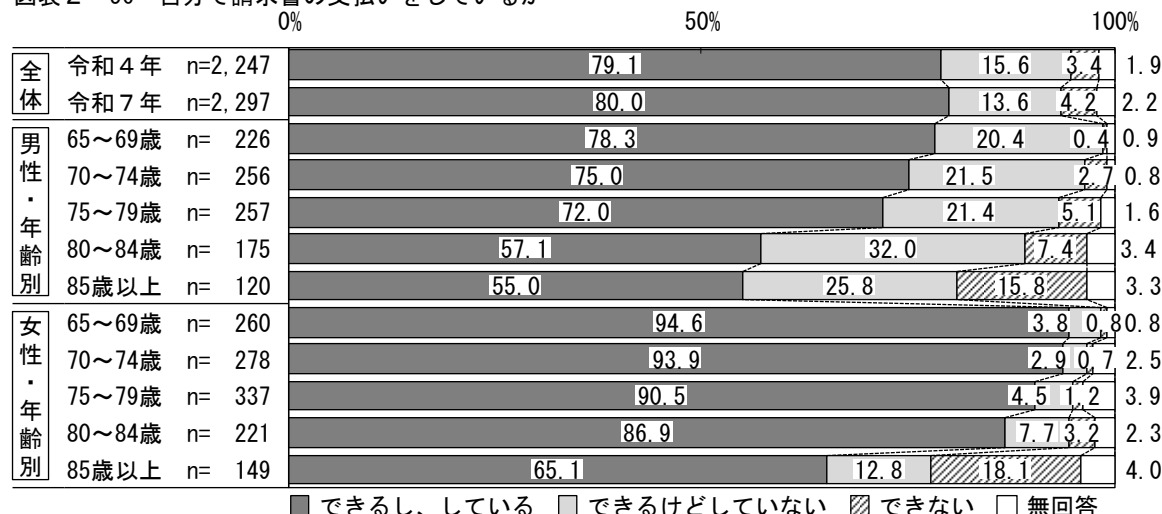


※全体以外の2%未満の数値は省略しました。

(7) 自分で請求書の支払いをしているか

- 自分で請求書の支払いをしているかたずねたところ、「できるし、している」が80.0%を占めています。
- 「できるし、している」を性・年齢別にみると、男性はいずれの年齢層においても女性を下回っています。また、男女ともに年齢が高くなるにしたがい低下し、特に、男性は80歳以上、女性は85歳以上になると急激に低くなります。

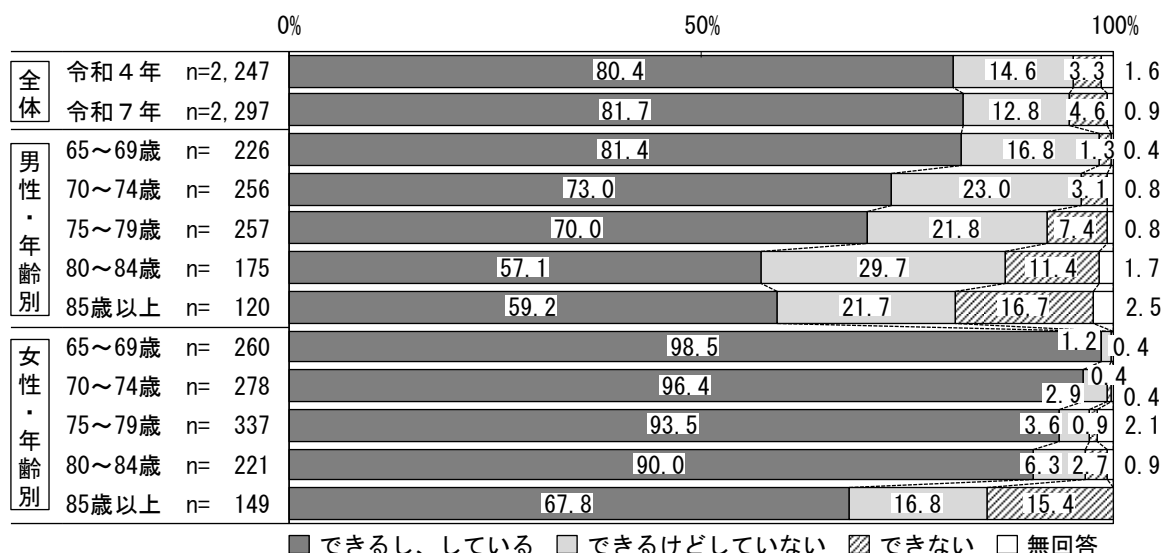
図表 2-56 自分で請求書の支払いをしているか



(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

- 自分で預貯金の出し入れをしているかたずねたところ、「できるし、している」が81.7%を占めています。
- 「できるし、している」を性・年齢別にみると、男性はいずれの年齢層においても女性を下回っています。また、男性は年齢が高くなるにしたがい低下する傾向にあります。女性は年齢が高くなるにしたがい低下し、85歳以上になると急激に低くなります。

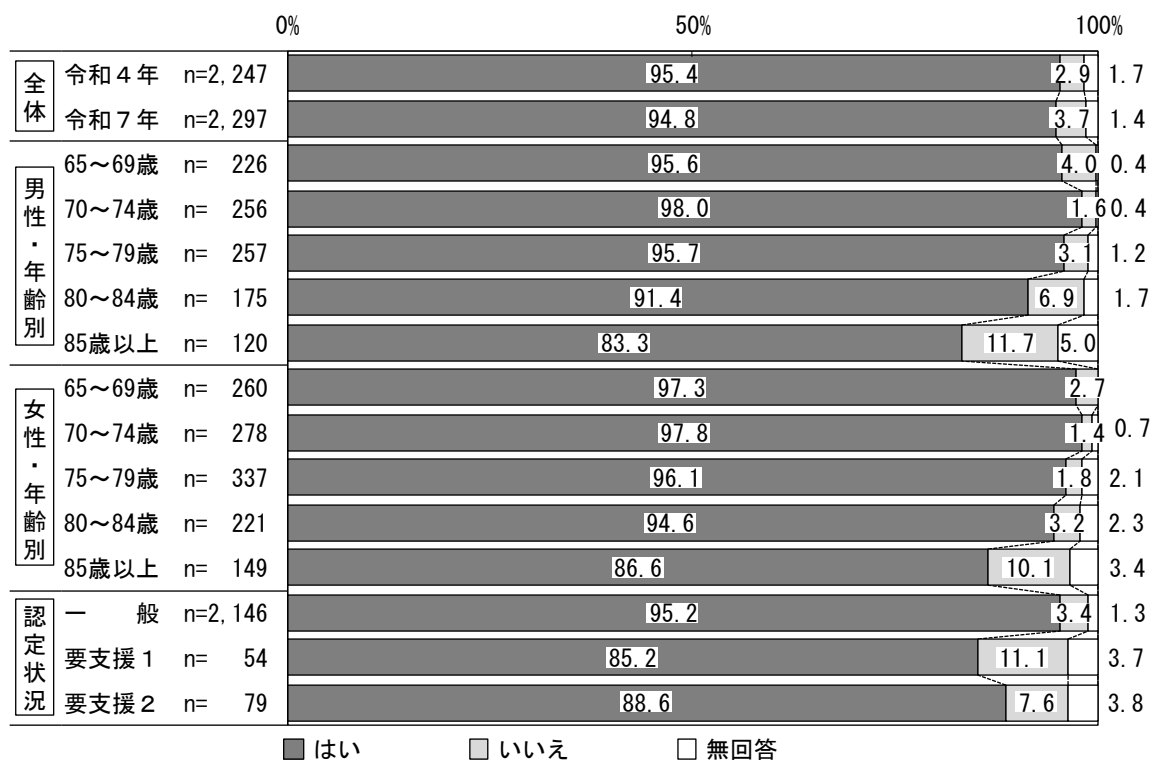
図表 2-57 自分で預貯金の出し入れをしているか



(9) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか

- 5分前に自分が何をしていたか思い出せる（「はい」）と回答したのは、94.8%です。
- 性・年齢別にみると、男女ともに70～74歳をピークに「はい」が低下しています。
- 認定状況別にみると、一般は要支援認定1・2に比べて「はい」が高くなっています。

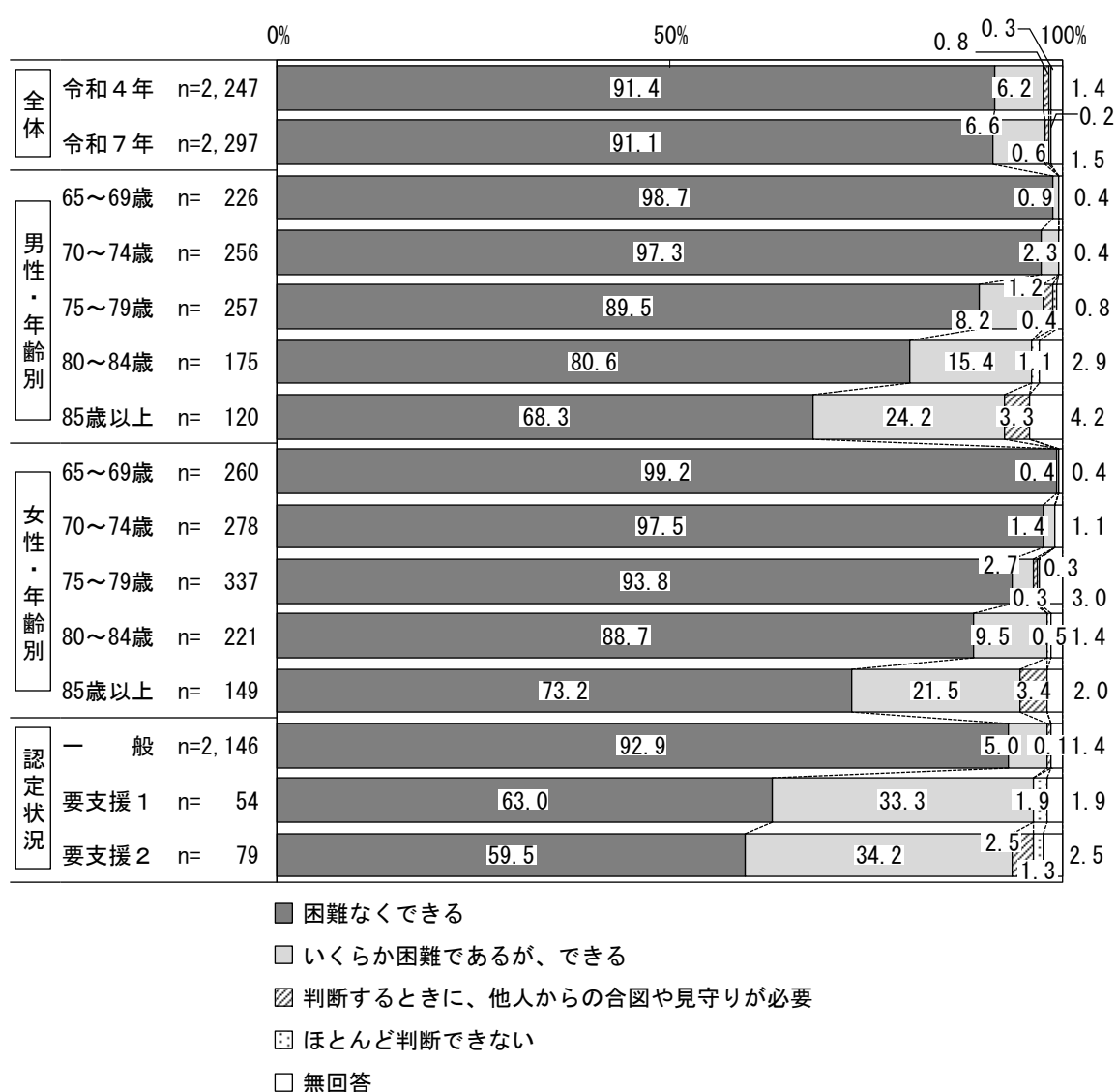
図表2-58 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



(10) その日の活動を自分で判断できるか

- その日の活動を自分で判断できるかたずねたところ、「困難なくできる」が91.1%、「いくらか困難であるが、できる」(6.6%)、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」(0.6%)、「ほとんど判断できない」(0.2%)の順となっています。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「いくらか困難であるが、できる」が上昇し、85歳以上になると20%台となります。
- 認定状況別にみると、「いくらか困難であるが、できる」は、一般が5.0%であるのに対して、要支援1・2は30%台となっています。

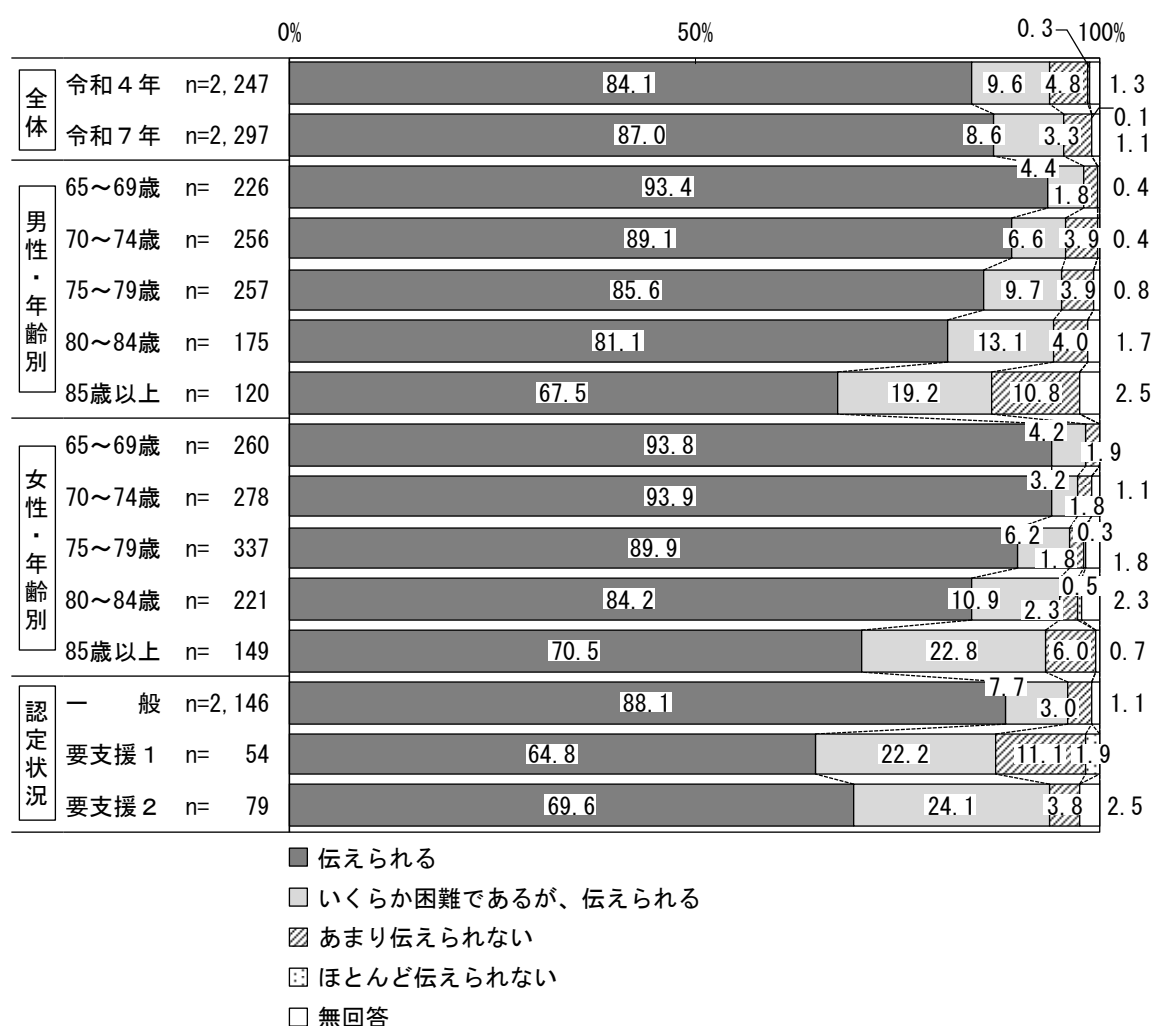
図表2-59 その日の活動を自分で判断できるか



(11) 人に自分の考えをうまく伝えられるか

- 人に自分の考えをうまく伝えられるかたずねたところ、「伝えられる」が87.0%、「いくらか困難であるが、伝えられる」(8.6%)、「あまり伝えられない」(3.3%)、「ほとんど伝えられない」(0.1%)の順となっています。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「いくらか困難であるが、伝えられる」が上昇し、85歳以上になると20%前後となります。
- 認定状況別にみると、「いくらか困難であるが、伝えられる」は、一般が7.7%であるのに対して、要支援1・2は20%台となっています。

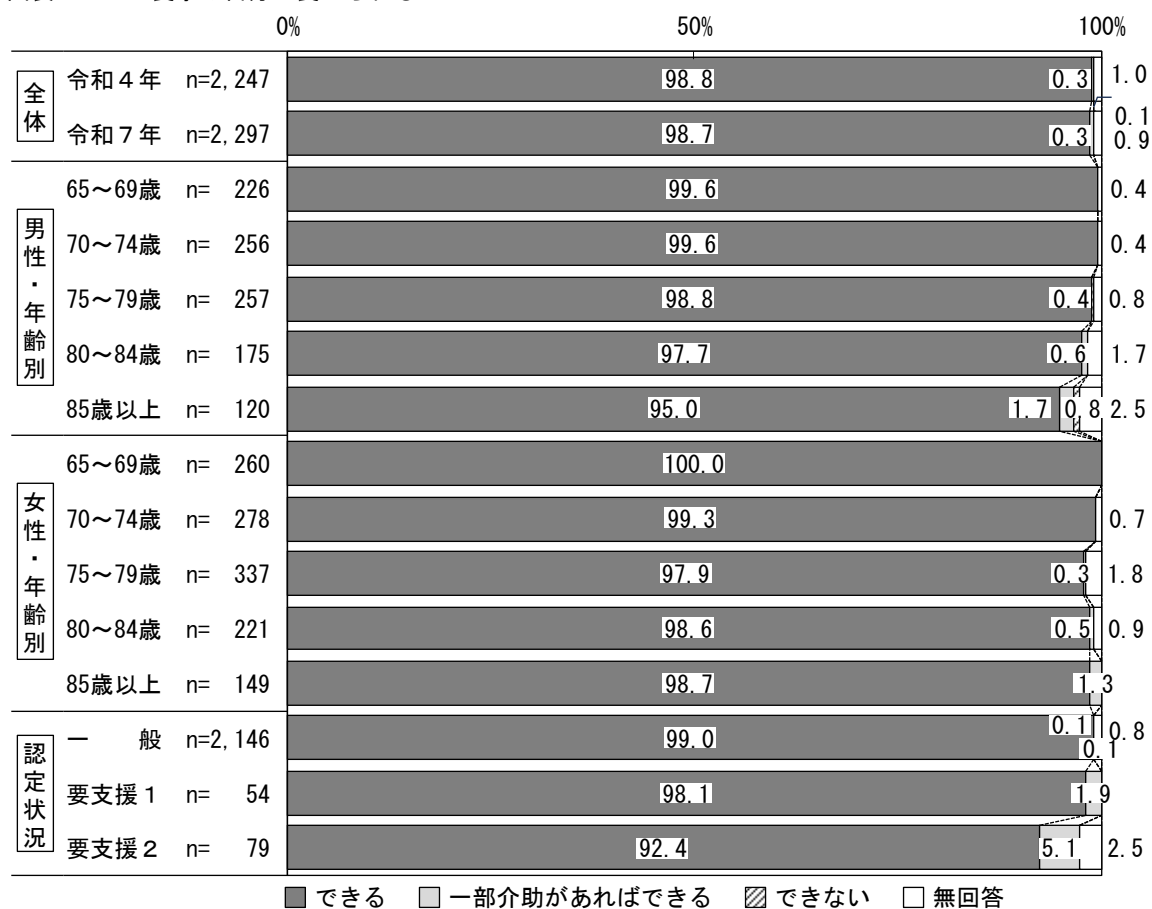
図表2-60 人に自分の考えをうまく伝えられるか



(12) 食事は自分で食べられるか

■食事は自分で食べられるかたずねたところ、「できる」が98.7%を占めています。

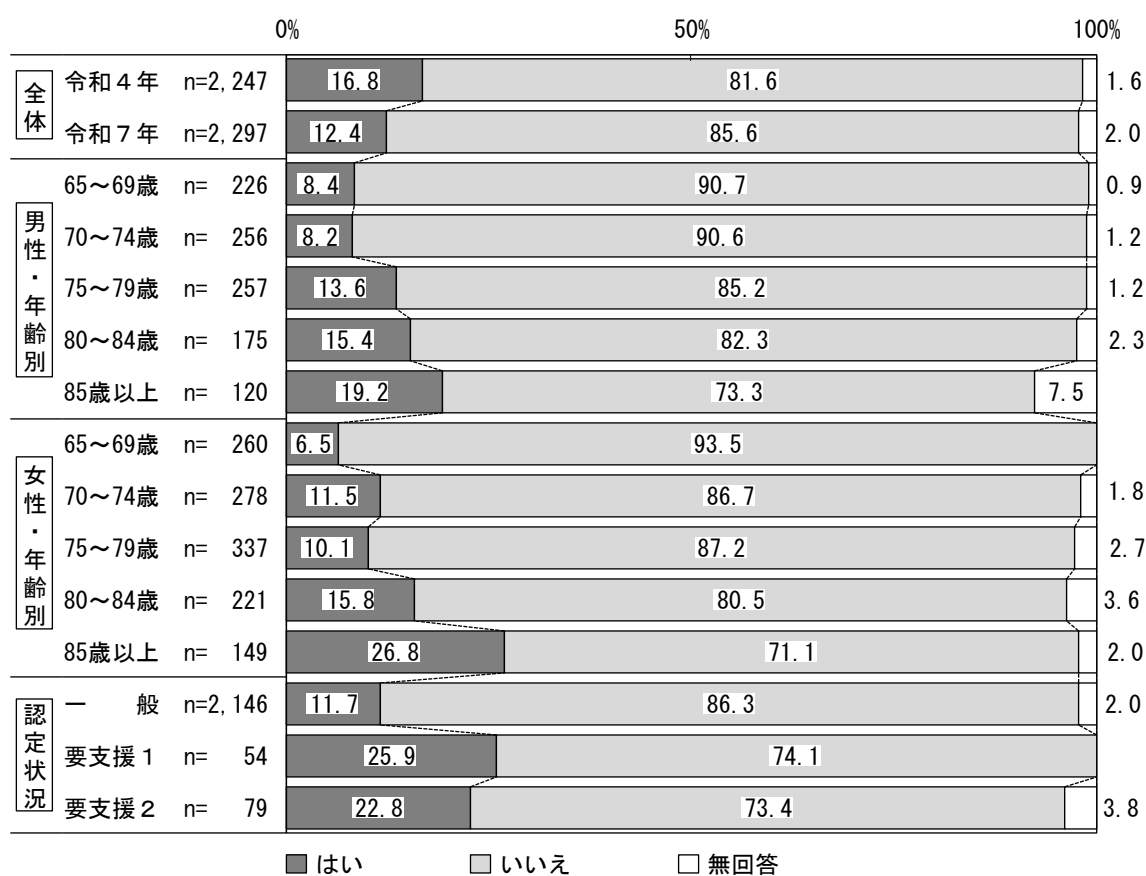
図表 2-61 食事は自分で食べられるか



(13) いつも同じことを聞くなどと言われるか

- いつも同じことを聞くなどと言われる（「はい」）と回答したのは、12.4%です。
- 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「はい」が上昇する傾向にあり、特に女性は85歳以上になると26.8%まで上昇します。
- 認定状況別にみると、一般は「はい」が11.7%であるのに対して、要支援1・2は20%台となっています。

図表2-62 いつも同じことを聞くなどと言われるか



7 地域活動

(1) 会・グループ等への参加頻度

- 会・グループ等への参加頻度について、「週4回以上」「週2～3日」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合計した〈参加している〉の割合は、⑦町内会・自治会が33.4%と最も高く、次いで⑧収入のある仕事が27.2%、③趣味関係のグループが25.5%、②スポーツ関係のグループやクラブが21.8%、①ボランティアのグループが10.2%、④学習・教養サークルが7.0%、⑤介護予防のための通いの場が5.2%、⑥老人クラブ（悠光クラブ）が3.5%の順となっています。
- また、「週4回以上」「週2～3日」「週1回」を合計した〈週1回以上〉が10%を超えているのは、⑧収入のある仕事（24.3%）、②スポーツ関係のグループやクラブ（14.4%）です。

図表2-63 会・グループ等への参加頻度

n=2,297

単位：%

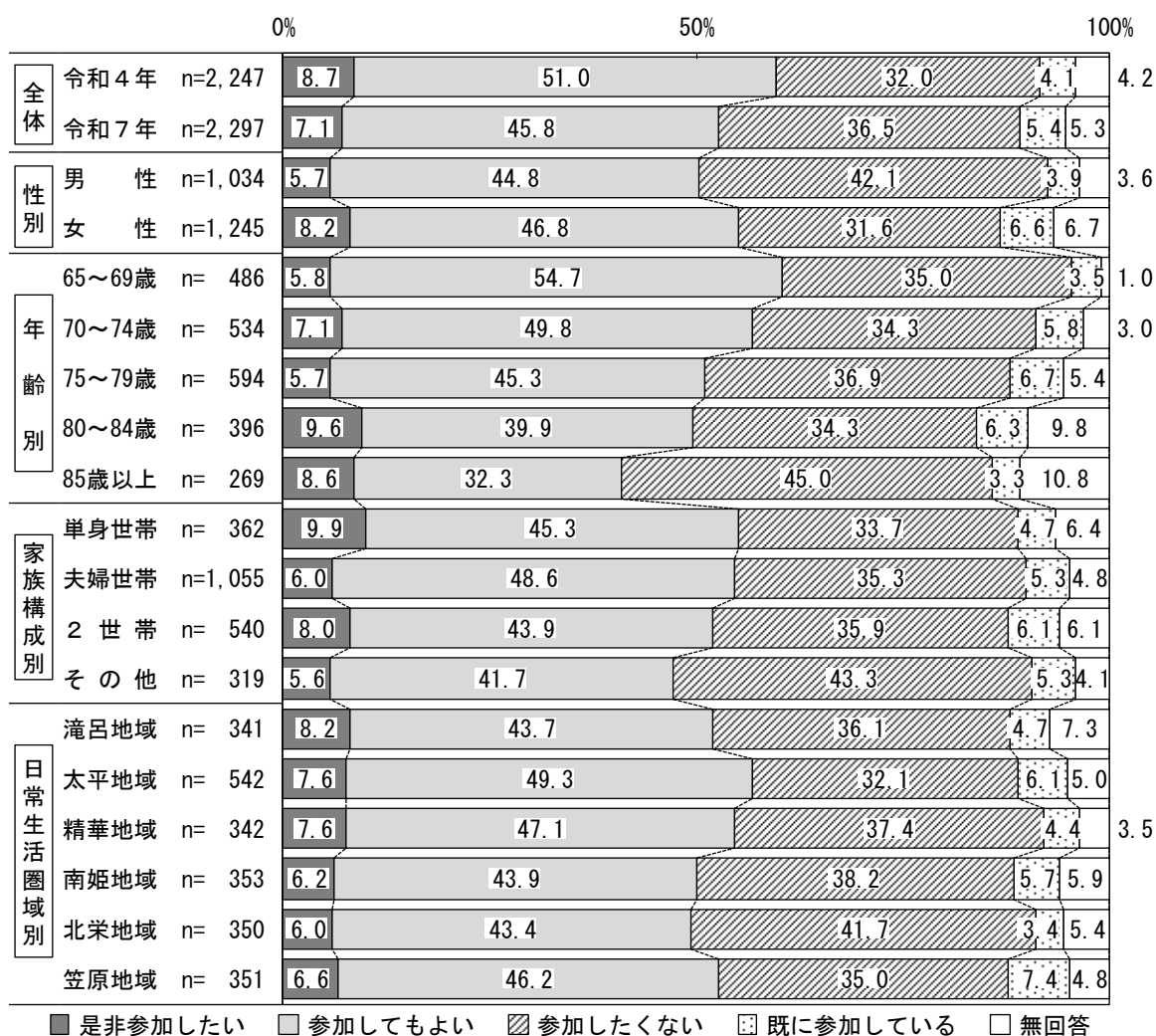
区 分	参加している							参加していない	無回答
	週4回以上	週2～3回	週1回	週1回以上	月1～3回	年に数回			
①ボランティアのグループ	0.7	0.8	1.1	2.6	4.2	3.4	10.2	60.5	29.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	3.4	6.1	4.9	14.4	5.7	1.7	21.8	53.5	24.6
③趣味関係のグループ	1.2	3.5	4.4	9.1	12.4	4.0	25.5	50.0	24.5
④学習・教養サークル	0.2	1.0	1.1	2.3	3.1	1.6	7.0	62.1	30.9
⑤介護予防のための通いの場	0.2	1.0	1.3	2.5	2.0	0.7	5.2	64.5	30.3
⑥老人クラブ（悠光クラブ）	0.1	0.4	0.3	0.8	1.4	1.3	3.5	65.4	31.0
⑦町内会・自治会	0.4	0.3	0.9	1.6	4.6	27.2	33.4	39.2	27.4
⑧収入のある仕事	15.5	7.4	1.4	24.3	1.3	1.6	27.2	46.5	26.3

(2) 地域活動への参加意向

①参加者として

- 地域活動への参加者としての参加意向をたずねたところ、「参加してもよい」が45.8%と最も高く、次いで「参加したくない」(36.5%)の順となっています。「是非参加したい」(7.1%)、「参加してもよい」、「既に参加している」(5.4%)を合計した〈参加者としての参加意向〉は58.3%です。令和4年度調査と比較すると〈参加者としての参加意向〉は5.5ポイント低下しています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて〈参加者としての参加意向〉が7.2ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい〈参加者としての参加意向〉が低下し、85歳以上になると50%を下回ります。

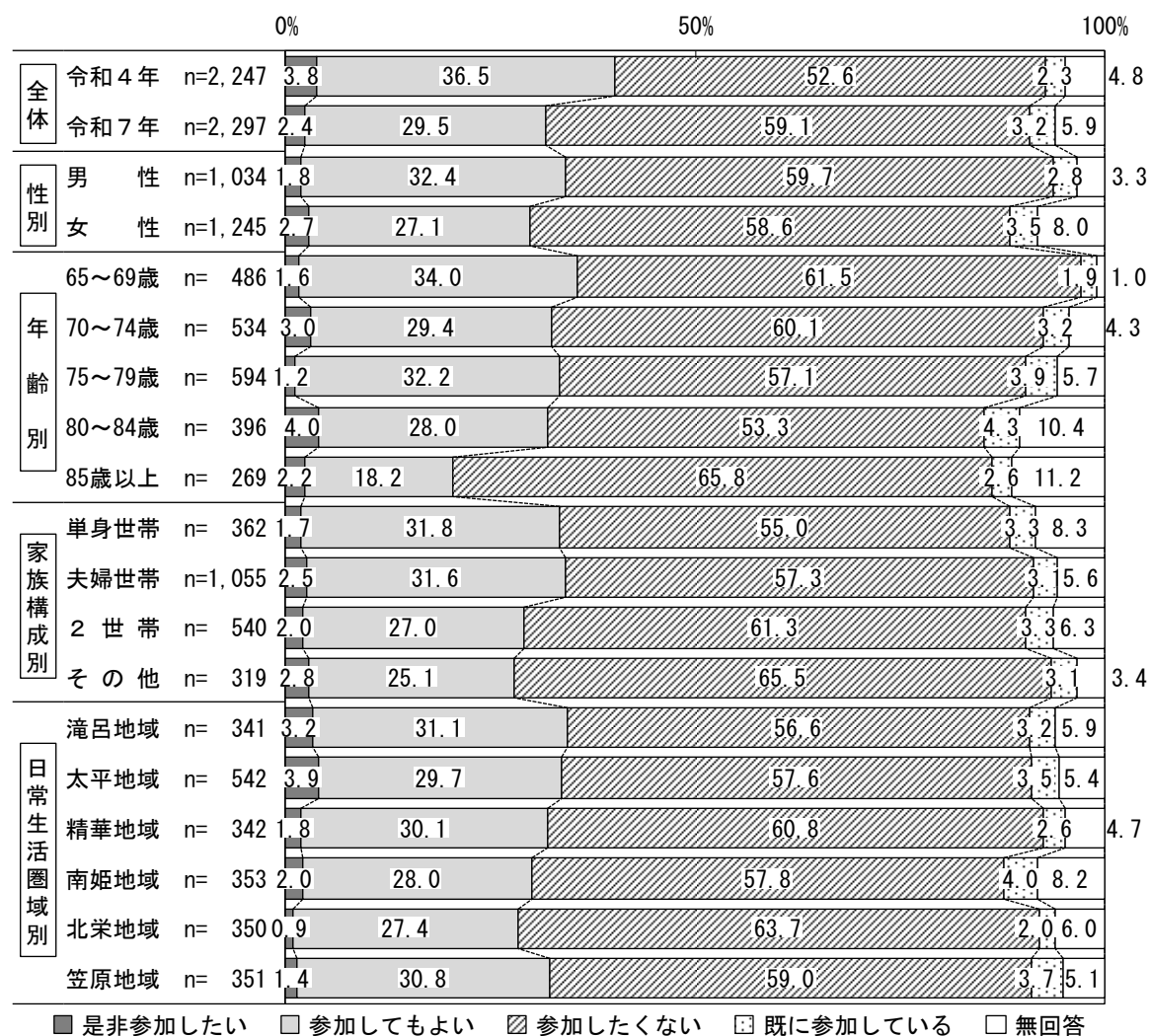
図表2-64 地域活動への参加意向（参加者としての参加意向）



②企画・運営として

- 地域活動への企画・運営としての参加意向をたずねたところ、「参加したくない」が59.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」(29.5%)の順となっています。「是非参加したい」(2.4%)、「参加してもよい」、「既に参加している」(3.2%)を合計した〈企画・運営としての参加意向〉は35.1%です。令和4年度調査と比較すると〈企画・運営としての参加意向〉は7.5ポイント低下しています。
- 年齢別に〈企画・運営としての参加意向〉をみると、85歳未満は35%程度となっていますが、85歳以上になると著しく低下し、23.0%となります。
- 日常生活圏域別にみると、北栄地域はその他の地域に比べて〈企画・運営としての参加意向〉がやや低くなっています。

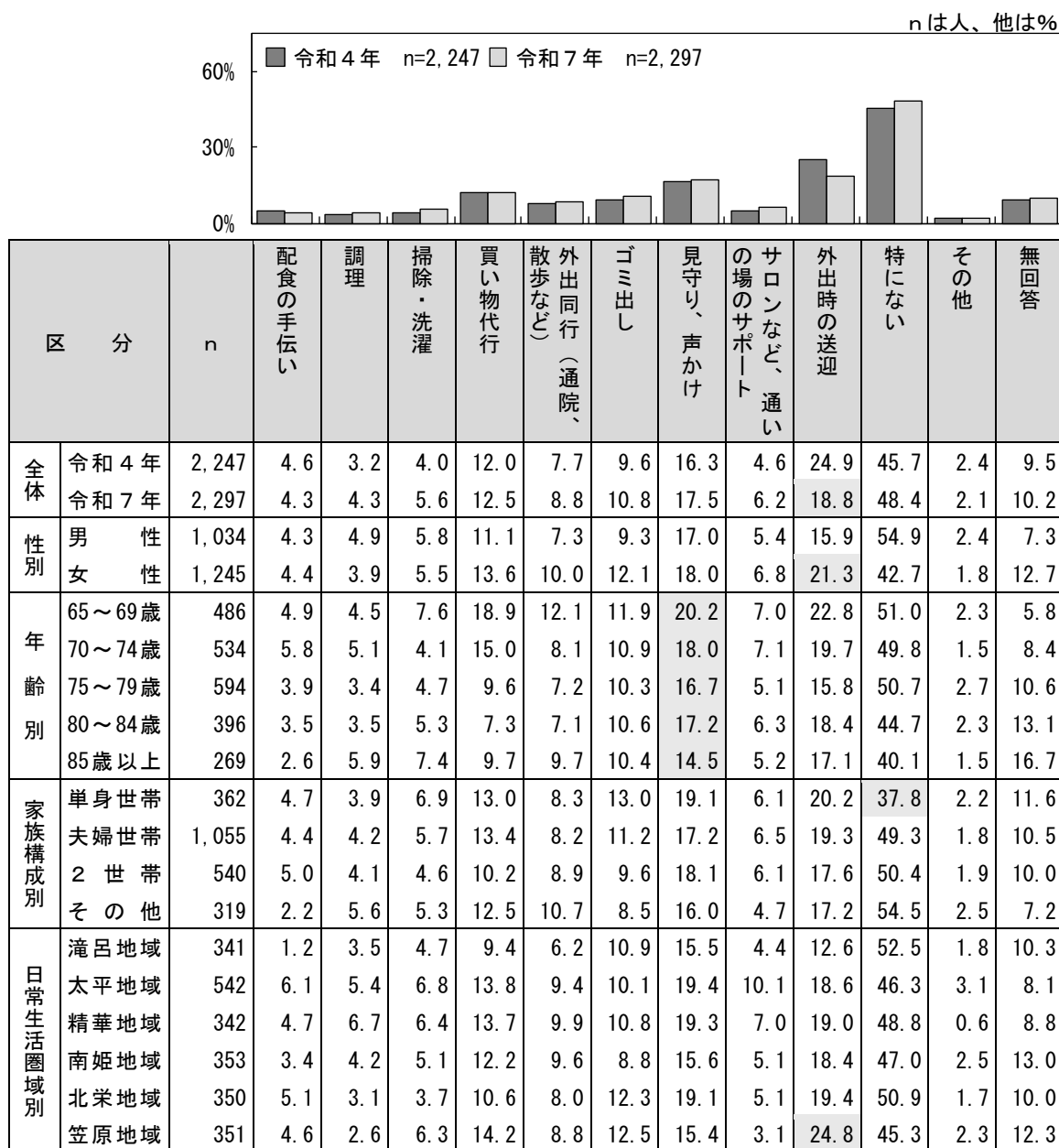
図表2-65 地域活動への参加意向（企画・運営としての参加意向）



(3) 地域にあるとよいサービス

- 地域にあるとよいサービスをたずねたところ、「特にない」が48.4%と最も高くなっていますが、次いで「外出時の送迎」(18.8%)、「見守り、声かけ」(17.5%)、「買い物代行」(12.5%)の順となっています。令和4年度調査と比較すると「外出時の送迎」が6.1ポイント低下しています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて「外出時の送迎」が5.4ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「見守り、声かけ」が低下します。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「特にない」が低い割合です。
- 日常生活圏域別にみると、笠原地域はその他の地域に比べて「外出時の送迎」が高くなっています。

図表2-66 地域にあるとよいサービス（複数回答）



■ その他として図表 2-67の内容が記載されていました。

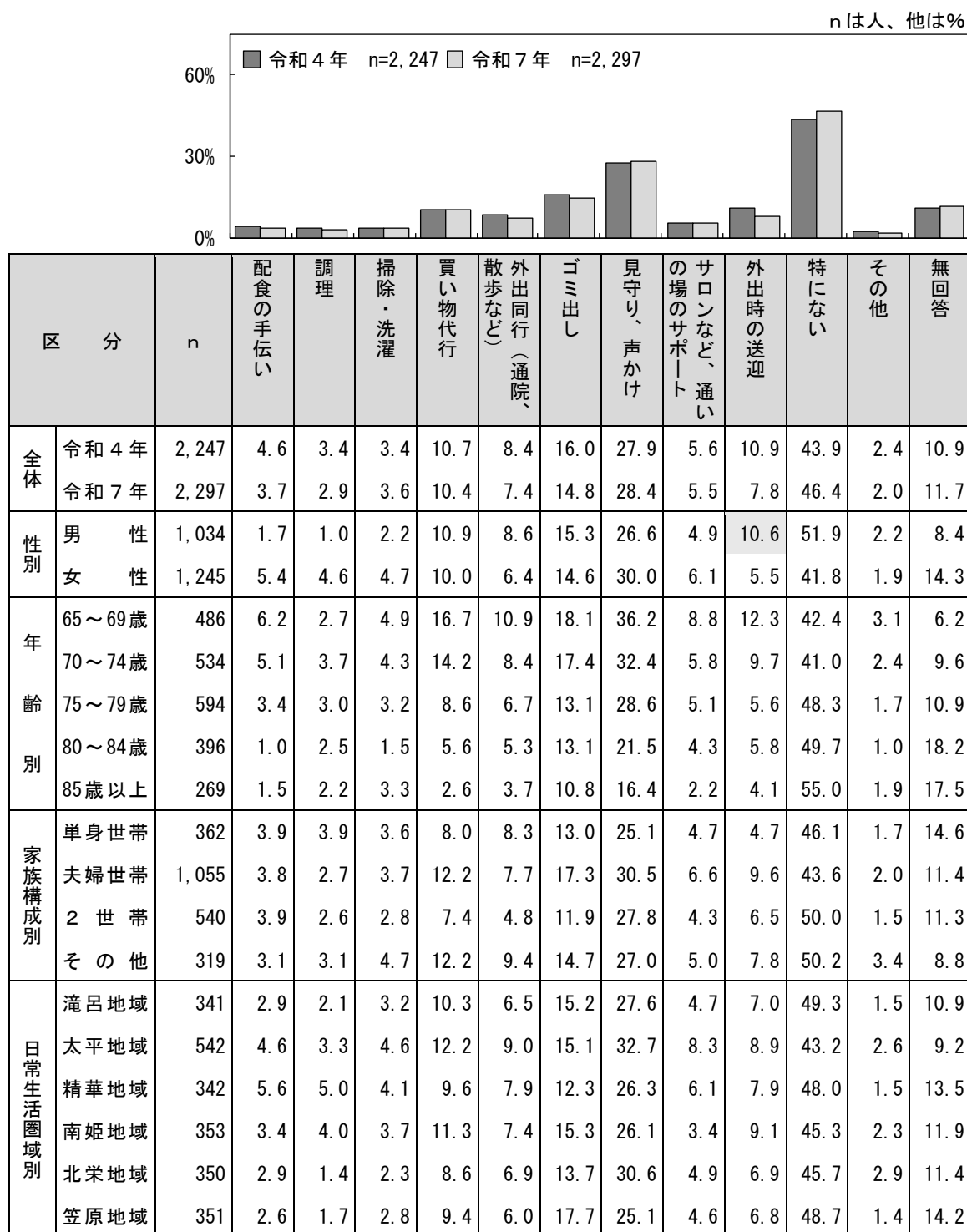
図表 2-67 地域にあるとよいサービス（その他、複数回答）

【家事・住環境の維持】15件 ・草取り 6件 ・庭木の剪定 4件 ・修繕 2件 ・街路清掃 ・植木や花等の手入れ ・ゴミを各戸回収にしてほしい 【移動支援・交通サービス】8件 ・バスの充実 7件 ・自分で自由に動ける交通機関がほしい 【食事・見守り・交流】4件 ・宅食 2件 ・食事をしながらの話し相手 ・食事をするところ	【その他】4件 ・困ったときに支援してくれるサービス ・子育て支援 ・生バンドによるジャズやポップスのセッションができるところ ・あってほしいが、人に頼みにくい 【買い物支援】3件 ・住まいから歩いていける商店（商店街） ・コンビニ ・姫町にはスーパーがないので、スーパーがほしい 【わからない、必要ない】9件 ・今は必要ない 2件 ・わからない 7件
---	--

(4) 地域でできる支援

- 地域でできる支援についてたずねたところ、「特にない」が46.4%と最も高くなっています
が、次いで「見守り・声かけ」(28.4%)、「ゴミ出し」(14.8%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「外出時の送迎」が5.1ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい全般的に低下する傾向にあります。

図表2-68 地域でできる支援（複数回答）



■ その他として図表 2－69の内容が記載されていました。

図表 2－69 地域でできる支援（その他、複数回答）

【家事・住環境の維持】 8 件

- ・ 草取り 4 件
- ・ 歩道や公園などの清掃 2 件
- ・ 剪定
- ・ 修繕

【見守り・交流】 5 件

- ・ 話し相手 3 件
- ・ 趣味や催し物への参加の声かけ
- ・ 交通安全活動

【子ども・子育て支援】 4 件

- ・ 学習支援 2 件
- ・ 子育て支援
- ・ 障がい児家族支援

【その他】 4 件

- ・ 生鮮食品の巡回販売
- ・ ペットの世話
- ・ 簡単な作業
- ・ ボランティア

【支援することは困難】 6 件

- ・ 自分のことだけで精一杯 2 件
- ・ 今はお手伝いする時間がないが、80歳くらいになって健康なら何か役立つことをしたい
- ・ 車の運転ができないため、自宅からの距離による
- ・ 仕事上難しい
- ・ 体が弱いので約束できない

8 就 労

(1) 現在の就労状況

- 現在の就労状況をたずねたところ、「引退した」が53.4%と最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」（16.6%）、「自営業」（8.7%）、「常勤（フルタイム）」（6.6%）の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「常勤（フルタイム）」が8.2ポイント高くなっています。

図表 2-70 現在の就労状況（複数回答）



- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「引退した」が上昇し、「常勤（フルタイム）」及び「非常勤（パート・アルバイト等）」が低下しますが、65～69歳はその他の年齢層に比べて「引退した」が32.9%の低い割合です。
- 認定状況別にみると、一般は要支援1・2に比べて「非常勤（パート・アルバイト等）」が高い割合です。
- 日常生活圏域別にみると、笠原地域はそれ以外の地域に比べて「非常勤（パート・アルバイト等）」がやや高いことも特徴としてあげられます（図表2-70）。
- その他として図表2-71の内容が記載されていました。

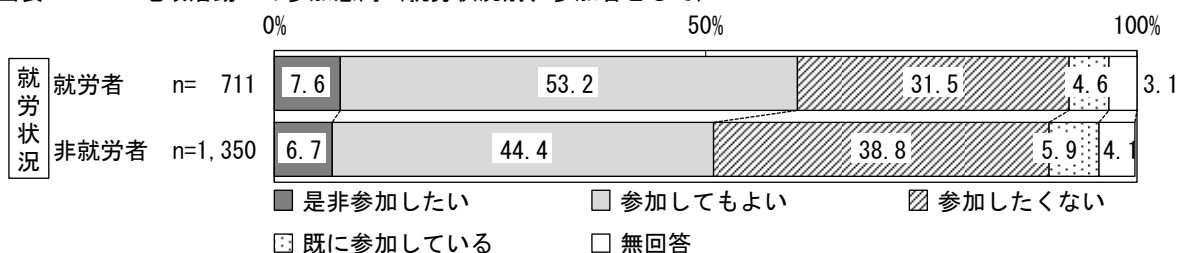
図表2-71 現在の就労状況（その他、複数回答）

・主婦、主夫 12件	・神職
・内職 3件	・正社員（週3日勤務休日出勤あり）
・農業 3件	・総務、経理
・機会があれば働きたい 2件	・知的障がい者の子どもを自宅介護している
・会社役員	・頼まれれば洋服のリフォームをする
・時々自分で作ったものを販売	・働いている
・就労継続支援B型事業所	

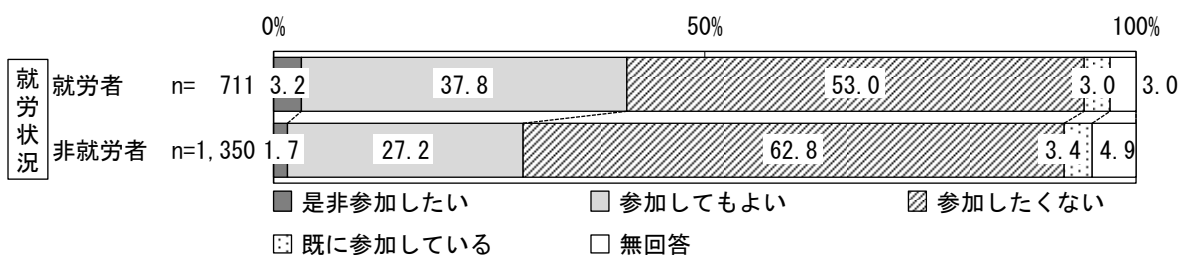
(2) 就労状況にみた地域活動への参加意向

- 就労状況別に地域活動への参加意向をみると、就労者は非就労者に比べて〈参加者としての参加意向〉が8.4ポイント、〈企画・運営としての参加意向〉が11.7ポイント高くなっています。

図表2-72 地域活動への参加意向（就労状況別、参加者として）



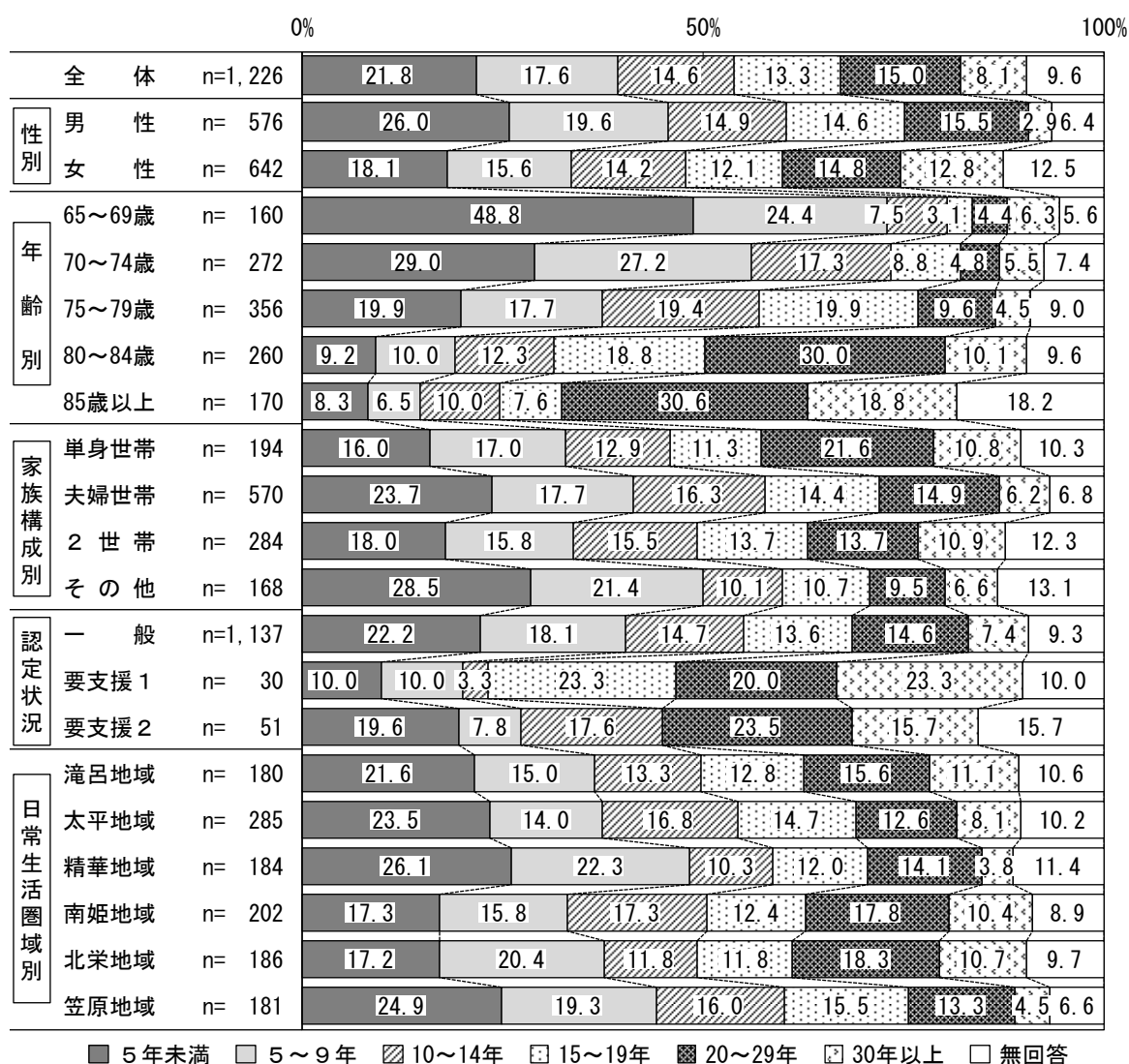
図表2-73 地域活動への参加意向（就労状況別、企画・運営として）



(3) 引退後の経過年数

- 引退した人の、引退後の経過年数は、「5年未満」が21.8%と最も高く、次いで「5～9年」(17.6%)、「20～29年」(15.0%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「5年未満」及び「5～9年」がそれぞれ5ポイント程度高くなっています。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「20～29年」が、それ以外の世帯は「5年未満」が最も高くなっています。
- 日常生活圏域別にみると、南姫地域及び北栄地域はその他の地域にくらべて「5年未満」がやや低いことも特徴としてあげられます。

図表2-74 引退後の経過年数



9 たすけあい

(1) 周りの人との助け合いの状況

- 周りの人とのたすけあいの状況をみると、〈該当する人がいる〉は、①心配事や愚痴を聞いてくれる人、②心配事や愚痴を聞いてあげる人及び③看病や世話をしてくれる人で90%を超えており、多くの人が周りの人と支え合いの関係を築いています。一方で、④看病や世話をしてあげる人は85.9%とやや低くなっています。
- ①～④のいずれの項目も「配偶者」が最も高くなっていますが、①及び②の心配事や愚痴については「友人」が「別居の子ども」をはじめとする親族を上回っており、精神的な支え合いには、友人が重要な役割を担っていることがわかります。
- その他として図表2-76の内容が記載されていました。

図表2-75 周りの人との助け合いの状況

n=2,297

単位：%

区 分	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・孫 兄弟姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	ない そのような人はい	無回答	該当する人がいる
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	58.9	19.2	34.5	25.4	10.2	38.1	1.8	3.5	2.0	94.5
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	55.5	16.1	32.1	27.6	12.8	38.1	1.4	5.1	3.1	91.8
③看病や世話をしてくれる人	63.9	23.4	27.8	10.0	1.2	3.5	1.0	5.1	2.9	92.0
④看病や世話をしてあげる人	66.2	21.8	20.9	18.9	2.8	5.0	1.0	9.8	4.3	85.9

※ 〈該当する人がいる〉＝100%－「そのような人はいない」－「無回答」

図表 2-76 周りの人との助け合いの状況（その他、複数回答）

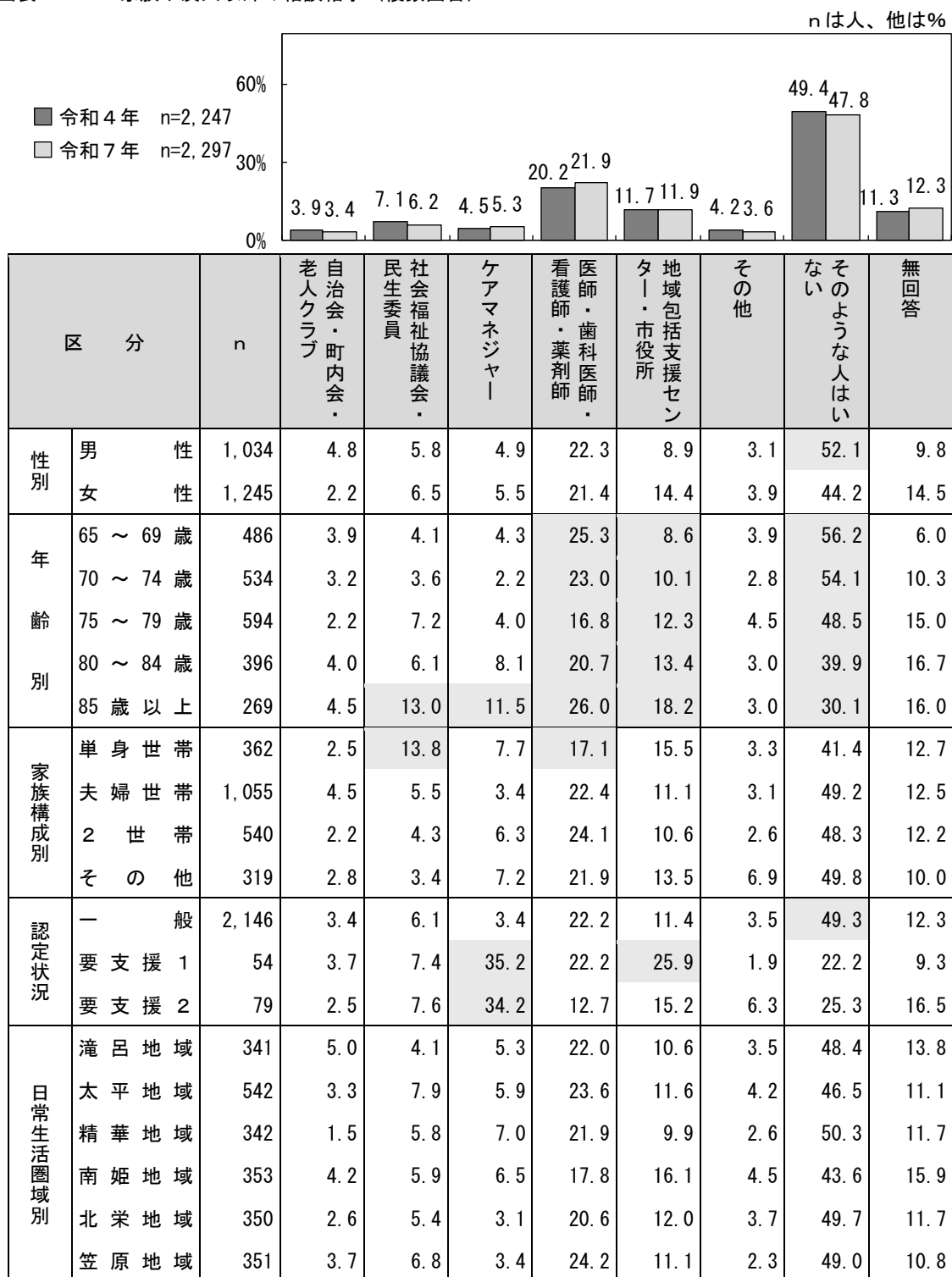
①心配事や愚痴を聞いてくれる人	
・職場の人 14件	・メル友
・同居人 3件	・ケアマネジャー
・趣味の仲間 3件	・グループホームの職員
・ヘルパー 2件	・SNS
・宗教 2件	・愚痴は言わない 3件
・別居の子の配偶者	・心配事、愚痴はない 2件
・他人の亡き夫婦の子ども	
②心配事や愚痴を聞いてあげる人	
・職場の人、仕事関係の人 13件	・メル友
・趣味の仲間 3件	・宗教
・同居人 2件	・他人の亡き夫婦の子ども
・デイサービス施設の利用者	・別居の子の配偶者
③看病や世話をしてくれる人	
・同居人 3件	・子どもたちが遠い地域に住んでいるので、 数日だったらなし
・子どもの配偶者 2件	・2～3日までなら子ども
・グループホームの職員	・わからない 4件
・看護師	・今まで経験なし 2件
・住宅型有料老人ホーム、訪問型ヘルパー	
・入所中施設のヘルパー	
④看病や世話をしてあげる人	
・同居人 3件	・できない 9件
・他人の亡き夫婦の子ども	・他の人を看病したことはありません
・別居の子の家族	

(2) 家族や友人以外の相談相手

- 家族や友人以外の相談相手をたずねたところ、「そのような人はいない」が47.8%を占めていますが、次いで「医師・歯科医師・看護師・薬剤師」（21.9%）、「地域包括支援センター・市役所」（11.9%）の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「そのような人はいない」が7.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「そのような人はいない」が低下し、「地域包括支援センター・市役所」が上昇します。また、年齢が高くなるにしたがい「医師・歯科医師・看護師・薬剤師」は低下し、75～79歳には16.8%となりますが、その後は上昇します。さらに、85歳以上になると「社会福祉協議会・民生委員」及び「ケアマネジャー」が高くなることも特徴としてあげられます。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「社会福祉協議会・民生委員」がやや高く、「医師・歯科医師・看護師・薬剤師」がやや低くなっています。

■認定状況別にみると、一般は「そのような人はいない」が、要支援１・２は「ケアマネジャー」がそれぞれ最も高くなっています。また、要支援１は一般及び要支援２に比べて「地域包括支援センター・市役所」が高い割合です。

図表２－77 家族や友人以外の相談相手（複数回答）



■ その他として図表 2－78の内容が記載されていました。

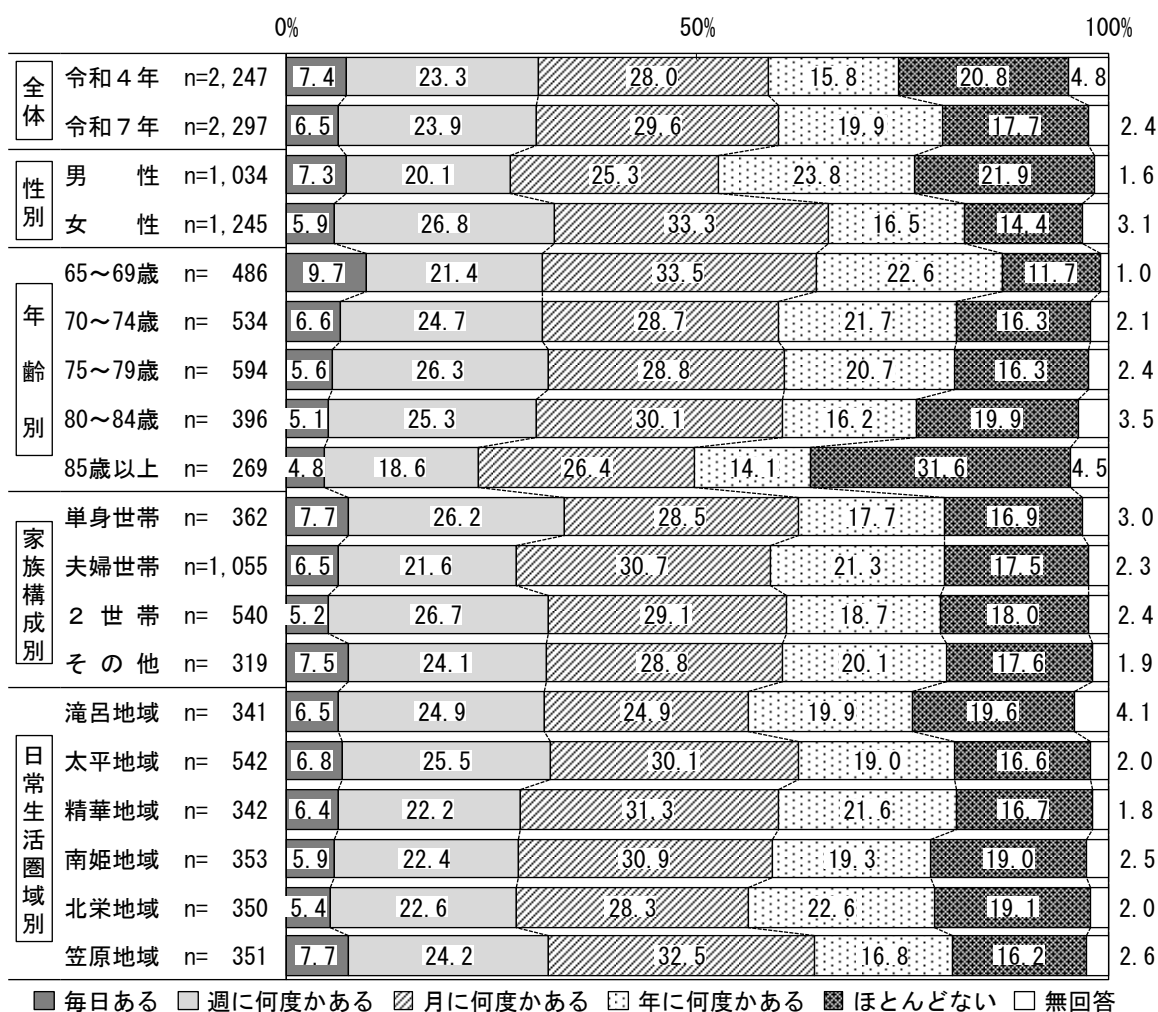
図表 2－78 家族や友人以外の相談相手（その他、複数回答）

- ・ 仕事関係の人 5 件
- ・ 訪問リハビリ 2 件
- ・ 趣味の仲間 2 件
- ・ 無料相談
- ・ 牧師
- ・ 入居施設の人
- ・ 同居人
- ・ 相談員
- ・ 住宅型有料老人ホームのスタッフ
- ・ 後見人
- ・ 警察署
- ・ 団体の仲間
- ・ ボランティア仲間
- ・ その道のエキスパート
- ・ セキュリティ関係
- ・ 市役所はあまり相談にならない。相談に乗ってほしい
- ・ 相談事がない 8 件
- ・ わからない、考えたことがない 3 件
- ・ 内容による 2 件

(3) 友人・知人と会う頻度

- 友人・知人と会う頻度をたずねたところ、「月に何度かある」が29.6%と最も高く、次いで「週に何度かある」(23.9%)、「年に何度かある」(19.9%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「ほとんどない」及び「年に何度かある」が高く、「週に何度かある」及び「月に何度かある」が低く、それぞれ5ポイント以上の差があります。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「ほとんどない」が上昇し、85歳以上になると30%台となります。

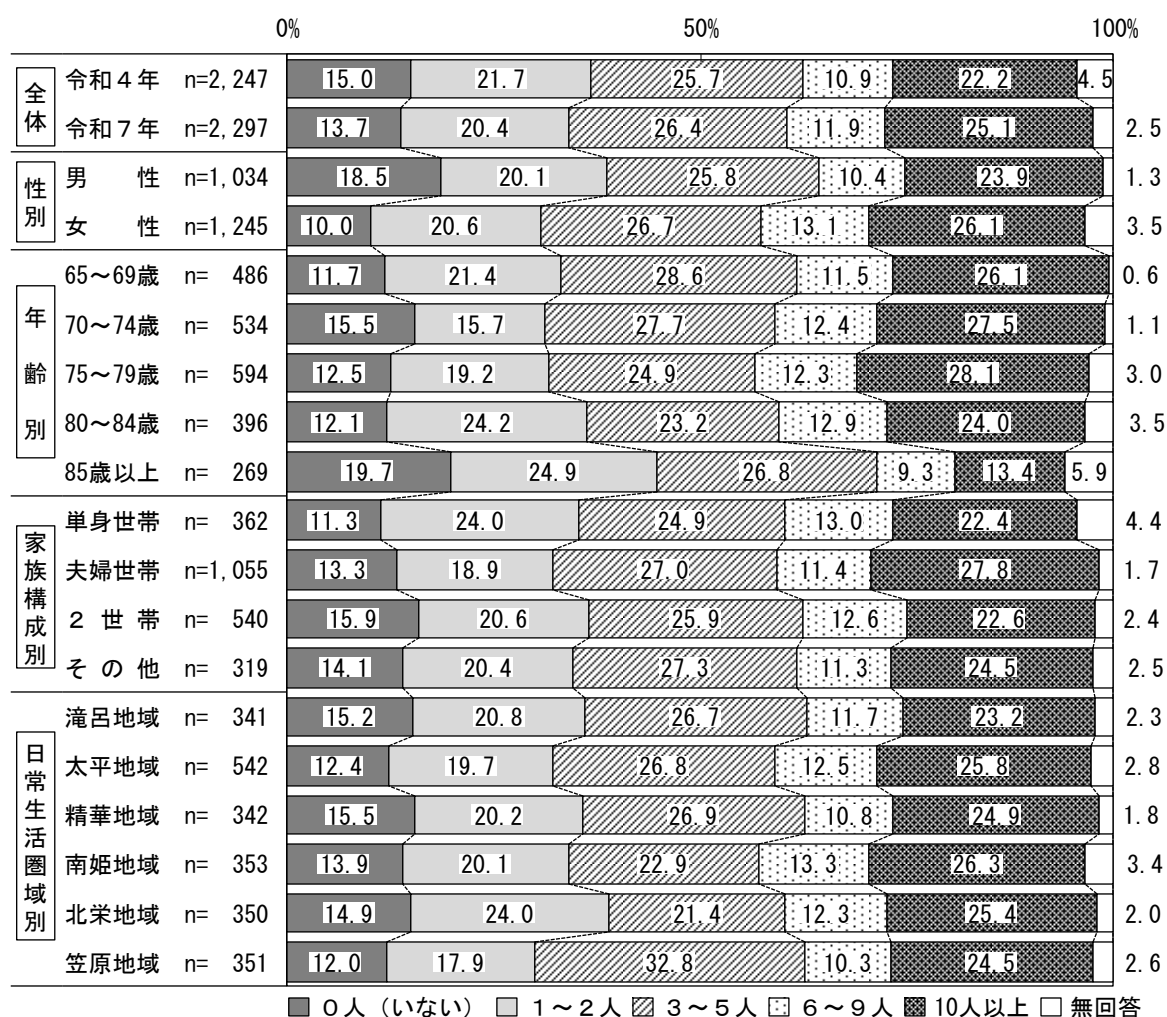
図表2-79 友人・知人と会う頻度



(4) 1か月間に会った友人・知人の人数

- 1か月間に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「3～5人」が26.4%と最も高く、次いで「10人以上」（25.1%）、「1～2人」（20.4%）、「0人（いない）」（13.7%）、「6～9人」（11.9%）の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「0人（いない）」が8.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、85歳以上はその他の年齢層に比べて「0人（いない）」が高くなっています。

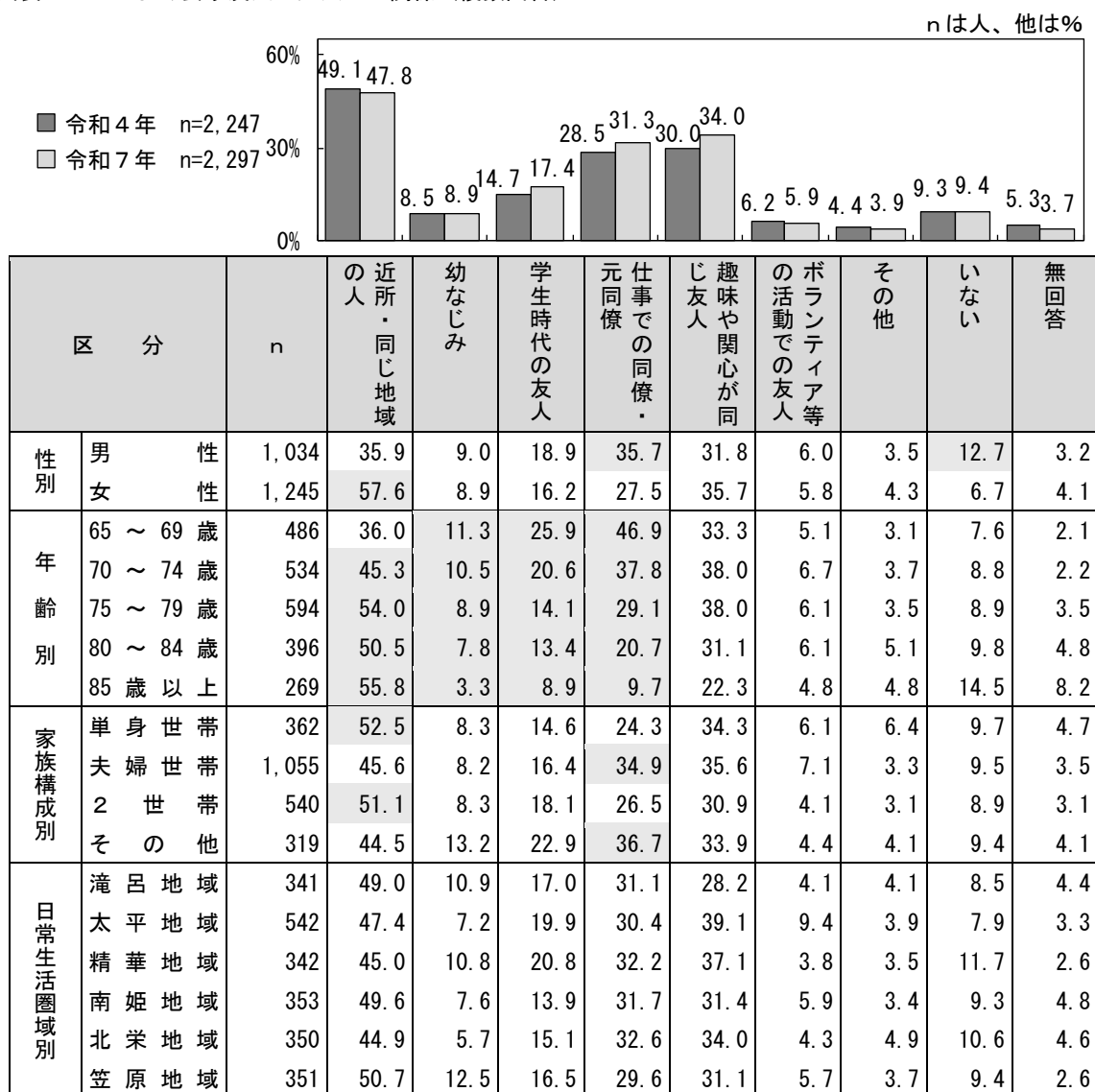
図表2-80 1か月間に会った友人・知人の人数



(5) よく会う友人・知人との関係

- よく会う友人・知人との関係をたずねたところ、「近所・同じ地域の人」が47.8%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」（34.0%）、「仕事での同僚・元同僚」（31.3%）の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「仕事での同僚・元同僚」が8.2ポイント高く、「近所・同じ地域の人」が21.7ポイント低くなっています。また、男性は「いない」が12.7%のやや高い割合です。
- 年齢別にみると、65～69歳は「仕事での同僚・元同僚」が、70歳以上は「近所・同じ地域の人」がそれぞれ最も高くなっています。また、年齢が高くなるにしたがい「幼なじみ」、「学生時代の友人」、「仕事での同僚・元同僚」は低下します。
- 家族構成別にみると、単身世帯及び2世帯は夫婦世帯及びその他の世帯に比べて「近所・同じ地域の人」が高く「仕事での同僚・元同僚」が低くなっています。

図表2-81 よく会う友人・知人との関係（複数回答）



■ その他として図表 2－82の内容が記載されていました。

図表 2－82 よく会う友人・知人との関係（その他、複数回答）

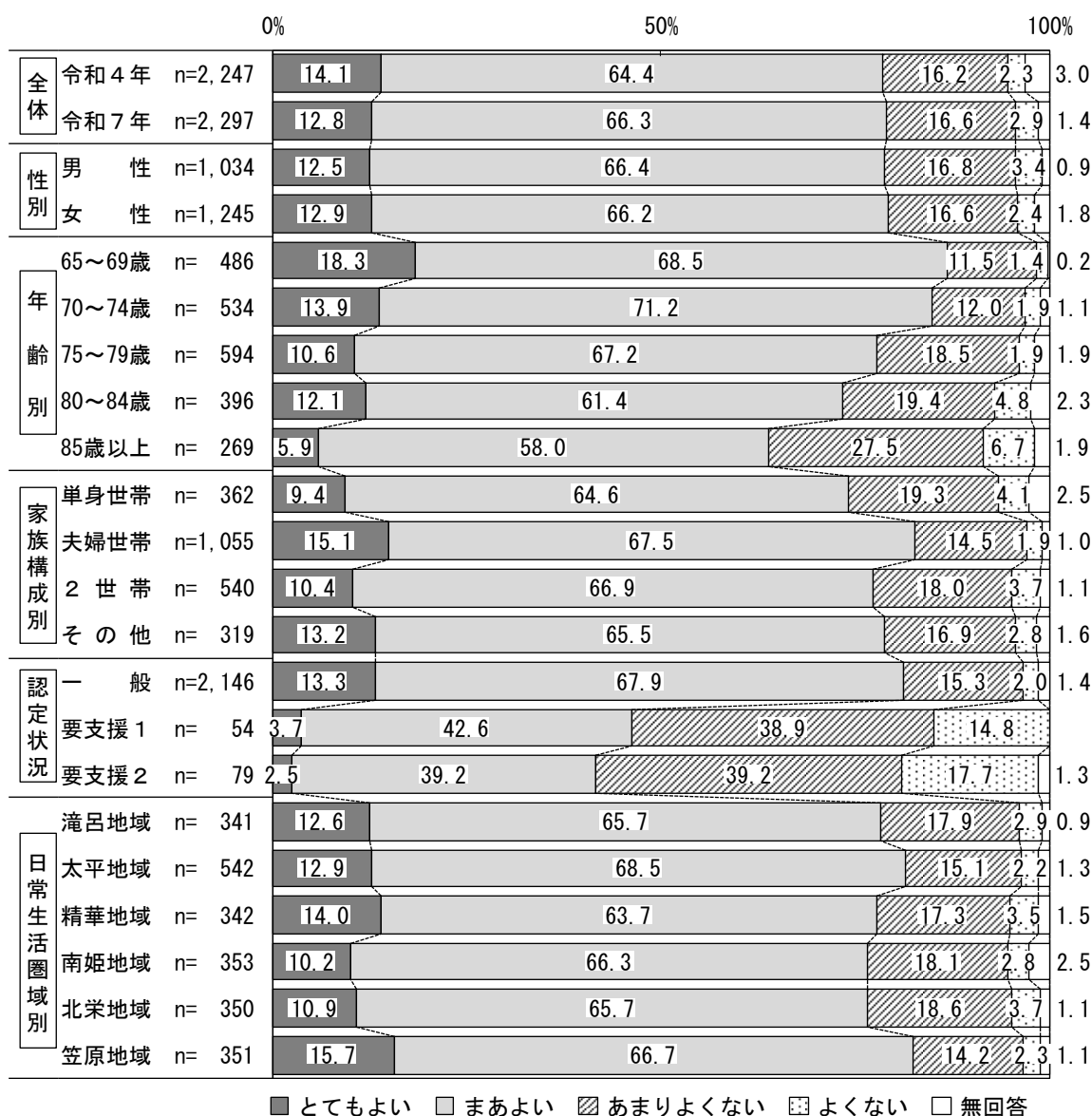
- | | |
|-------------------------|------------------|
| ・ 親戚 10 件 | ・ お店の人 |
| ・ 子ども関係の知人 8 件 | ・ ケアセンター |
| ・ 運動や健康づくり活動で交流のある人 5 件 | ・ パートナー |
| ・ 介護サービスの人 5 件 | ・ 一緒にアメリカ研修に行った人 |
| ・ 仕事関係の人 4 件 | ・ 施設利用者 |
| ・ リハビリ 3 件 | ・ 主人の同年の奥様 |
| ・ 病院 3 件 | ・ 宗教関係 |
| ・ お茶のみ友だち 3 件 | ・ 所属団体の仲間 |
| ・ 気の合う友人 2 件 | ・ 他人の亡き夫婦の子ども |
| ・ 教会関係 2 件 | ・ 土地を貸している人 |
| ・ 飲食店 2 件 | ・ 同年会 |
| ・ 以前住んで居た地域の人 2 件 | |

10 健康

(1) 健康状態

- 現在の健康状態をたずねたところ、「まあよい」が66.3%を占めています。一方で、「あまりよくない」(16.6%)と「よくない」(2.9%)を合計した〈健康状態はよくない〉が19.5%です。
- 〈健康状態はよくない〉の割合は、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、65～74歳は10%台、75～84歳は20%台、85歳以上は34.2%となっています。また、家族構成別にみると、夫婦世帯はそれ以外の世帯に比べてやや低くなっています。さらに、認定状況別にみると、要支援1・2は過半数を占めています。

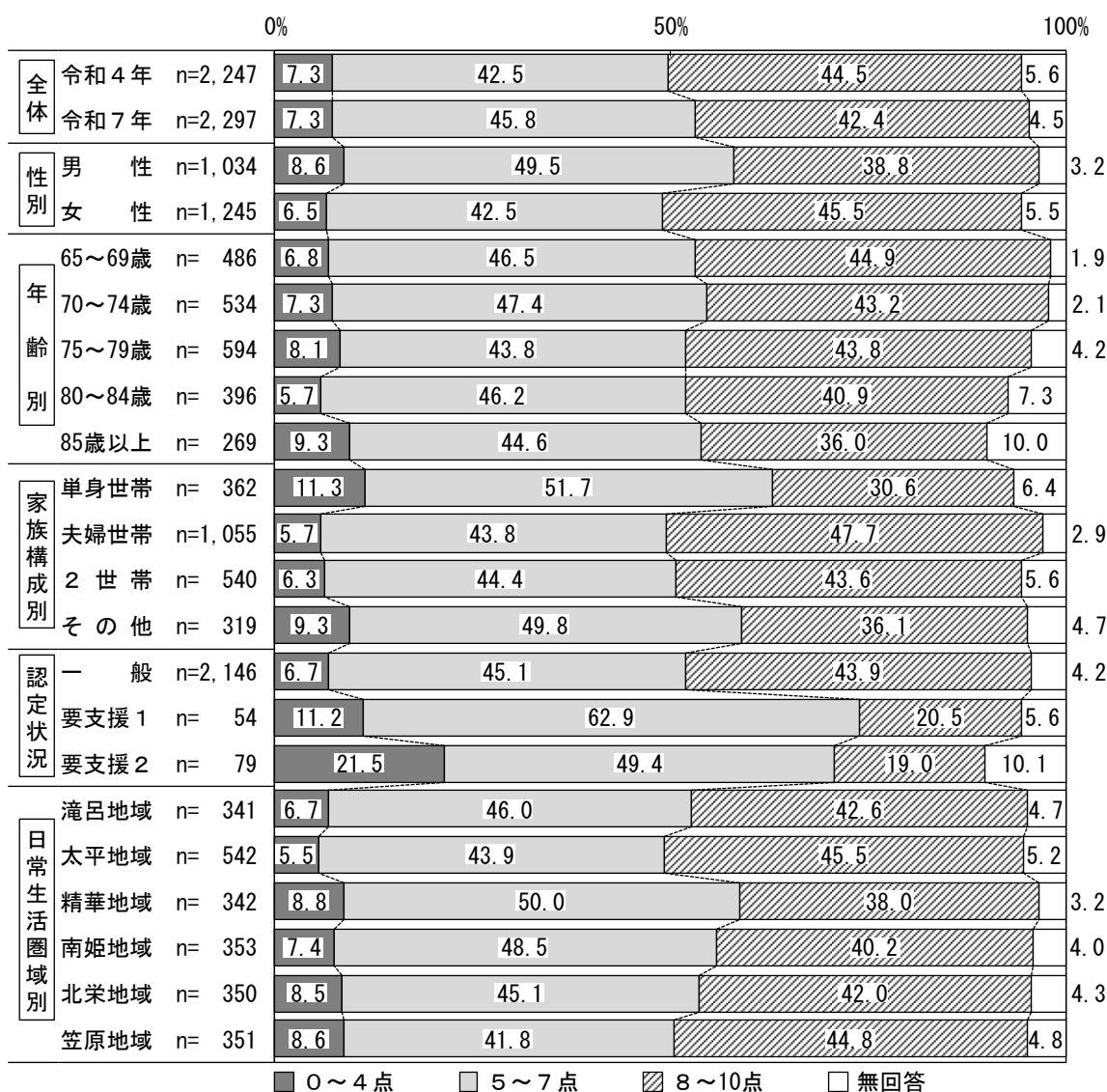
図表2-83 健康状態



(2) 幸福度

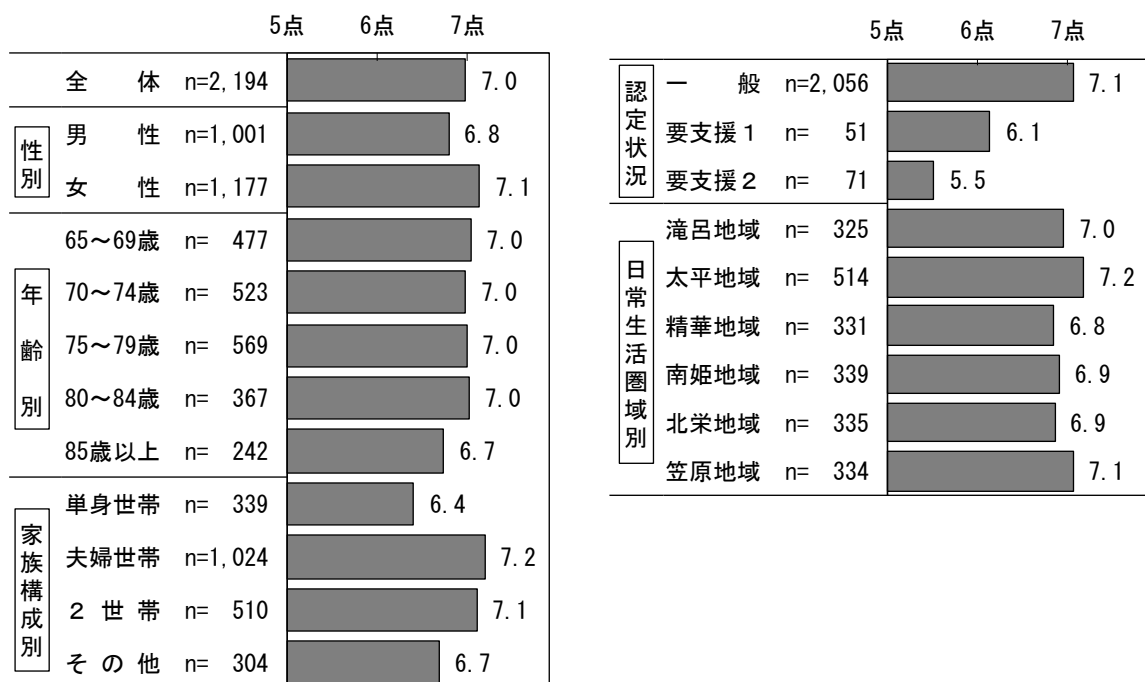
- 現在の幸福度について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思うかたずねたところ、「5～7点」が45.8%、「8～10点」が42.4%、「0～4点」が7.3%となっています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて「8～10点」が6.7ポイント高く、「5～7点」が7.0ポイント低くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「8～10点」が低下する傾向にあります。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「8～10点」が低い割合です。
- 認定状況別にみると、一般は「0～4点」が6.7%であるのに対して、要支援1は11.2%、要支援2は21.5%となっており、健康状態は幸福度に大きな影響を与えます。

図表 2-84 幸福度



- 幸福度の平均点をみると、全体では7.0点となっています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて0.3点高くなっています。
- 年齢別にみると、85歳になると幸福度の平均点が下がります。
- 家族構成別にみると、単身世帯及びその他の世帯は夫婦世帯及び2世帯に比べて幸福度の平均点が低くなっています。
- 認定状況別にみると、一般が7.1点、要支援1が6.1点、要支援2が5.5点となっており、要介護度が上がると幸福度の平均点は低下します。

図表 2-85 幸福度の平均点



(3) 過去1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったか

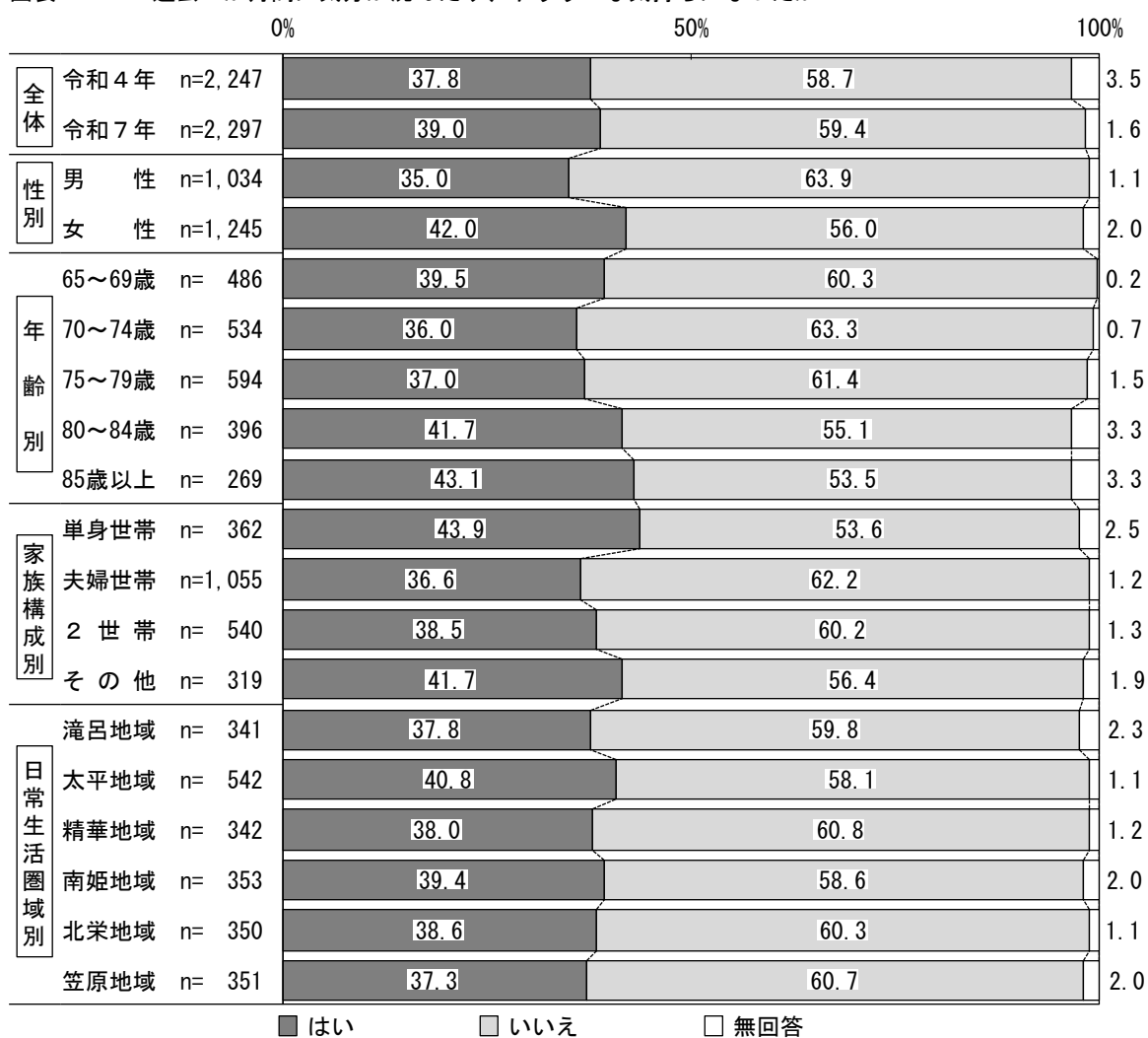
■過去1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった（「はい」）と回答したのは、39.0%です。

■性別にみると、女性は男性に比べて「はい」が7.0ポイント高くなっています。

■年齢別にみると、70歳以降、年齢が高くなるにしたがい「はい」が上昇しています。

■家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「はい」が高い割合です。

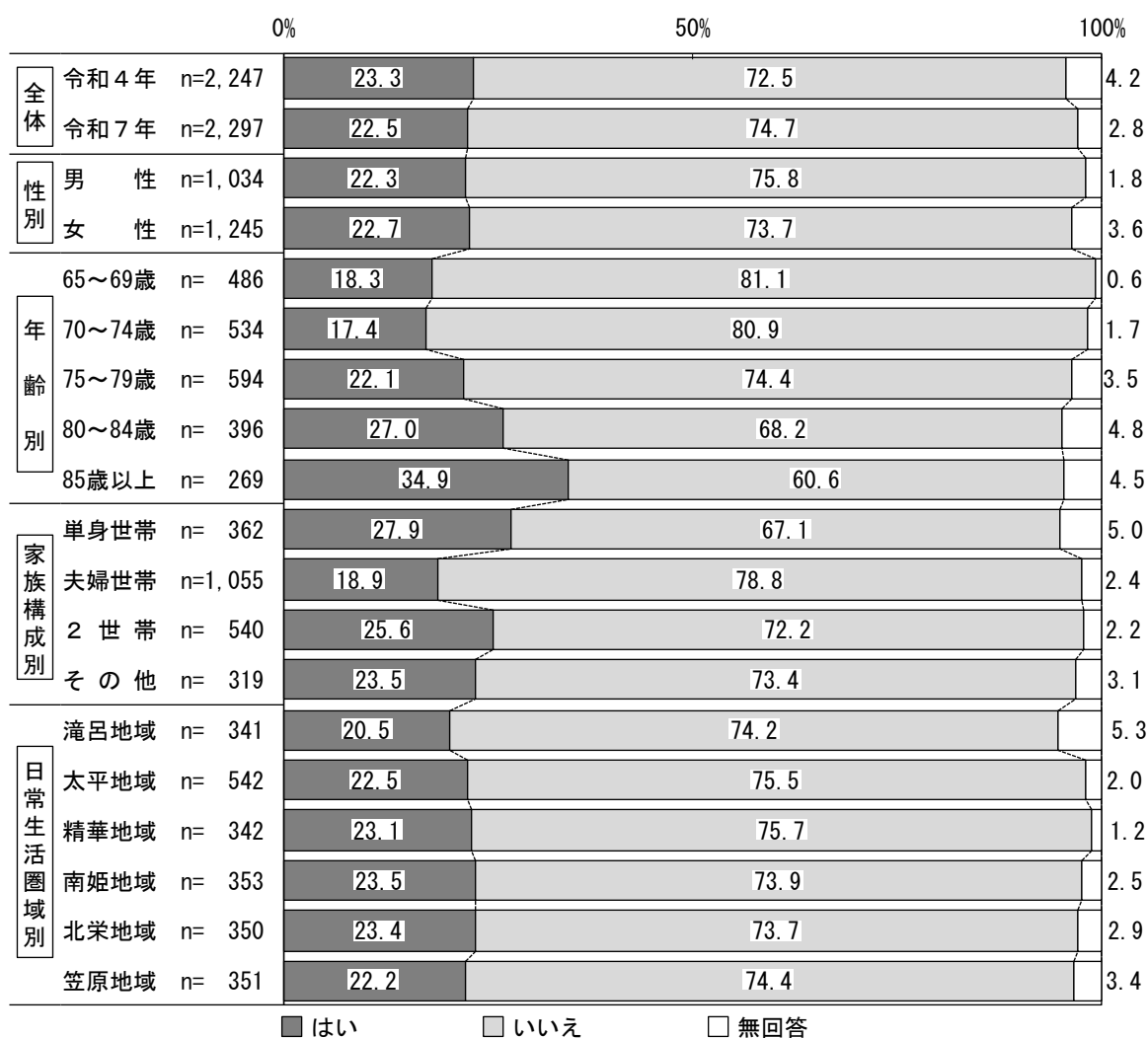
図表2-86 過去1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったか



(4) 過去1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめないことがよくあったか

- 過去1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめないことがよくあった（「はい」）と回答したのは、22.5%です。
- 年齢別にみると、70歳以降、年齢が高くなるにしたがい「はい」が上昇し、85歳以上になると30%を超えます。
- 家族構成別にみると、夫婦世帯はそれ以外の世帯に比べて「はい」が低い割合です。

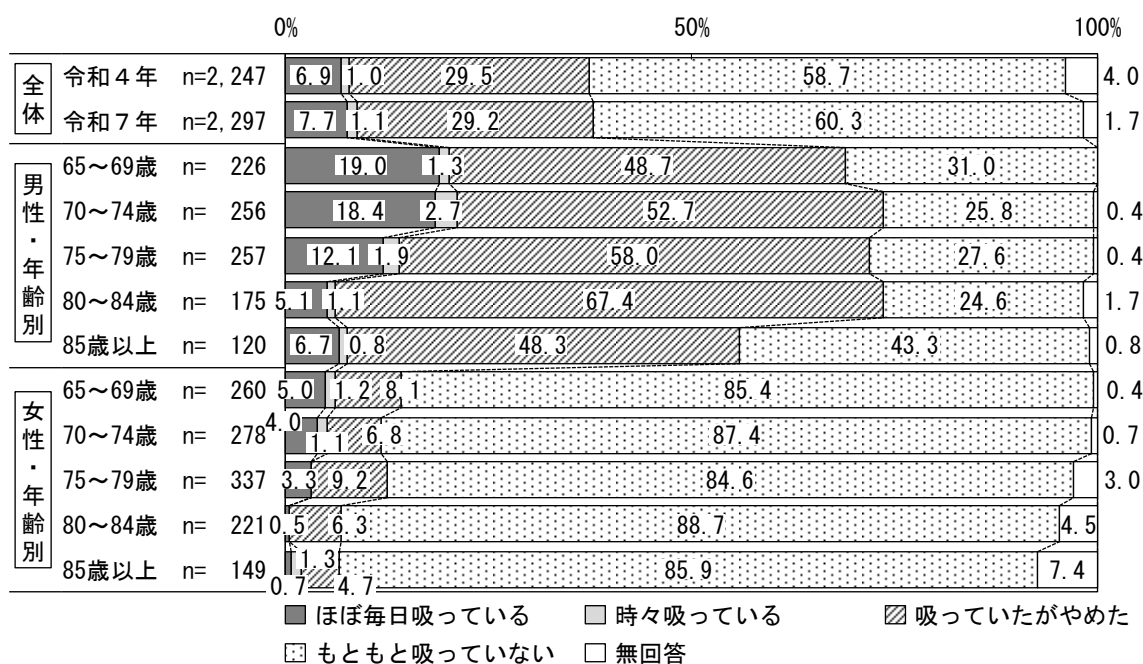
図表2-87 過去1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめないことがよくあったか



(5) 喫 煙

- 喫煙状況をたずねたところ、「もともと吸っていない」が60.3%を占め、次いで「吸っていたがやめた」(29.2%)、「ほぼ毎日吸っている」(7.7%)、「時々吸っている」(1.1%)となっています。「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合計した〈喫煙率〉は8.8%です。
- 〈喫煙率〉を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい低下する傾向にあります。また、いずれの年齢層においても男性が女性を上回っています。

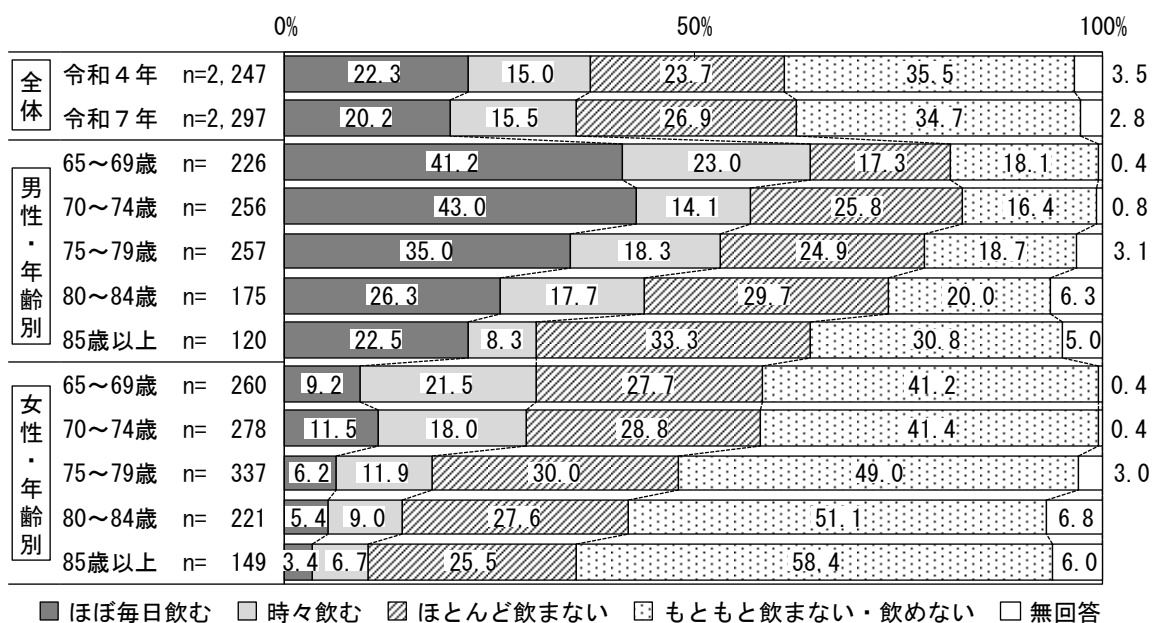
図表 2-88 喫 煙



(6) 飲 酒

- 飲酒状況をたずねたところ、「もともと飲まない・飲めない」が34.7%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」（26.9%）、「ほぼ毎日飲む」（20.2%）、「時々飲む」（15.5%）の順となっています。「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合計した〈飲酒習慣がある〉は35.7%です。
- 〈飲酒習慣がある〉を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい低下します。また、いずれの年齢層においても男性が女性を上回っており、特に男性の65～69歳は41.2%の高い割合です。

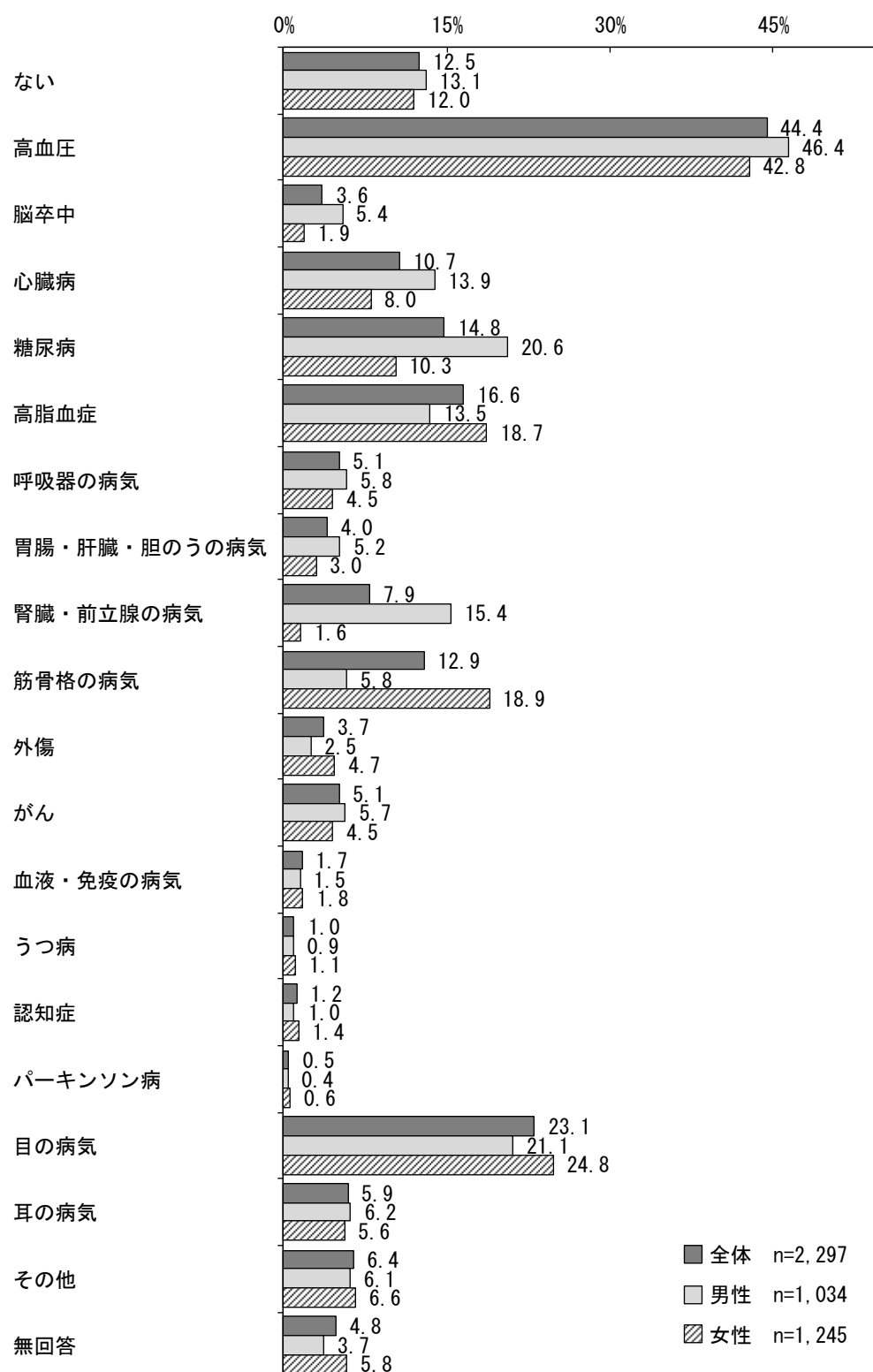
図表 2－89 飲 酒



(7) 現在、治療中または後遺症のある病気

- 現在、治療中または後遺症のある病気は「高血圧」が44.4%と突出して高くなっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「糖尿病」及び「腎臓・前立腺の病気」が高く、「筋骨格の病気」が低くなっており、それぞれ10ポイント以上の差があります。

図表 2-90 現在、治療中または後遺症のある病気（複数回答）



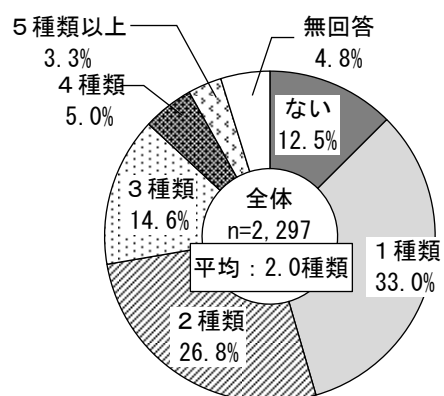
■ その他として図表 2－91の内容が記載されていました。

図表 2－91 現在、治療中または後遺症のある病気（その他、複数回答）

・ 歯、歯周病 11件	・ 間質性肺炎
・ リウマチ 10件	・ 虚血性腸炎
・ バセドウ病 6件	・ 脊椎症
・ 腰痛 6件	・ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫
・ 帯状疱疹 5件	・ 三叉神経痛
・ 痛風 5件	・ 子宮筋腫
・ てんかん 3件	・ 耳下腺腫瘍
・ めまい 3件	・ 神経性脊髄炎
・ 甲状腺 3件	・ 腎臓結石
・ 高尿酸 3件	・ 水虫
・ 睡眠時無呼吸症候群 3件	・ 成人スティル病
・ 脊柱管狭窄症 3件	・ 生活習慣病
・ 潰瘍性大腸炎 3件	・ 足指ウオノメ、タコ
・ 皮膚炎 3件	・ 帯状疱疹後の神経痛
・ 睡眠障害、不眠 3件	・ 天疱瘡
・ 皮膚 3件	・ 統合失調症
・ コレステロール 2件	・ 腎不全
・ シェーグレン症候群 2件	・ 動脈瘤
・ ヘルニア 2件	・ 非骨傷性頸髄損傷
・ 逆流性食道炎 2件	・ 痛風
・ 橋本病 2件	・ 鼻の病気
・ 前立腺肥大症 2件	・ 頻尿
・ 脳動脈瘤 2件	・ 不整脈
・ 手指の状態が悪い 2件	・ 副鼻腔炎
・ アレルギー 2件	・ 腹部動脈瘤
・ 浮腫 2件	・ 放射線性膀胱炎
・ アトピー性皮膚炎	・ 本態性振戦
・ すべり症	・ 慢性膵炎
・ 椎間板ヘルニア	・ 良性新生物
・ パニック障害	・ 膠原病
・ メニエール病	・ 頸椎症
・ 胃潰瘍	・ 膀胱ポリープ除去後の定期チェック
・ 花粉症	・ コロナワクチンの後遺症で動悸がある。神経病
・ 乾癬	

- 治療中または後遺症のある病気の数、**「1種類」**が33.0%と最も高く、次いで**「2種類」**が26.8%、**「3種類」**が14.6%となっており、**「5種類以上」**が3.3%あります。**「ない」**は12.5%です。
- 1人当たりの病気の平均は**2.0種類**です。

図表 2-92 現在、治療中または後遺症のある病気の数

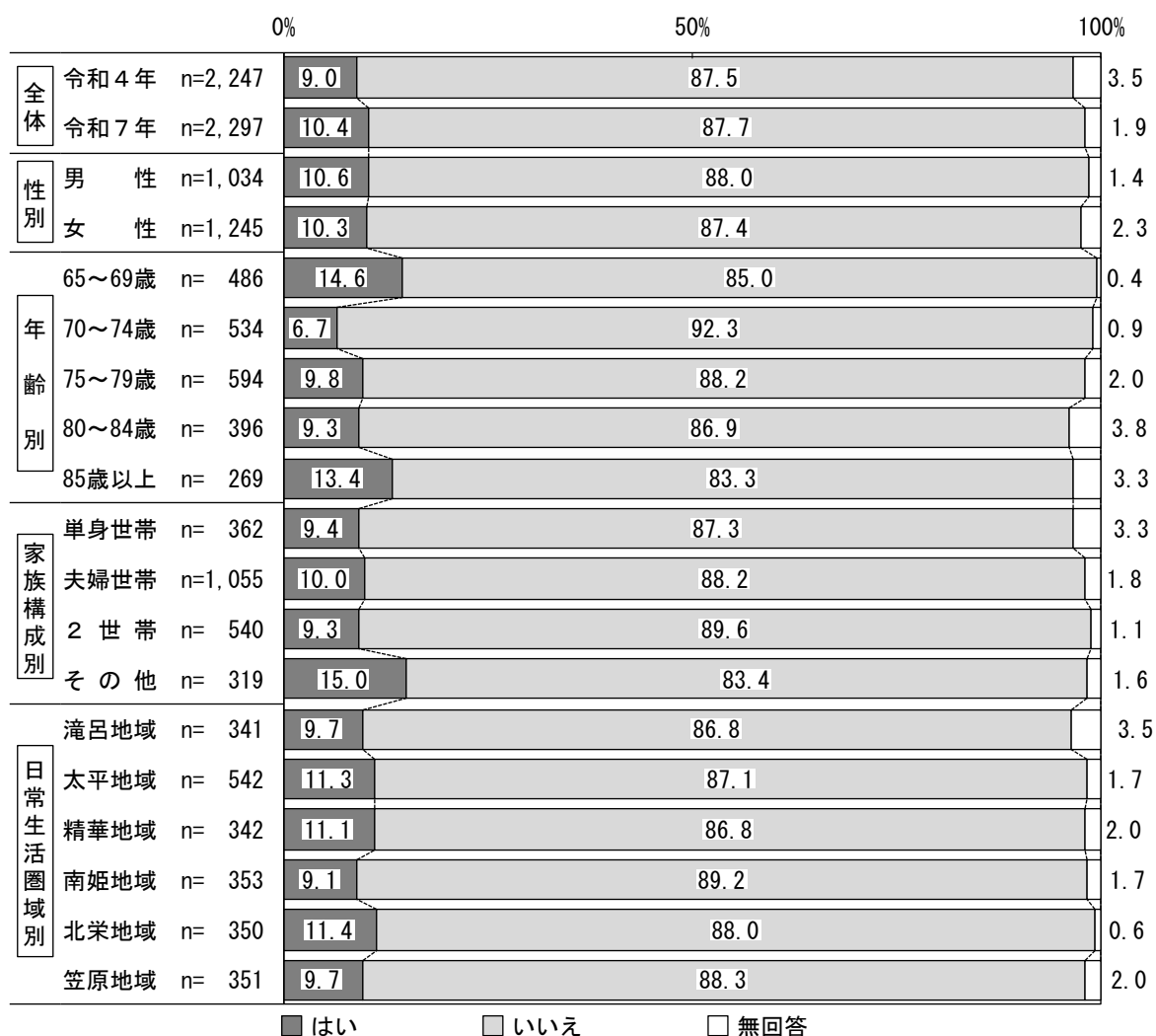


1 1 認知症施策

(1) 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか

- 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいる（「はい」）と回答したのは、10.4%です。
- 年齢別にみると、「はい」は65～69歳及び85歳以上でやや高くなっています。
- 家族構成別にみると、その他の世帯はそれ以外の世帯に比べて「はい」が高い割合です。

図表 2-93 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるか

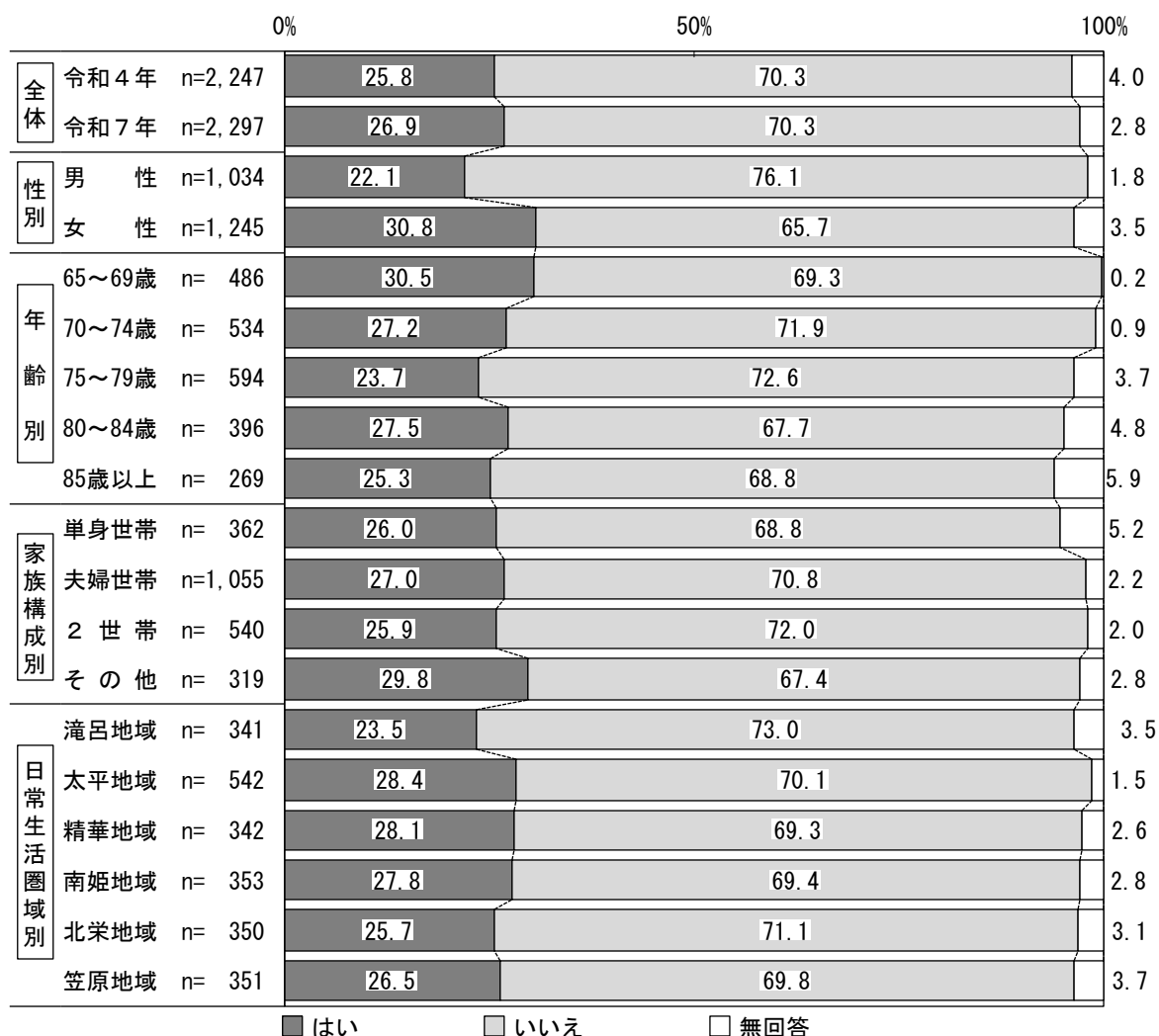


(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

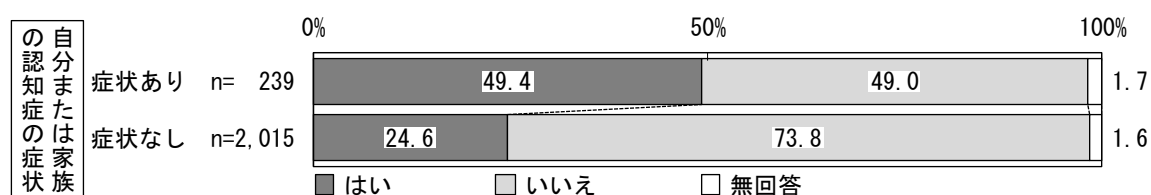
■ 認知症に関する相談窓口の認知度（「はい」）は26.9%です。

■ 認知度は、性別にみると、女性は男性に比べて、8.7ポイント高くなっています。また、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べてやや低くなっていることも特徴としてあげられます（図表2-94）。自分または家族の認知症の症状の有無別にみると、症状ありは症状なしに比べて認知度は高いものの、49.0%が窓口を知りません（図表2-95）。

図表2-94 認知症に関する相談窓口の認知度



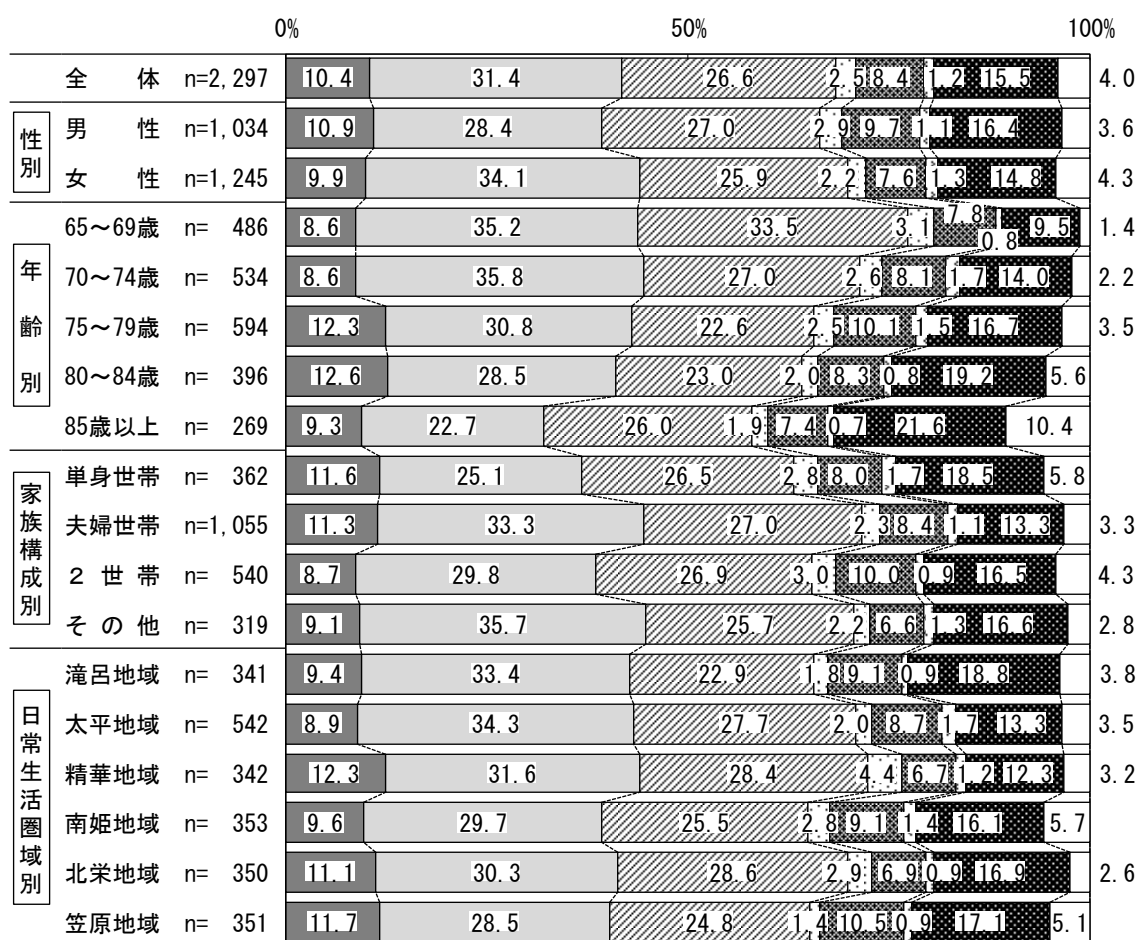
図表2-95 認知症に関する相談窓口の認知度（自分または家族の認知症の症状の有無別）



(3) 認知症に対するイメージ

- 認知症に対してどのようなイメージを持っているかたずねたところ、「認知症になっても、サポートを利用しながら地域で生活していける」が31.4%と最も高く、次いで「認知症になると、介護施設に入所することが必要になる」(26.6%)の順となっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「認知症になっても、サポートを利用しながら地域で生活していける」が低下する傾向にあります。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「認知症になっても、サポートを利用しながら地域で生活していける」が低くなっています。

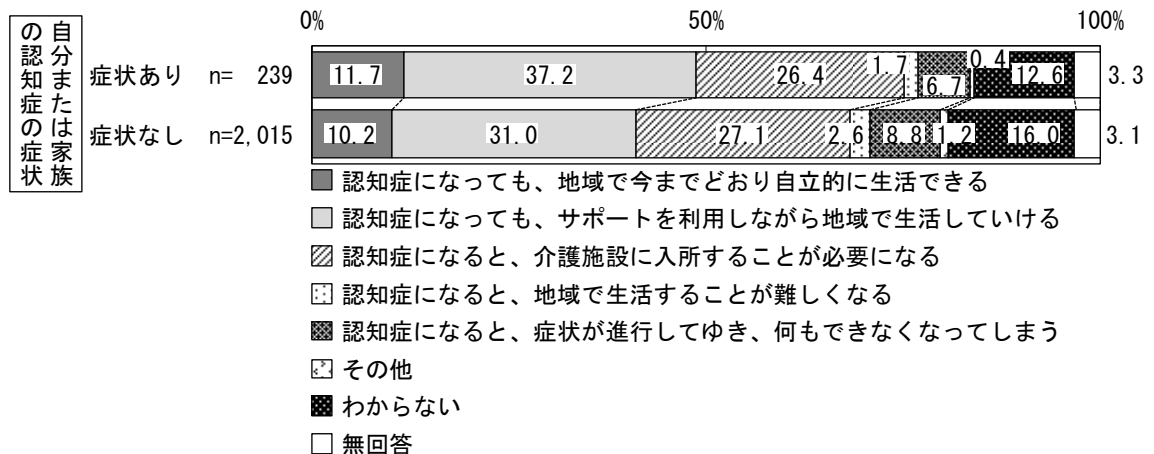
図表 2-96 認知症に対するイメージ



- 認知症になっても、地域で今までどおり自立的に生活できる
- 認知症になっても、サポートを利用しながら地域で生活していける
- ▨ 認知症になると、介護施設に入所することが必要になる
- ▤ 認知症になると、地域で生活することが難しくなる
- ▩ 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
- その他
- わからない
- 無回答

■ 自分または家族の認知症の症状の有無別にみると、症状ありは症状なしに比べて「認知症になっても、サポートを利用しながら地域で生活していける」が6.2ポイント高くなっています。

図表 2-97 認知症に対するイメージ（自分または家族の認知症の症状の有無別）



■ その他として図表 2-98の内容が記載されていました。

図表 2-98 認知症に対するイメージ（その他）

- ・ 認知症の程度による 6件
- ・ ならないように努力している 2件
- ・ 子どもに迷惑をかける
- ・ 怖い病気。本人も周りの人もショックではじめは受け入れにくい。一人での生活は困難になる。身近な人のサポートは欠かせない
- ・ 認知症は人によって違いがあり、全ての可能性がある
- ・ 認知症の進み具合で全て当てはまる。また、そのような人との関りも体験している
- ・ 認知症になっても、医療や介護のサポートを利用しながら、地域で生活していけるとは思うが、忘れやすくなり、性格が変わると思う
- ・ 医療・介護などのサポートを利用しながら今まで暮らしてきた地域で生活していける程度であってほしい
- ・ 認知症になった母を10年以上世話してきて、昨年6月に亡くなりました。心臓の手術をして退院後、私たちの家に引き取りましたが、理解できず苦しんでいました。住居は変わらない方がいい。母の弟妹がよく面倒を見てくれたと言ってくれますが、何事ももっと優しくすればよかったと思います
- ・ 認知症になったときの家族との関係は考えているが、地域で生活できるか考えたことがない
- ・ 主人の祖母、主人の両親、自分の両親の老いを見てきたので自分はどんなふうになっていくのかと思うが、なったらなつたときの対応と思っている。今はやりたいことをやって、嫌なことはしない主義でやっている
- ・ 自分の周り、親族、姻戚に認知症は不思議と一人とない。それぞれ長生きしたが、認知症はなし。夫も最後までしっかりしていた
- ・ 私の祖父母も両親も認知症にはならなかったので実際に自分になったときにどんな状態になるのかよくわからないけれど、子どもたちに迷惑をかけたくないと思う。施設に入るに

はたくさんの貯金がないと入れないと聞くので、子どもたちにお金の負担だけはかけたくない。何がよいのかわからないけれど、毎日家族の食事をつくったり洗濯をしたり仕事を手伝ったりして少しでも考えて暮らすようにしています

- ・施設に入所する余裕がない
- ・わからない、不明 5件

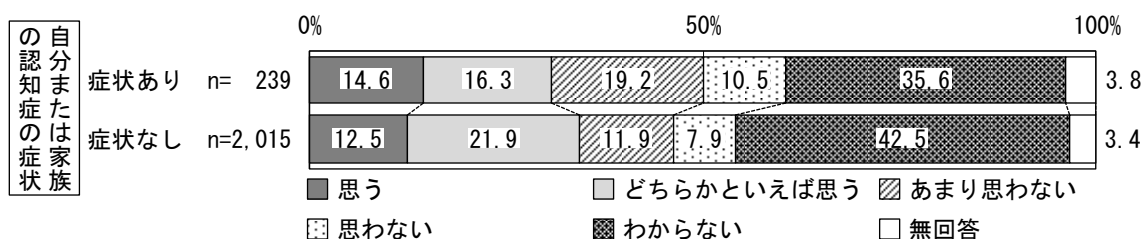
(4) 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか

- 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちだと思いかたずねたところ、「わからない」が41.5%と最も高くなっており、次いで「どちらかといえば思う」(21.2%)、「思う」(13.0%)の順となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した〈思う〉が34.2%、「あまり思わない」(12.5%)と「思わない」(8.1%)を合計した〈思わない〉が20.6%となっています。
- 〈思う〉は、年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると40%を上回ります。家族構成別にみると、単身世帯は38.1%と高く、その他の世帯は29.4%と低くなっています。また、日常生活圏域別にみると、北栄地域はその他の地域に比べて低くなっています(図表2-99)。
- 自分または家族の認知症の症状の有無別にみると、症状ありは症状なしに比べて〈思わない〉が10ポイント程度高くなっています(図表2-100)。

図表 2-99 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか



図表 2-100 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか（自分または家族の認知症の症状の有無別）

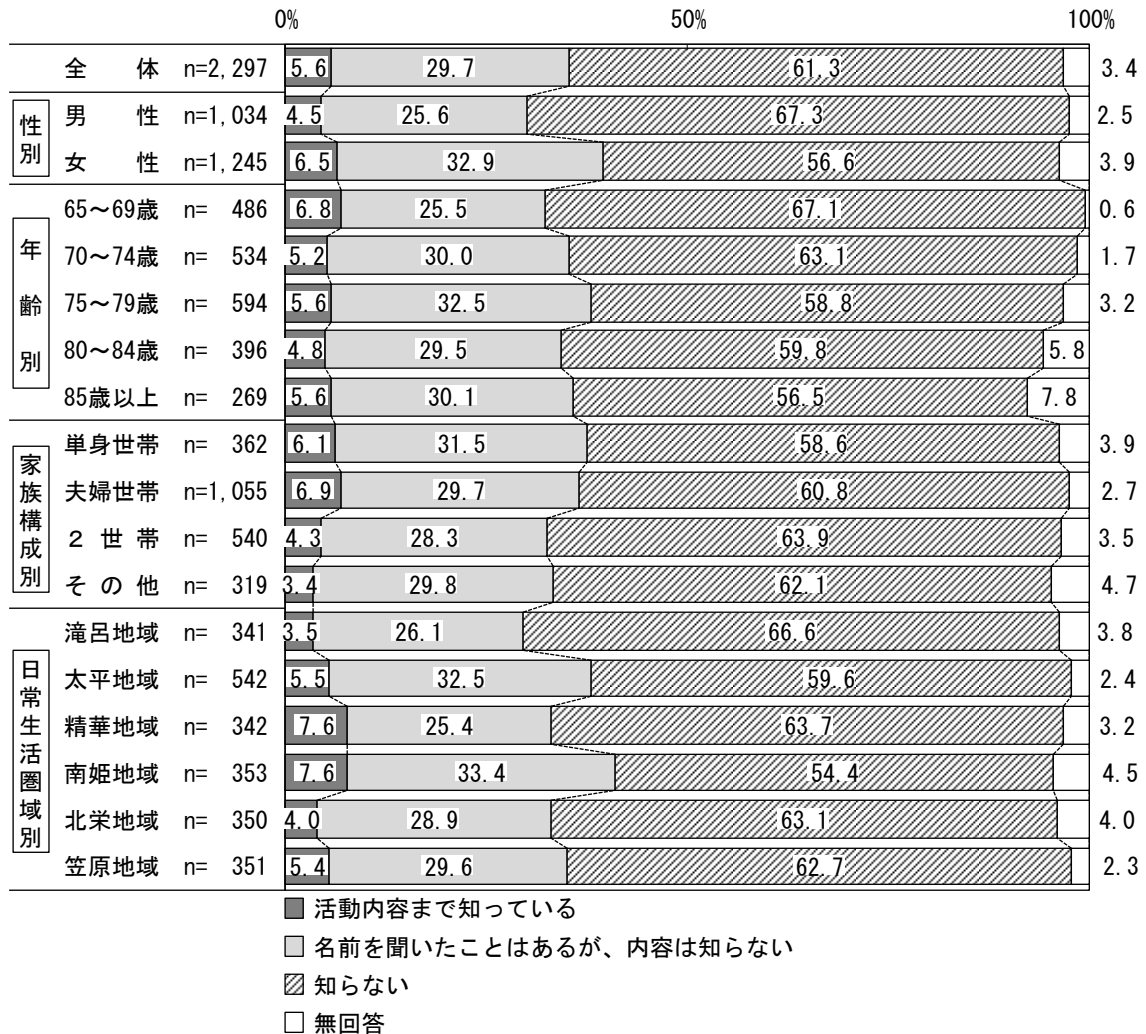


(5) 認知症サポーターの認知度

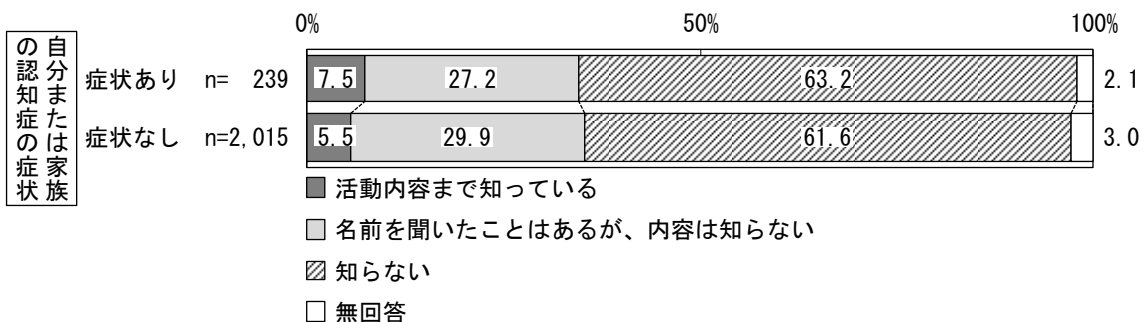
- 認知症サポーターの認知度をたずねたところ、「知らない」が61.3%を占め、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」（29.7%）、「活動内容まで知っている」（5.6%）の順となっています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が高く、「知らない」が低くなっています。

- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「知らない」が低下する傾向にあります。
- 日常生活圏域別にみると、南姫地域はその他の地域に比べて「知らない」が54.4%の低い割合となっています（図表2－101）。
- 自分または家族の認知症の症状の有無別にみると、大きな差はみられません（図表2－102）。

図表2－101 認知症サポーターの認知度



図表2－102 認知症サポーターの認知度（自分または家族の認知症の症状の有無別）

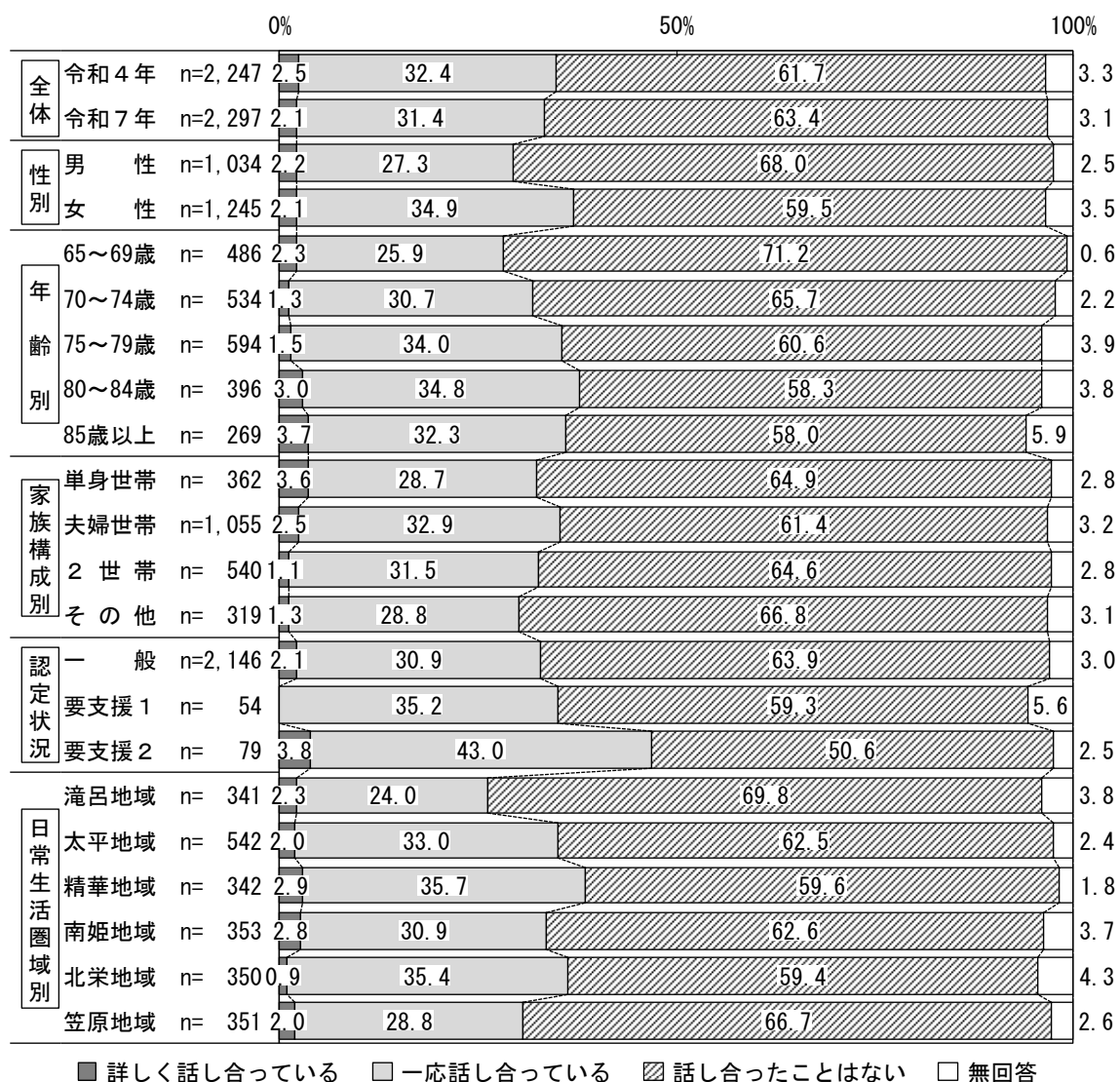


1 2 人生の最終段階

(1) 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか

- 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているかたずねたところ、「話し合ったことはない」が63.4%と最も高く、次いで「一応話し合っている」(31.4%)、「詳しく話し合っている」(2.1%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「話し合ったことはない」が8.5ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「話し合ったことはない」が低下しますが、いずれの年齢層においても「詳しく話し合っている」は5%未満の低い割合です。
- 認定状況別にみると、要支援2は一般及び要支援1に比べて「話し合ったことはない」が低くなっています。
- 日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて「話し合ったことはない」が高くなっています。

図表2-103 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか



(2) 人生の最終段階を過ごしたい場所

① 末期がんで、意識等は健康な場合

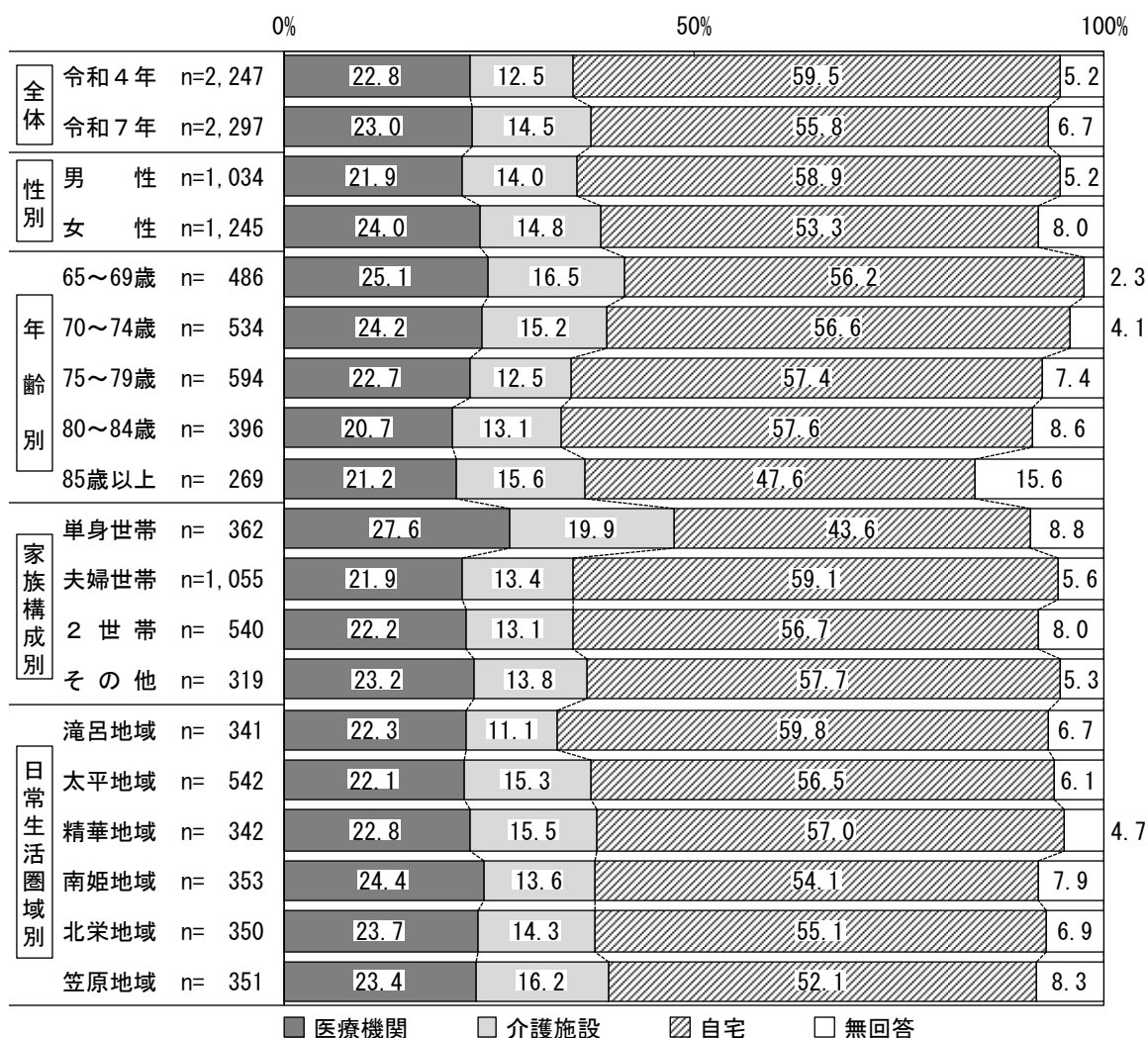
■末期がんで、意識等は健康な場合、人生の最終段階を過ごしたい場所は、「自宅」が55.8%と最も高く、次いで「医療機関」(23.0%)、「介護施設」(14.5%)の順となっています。

■性別にみると、男性は女性に比べて「自宅」が5.6ポイント高くなっています。

■年齢別にみると、85歳以上はその他の年齢層に比べて「自宅」が低い割合です。

■家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「自宅」が低くなっています。

図表2-104 人生の最終段階を過ごしたい場所（末期がんで、意識等は健康な場合）



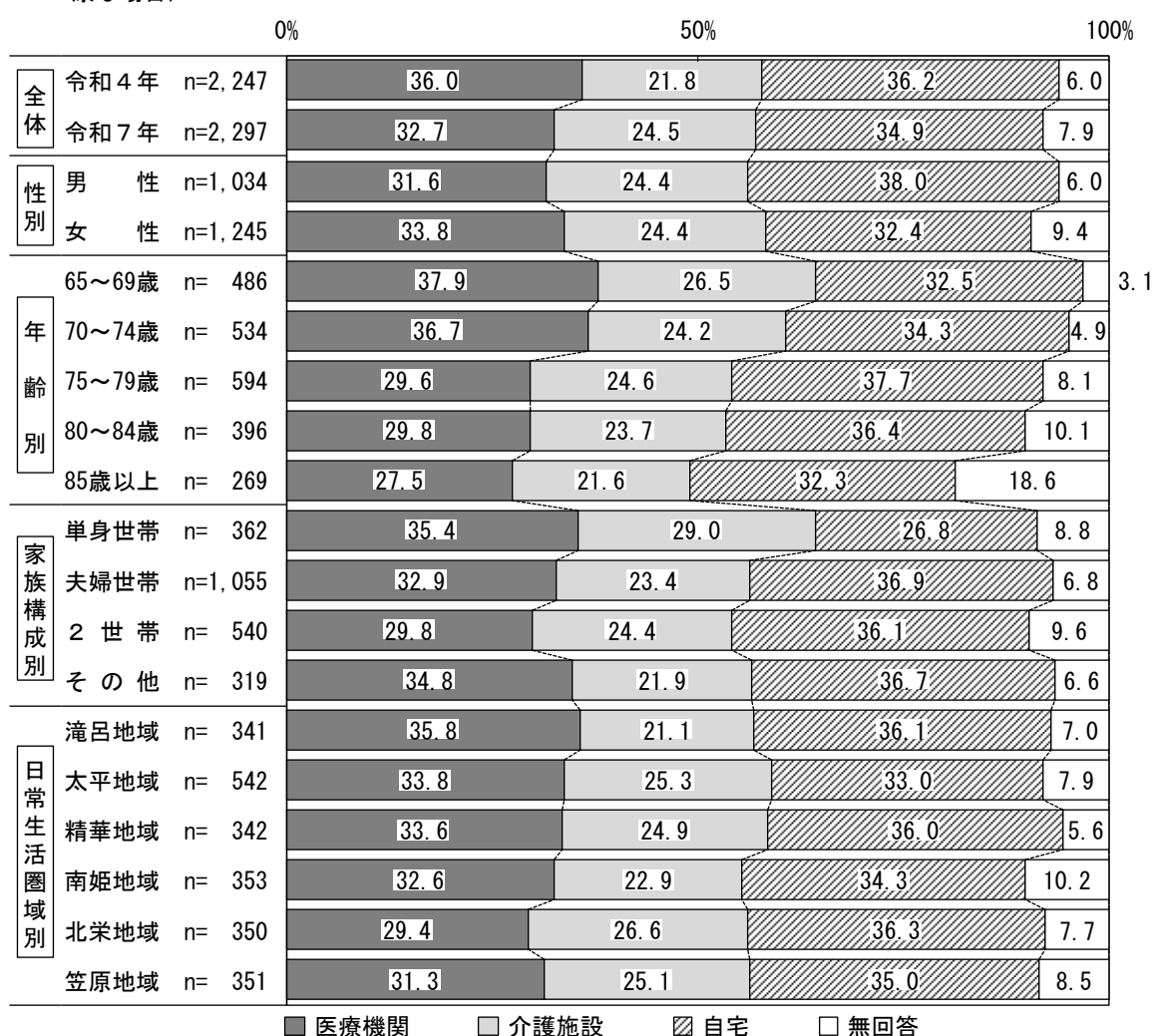
② 心臓病で、身の回りの手助けが必要だが意識等は健康な場合

■心臓病で、身の回りの手助けが必要だが意識等は健康な場合、人生の最終段階を過ごしたい場所は、「自宅」が34.9%と最も高く、次いで「医療機関」（32.7%）、「介護施設」（24.5%）の順となっています。

■年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「医療機関」及び「介護施設」が低下する傾向にあります。

■家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「自宅」が低く、「介護施設」が高くなっています。

図表 2-105 人生の最終段階を過ごしたい場所（心臓病で、身の回りの手助けが必要だが意識等は健康な場合）



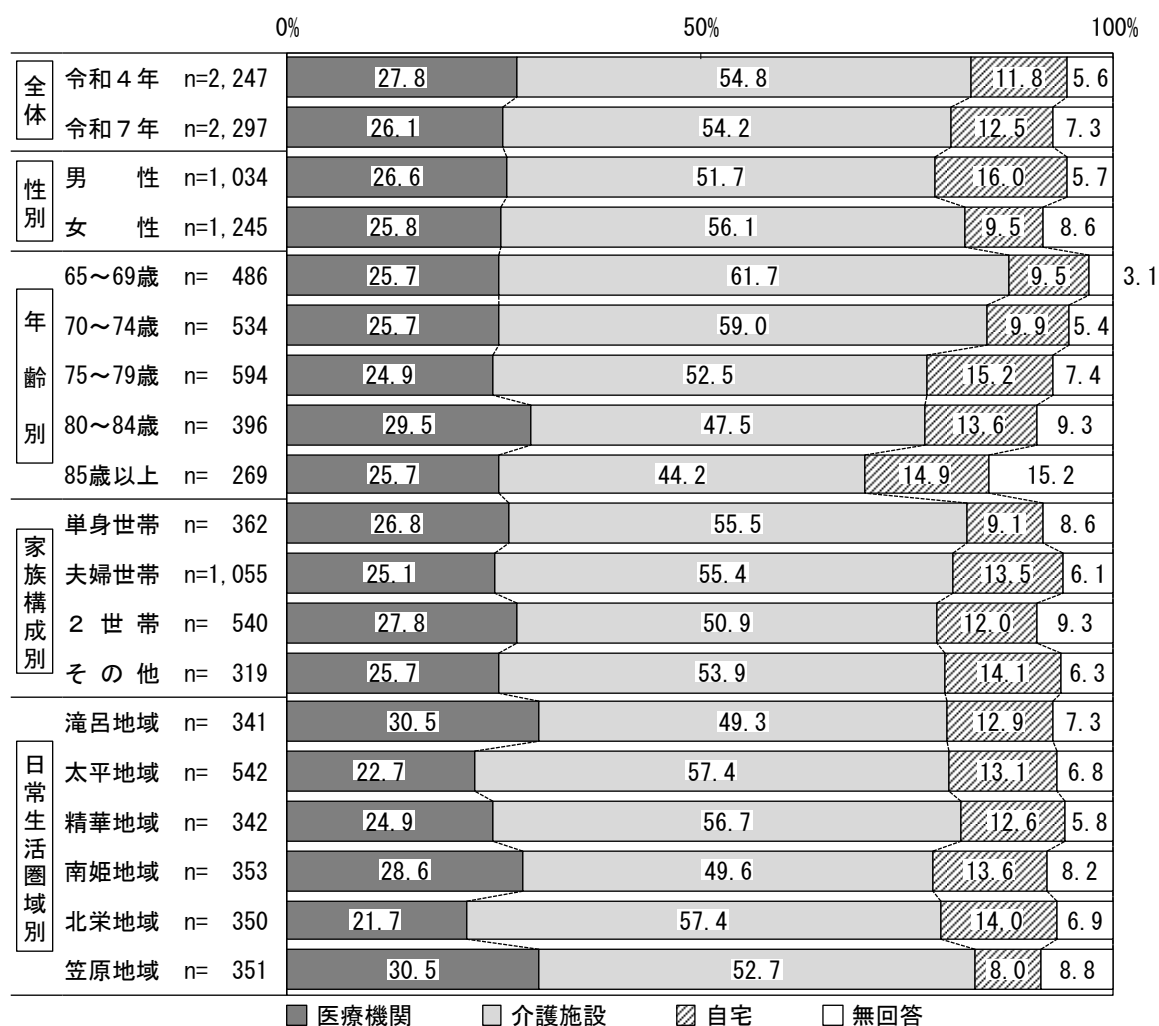
③ 認知症になり、身の回りの手助けが必要で、衰弱が進んできた場合

■ 認知症になり、身の回りの手助けが必要で、衰弱が進んできた場合、人生の最終段階を過ごしたい場所は、「介護施設」が54.2%を占め、次いで「医療機関」(26.1%)、「自宅」(12.5%)の順となっています。

■ 性別にみると、男性は女性に比べて「自宅」が6.5ポイント高くなっています。

■ 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「介護施設」が低下します。

図表 2-106 人生の最終段階を過ごしたい場所（認知症になり、身の回りの手助けが必要で、衰弱が進んできた場合）

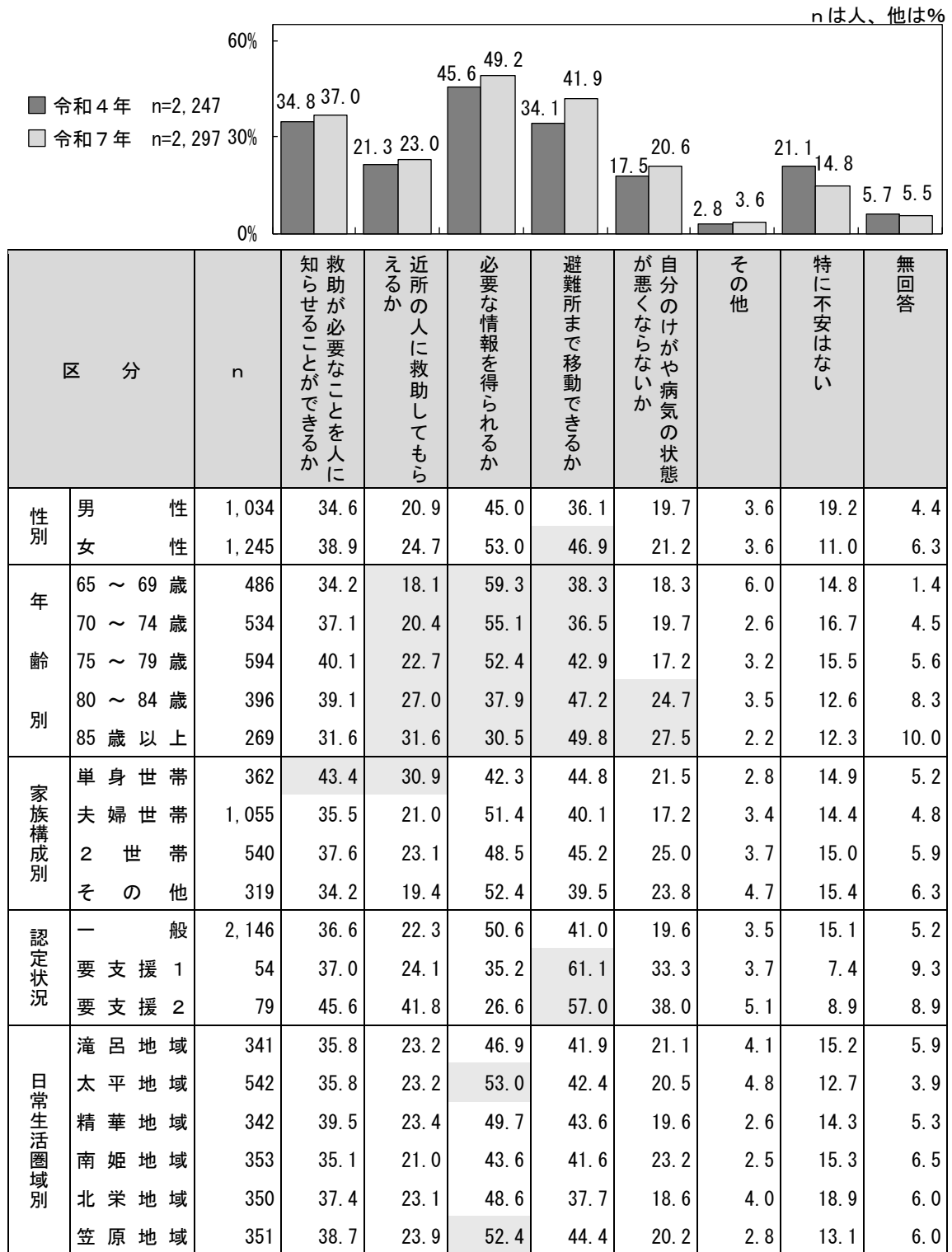


1 3 多治見市の高齢者保健福祉施策

(1) 災害時に不安に感じること

- 災害時に不安に感じることをたずねたところ、「必要な情報を得られるか」が49.2%と最も高く、次いで「避難所まで移動できるか」(41.9%)、「救助が必要なことを人に知らせることができるか」(37.0%)の順となっています。令和4年度調査と比較すると「避難所まで移動できるか」が7.8ポイント高くなっています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて全般的に高く、特に「避難所まで移動できるか」は10.8ポイントの差があります。
- 年齢別にみると、80歳未満は「必要な情報を得られるか」が、80歳以上は「避難所まで移動できるか」がそれぞれ最も高くなっています。また、年齢が高くなるにしたがい「近所の人に救助してもらえるか」及び「避難所まで移動できるか」が上昇し、「必要な情報を得られるか」が低下します。また、80歳以上になると「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」が上昇します。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「救助が必要なことを人に知らせることができるか」及び「近所の人に救助してもらえるか」が高くなっています。
- 認定状況別にみると、介護度が上がるにしたがい全般的に上昇する傾向にあります。また、要支援1・2は「避難所まで移動できるか」が60%前後の高い割合です。
- 日常生活圏域別にみると、太平地域及び笠原地域は「必要な情報を得られるか」が過半数を占める高い割合です。

図表 2-107 災害時に不安に感じること（複数回答）



■ その他として図表 2－108の内容が記載されていました。

図表 2－108 災害時に不安に感じること（その他、複数回答）

【家族やペットの安全確保】16件

- ・ ペットがいること 10件
- ・ 家族の安否 4件
- ・ たまたま家族と一緒にいないときの状況
- ・ 老々介護のあり方

【避難行動・避難所生活】15件

- ・ トイレのこと 4件
- ・ 避難所での生活 4件
- ・ 避難所を利用することが可能か不安 2件
- ・ 強度の地震のとき、避難所がちゃんと機能できるかどうか
- ・ 災害発生後の生活
- ・ 配偶者は障害者手帳 1 級で、避難所での生活は無理
- ・ 落ち着いていられるか心配はある
- ・ 多治見市個別避難計画がどうなっているのか

【ライフラインや生活物資の確保】14件

- ・ ライフライン 4件
- ・ インフラの復旧 3件
- ・ 生活必需品 2件
- ・ 上下水道の確保 2件
- ・ 3 日間の備蓄は大変かと思っている
- ・ 必要な物が持ち出せるか
- ・ 何もかもが必要です

【住居や地域への被害】11件

- ・ 家屋の倒壊など 2件
- ・ 火災への対応 2件
- ・ 現在、裏山の斜面が崩れかけていてとても不安。地主には連絡済
- ・ 自営の店舗の老朽化。倒壊しないか心配
- ・ 住んでいる地域の孤立
- ・ 将来もこの家で住み続けられるか心配
- ・ 団地から外に出る道路が 1 本しかないのでその道路が閉ざされると不安
- ・ 避難所までの道が地震の際より危険と感じています。崖崩れや道幅が狭いので少し遠いが歩いて子どもの家に行く。病院と連絡が取れるか不安
- ・ 宅地はハザードマップで黄色になっている場所であり、災害時、土砂崩れ時に、多治見市救援活動（道路復旧、水補給、食糧配給）が具体的に何日で復旧するか、災害状況に応じて明示公表、または指針が必要

【身体機能の状況】7件

- ・ 歩行が困難 3件
- ・ 災害時、動けない身なので、不安でいっぱいです
- ・ 自分の体が不自由なため、家の下敷きになれば諦める
- ・ 徒歩も車の運転もできない
- ・ 膝人工関節両膝手術後で痛みあり、脊柱管狭窄症のため病院通いが長く心配

【情報の取得・連絡手段の確保】 6 件

- ・ 連絡手段のこと 3 件
- ・ 情報のこと 2 件
- ・ 赤坂 6 丁目付近は、非常用マイクの聞き取りが悪い

【地域の支え合い】 6 件

- ・ 他の人を助けることができるか 3 件
- ・ 近くに子どもがいますが、そのときはわかりません
- ・ 近所づき合いがないので、それが心配
- ・ 必要な手助けがもらえるか

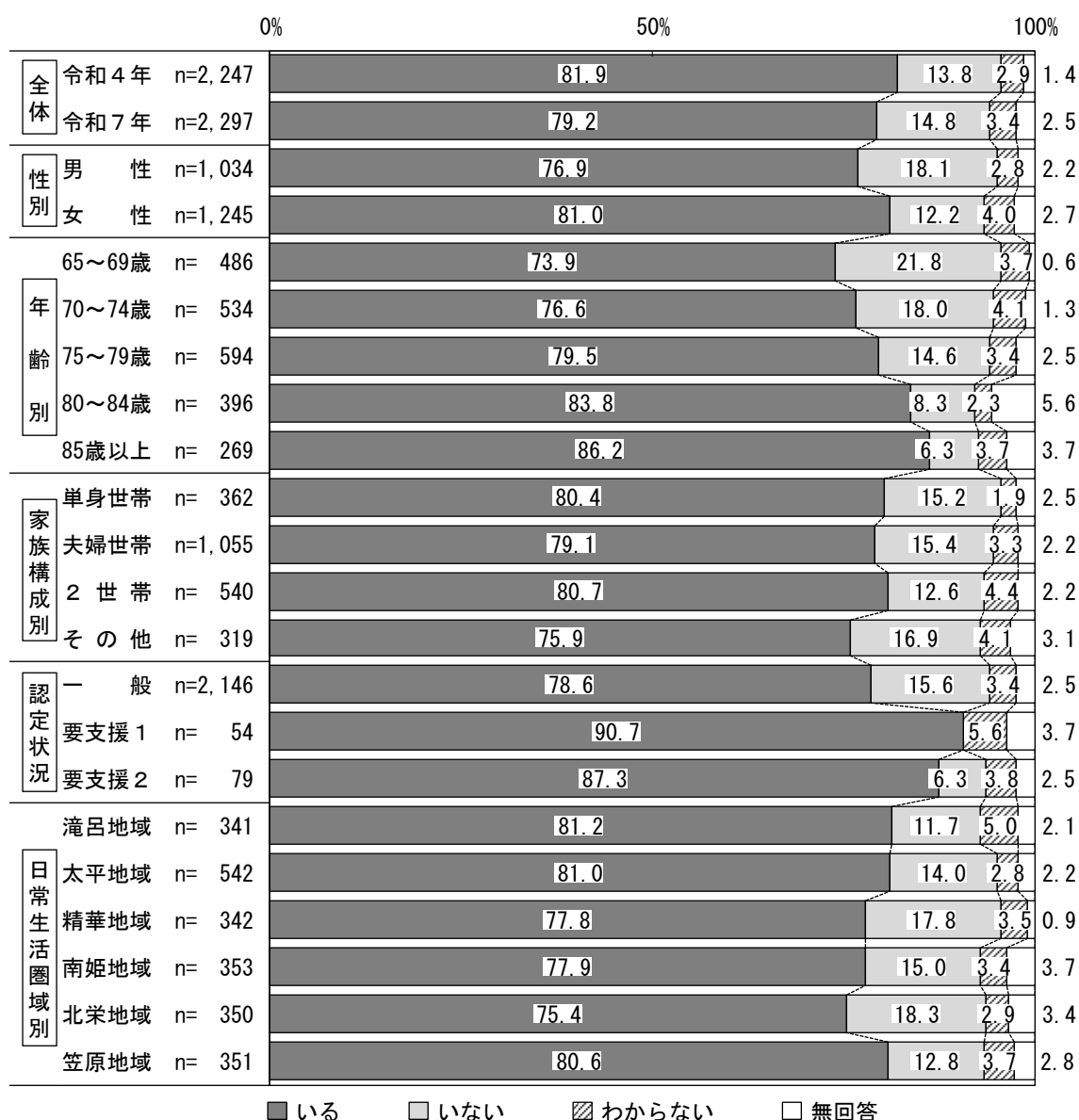
【その他】 9 件

- ・ 不安ばかり 2 件
- ・ そのときの自分及び地域の状況により変わる
- ・ 勤務中の災害
- ・ なるようになる
- ・ わからない、考えたことがない 4 件

(2) かかりつけ医はいるか

- かかりつけ医がいるかたずねたところ、「いる」が79.2%と最も高く、次いで「いない」(14.8%)、「わからない」(3.4%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「いない」が5.9ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「いる」が上昇し、85歳以上になると86.2%となります。
- 認定状況別にみると、要支援1・2は「いる」が90%前後を占めています。
- 日常生活圏域別にみると、北栄地域はその他の地域に比べて「いる」がやや低い割合です。

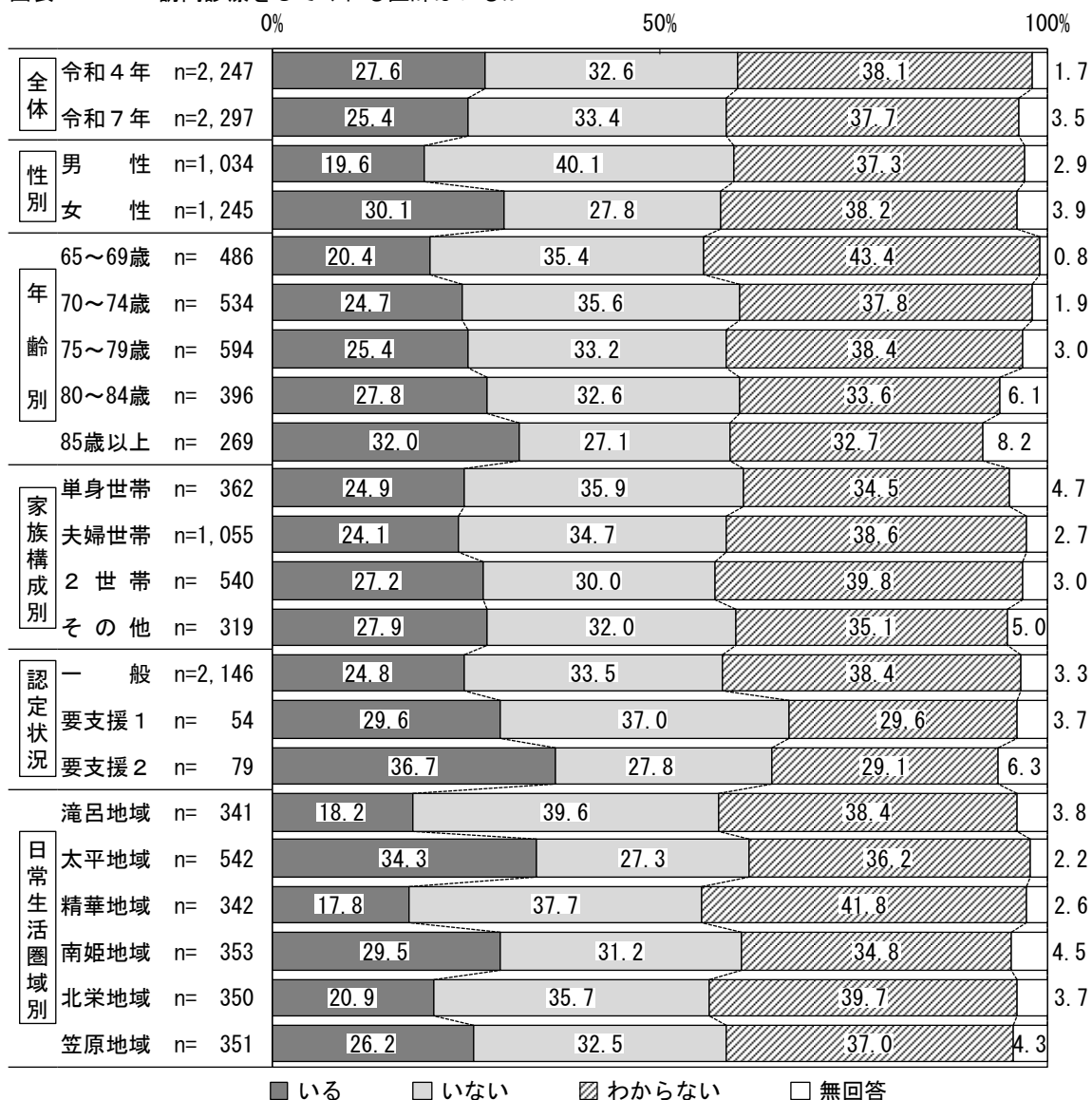
図表2-109 かかりつけ医はいるか



(3) 訪問診療をしてくれる医師はいるか

- 訪問診療をしてくれる医師がいるかたずねたところ、「わからない」が37.7%と最も高く、次いで「いない」(33.4%)、「いる」(25.4%)の順となっています。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「いない」が高く、「いる」が低くなっており、それぞれ10ポイント以上の差があります。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「いる」が上昇し、「いない」及び「わからない」が低下する傾向にあります。
- 認定状況別にみると、要介護度が上がるにしたがい「いる」が上昇します。
- 日常生活圏域別にみると、太平洋地域はその他の地域に比べて「いる」が高く、「いない」が低くなっています。

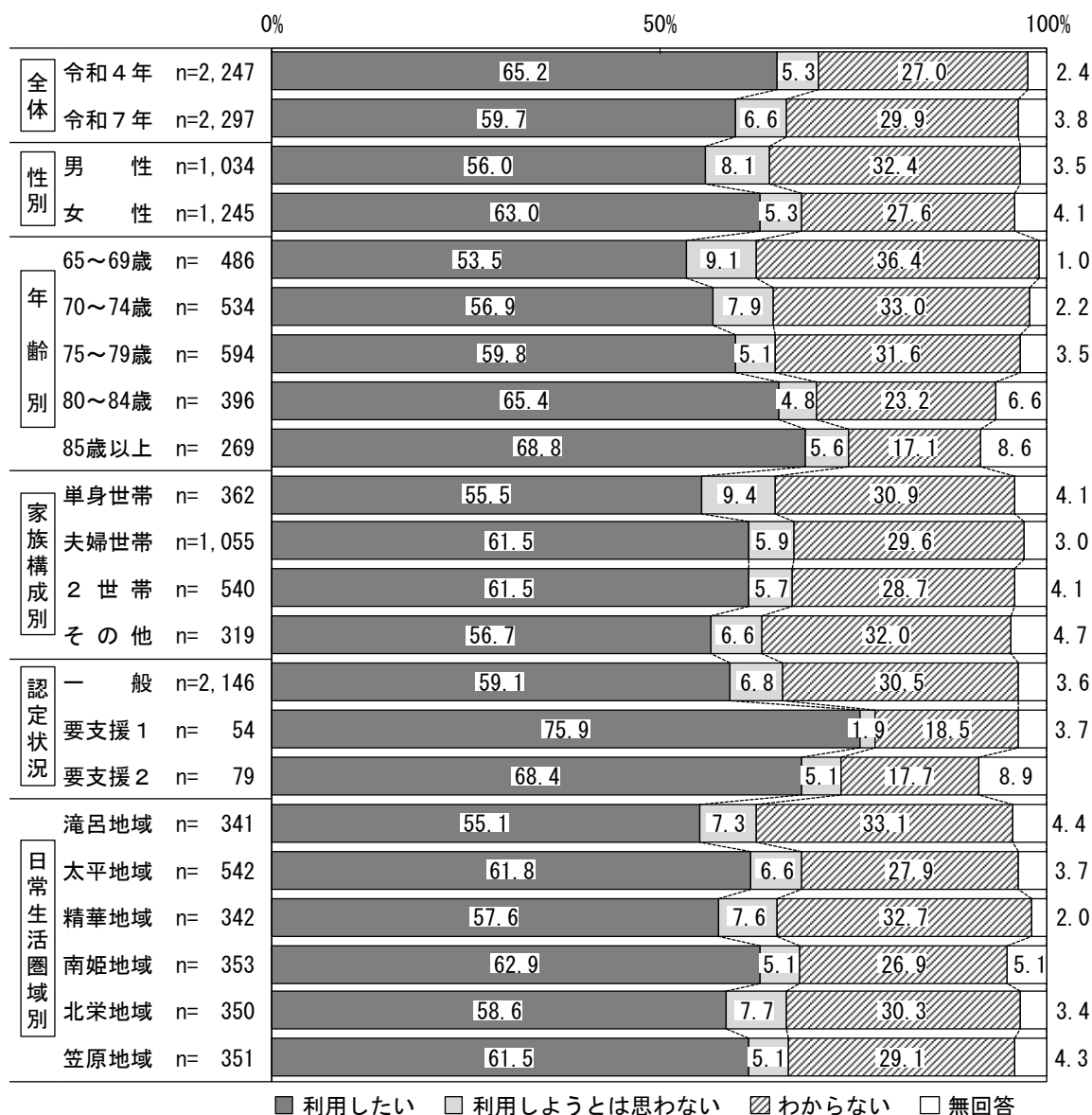
図表2-110 訪問診療をしてくれる医師はいるか



(4) 訪問診療の利用意向

- 訪問診療の利用意向をたずねたところ、「利用したい」が59.7%と最も高く、次いで「わからない」(29.9%)、「利用しようとは思わない」(6.6%)の順となっています。
令和4年度調査と比較すると「利用したい」が5.5ポイント低くなっています。
- 性別にみると、女性は男性に比べて「利用したい」が7.0ポイント高くなっています。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「利用したい」が上昇し、85歳以上になると70%近くを占めます。
- 家族構成別にみると、夫婦世帯及び2世帯はそれ以外の世帯に比べて「利用したい」がやや高い割合です。
- 認定状況別にみると、要支援1は「利用したい」が75.9%の高い割合です。

図表2-111 訪問診療の利用意向



1 4 生活機能評価

(1) 運動機能の低下者

- 調査項目の設定や結果の活用等を示した国の手引き※に基づき、運動機能の状態を評価したところ、運動機能の「低下者」は男性が11.6%、女性が15.0%です。
- 「低下者」は、性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、85歳以上になると40%台になります。また、家族構成別にみると、夫婦世帯はそれ以外の世帯に比べて低くなっています。認定状況別にみると、要支援1・2は70%以上の非常に高い割合です。日常生活圏域別にみると、精華地域はその他の地域に比べてやや高くなっています。

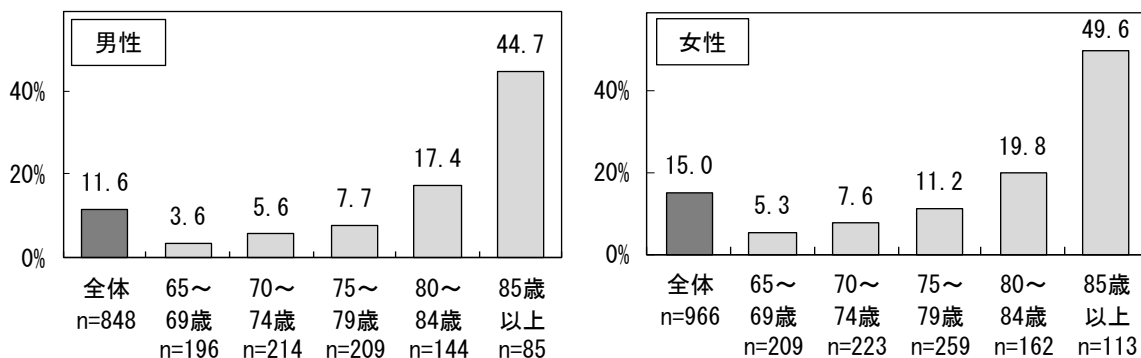
※令和7年8月厚生労働省老健局作成「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動機能の「低下者」と判定しています。

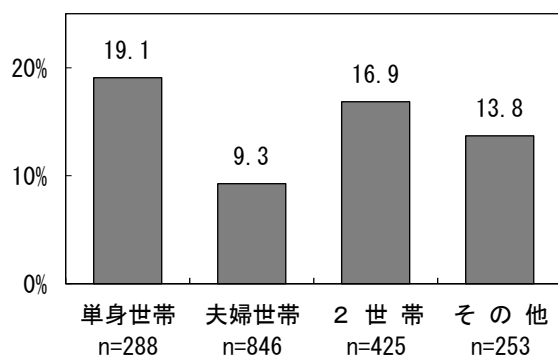
設 問	該当する選択肢
問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問8 日頃（日常的に）15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問9 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問10 転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

図表2-112 運動機能の低下者

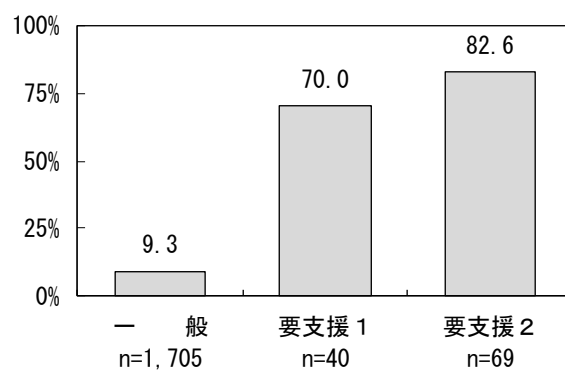
【性・年齢別】



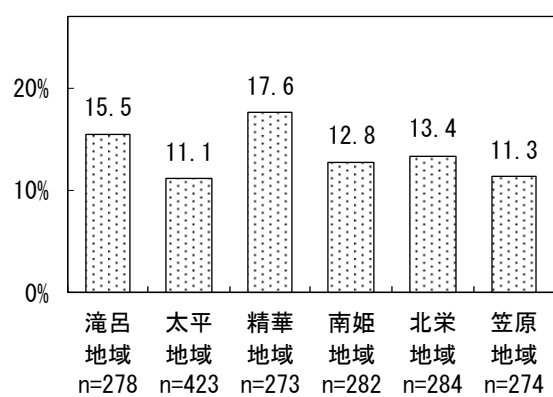
【家族構成別】



【認定状況】



【日常生活圏域別】



(2) 転倒リスクのある高齢者

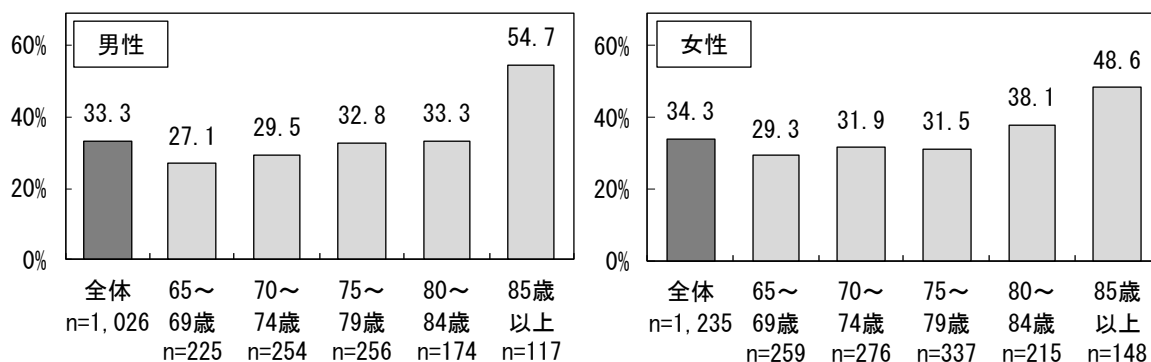
- 国の手引きに基づき、転倒リスクを評価したところ、転倒リスクの「該当者」は男性が33.3%、女性が34.3%です。
- 「該当者」は、性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、男性は85歳以上になると急激に高くなります。また、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べてやや低い割合です。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒リスクの「該当者」と判定しています。

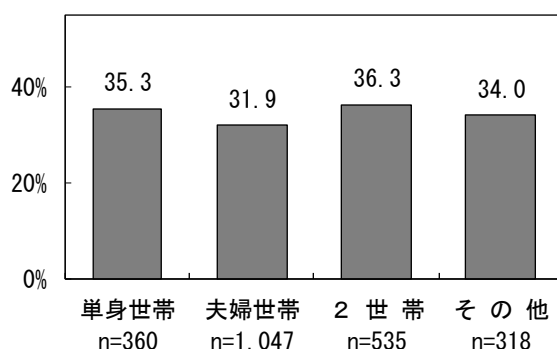
設 問	該当する選択肢
問 9 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

図表2-113 転倒リスクのある高齢者

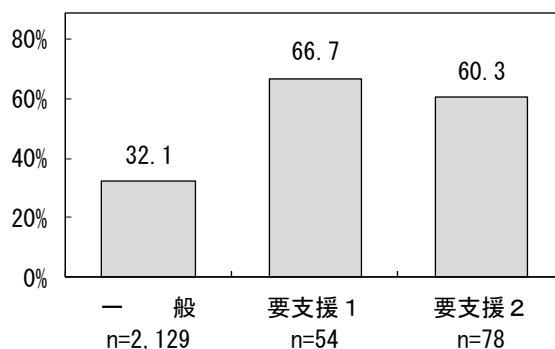
【性・年齢別】



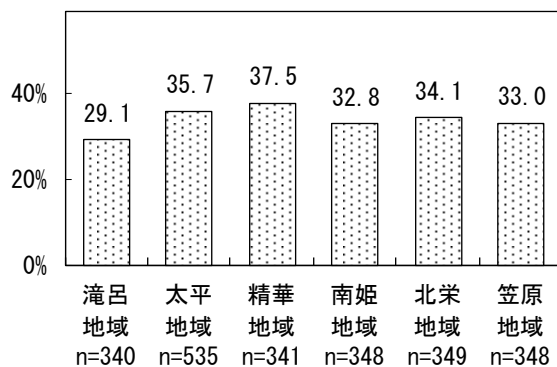
【家族構成別】



【認定状況】



【日常生活圏域別】



(3) 閉じこもり傾向の該当者

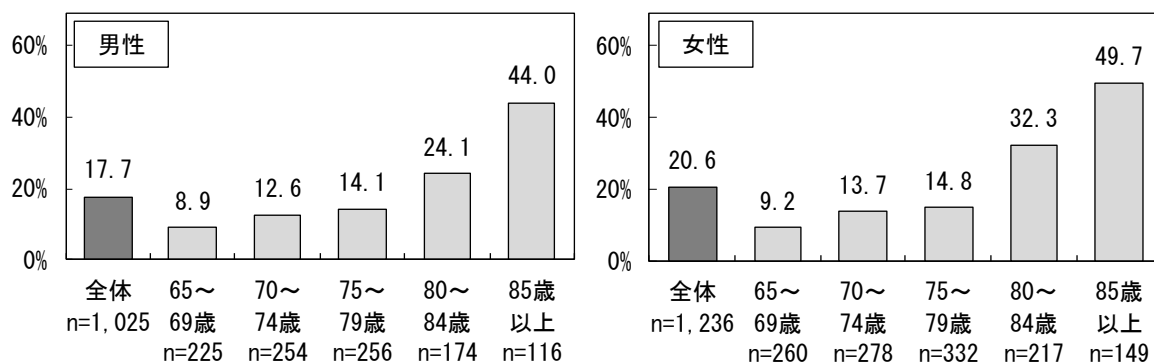
- 国の手引きに基づき、閉じこもり状態を評価したところ、閉じこもり傾向の「該当者」は、男性が17.7%、女性が20.6%となっています。
- 「該当者」は、性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇し、女性はいずれの年齢層においても男性を上回る水準で推移しています。家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べてやや高く、約4人に1人が閉じこもりの該当者となっています。また、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて高い割合です。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもり傾向の「該当者」と判定しています。

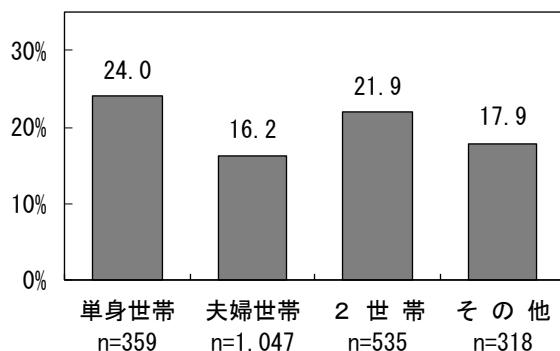
設 問	該当する選択肢
問11 週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

図表2-114 閉じこもり傾向の該当者

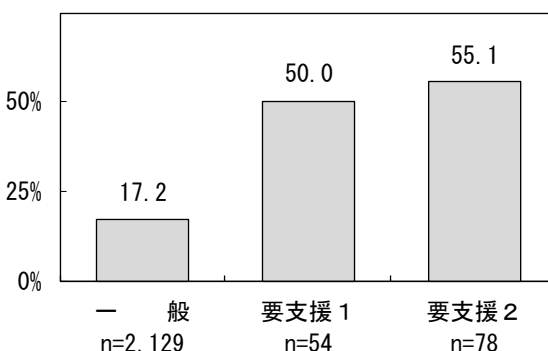
【性・年齢別】



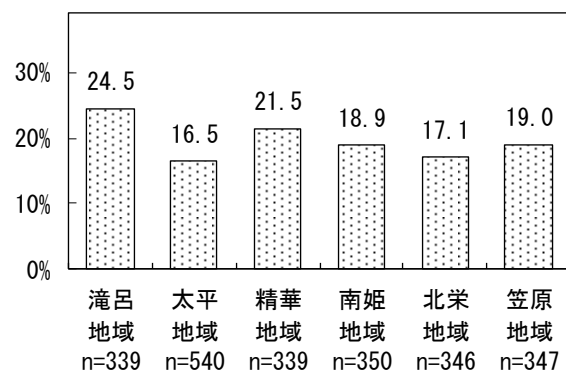
【家族構成別】



【認定状況】



【日常生活圏域別】



(4) 咀嚼機能の低下者

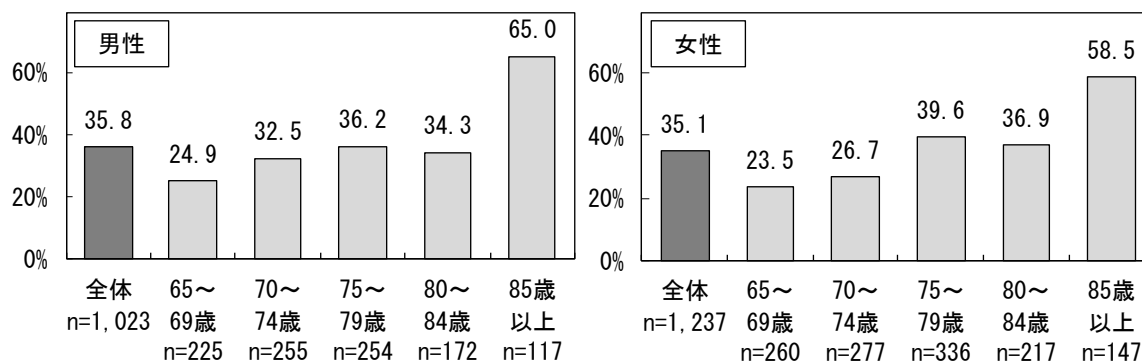
- 国の手引きに基づき、咀嚼機能を評価したところ、咀嚼機能の「低下者」は、男性が35.8%、女性が35.1%となっています。
- 「該当者」は、性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあり、85歳以上になると男性は65.0%、女性は58.5%を占めます。家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて高くなっています。認定状況別にみると、要支援1・2は60%以上の高い割合です。

【判定設問】 調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔機能の「低下者」と判定しています。

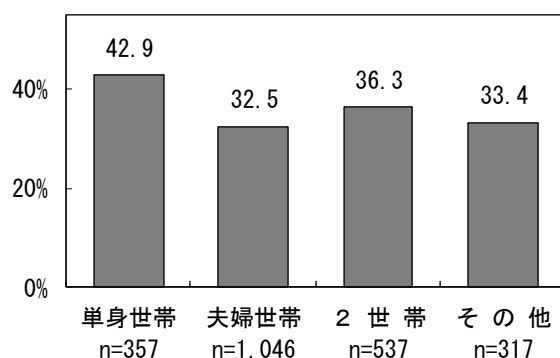
設 問	該当する選択肢
問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい

図表 2-115 咀嚼機能の低下者

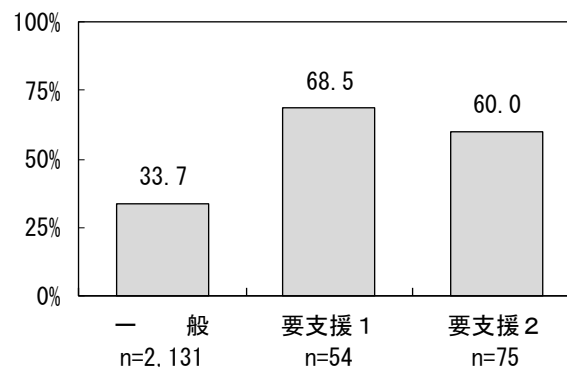
【性・年齢別】



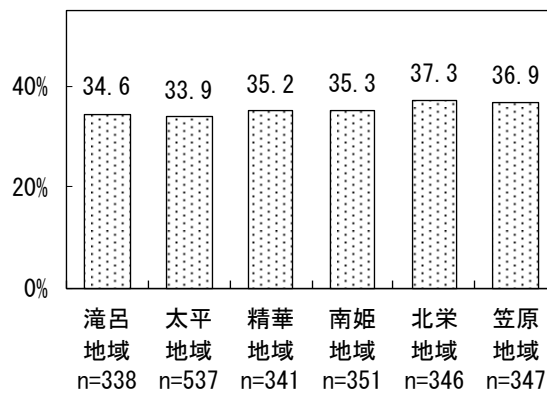
【家族構成別】



【認定状況】



【日常生活圏域別】



(5) 口腔機能の低下者

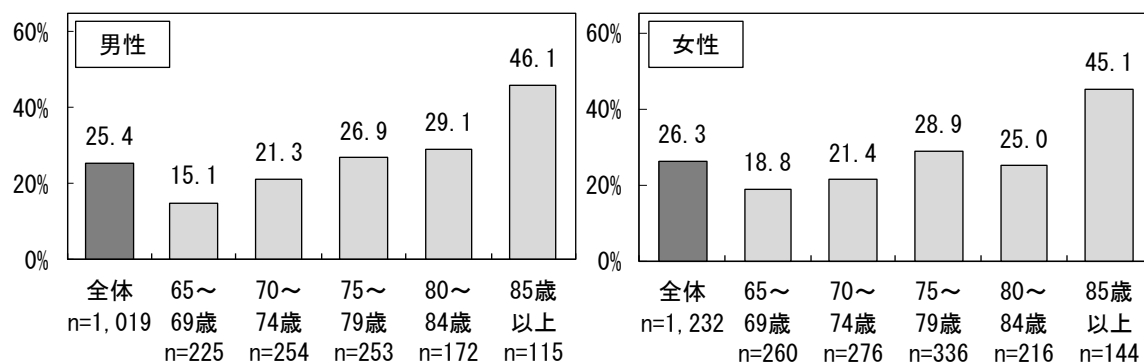
- 国の手引きに基づき、口腔機能を評価したところ、口腔機能の「低下者」は、男性が25.4%、女性が26.3%となっています。
- 「低下者」は、性・年齢別にみると、男性は年齢が高くなるにしたがい上昇し、女性は85歳以上になると急激に上昇します。また、家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べてやや高くなっています。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔機能の「低下者」と判定しています。

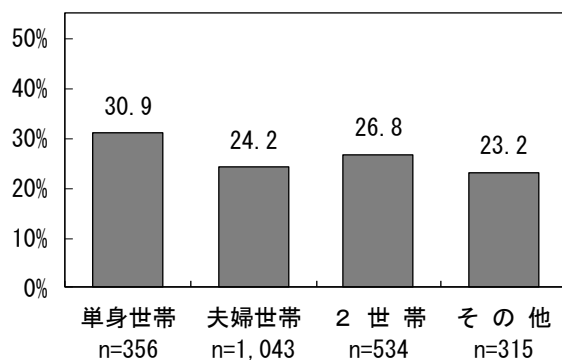
設 問	該当する選択肢
問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問19 お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問20 口の渇きが気になりますか。	1. はい

図表 2-116 口腔機能の低下者

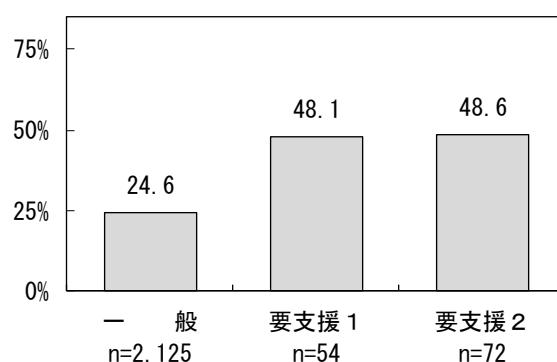
【性・年齢別】



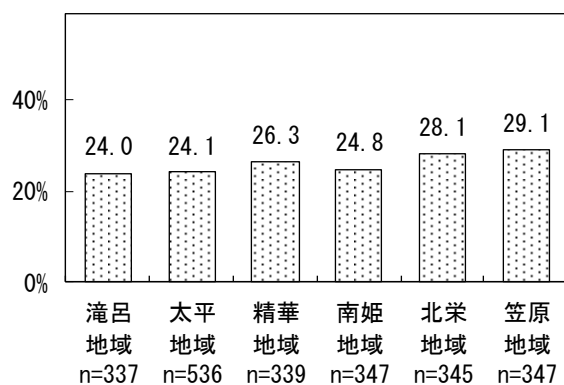
【家族構成別】



【認定状況】

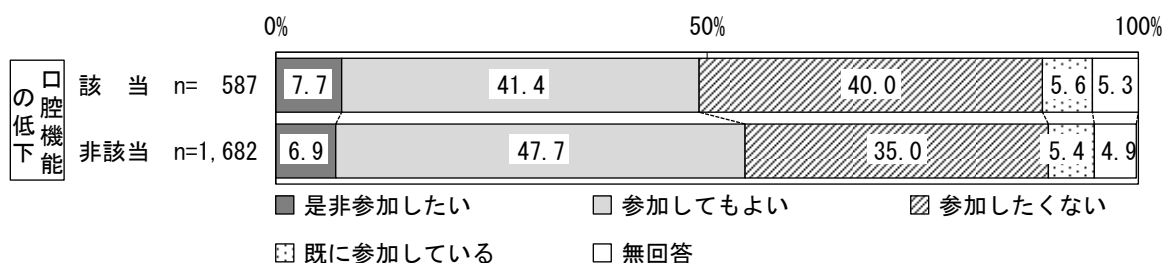


【日常生活圏域別】

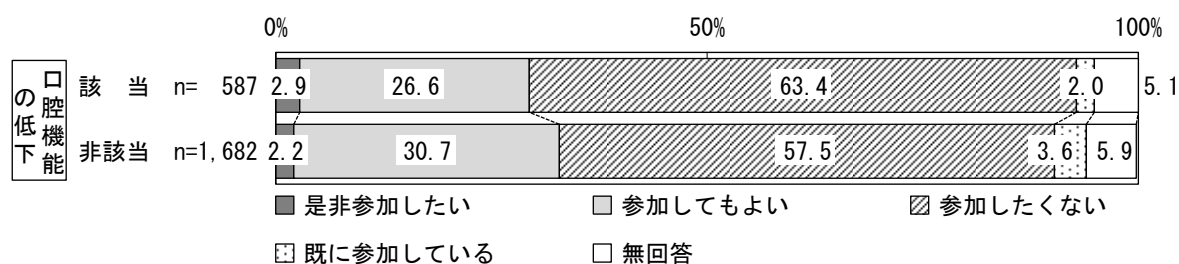


■ 口腔機能の状況別に地域活動への参加意向をみると、口腔機能低下の非該当者は該当者に比べて〈参加者としての参加意向〉が5.3ポイント、〈企画・運営としての参加意向〉が5.0ポイント高くなっています。

図表 2-117 地域活動への参加意向（口腔機能の状況別、参加者としての参加意向）



図表 2-118 地域活動への参加意向（口腔機能の状況別、企画・運営としての参加意向）



(6) 低栄養

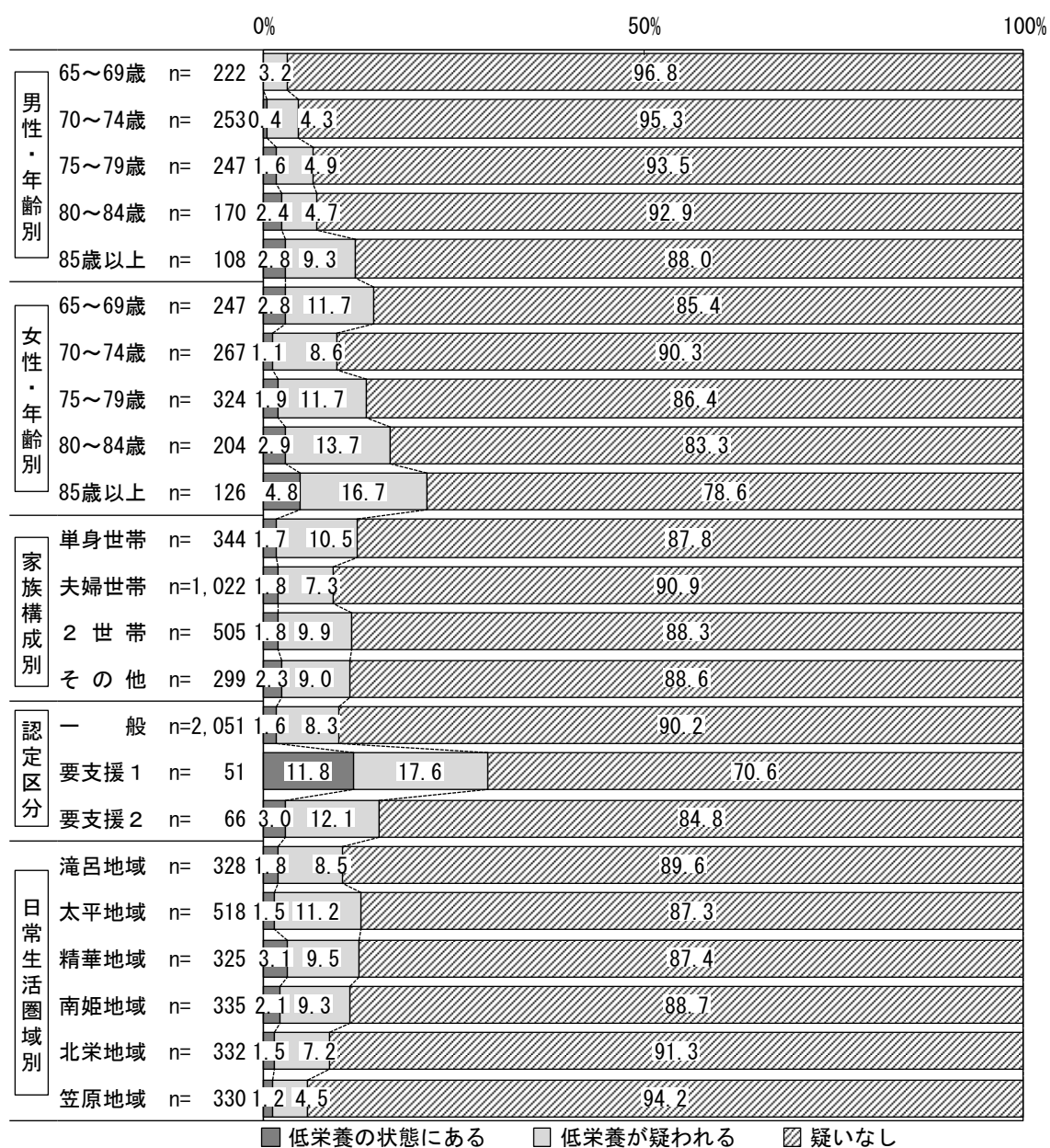
■国の手引きに基づき、低栄養の状態を評価したところ、男女ともに年齢が高くなるにしたがい「低栄養の状態にある」と「低栄養が疑われる」を合計した〈低栄養のリスクがある〉が上昇する傾向にあります。また、女性はいずれの年齢層においても男性を上回っています。

■認定状況別にみると、要支援1は〈低栄養のリスクがある〉が高い割合です。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、2項目いずれも該当する人を「低栄養の状態にある」、BMI 18.5以下のみ該当する人を「低栄養が疑われる」と判定しています。

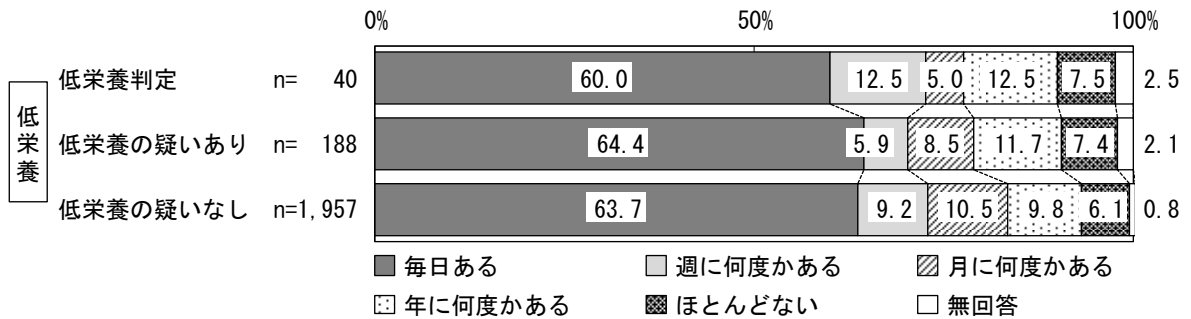
設 問	該当する選択肢
問17 あなたの身長と体重を教えてください。	BMI 18.5以下
問24 6か月で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

図表2-119 低栄養



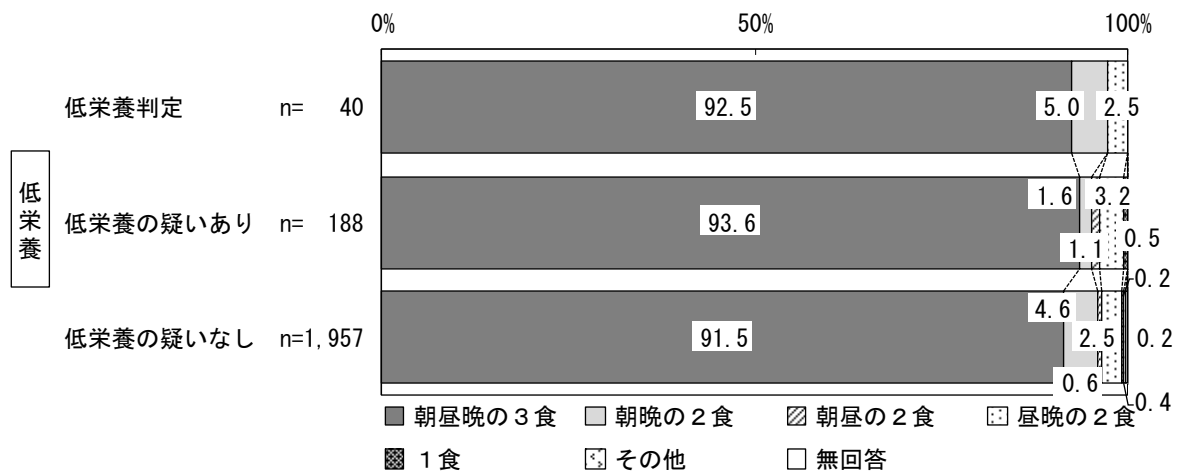
■低栄養の状況別に共食の機会の頻度をみると、低栄養の状態にある人は「毎日ある」がやや低くなっています。

図表 2-120 共食の機会（低栄養の状況別）



■低栄養の状況別にみた1日の食事の回数には、大きな差はみられません。

図表 2-121 1日の食事の回数（低栄養の状況別）



(7) 認知機能の低下者

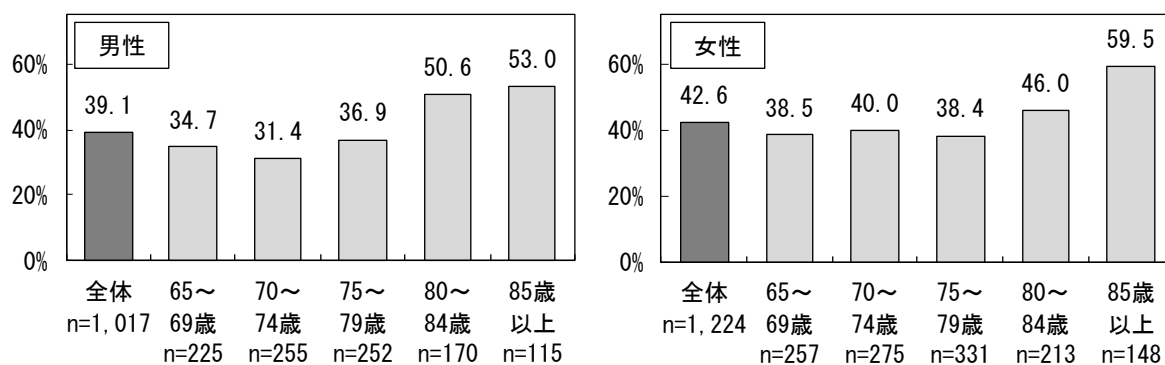
- 国の手引きに基づき、認知機能を評価したところ、認知機能の「低下者」は、男性が39.1%、女性が42.6%です。
- 「低下者」を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇する傾向にあります。また、家族構成別にみると、2世帯及びその他の世帯はやや高い割合です。認定状況別にみると、要支援1・2は過半数を占めています。さらに、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて低くなっています。

【判定設問】 調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を認知機能の「低下者」と判定しています。

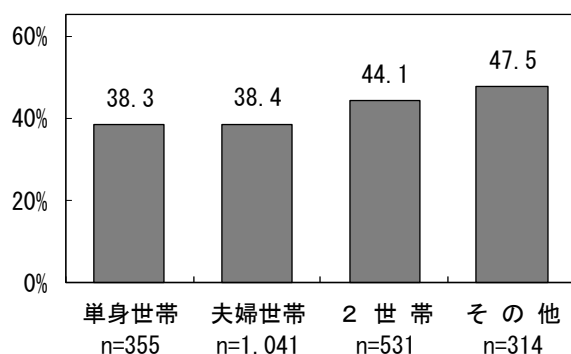
設 問	該当する選択肢
問27 物忘れが多いと感じますか。	1. はい

図表 2-122 認知機能の低下者

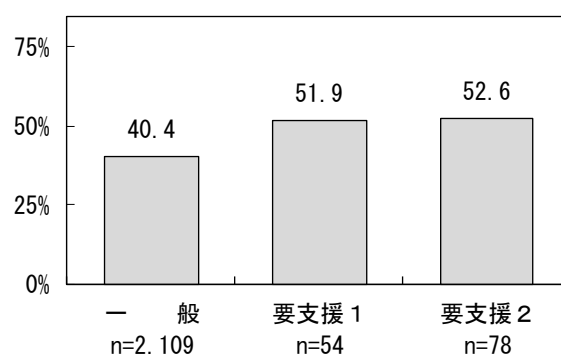
【性・年齢別】



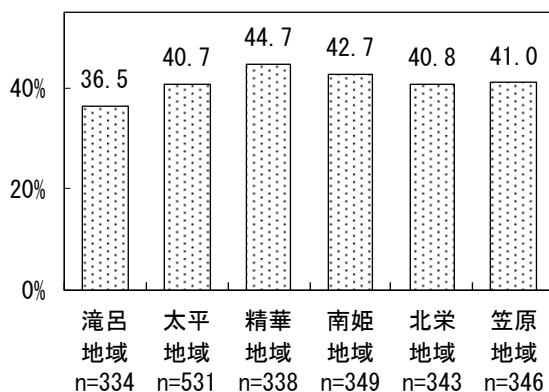
【家族構成別】



【認定状況】



【日常生活圏域別】



(8) うつ傾向の該当者

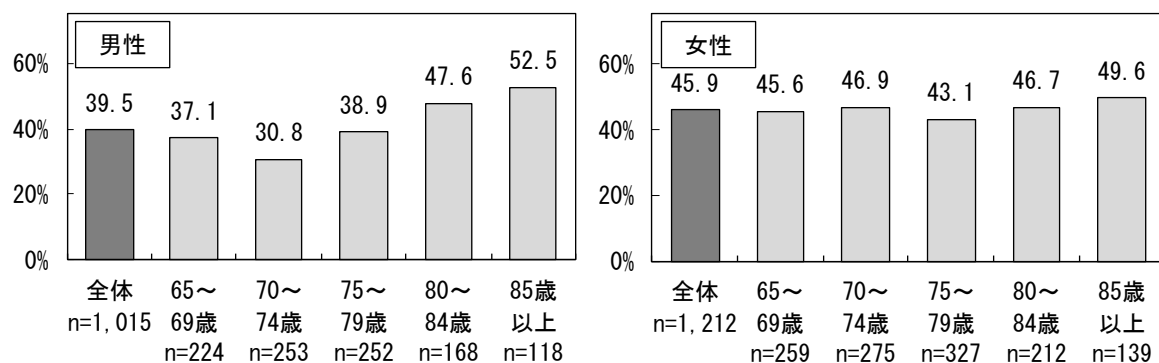
- 国の手引きに基づき、うつ状態を評価したところ、うつ傾向の「該当者」は、男性が39.5%、女性が45.9%です。
- 「該当者」を性・年齢別にみると、女性はおおむね横ばいであるのに対して、男性は70歳以降、年齢が高くなるにしたがい上昇し、80歳以上になると女性を上回ります。家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて高く、50.0%となっています。認定状況別にみると、要支援1・2は60%台の高い割合です。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつ傾向の「該当者」と判定しています。

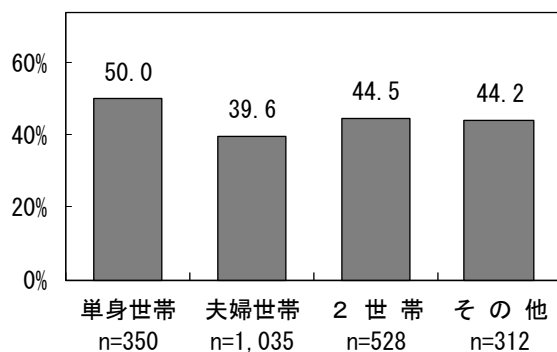
設 問	該当する選択肢
問54 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問55 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

図表2-123 うつ傾向の該当者

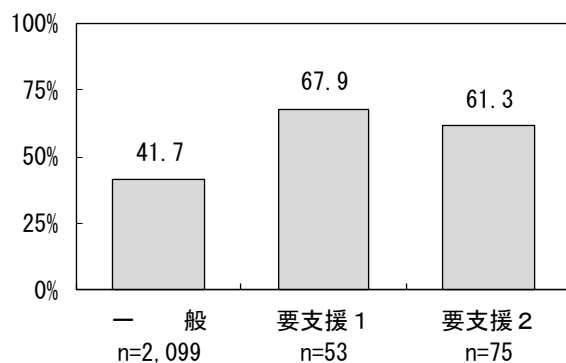
【性・年齢別】



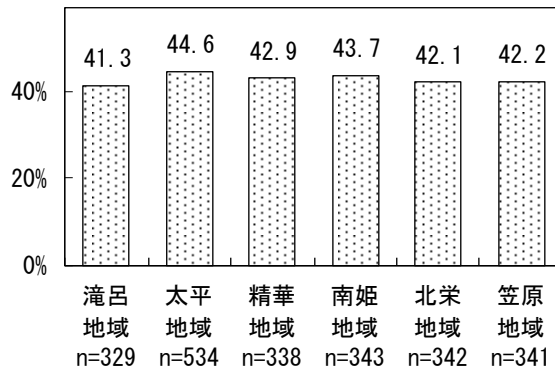
【家族構成別】



【認定状況】

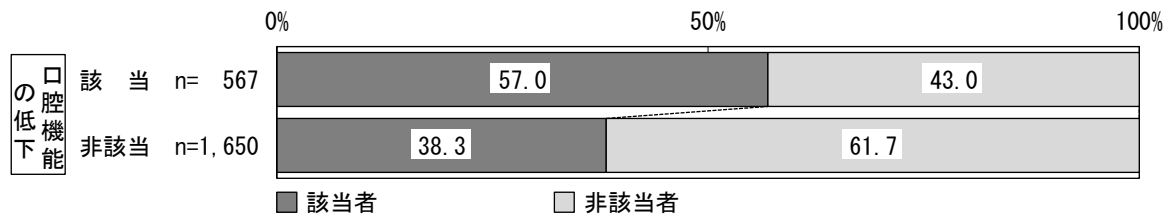


【日常生活圏域別】



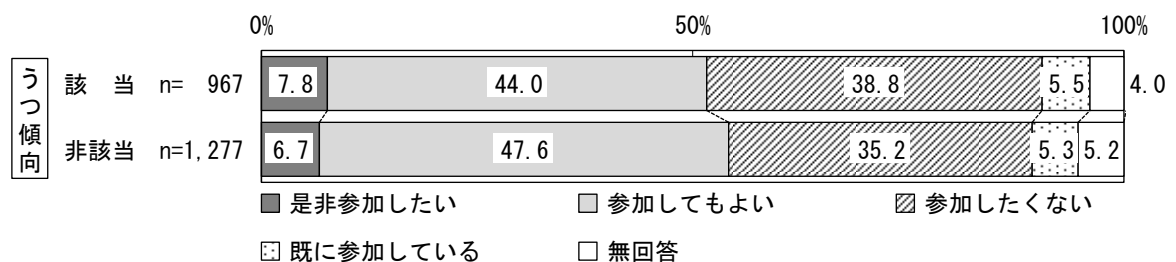
■ 口腔機能の状況別にうつ傾向の状況をみると、口腔機能低下の非該当者は該当者に比べて、うつ傾向の「該当者」が18.7ポイント低くなっています。

図表 2-124 うつ傾向の該当者（口腔機能の状況別）

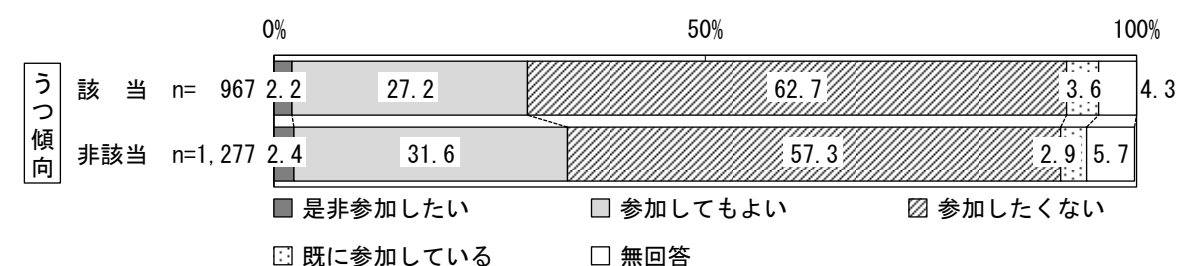


■ うつ傾向の状況別に地域活動への参加意向をみると、うつ傾向の非該当者は該当者に比べて〈参加者としての参加意向〉が2.3ポイント、〈企画・運営としての参加意向〉が3.9ポイント高くなっています。

図表 2-125 地域活動への参加意向（うつ傾向の状況別、参加者としての参加意向）



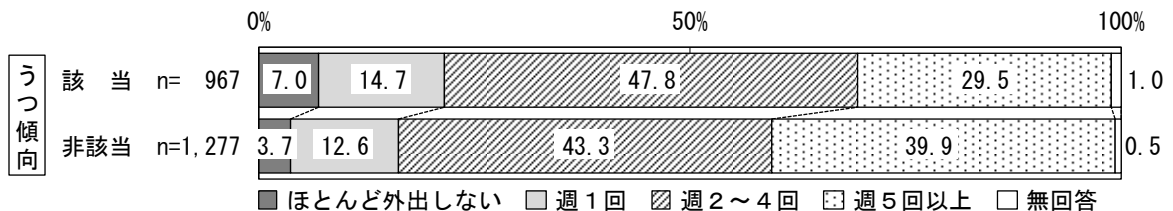
図表 2-126 地域活動への参加意向（うつ傾向の状況別、企画・運営としての参加意向）



■うつ傾向の状況別に外出頻度をみると、うつ傾向の非該当者は該当者に比べて「週5回以上」が10.4ポイント高くなっています。

図表2-127 口腔機能の状況別に地域活動への参加意向をみると、口腔機能低下の非該当者は該当者に比

べて 外出頻度（うつ傾向の状況別）



(9) 手段的自立度（IADL）の低下者

■高齢者の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標※のうち、手段的自立度（IADL）※※をみると、「低下者」の割合は、男性が20.5%、女性が10.6%となっており、男性は女性を9.9ポイント上回っています。

■「低下者」を性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるにしたがい上昇しています。また、85歳未満では、男性は女性を上回っていますが、女性は85歳以上になると著しく上昇し、男性と同水準となります。さらに、認定状況別にみると、要支援1・2は70%前後の非常に高い割合です。また、日常生活圏域別にみると、滝呂地域はその他の地域に比べて高くなっています。

※老研式活動能力指標とは、1986年に東京都老人総合研究所（現東京都健康長寿医療センター研究所）において開発された指標。評価の基礎となる13の設問の回答を点数化し、その点数に応じて「高い」「やや低い」「低い」などと評価します。本項では、「やや低い」と「低い」を「低下者」として評価しました。

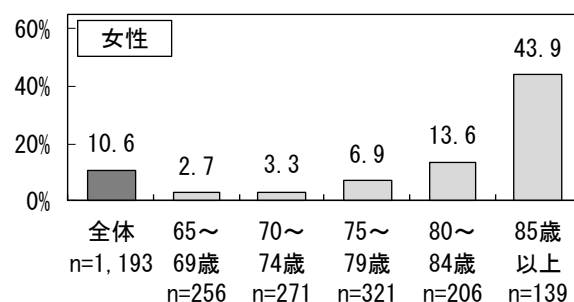
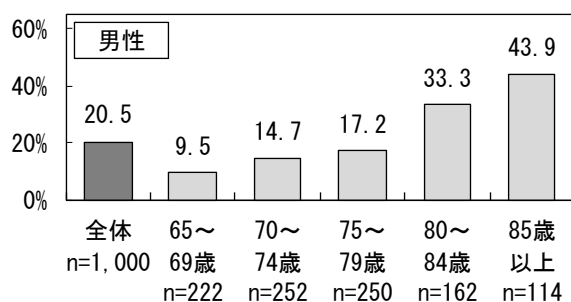
※※手段的自立度とは、交通機関の利用や電話の応対、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理など、活動的な日常生活をおくるための動作の能力をいいます。

【判定設問】調査票の以下の設問を抽出し、5点満点で評価し、4点以下を「低下者」と判定しています。

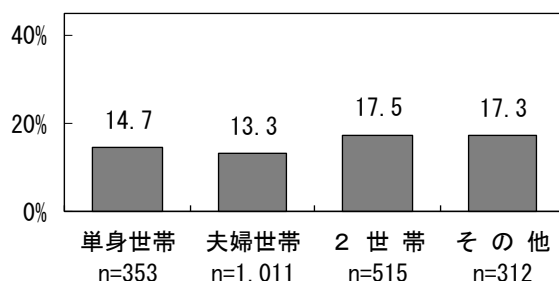
区 分	できるし、 している	できるけど していない	できない
問28 バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)。	1点	1点	0点
問29 自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1点	1点	0点
問30 自分で食事の用意をしていますか。	1点	1点	0点
問31 自分で請求書の支払いをしていますか。	1点	1点	0点
問32 自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1点	1点	0点

図表2-128 手段的自立度（IADL）の低下者

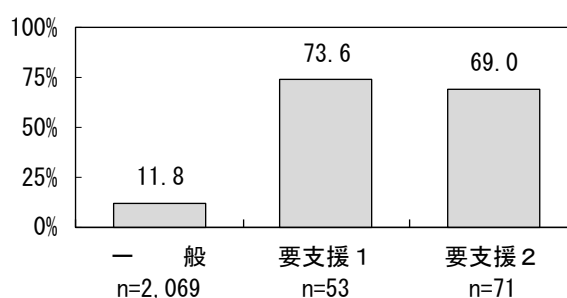
【性・年齢別】



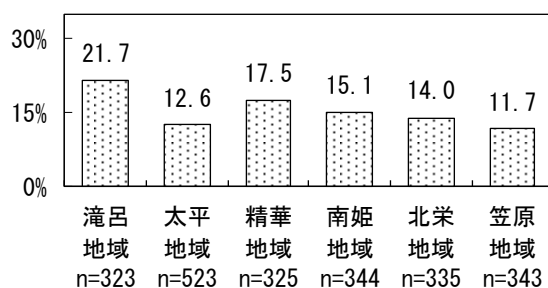
【家族構成別】



【認定状況】



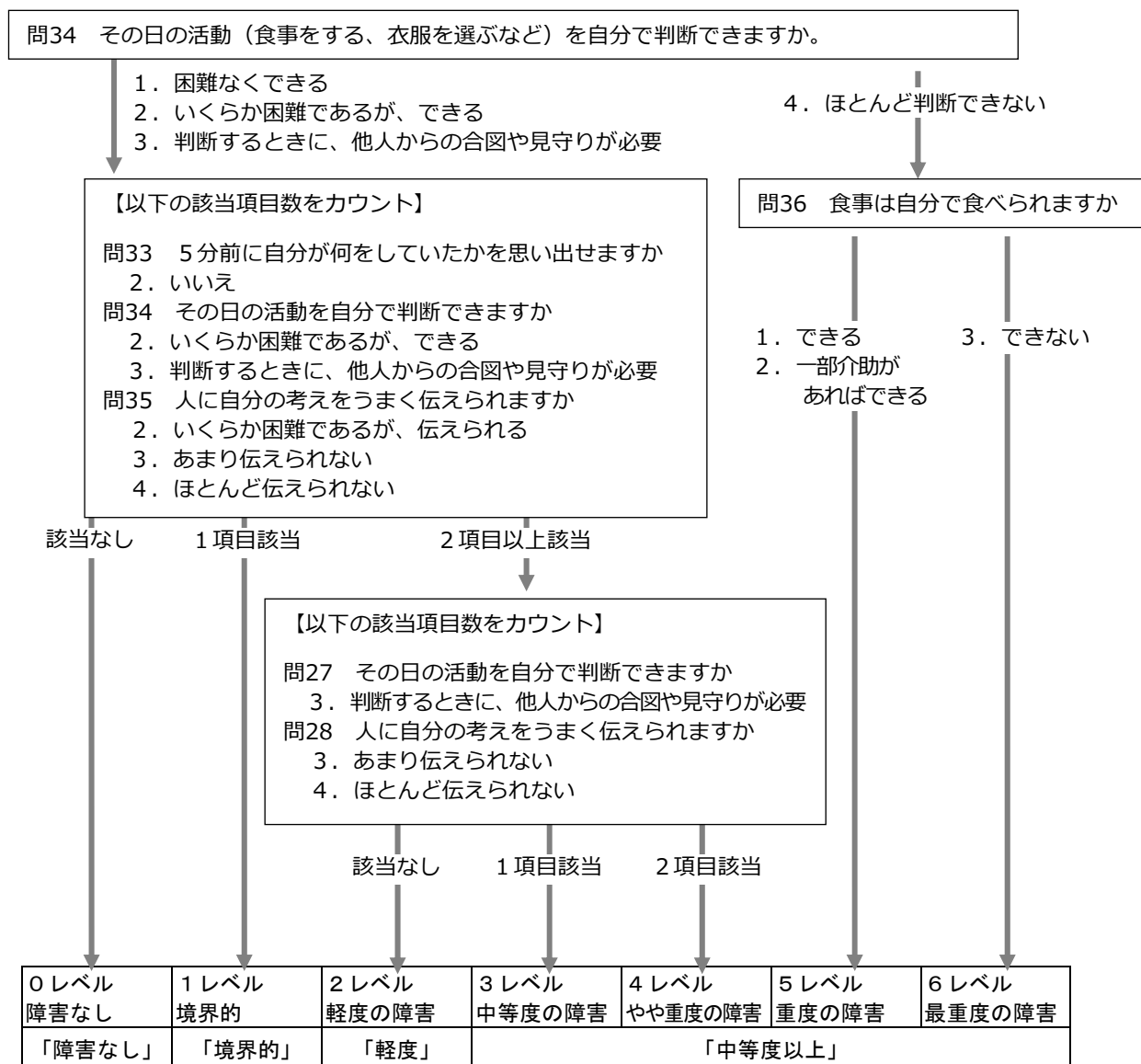
【日常生活圏域別】



(10) C P S

■ 認知機能の障害程度の指標であるC P Sを使い、図表 2 - 129のチャートに従って「0（障害なし）～6（最重度）」の7段階に分類しました。

図表 2 - 129 認知機能障害程度（C P S）の評価方法

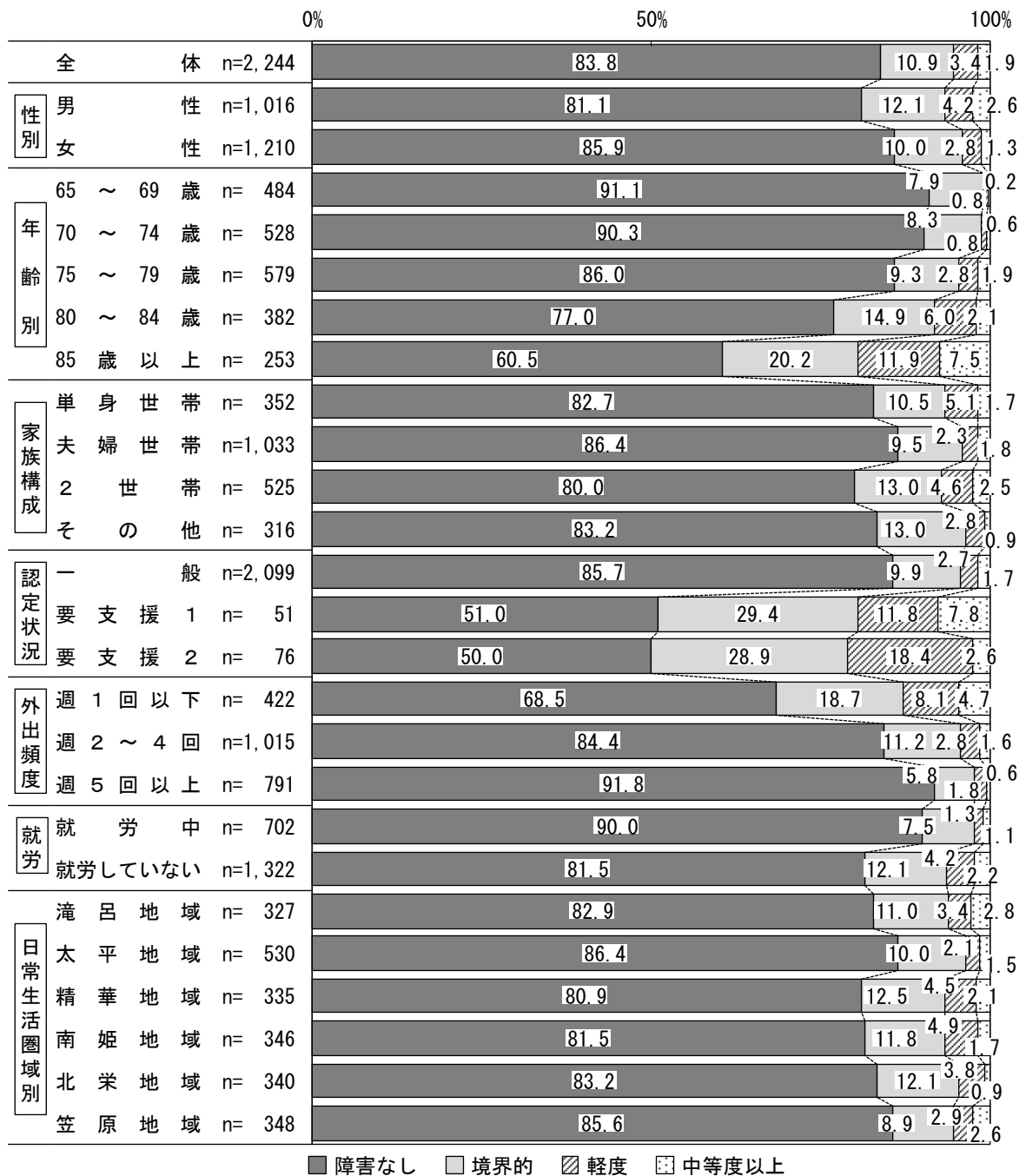


■ C P Sをみると、「障害なし」が83.8%を占めていますが、「境界的」が10.9%、「軽度」が3.4%、「中等度以上」が1.9%あります。

■ 年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「障害なし」が低下し、85歳以上になると60.5%まで低下します。

- 認定状況別にみると、一般は「障害なし」が85.7%なのに対して、要支援1・2は50%程度です。
- 外出頻度別にみると、外出頻度が多くなるにしたがい「障害なし」が上昇し、週5回以上は90%以上を占めます。
- 就労状況別にみると、就労中の人は就労していない人に比べて「障害なし」が8.5ポイント高くなっています。

図表2-130 CPS



第 3 章

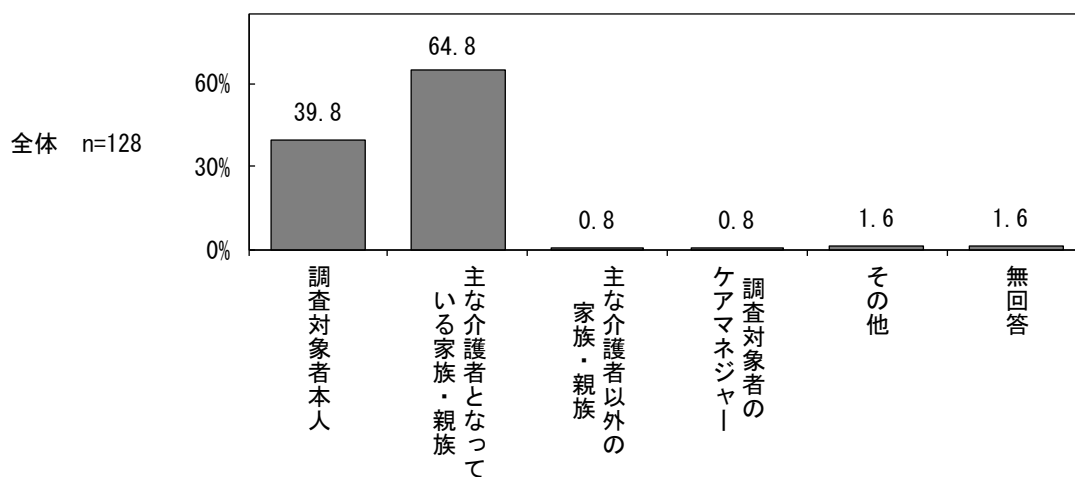
在宅介護実態調査

1 回答者の属性

(1) 聞き取りを行った相手

■聞き取りを行った相手は「主な介護者となっている家族・親族」が64.8%と最も高く、次いで「調査対象者本人」(39.8%)の順となっています。

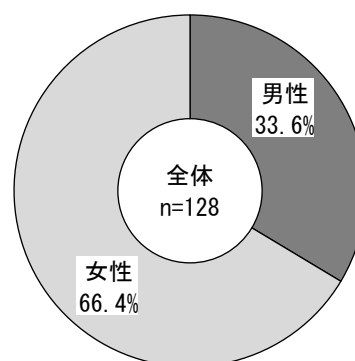
図3-1 聞き取りを行った相手(複数回答)



(2) 性別

■調査対象者の性別は、「男性」が33.6%、「女性」が66.4%となっています。

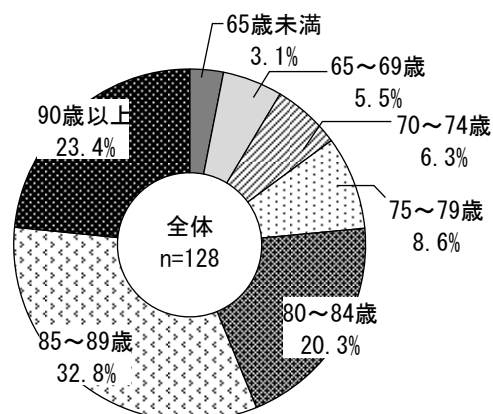
図3-2 性別



(3) 年 齢

■調査対象者の年齢は、「85～89歳」が32.8%と最も高く、次いで「90歳以上」(23.4%)、「80～84歳」(20.3%)の順となっています。また、〈85歳以上〉が56.2%を占めています。

図3-3 年 齢

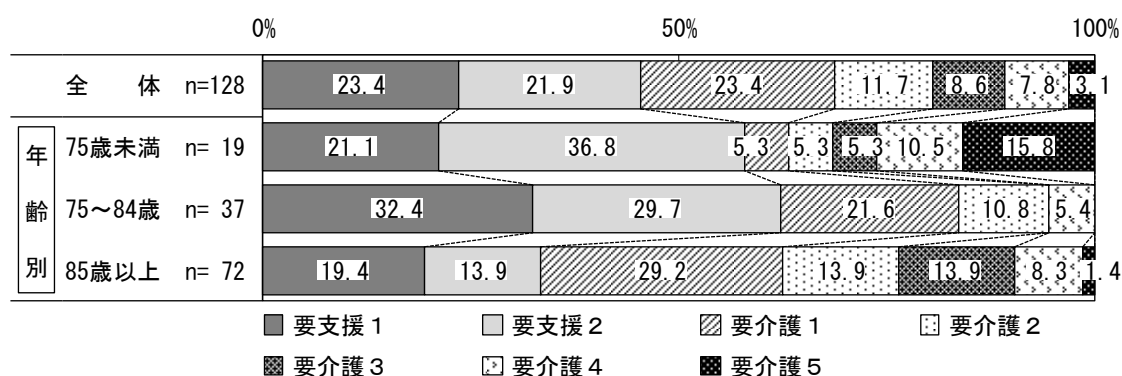


(4) 要支援・要介護度

■調査対象者の要支援・要介護度は「要支援1」及び「要介護1」が23.4%と最も高く、次いで「要支援2」(21.9%)、「要介護2」(11.7%)の順となっています。〈要支援1・2〉は45.3%、〈要介護1・2〉は35.1%、〈要介護3～5〉は19.5%です。

■年齢別にみると、85歳以上になると〈要介護1～5〉が上昇し、〈要支援〉が低下しています。

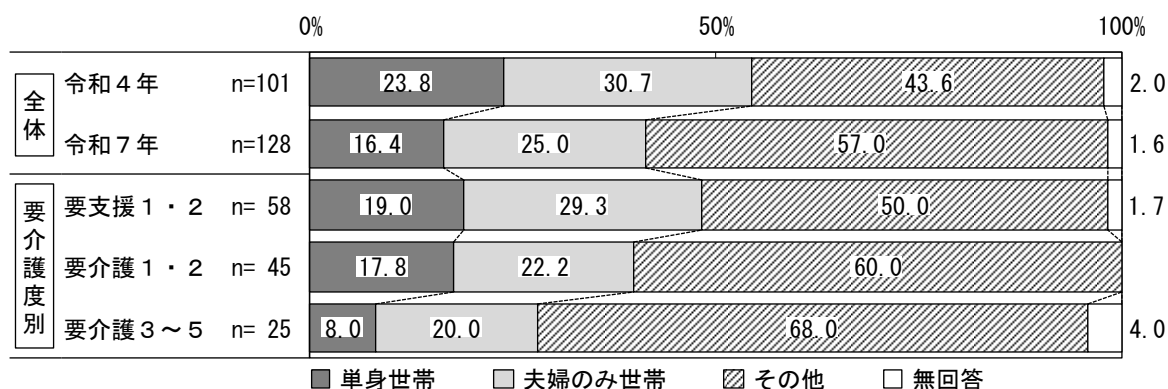
図3-4 要支援・要介護度



(5) 家族構成

- 調査対象者の家族構成は、子どもとの同居世帯を含む「その他」が57.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(25.0%)、「単身世帯」(16.4%)となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「その他」が上昇し、「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」が低下しています。
- 要支援・要介護度別にみると、重度化にしたがい「その他」が上昇し、「単身世帯」及び「夫婦のみ世帯」が低下しています。

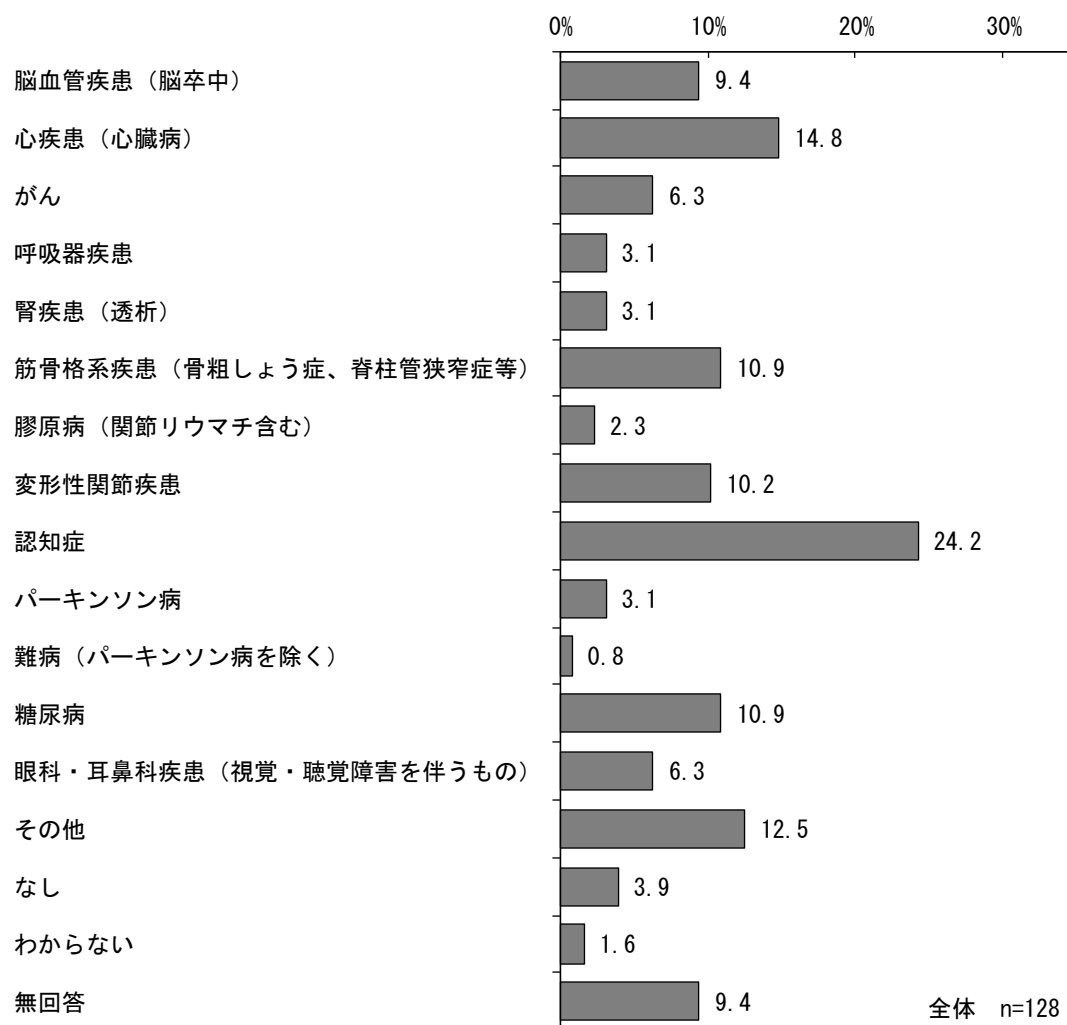
図3-5 家族構成



(6) 現在抱えている傷病

■現在抱えている傷病は「認知症」が24.2%と最も高く、次いで「心疾患（心臓病）」（14.8%）、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」及び「糖尿病」（10.9%）の順となっています。

図3-6 現在抱えている傷病（複数回答）



■要支援・要介護度別にみると、要支援1・2は「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が、要介護1～5は「認知症」がそれぞれ最も高くなっています。

■「その他」として図3-8の内容が記載されていました。

図３－７ 現在抱えている傷病（要介護度別、複数回答）

単位：nは人、他は%

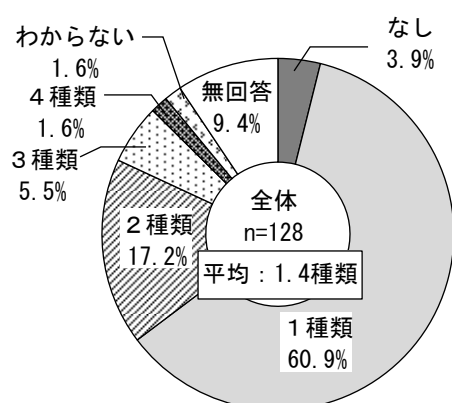
区 分	要介護度別		
	要支援１・２	要介護１・２	要介護３～５
n	58	45	25
脳血管疾患（脳卒中）	8.6	4.4	20.0
心疾患（心臓病）	13.8	15.6	16.0
悪性新生物（がん）	8.6	2.2	8.0
呼吸器疾患	5.2	2.2	－
腎疾患（透析）	3.4	4.4	－
筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	20.7	－	8.0
膠原病（関節リウマチ含む）	3.4	－	4.0
変形性関節疾患	13.8	8.9	4.0
認知症	1.7	46.7	36.0
パーキンソン病	5.2	－	4.0
難病（パーキンソン病を除く）	1.7	－	－
糖尿病	8.6	15.6	8.0
眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	6.9	8.9	－
その他	15.5	11.1	8.0
なし	6.9	2.2	－
わからない	1.7	2.2	－
無回答	5.2	13.3	12.0

図３－８ 現在抱えている傷病（その他、複数回答）

・骨折 ２件	・神経痛	・下肢静脈瘤
・脾臓に石	・消化器疾患	・下肢筋力の低下
・敗血病の後遺症	・歯科	・サルコイドーシス
・精神疾患	・高血圧	・アレルギー

■ 現在抱えている傷病の数は「１種類」が60.9%と最も高く、次いで「２種類」（17.2%）、「３種類」（5.5%）、「４種類」（1.6%）の順となっています。１人あたりの傷病の平均数は1.4種類です。

図３－９ 現在抱えている傷病の数

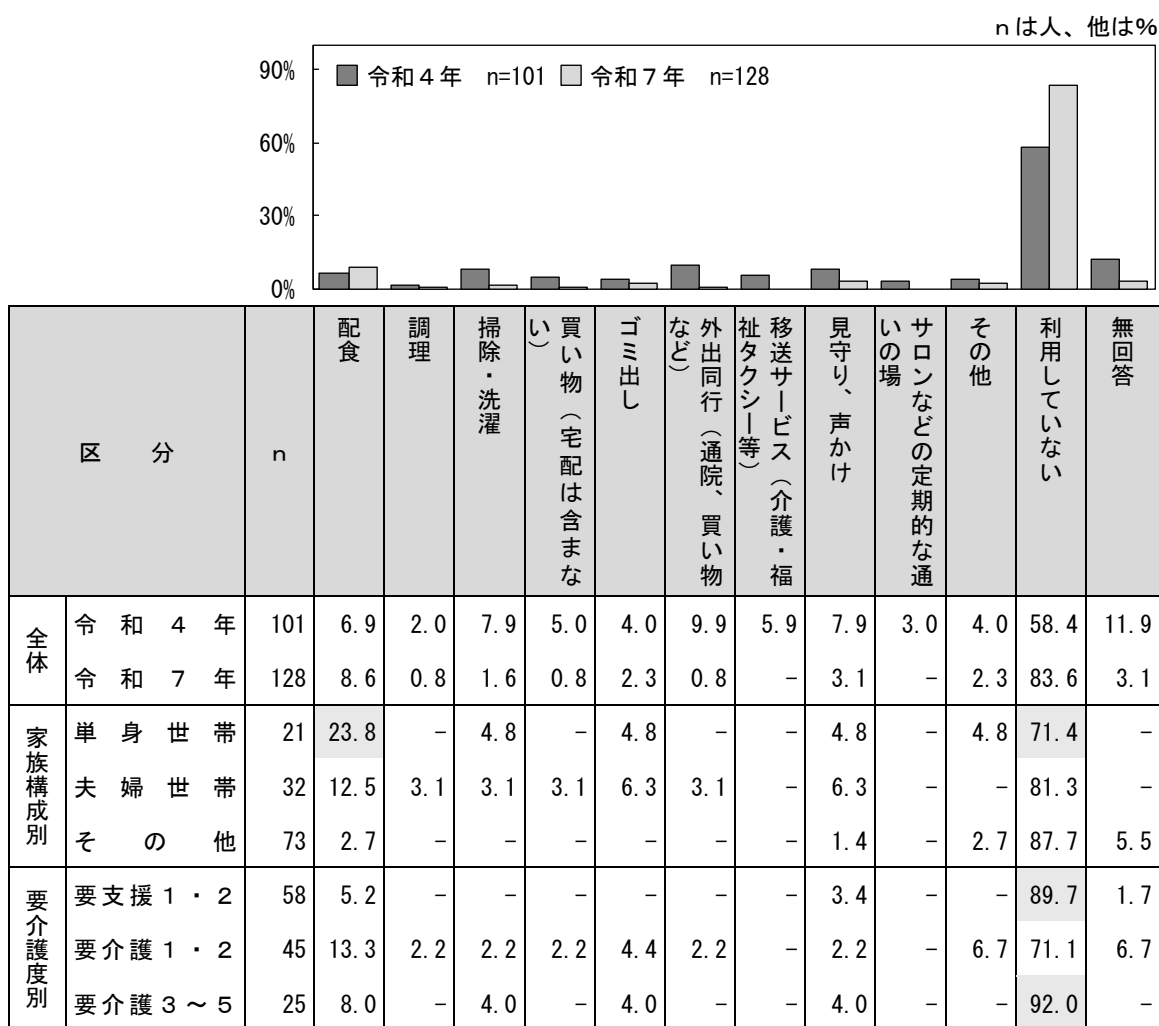


2 介護保険サービス等

(1) 現在、利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

- 現在、利用している介護保険サービス以外の支援・サービスをたずねたところ、「利用していない」が83.6%を占めており、次いで、「配食」（8.6%）、「見守り、声かけ」（3.1%）、「ゴミ出し」（2.3%）の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、全般的に低下し、「利用していない」が上昇しています。
- 家族構成別にみると、単身世帯はそれ以外の世帯に比べて「配食」が高く、「利用していない」が低くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要支援1・2及び要介護3～5は「利用していない」が90%程度を占めています。
- 「その他」として「医療保険で訪問看護師・医師」、「医療」、「ベッド自費レンタル」の記載がありました。

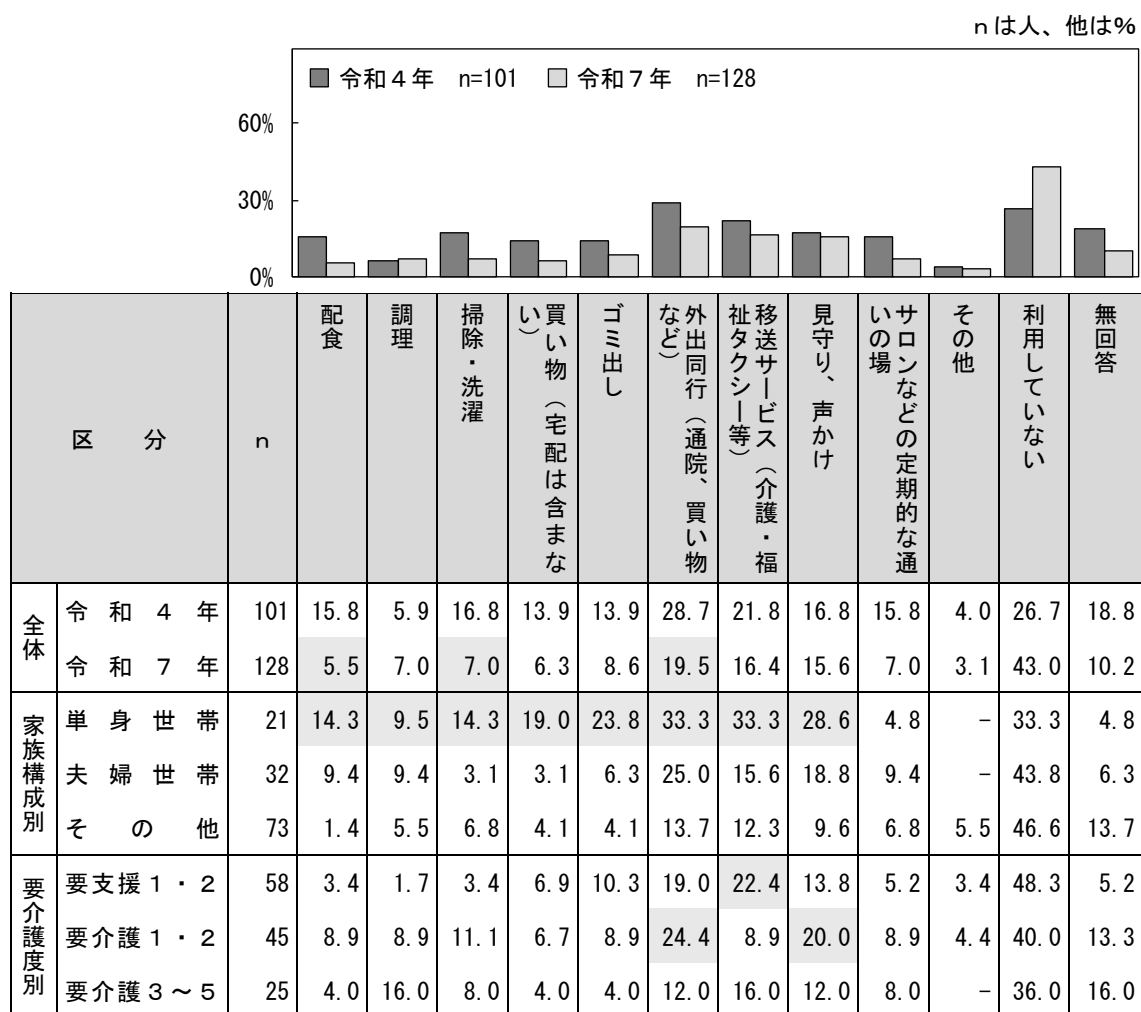
図表3-10 現在、利用している介護保険サービス以外の支援・サービス（複数回答）



(2) 在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービス

- 今後、在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービスをたずねたところ、「利用していない」が43.0%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」（19.5%）、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（16.4%）、「見守り、声かけ」（15.6%）の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、全般的に低下しており、特に「配食」、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」は10ポイント前後の差があります。
- 家族構成別にみると、単身世帯は全般的に高い傾向にあります。
- 要支援・要介護度別にみると、要支援1・2は「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が、要介護1・2は「外出同行（通院、買い物など）」及び「見守り、声かけ」がやや高い割合です。
- 「その他」として「デイサービス」（2件）、「一日のデイサービスがほしい」、「入浴」の記載がありました。

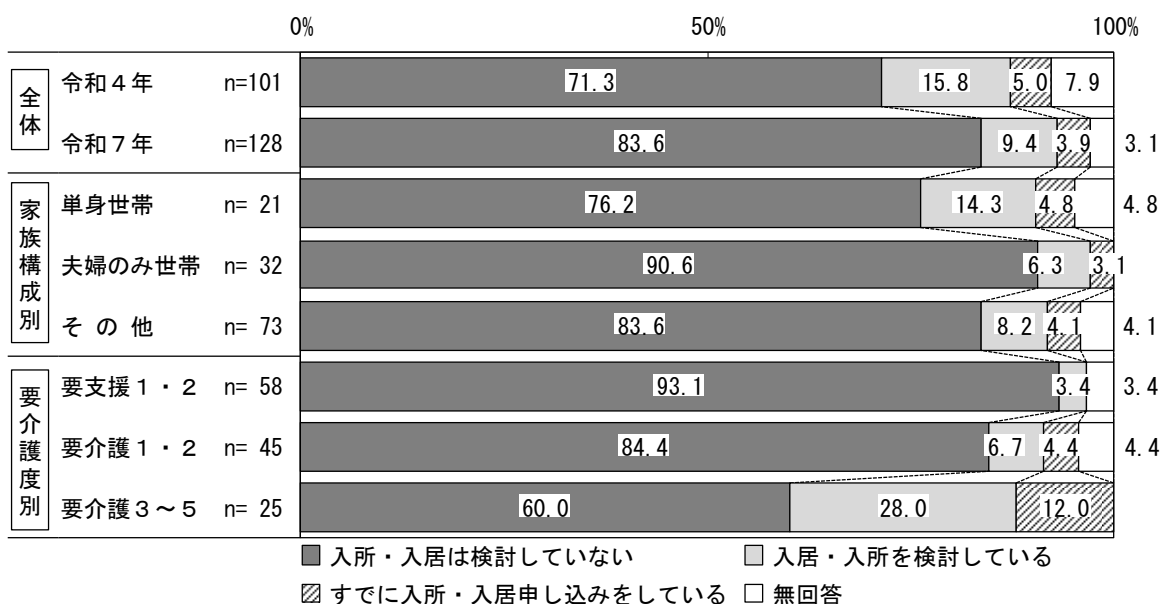
図表3-11 在宅生活の継続に必要だと感じる支援・サービス（複数回答）



(3) 施設入所の検討状況

- 施設入所の検討状況をたずねたところ、「入所・入居は検討していない」が83.6%を占めており、次いで「入所・入居を検討している」(9.4%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(3.9%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「入所・入居は検討していない」が12.3ポイント高くなっています。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「入所・入居は検討していない」が90%を超えています。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護3～5は「入所・入居を検討している」が28.0%の高い割合です。

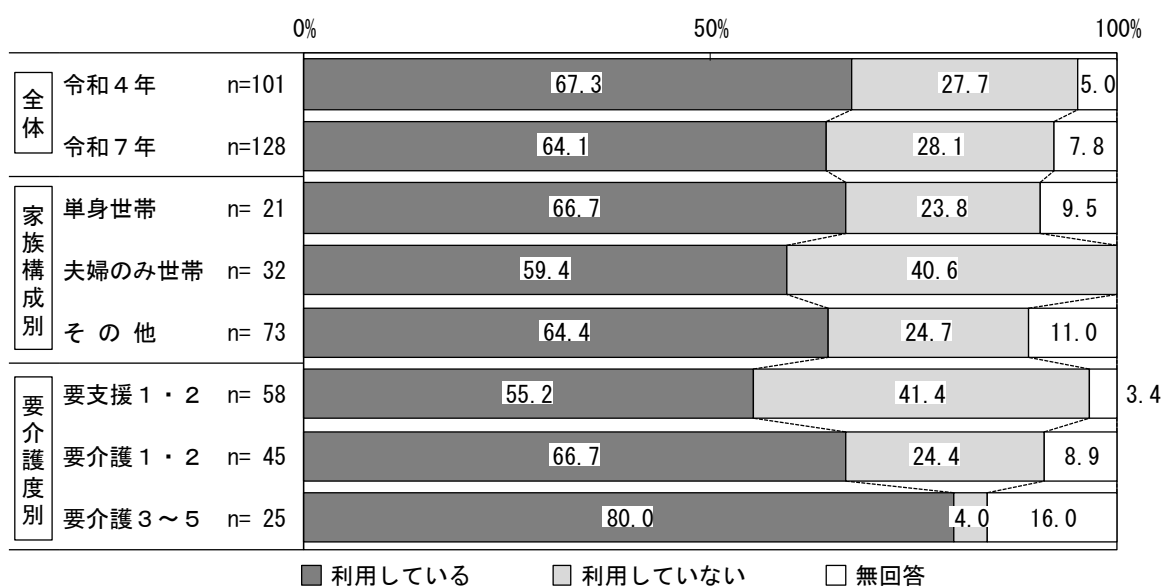
図表3-12 施設入所の検討状況



(4) 介護保険サービスの利用状況

- 介護保険サービスの利用率（「利用している」）は64.1%となっています。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯はそれ以外の世帯に比べて利用率がやや低くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率は上昇し、要介護3～5では80.0%を占めています。

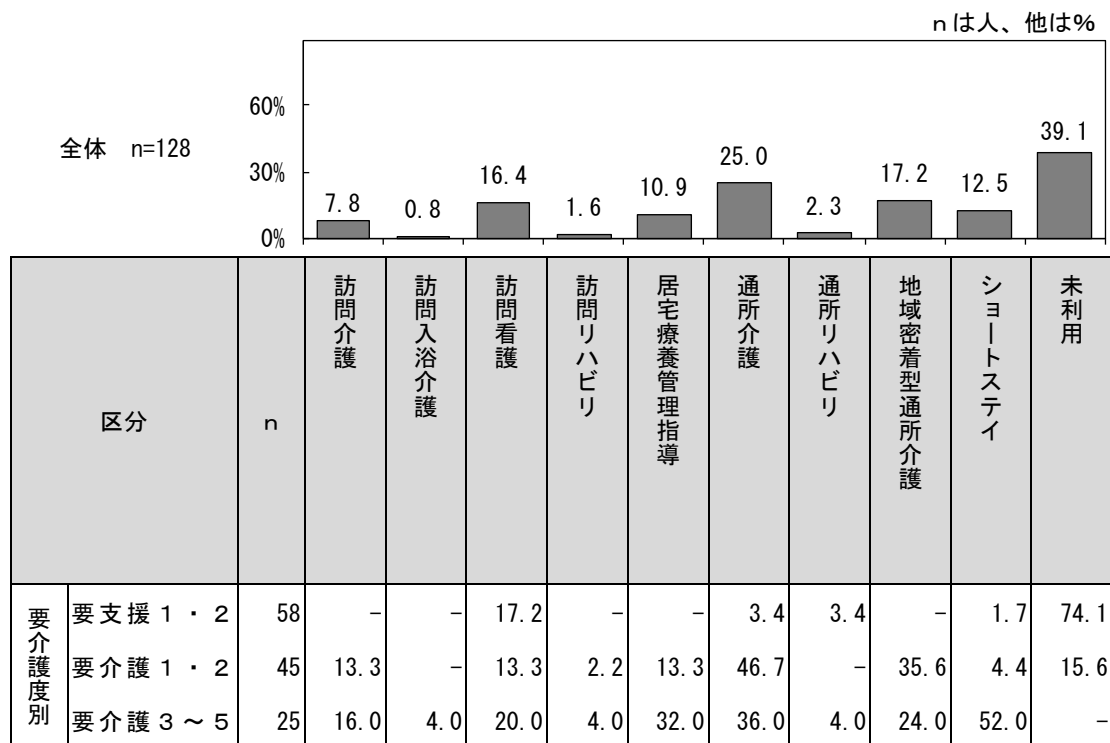
図表 3-13 介護保険サービスの利用状況



(5) 利用している介護保険サービス

■利用している介護保険サービスは、「通所介護」が25.0%と最も高く、次いで「地域密着型通所介護」（17.2%）、「訪問看護」（16.4%）、「ショートステイ」（12.5%）の順となっています。

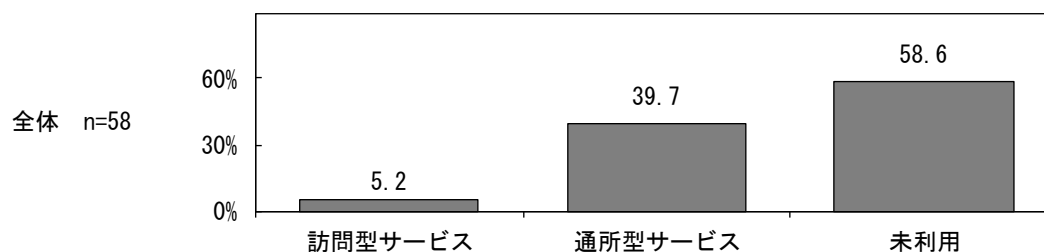
図表 3-14 利用している介護保険サービス（給付実績から算出）



(6) 利用している介護予防・日常生活支援総合事業

■要支援認定者が利用している介護予防・日常生活支援総合事業は「通所型サービス」が39.7%、「訪問型サービス」が5.2%となっています。

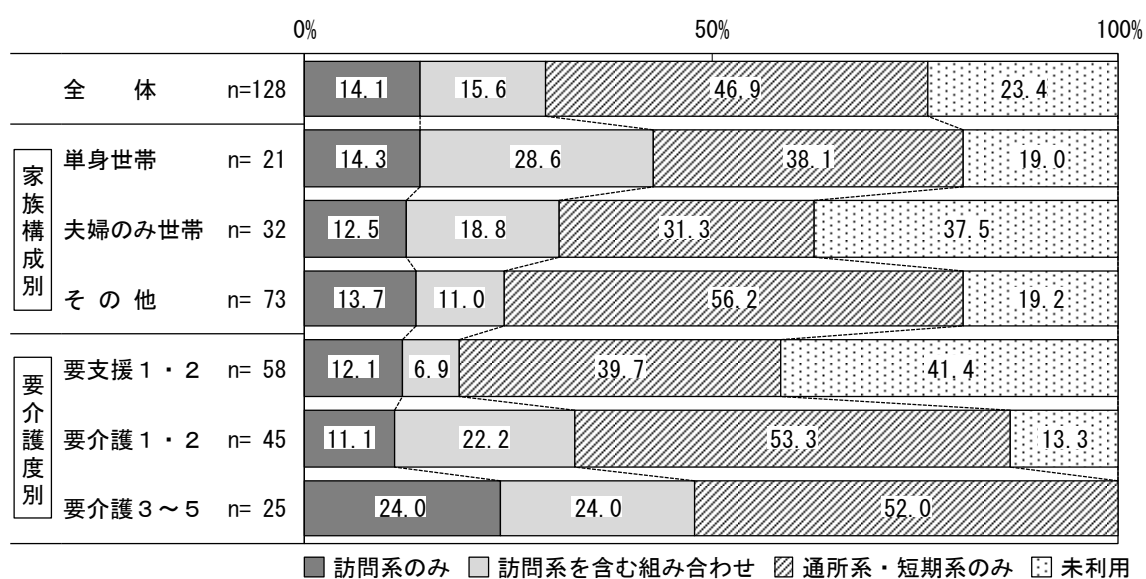
図表 3-15 利用している介護予防・日常生活支援総合事業（給付実績から算出）



(7) サービスの組み合わせ

- 利用している介護保険サービスの組み合わせは、「通所系・短期系のみ」が46.9%と最も高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」(15.6%)、「訪問系のみ」(14.1%)の順となっています。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「訪問系を含む組み合わせ」が、その他の世帯は「通所系・短期系のみ」が比較的高くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護1～5は「通所系・短期系のみ」が過半数を占めています。

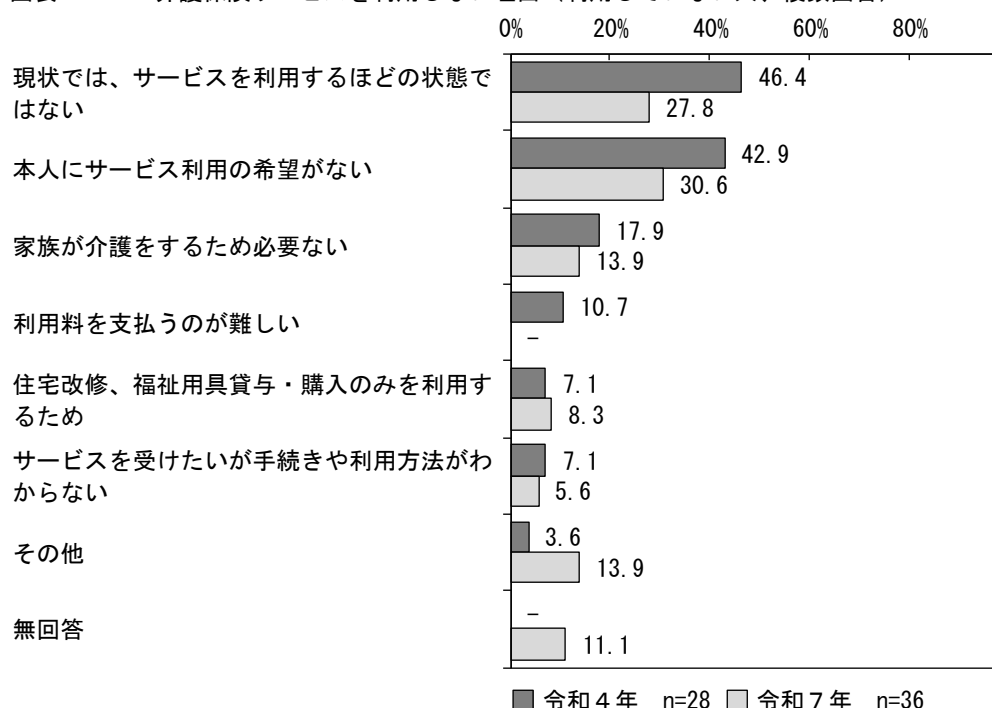
図表3-16 サービスの組み合わせ（給付実績から算出）



(8) 介護保険サービスを利用しない理由

- 介護保険サービスを利用していない人にその理由をたずねたところ、「本人にサービス利用の希望がない」が30.6%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(27.8%)、「家族が介護をするため必要ない」(13.9%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が18.6ポイント、「本人にサービス利用の希望がない」が12.3ポイント低下しています。
- 「その他」として図表3-18の内容が記載されていました。

図表3-17 介護保険サービスを利用しない理由（利用していない人、複数回答）



※「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用したいサービスが利用できない・身近にない」と回答した人はいませんでした。

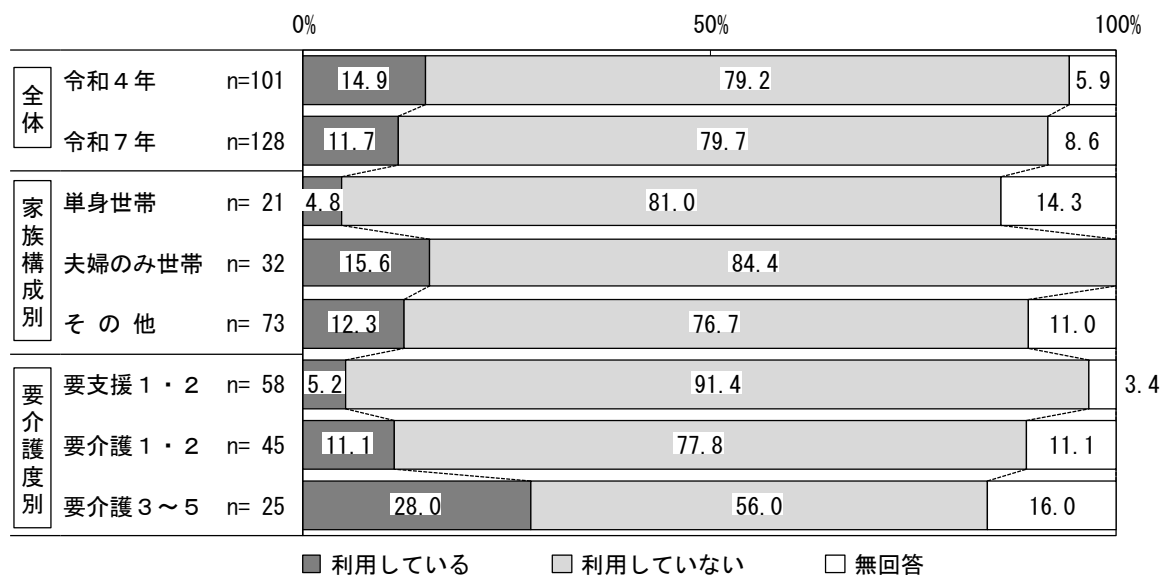
図表3-18 介護保険サービスを利用しない理由（その他、利用していない人、複数回答）

- ・入院中
- ・主介護者が、介護保険サービスを利用することで、他者からの提案を受けるのが苦手
- ・今後は通所や住宅改修を考える予定
- ・サービスを受けたいが、長時間拘束されるのが嫌
- ・住宅改修を考えていたが、夫の保険だったため、特になし

(9) 訪問診療の利用状況

- 訪問診療の利用率（「利用している」）は11.7%となっています。
- 要支援・要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率は上昇しています。

図表 3－19 訪問診療の利用状況

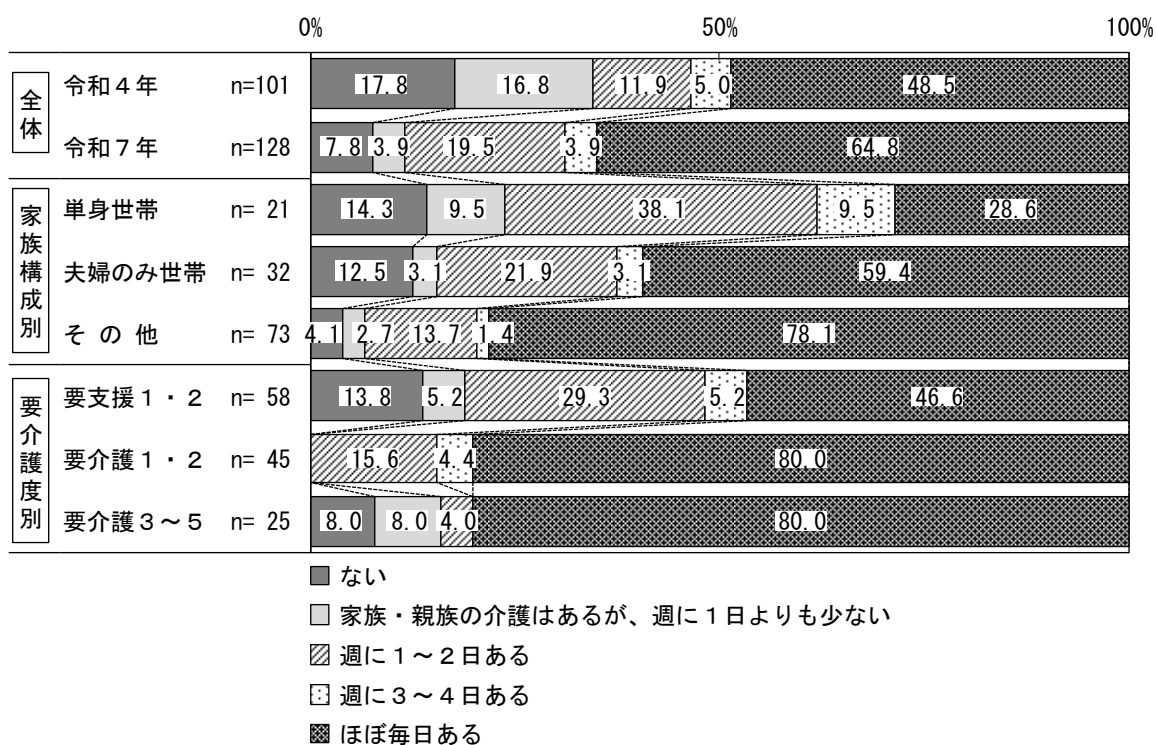


3 主な介護者の状況

(1) 家族・親族からの介護の頻度

- 家族や親族から介護をしてもらう日数をたずねたところ、「ほぼ毎日ある」が64.8%と最も高くなっており、次いで「週に1～2日ある」(19.5%)、「ない」(7.8%)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」及び「週に3～4日ある」(3.9%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「ほぼ毎日ある」が16.3ポイント高くなっています。
- 家族構成別にみると、単身世帯は「週に1～2日ある」が、夫婦のみ世帯及びその他の世帯は「ほぼ毎日ある」がそれぞれ最も高くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護1～5は「ほぼ毎日ある」が80.0%を占めています。

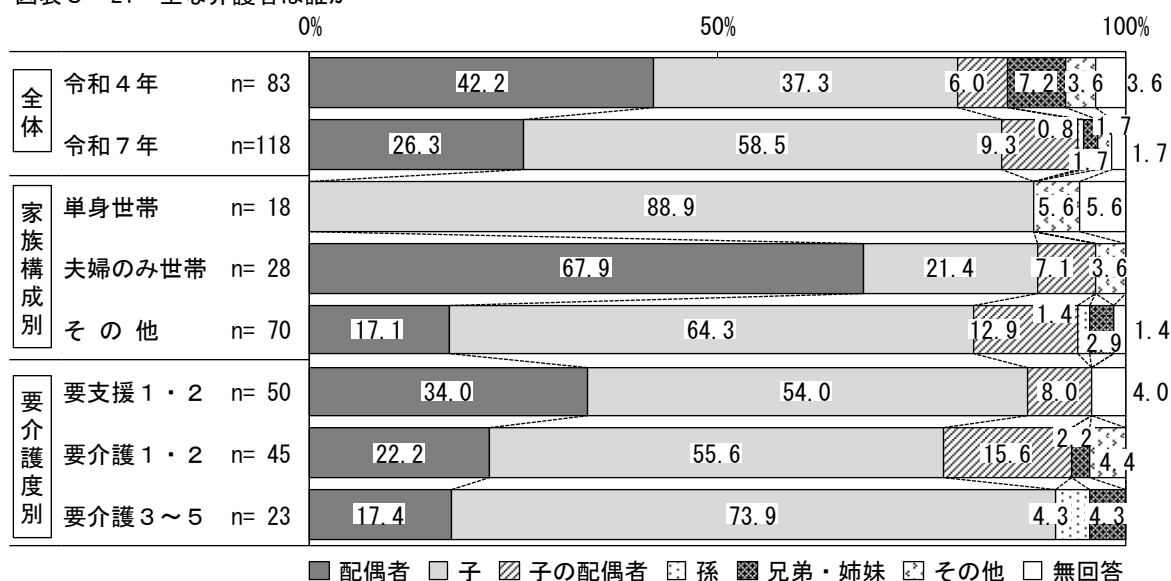
図表3-20 家族・親族からの介護の頻度



(2) 主な介護者は誰か

- 家族の中の主な介護者は「子」が58.5%と最も高く、次いで「配偶者」(26.3%)、「子の配偶者」(9.3%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「子」が上昇し、「配偶者」が低下しています。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「配偶者」が、単身世帯及びその他の世帯は「子」がそれぞれ最も高くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、重度化にしたがい「配偶者」が低下しています。また、要介護3～5は「子」が73.9%を占めています。

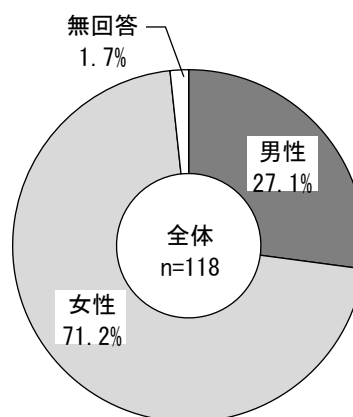
図表3-21 主な介護者は誰か



(3) 主な介護者の性別

- 主な介護者の性別は、「男性」が27.1%、「女性」が71.2%です。

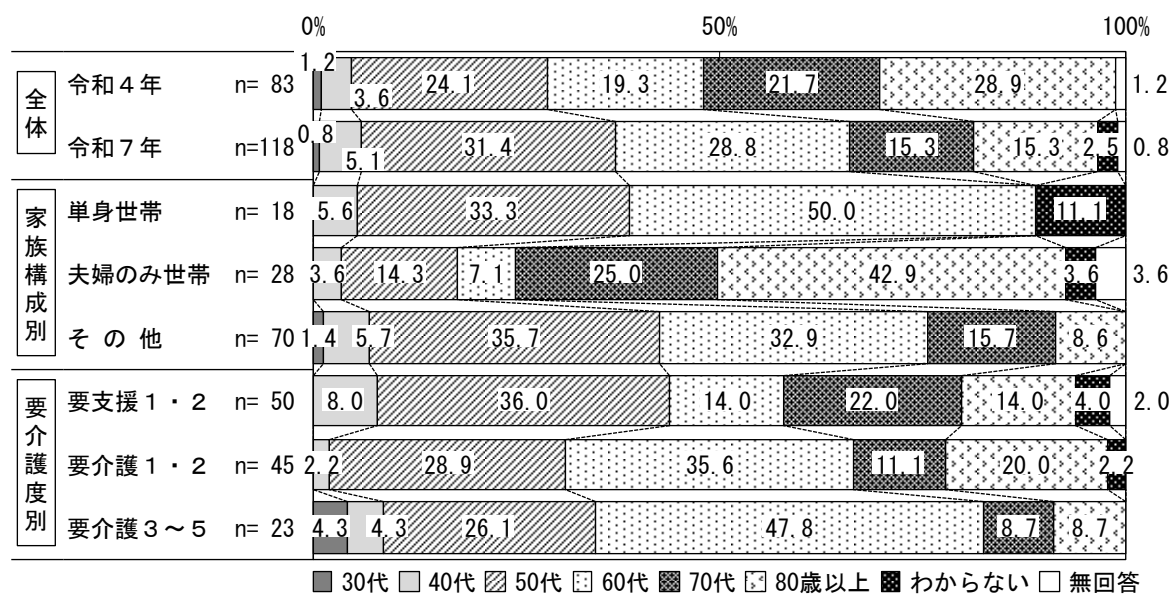
図表3-22 主な介護者の性別



(4) 主な介護者の年齢

- 主な介護者の年齢は、「50代」が31.4%と最も高く、次いで「60代」（28.8%）、「70代」及び「80歳以上」（15.3%）の順となっており、〈70歳以上〉が30.6%あります。
また、「20歳未満」、「20代」と回答した人はいませんでした。
- 令和4年度調査と比較すると、「50代」及び「60代」が上昇し、〈70歳以上〉が低下しています。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は〈70歳以上〉が67.9%を占めています。

図表3-23 主な介護者の年齢

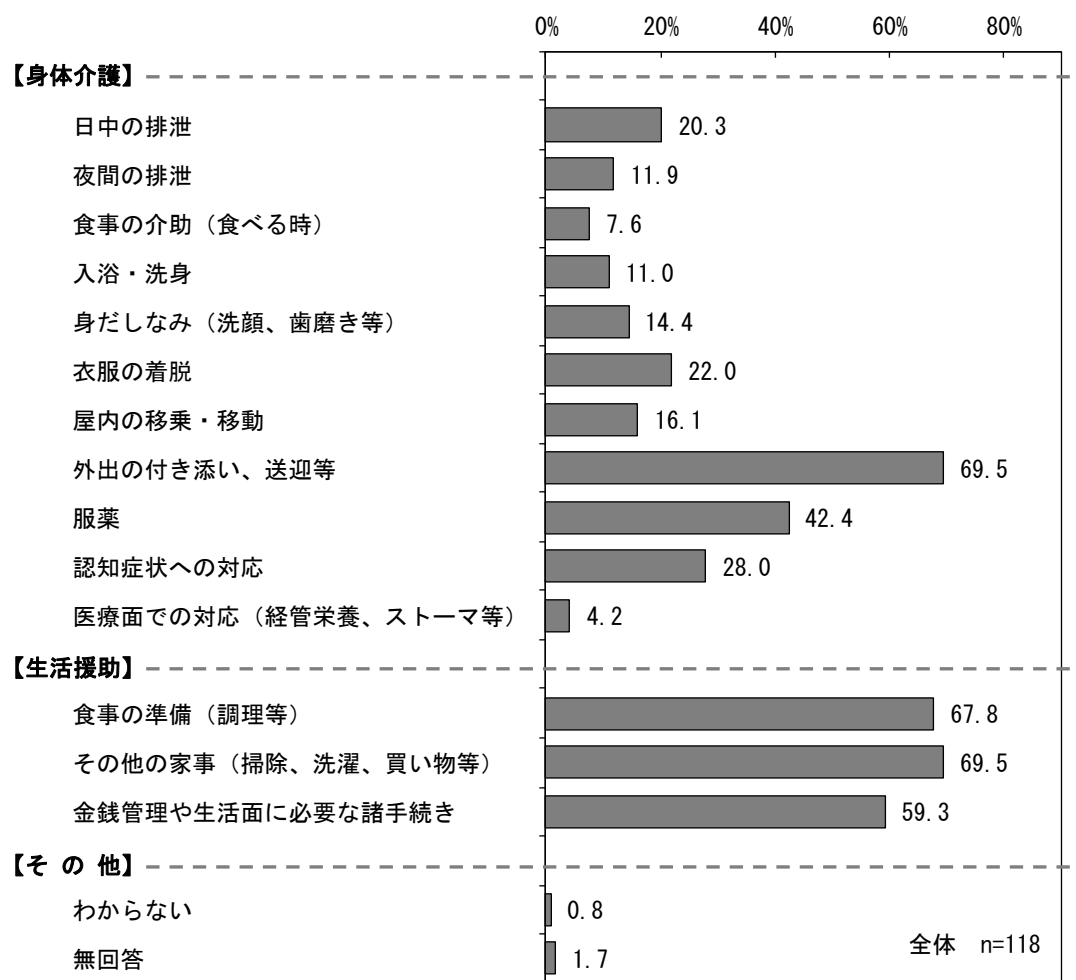


※「20歳未満」、「20代」と回答した人はいませんでした。

(5) 主な介護者が行っている介護

■主な介護者が行っている介護をたずねたところ、「外出の付き添い、送迎等」及び「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が69.5%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」（67.8%）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（59.3%）の順となっており、生活援助は全般的に高い割合です。

図表3-24 主な介護者が行っている介護（複数回答）



※「その他」と回答した人はいませんでした。

■要支援・要介護度別にみると、要支援１・２は「外出の付き添い、送迎等」が、要介護１・２は「食事の準備（調理等）」が、要介護３～５は「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がそれぞれ最も高くなっています。

図表３－25 主な介護者が行っている介護（要介護度別、複数回答）

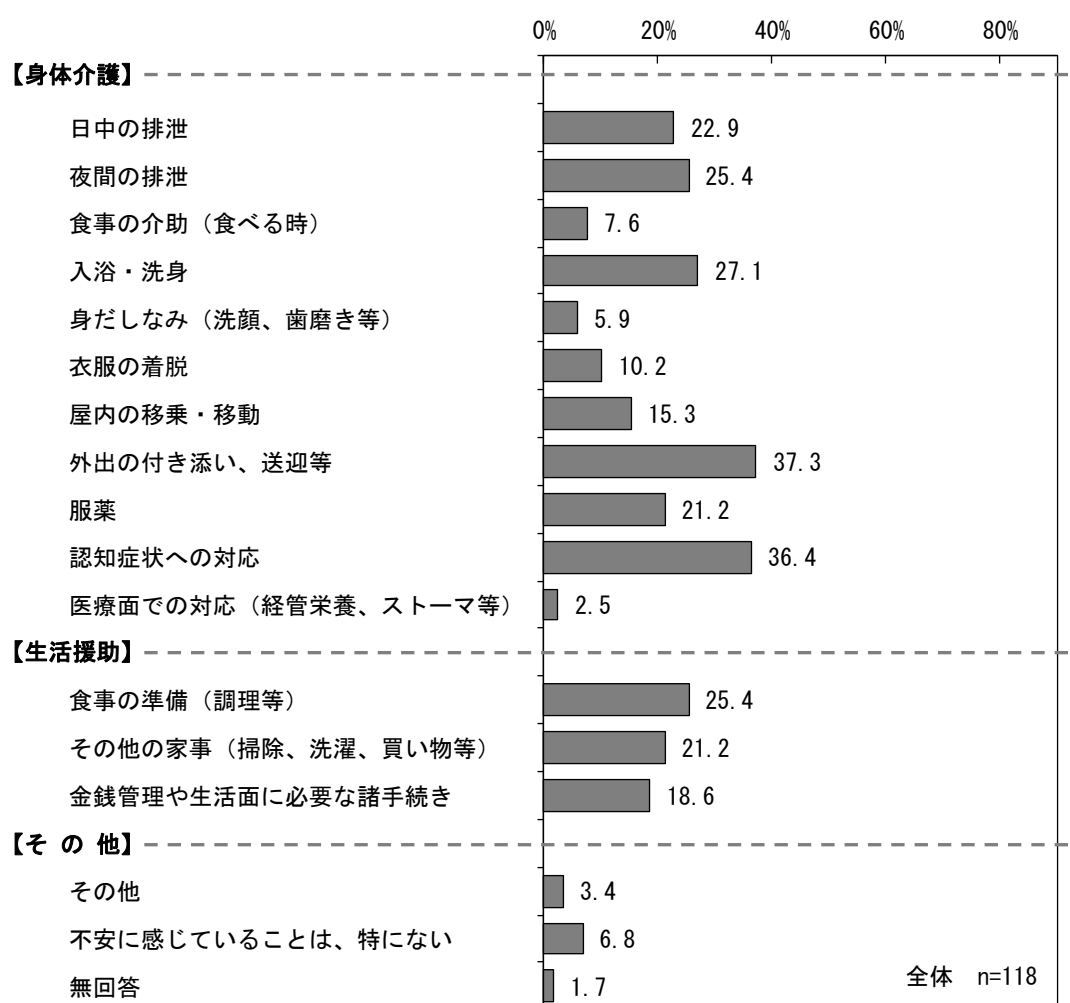
単位：nは人、他は%

区 分	要介護度別		
	要支援１・２	要介護１・２	要介護３～５
n	50	45	23
日中の排泄	6.0	11.1	69.6
夜間の排泄	－	4.4	52.2
食事の介助（食べる時）	2.0	2.2	30.4
入浴・洗身	4.0	15.6	17.4
身だしなみ（洗顔、歯磨き等）	－	15.6	43.5
衣服の着脱	8.0	15.6	65.2
屋内の移乗・移動	8.0	6.7	52.2
外出の付き添い、送迎等	70.0	68.9	69.6
服薬	14.0	62.2	65.2
認知症状への対応	4.0	46.7	43.5
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	2.0	2.2	13.0
食事の準備（調理等）	52.0	82.2	73.9
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	60.0	75.6	78.3
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	40.0	68.9	82.6
わからない	－	2.2	－
無回答	4.0	－	－

(6) 主な介護者が不安に感じる介護

■主な介護者が不安に感じる介護は「外出の付き添い、送迎等」が37.3%と最も高く、次いで「認知症状への対応」(36.4%)、「入浴・洗身」(27.1%)、「夜間の排泄」及び「食事の準備(調理等)」(25.4%)の順となっており、特に身体介護について不安を感じていることがうかがえます。

図表3-26 主な介護者が不安に感じる介護(3つまで)



※「主な介護者に確認しないと、わからない」と回答した人はいませんでした。

■要支援・要介護度別にみると、要支援１・２は「外出の付き添い、送迎等」が、要介護１・２は「認知症状への対応」が、要介護３～５は「夜間の排泄」がそれぞれ最も高く、いずれも過半数を占めています。

図表３－２７ 主な介護者が不安に感じる介護（要介護度別、３つまで）

単位：nは人、他は%

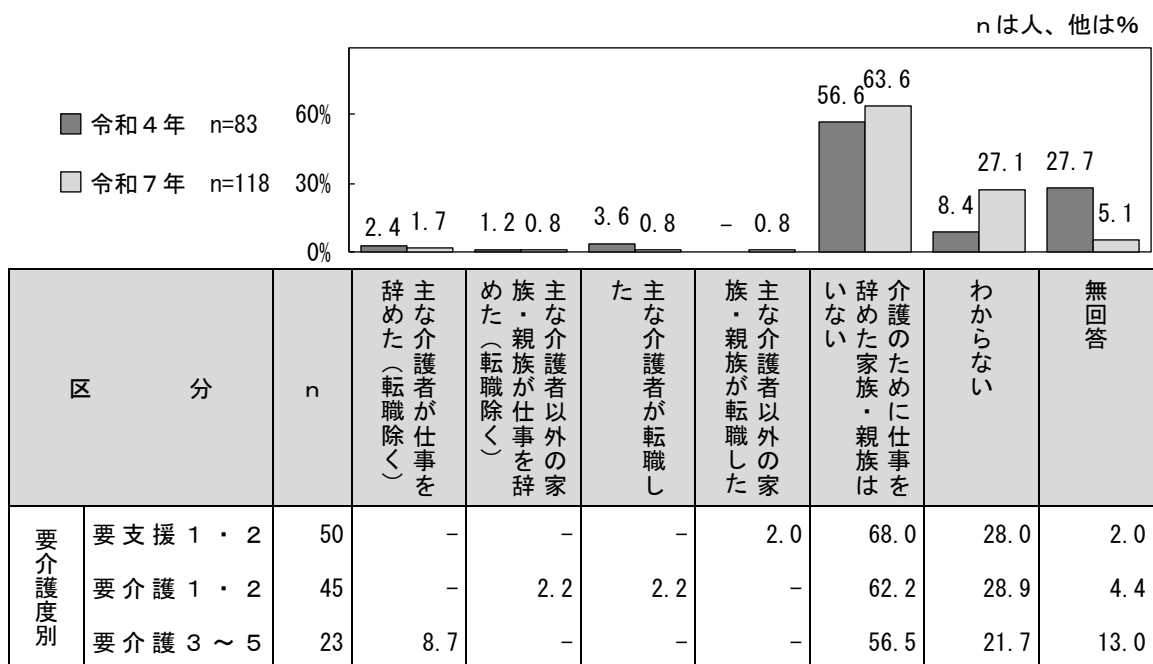
区 分	要介護度別		
	要支援１・２	要介護１・２	要介護３～５
n	50	45	23
日中の排泄	8.0	22.2	56.5
夜間の排泄	14.0	33.3	34.8
食事の介助（食べる時）	2.0	13.3	8.7
入浴・洗身	32.0	26.7	17.4
身だしなみ（洗顔、歯磨き等）	2.0	8.9	8.7
衣服の着脱	10.0	8.9	13.0
屋内の移乗・移動	18.0	13.3	13.0
外出の付き添い、送迎等	50.0	31.1	21.7
服薬	10.0	40.0	8.7
認知症状への対応	16.0	60.0	34.8
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	2.0	2.2	4.3
食事の準備（調理等）	22.0	28.9	26.1
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	28.0	17.8	13.0
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	10.0	26.7	21.7
その他	2.0	6.7	－
不安に感じていることは、特にない	10.0	4.4	4.3
無回答	2.0	－	4.3

4 介護と仕事の両立

(1) 介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人があるか

- 介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人があるかたずねたところ、
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が63.6%を占めており、次いで「主
な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（1.7%）の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が7.0
ポイント高くなっています。

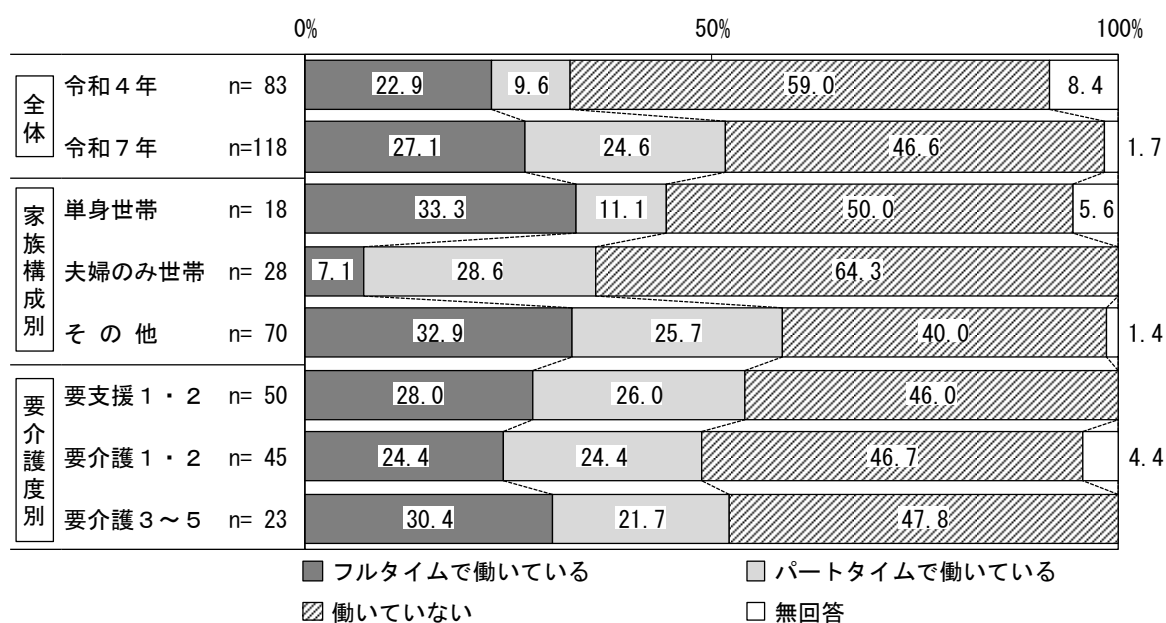
図表3-28 介護のために、過去1年間に仕事を辞めたまたは転職した人があるか（複数回答）



(2) 主な介護者の勤務状況

- 主な介護者の勤務状況をたずねたところ、「フルタイムで働いている」が27.1%、「パートタイムで働いている」が24.6%となっており、これらを合計した〈仕事と介護を両立〉が51.7%です。
- 令和4年度調査と比較すると、〈仕事と介護を両立〉が19.2ポイント高くなっています。
- 家族構成別にみると、その他の世帯はそれ以外の世帯に比べて〈仕事と介護を両立〉が高くなっています。

図表3-29 主な介護者の勤務状況

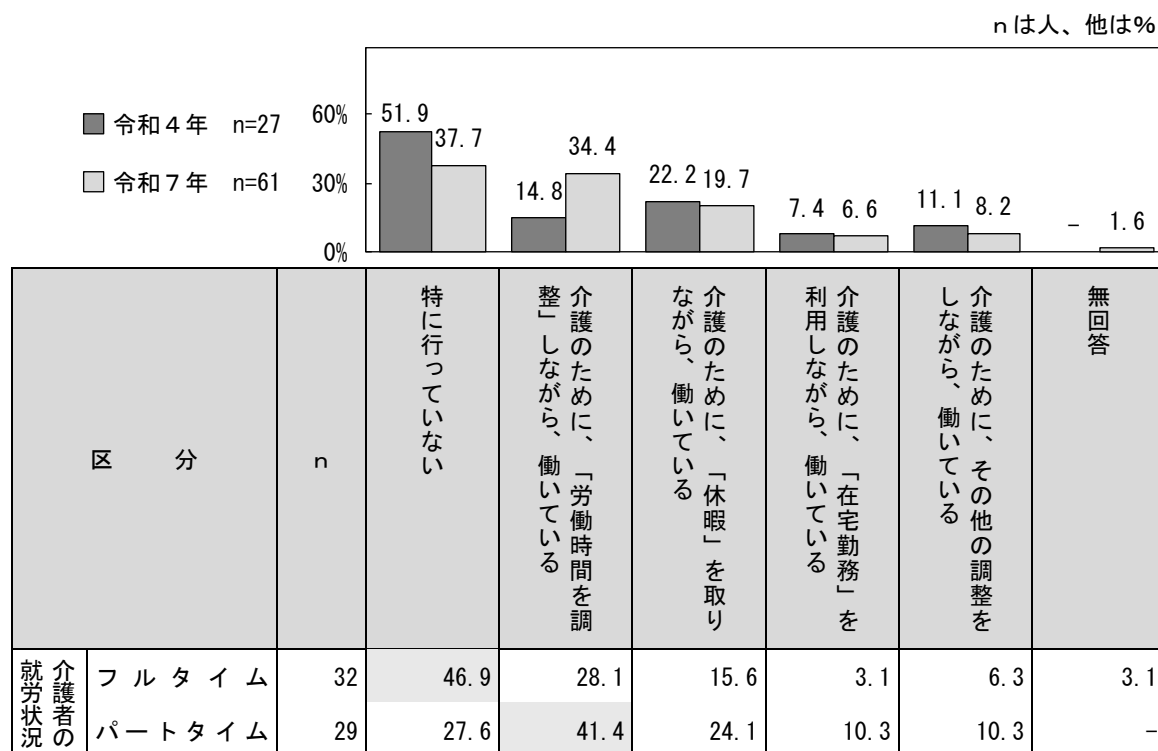


※「主な介護者に確認しないと、わからない」と回答した人はいませんでした。

(3) 介護をするにあたり、働き方の調整をしているか

- 現在働いている主な介護者に、介護をするにあたって、働き方の調整をしているかたずねたところ、「特に行っていない」が37.7%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」(34.4%)、「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」(19.7%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が高く、「特に行っていない」が低くなっています。
- 介護者の就労状況別にみると、フルタイムはパートタイムに比べて「特に行っていない」が、パートタイムはフルタイムに比べて「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が高くなっています。

図表3-30 介護をするにあたり、働き方の調整をしているか（介護者が就労している人、複数回答）

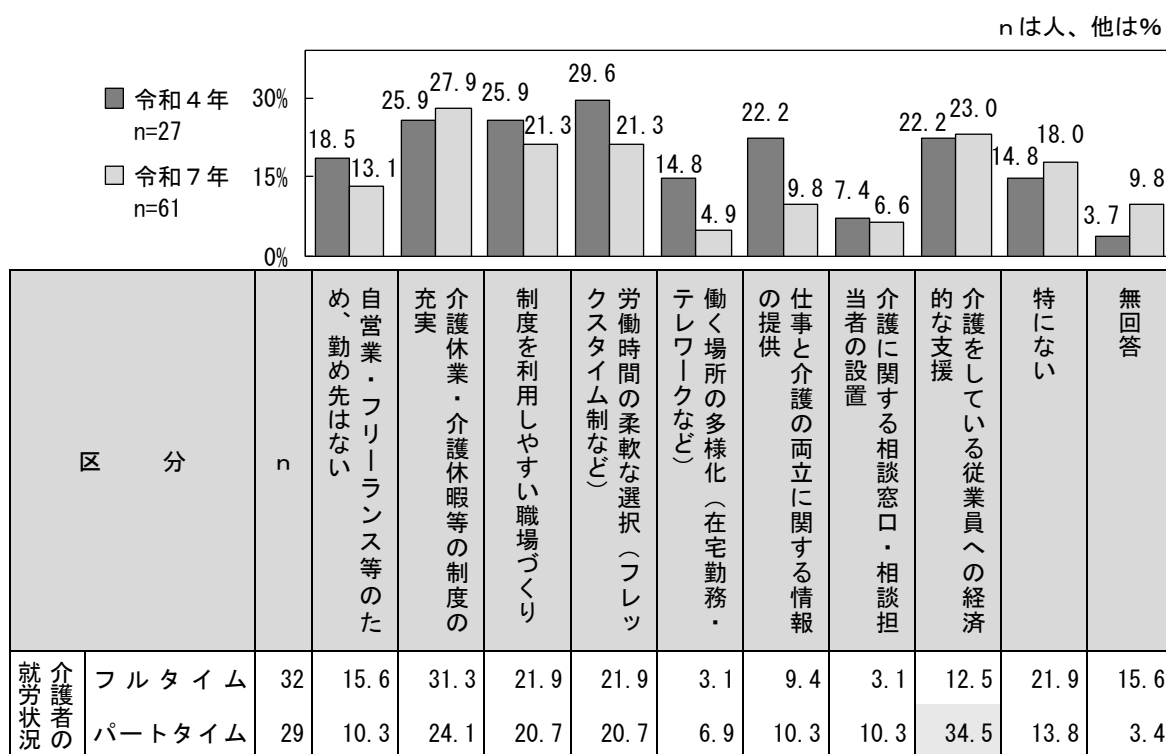


※「主な介護者に確認しないと、わからない」と回答した人はいませんでした。

(4) 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援

- 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援をたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が27.9%と最も高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」(23.0%)、「制度を利用しやすい職場づくり」及び「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」(21.3%)の順となっています。
- 令和4年度調査と比較すると、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が12.4ポイント低くなっています。
- 主な介護者の就労状況別にみると、パートタイムはフルタイムに比べて「介護をしている従業員への経済的な支援」が22.0ポイント高くなっています。

図表3-31 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援（介護者が就労している人、3つまで）

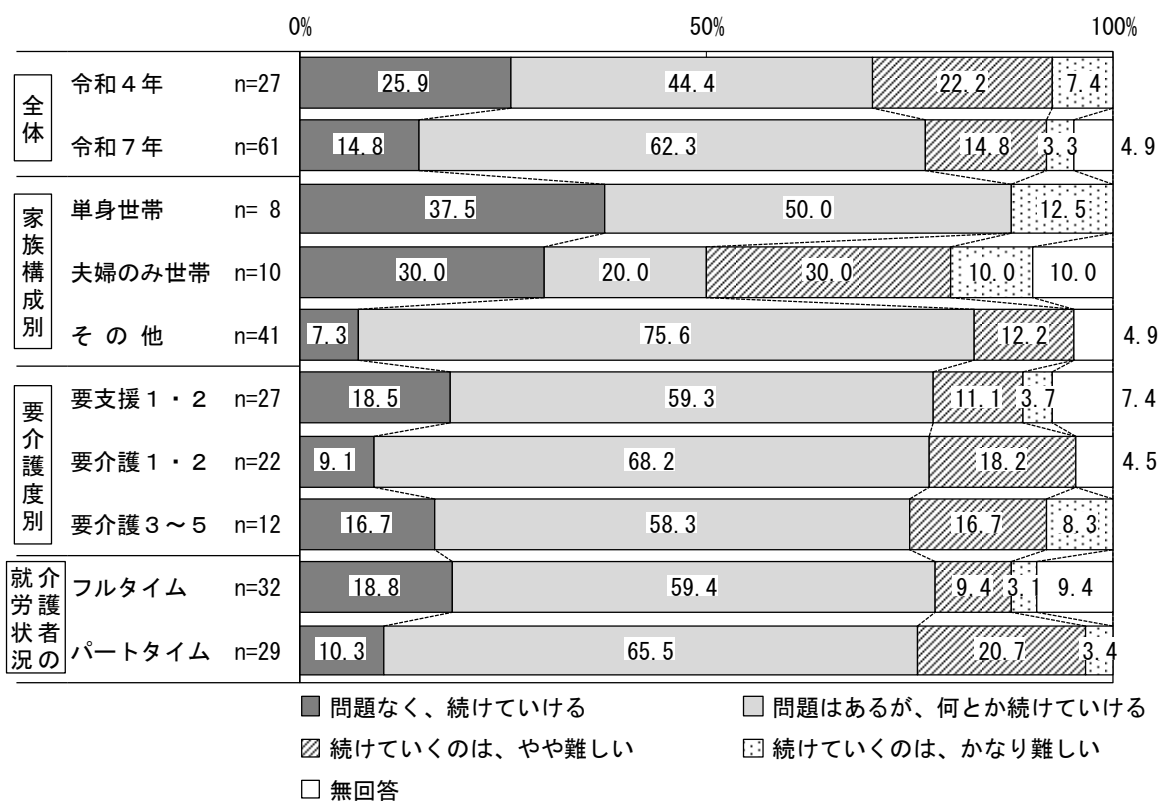


※「その他」、「主な介護者に確認しないと、わからない」と回答した人はいませんでした。

(5) 主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか

- 現在働いている主な介護者に、今後も働きながら介護を続けていけそうかたずねたところ、「続けていくのは、やや難しい」が14.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が3.3%となっており、これらを合計した〈両立は困難〉が18.1%です。
- 令和4年度調査と比較すると、〈両立は困難〉が10ポイント以上低くなっています。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は〈両立は困難〉が40.0%と高くなっています。
- 主な介護者の就労状況別にみると、パートタイムはフルタイムに比べて〈両立は困難〉が10ポイント以上高くなっています。

図表3-32 主な介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか（介護者が就労している人）



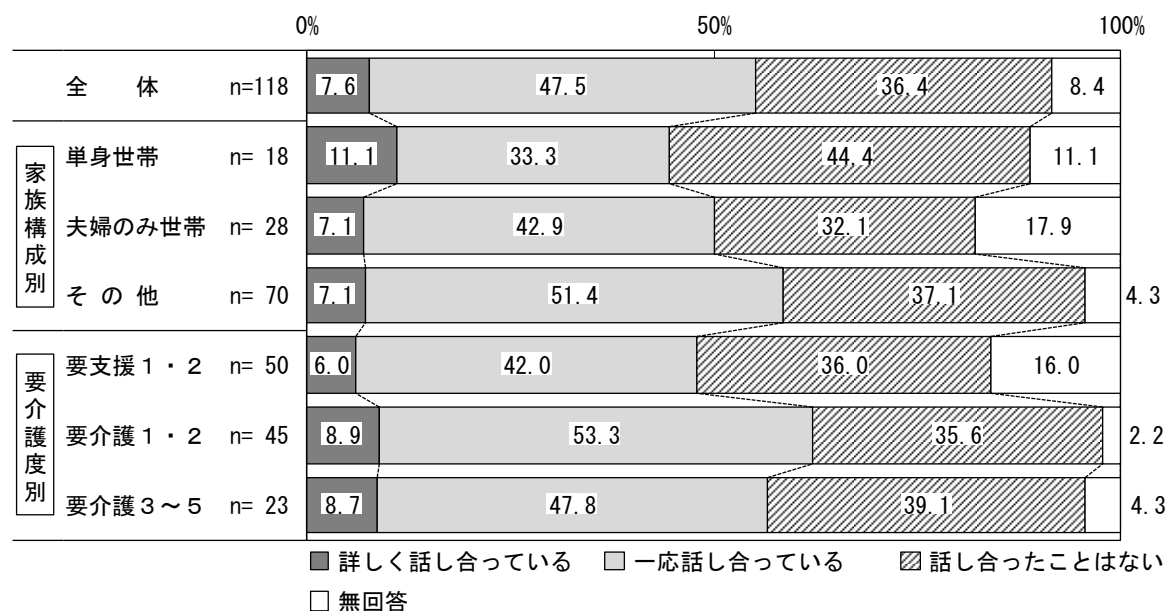
※「主な介護者に確認しないと、わからない」と回答した人はいませんでした。

5 多治見市の高齢者保健福祉施策

(1) 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか

- 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているかたずねたところ、「一応話し合っている」が47.5%と最も高く、次いで「話し合ったことはない」(36.4%)、「詳しく話し合っている」(7.6%)の順となっています。
- 家族構成別にみると、その他の世帯はそれ以外の世帯に比べて「一応話し合っている」が51.4%の高い割合です。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護1・2は「一応話し合っている」が53.3%の比較的高い割合です。

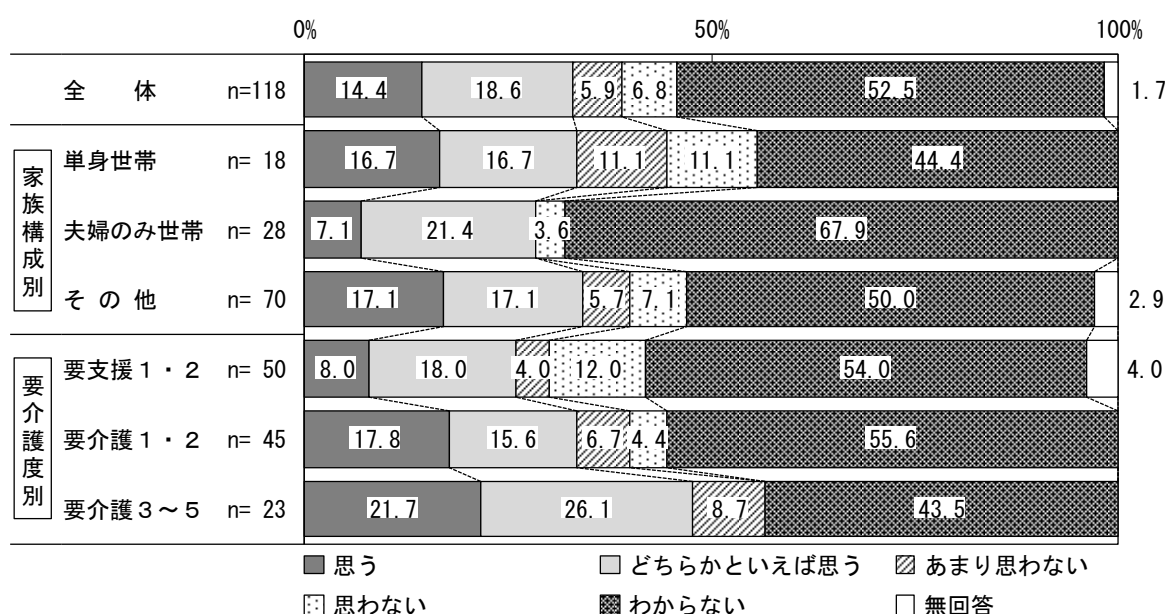
図表3-33 人生の最終段階に望む医療・ケアについて家族や医療関係者と話し合っているか



(2) 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか

- 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちだと思うかたずねたところ、「わからない」が52.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば思う」（18.6%）、「思う」（14.4%）の順となっており、「思う」と「どちらかといえば思う」を合計した〈思う〉が33.0%、「あまり思わない」（5.9%）と「思わない」（6.8%）を合計した〈思わない〉が12.7%となっています。
- 〈思う〉は、家族構成別にみると、夫婦のみ世帯はそれ以外の世帯に比べてやや低くなっています。また、要支援・要介護度別にみると、重度化にしたがい上昇しています。

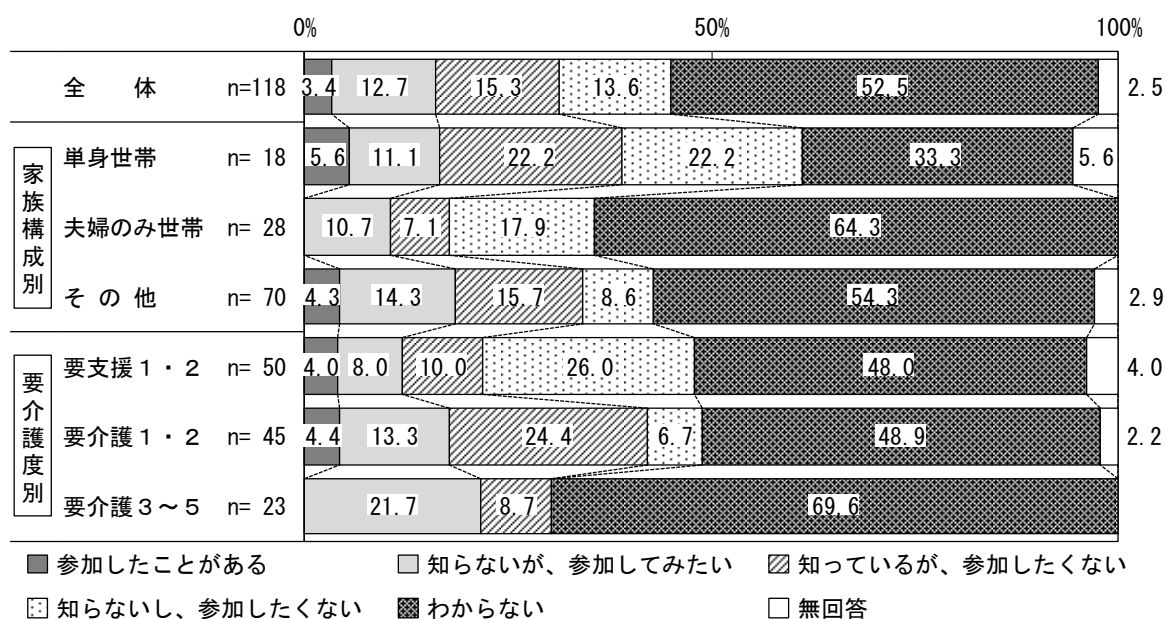
図表3-34 多治見市は、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らせるまちか



(3) 認知症カフェへの参加意向

- 認知症カフェへの参加意向をたずねたところ、「わからない」が52.5%と最も高く、次いで「知っているが、参加したくない」(15.3%)、「知らないが、参加してみたい」(12.7%)、「知らないが、参加してみたい」(12.7%)、「参加したことがある」(3.4%)の順となっています。
- 「参加したことがある」と「知っているが、参加したくない」を合計した〈認知度〉は18.7%、「参加したことがある」と「知らないが、参加してみたい」を合計した〈参加意向〉は16.1%です。
- 家族構成別にみると、夫婦のみ世帯はそれ以外の世帯に比べて〈認知度〉、〈参加意向〉ともに低くなっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護1・2は〈認知度〉が28.8%の比較的高い割合です。

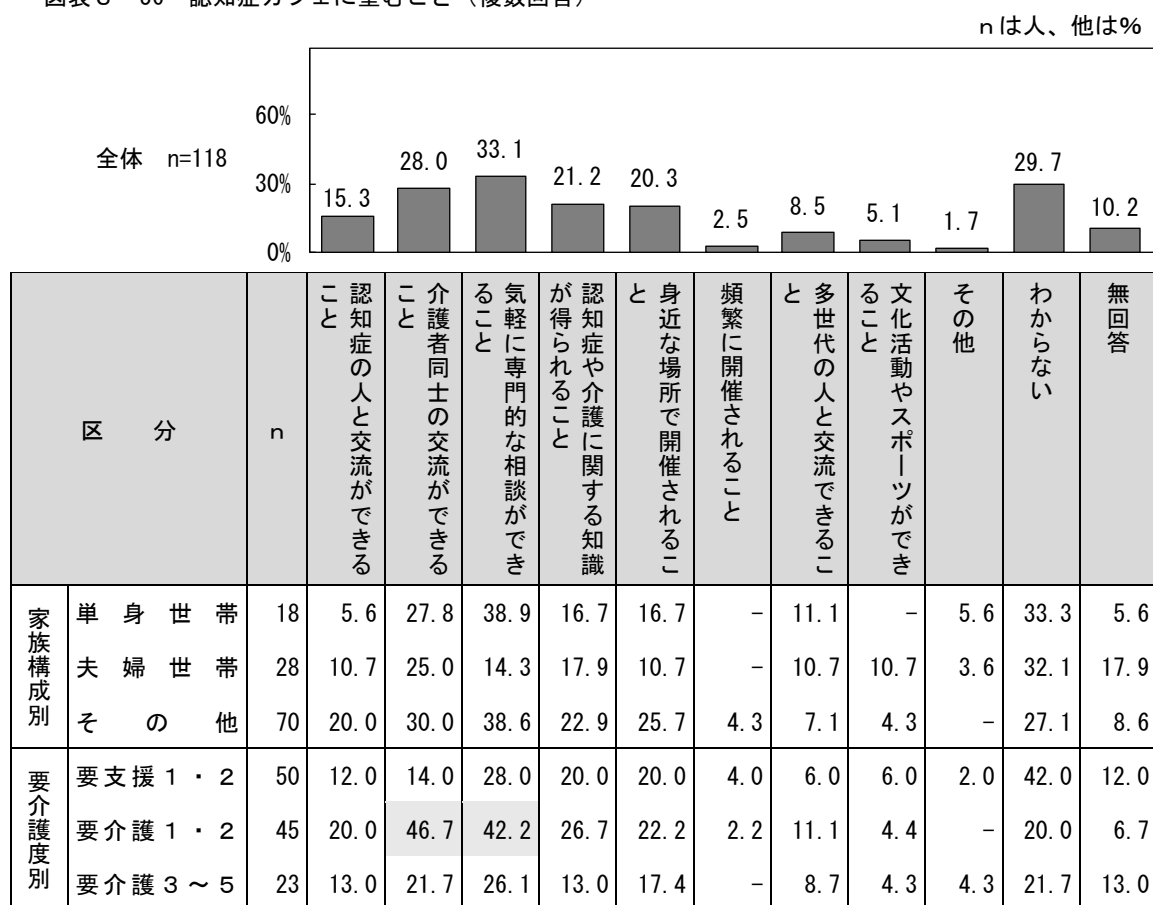
図表3-35 認知症カフェへの参加意向



(4) 認知症カフェに望むこと

- 認知症カフェにどのようなことを望むかたずねたところ、「気軽に専門的な相談ができること」が33.1%と最も高く、次いで「介護者同士の交流ができること」(28.0%)、「認知症や介護に関する知識が得られること」(21.2%)の順となっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要介護1・2は全般的に高い傾向にあり、特に「介護者同士の交流ができること」及び「気軽に専門的な相談ができること」は40%以上となっています。
- 「その他」として「介護職員を増やす。働きやすい環境整備」、「偏見の改善」の記載がありました。

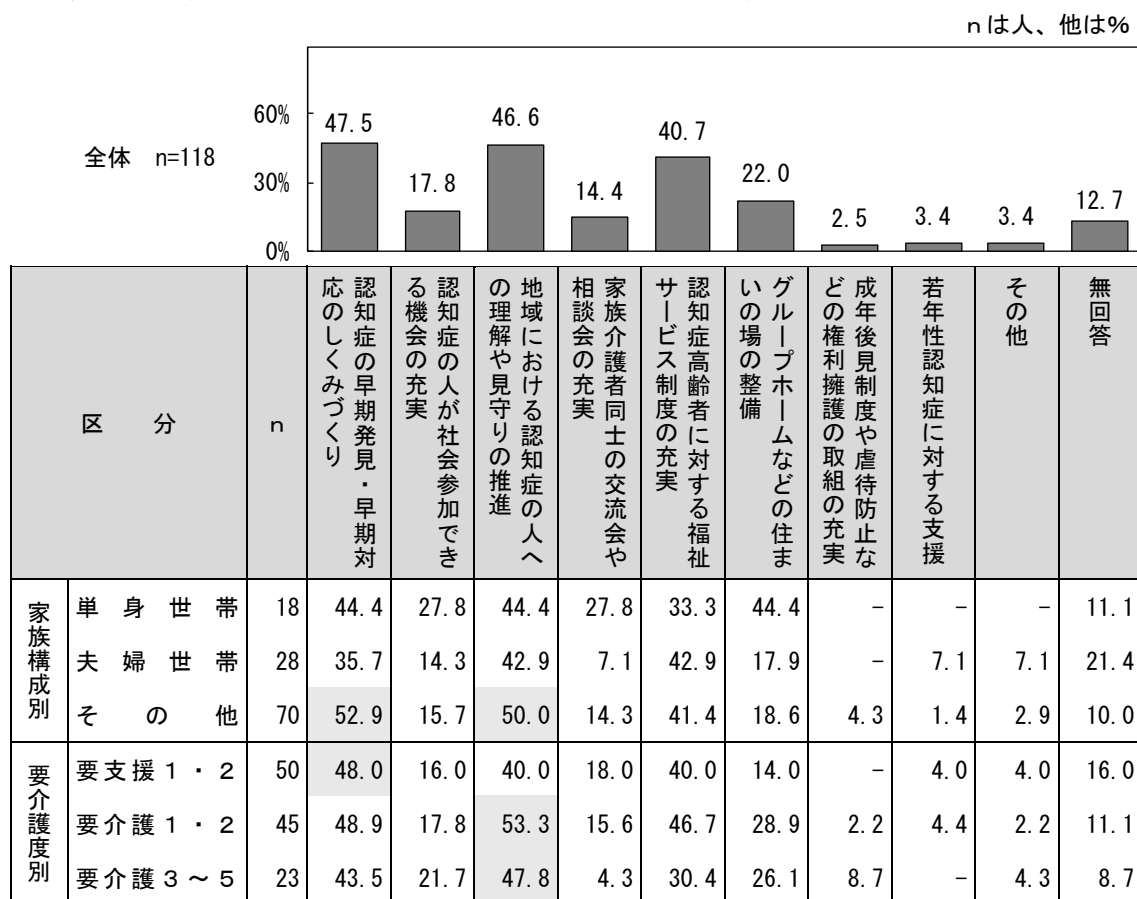
図表3-36 認知症カフェに望むこと（複数回答）



(5) 認知症の人が自分らしく、地域で生活するために必要なこと

- 認知症の人が自分らしく、地域で生活するために必要なことをたずねたところ、「認知症の早期発見・早期対応のしくみづくり」が47.5%と最も高く、次いで「地域における認知症の人への理解や見守りの推進」(46.6%)、「認知症高齢者に対する福祉サービス制度の充実」(40.7%)などの順となっています。
- 家族構成別にみると、その他の世帯は「認知症の早期発見・早期対応のしくみづくり」及び「地域における認知症の人への理解や見守りの推進」が50%以上の高い割合となっています。
- 要支援・要介護度別にみると、要支援1・2は「認知症の早期発見・早期対応のしくみづくり」が、要介護1～5は「地域における認知症の人への理解や見守りの推進」がそれぞれ最も高くなっています。

図表3-37 認知症の人が自分らしく、地域で生活するために必要なこと（3つまで）



(6) 多治見市の高齢者福祉に関する意見

■多治見市の高齢者福祉に関する意見として図表３－３８の内容が記載されていました。

図表３－３８ 多治見市の高齢者福祉に関する意見

- ・ 老々介護について
- ・ 利用している範囲においては、充実していると思う
- ・ 高齢者の方ができるだけ自分で元気で過ごせる運動教室がたくさんあるといい
- ・ 高齢者の交通の便について改善してほしい
- ・ 高田町で一人暮らしをしていますが、交通の便が悪いので行動が決まってしまう、同じ年齢の方と交流がないので認知症が進んでいくのが早くなると思います
- ・ 介護施設や道具などの使用料の負担を軽減してほしい
- ・ 家族以外の人と話がしたいが、相手がいない。話し相手がほしい
- ・ 横断歩道を渡るとき、信号機があれば、安心して歩行できます。高齢者にとって階段を上るのは大変で無理だということを理解していただけると助かります。本人は視力障がい、夫は病気がある
- ・ 一人暮らしでも在宅での生活が継続できるようにサービスが多いとよい
- ・ 認知症について気楽に参加できる講演会など勉強する機会を設けてほしい。一般の人が気楽に使えるリハビリセンターがほしい。高齢者同士が関わるができる場がほしい

第 4 章

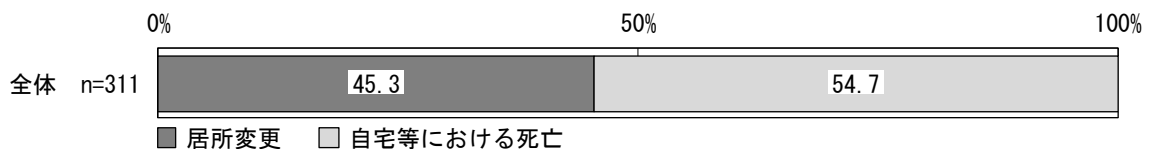
事業所調査

I 在宅生活改善調査

(1) 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合

- 過去1年間の自宅等からの居所変更と自宅等における死亡の割合をみると、「居所変更」が45.3%、「自宅等における死亡」が54.7%となっています。

図表4-1 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



(2) 過去1年間に自宅等から居所を変更した人の行先

- 過去1年間に自宅等から居所を変更した人の行先は、「住宅型有料老人ホーム」が29.8%と最も高く、次いで「介護老人福祉施設」(19.9%)、「介護老人保健施設」(11.3%)の順となっています。
- また、141人のうち129人(91.5%)が多治見市内で居所を変更しています。

図表4-2 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先

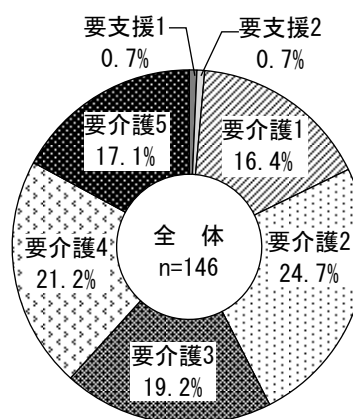
単位：人(%)

行 先	多治見市内	多治見市外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	3 (2.1)	3 (2.1)	6 (4.3)
住宅型有料老人ホーム	38 (27.0)	4 (2.8)	42 (29.8)
軽費老人ホーム	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
サービス付き高齢者向け住宅	10 (7.1)	2 (1.4)	12 (8.5)
グループホーム	13 (9.2)	1 (0.7)	14 (9.9)
特定施設	8 (5.7)	0 (0.0)	8 (5.7)
地密特定施設	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
介護老人保健施設	16 (11.3)	0 (0.0)	16 (11.3)
介護医療院	2 (1.4)	0 (0.0)	2 (1.4)
介護老人福祉施設	28 (19.9)	0 (0.0)	28 (19.9)
地域密着型介護老人福祉施設	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
病院・診療所	11 (7.8)	2 (1.4)	13 (9.2)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
把握していない			0 (0.0)
合計	129 (91.5)	12 (8.5)	141 (100.0)

(3) 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳

■過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳は、「要介護2」が24.7%と最も高く、次いで「要介護4」(21.2%)、「要介護3」(19.2%)、「要介護5」(17.1%)、「要介護1」(16.4%)、「要支援1」及び「要支援2」(0.7%)の順となっています。

図表4-3 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(4) 事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いか

■事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いかたずねたところ、図表4-4の内容が記載されていました。

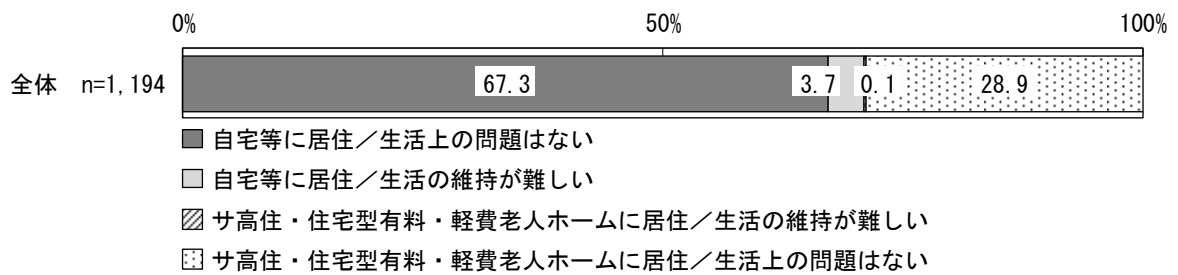
図表4-4 事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いか

- ・ひとり暮らしで認知症が進行し、自宅での生活が困難になった場合。入院し、自宅への退院が困難になった場合
- ・老老介護で介護者が介護できなくなったり（入院や死亡等）、対象者の認知症が悪化すると介護サービスを利用しても家族が疲弊してしまい、施設入所になるケースは多い
- ・老老介護の家庭で要介護状態が重くなり、介護ができなくなる。認知症の進行や身体機能の低下により家族の介護負担が増え、自宅での生活が困難になった場合
- ・徘徊により自宅から出て行ってしまう。食事をとることを忘れてしまうようになった。独居で認知症が進行し、徘徊して戻れない。転倒を繰り返すケース
- ・介護者が男性（夫、息子）の場合は、日常生活全般の対応が負担になり、在宅生活の維持が難しくなります
- ・身体状況が悪化し、介護者が介護できない。排泄の失敗が多い。認知症状が大変で家族が疲弊
- ・身体機能が低下し動けなくなる。認知症の進行。介護者が病気で介護できなくなったり、亡くなる
- ・介護者の介護負担の増大

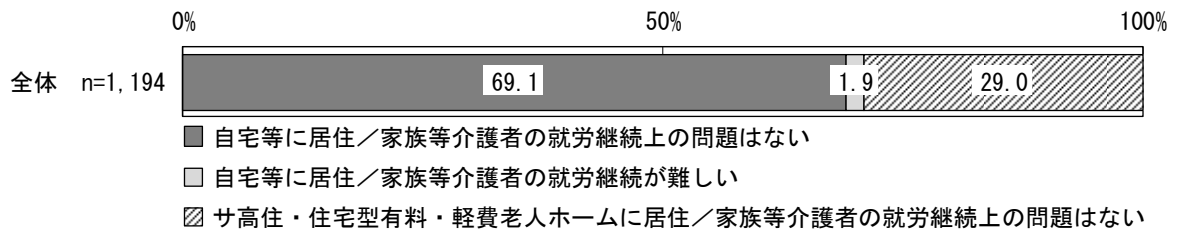
(5) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

■ケアマネジャーが担当する自宅等に居住する利用者のうち、「現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている」割合は、3.8%です（図表4-5）。また、「家族等介護者の就労継続が難しくなっている」割合は1.9%となっています（図表4-6）。

図表 4－5 現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



図表 4－6 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



※「サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住／家族等介護者の就労継続が難しい」と回答した人はいませんでした。

■在宅での生活の維持が難しくなっている人の属性を人数が多い順に並べたものが、図表 4－7であり、結果は、人数が多い順に、以下のとおりとなっています。

- 第1位：その他世帯で、要介護度2以下の人
- 第2位：単身世帯で、要介護度2以下の人
- 第3位：単身の子どもの同居で、要介護度3以上の人
- 第3位：その他世帯で、要介護度3以上の人

■また、在宅での生活の維持が難しくなっている人の半数以上が、要介護2以下です。

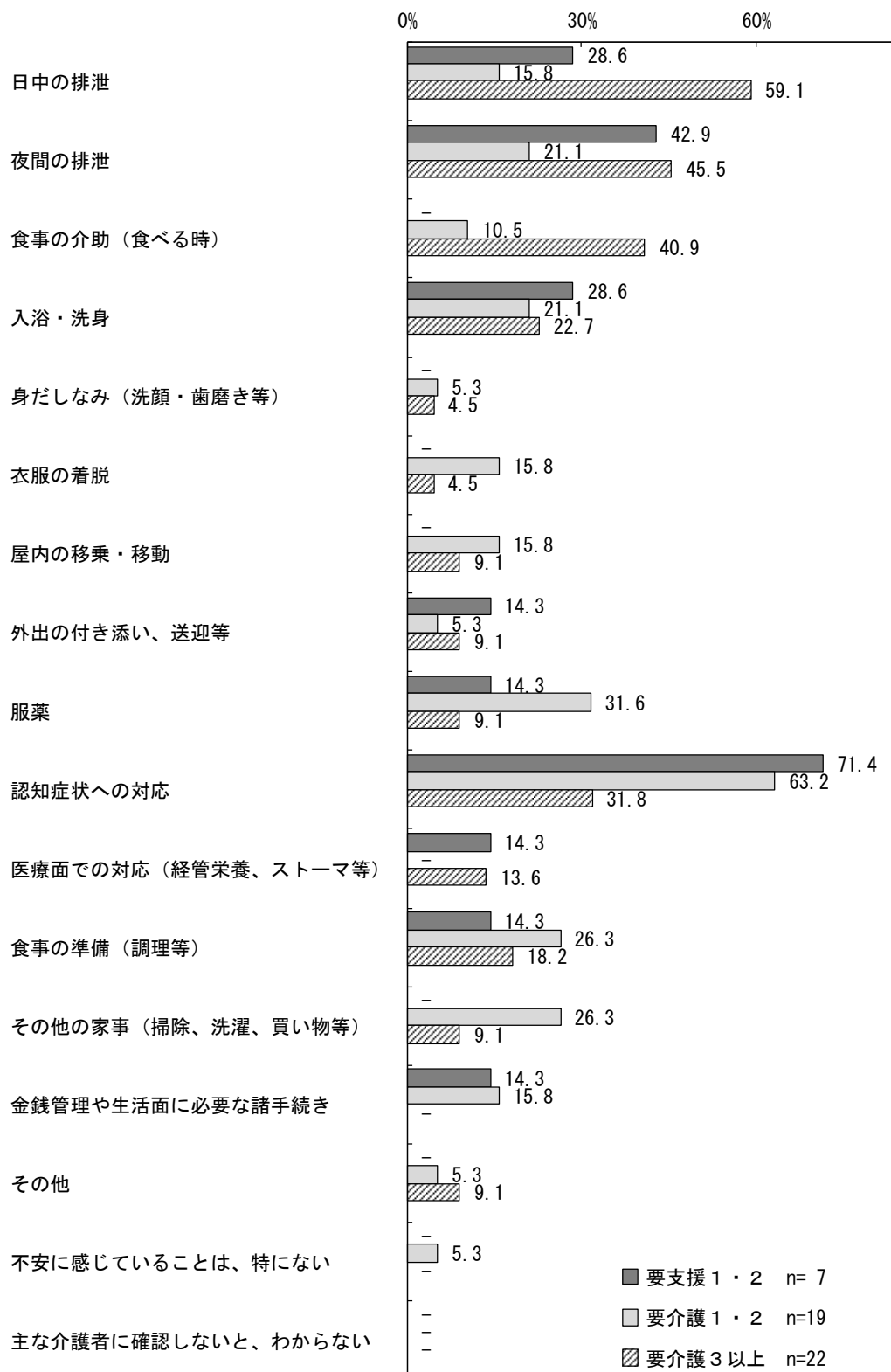
図表 4－7 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

類型	回答数	割合	世帯類型				要介護度	
			単身世帯	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	要介護2以下	要介護3以上
1	11人	21.2%				★	★	
2	9人	17.3%	★				★	
3	8人	15.4%			★			★
4	8人	15.4%				★		★
5	5人	9.6%		★			★	
6	3人	5.8%	★					★
7	3人	5.8%		★				★
8	3人	5.8%			★		★	
その他	2人	3.8%						
合計	52人	100.0%						

(6) 現在、家族介護者の負担になっている介護

■現在、家族介護者の負担になっている介護をたずねたところ、要支援１～要介護２は「認知症状への対応」が、要介護３以上は「日中の排泄」が最も高くなっています。

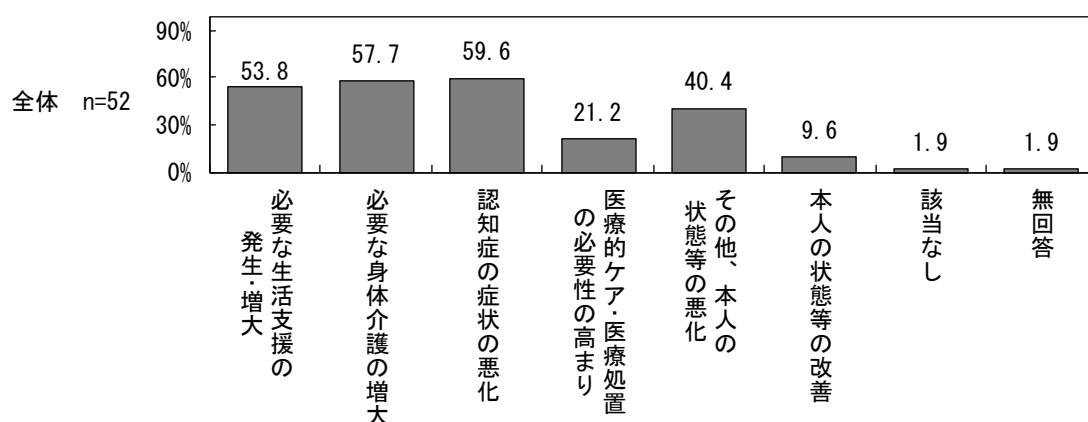
図表４－８ 現在、家族介護者の負担になっている介護（３つまで）



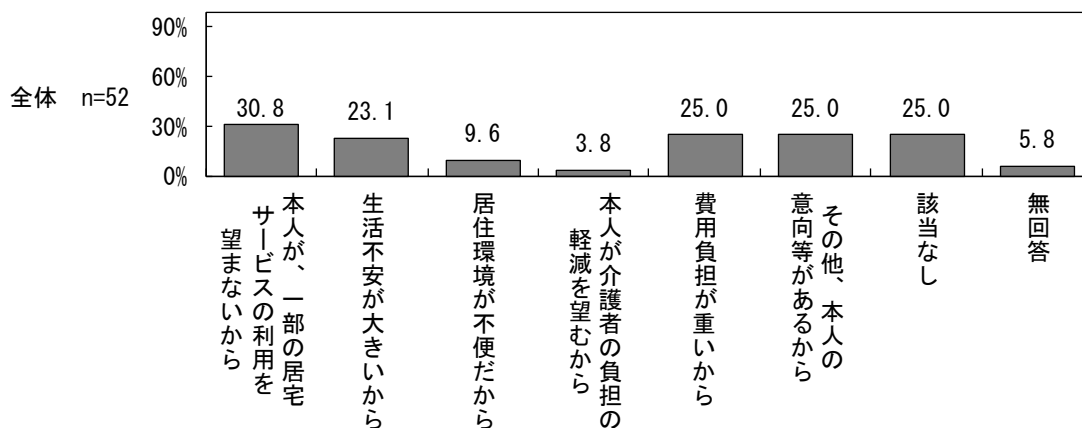
(7) 生活の維持が難しくなっている理由

- 生活の維持が難しくなっている理由をたずねたところ、本人の状態に属する理由として、「認知症の症状の悪化」が59.6%と最も高く、次いで「必要な身体介護の増大」(57.7%)、「必要な生活支援の発生・増大」(53.8%)の順となっています(図表4-9)。
- 本人の意向に属する理由としては、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が30.8%と最も高くなっています(図表4-10)。
- 家族等介護者の意向・負担等に属する理由としては、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が75.0%を占めており、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」(46.2%)の順となっています。

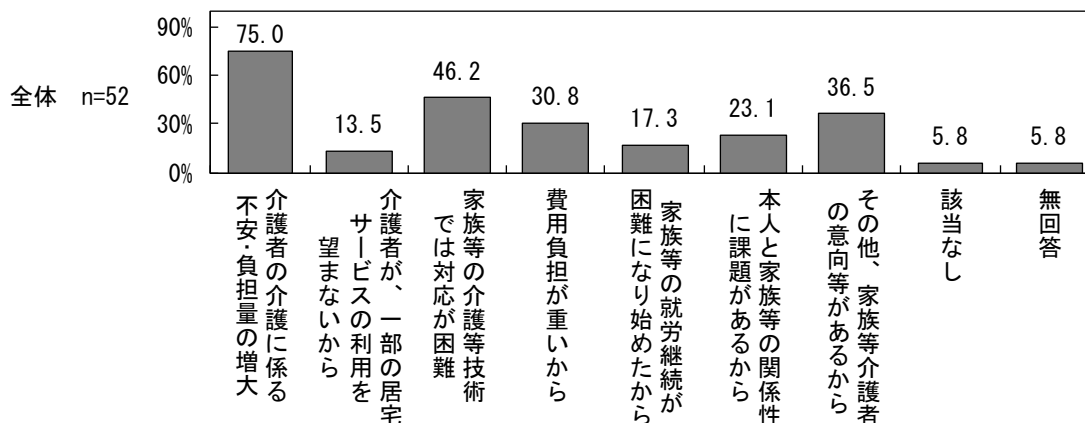
図表4-9 生活の維持が難しくなっている理由(本人の状態に属する理由、複数回答)



図表4-10 生活の維持が難しくなっている理由(本人の意向に属する理由、複数回答)



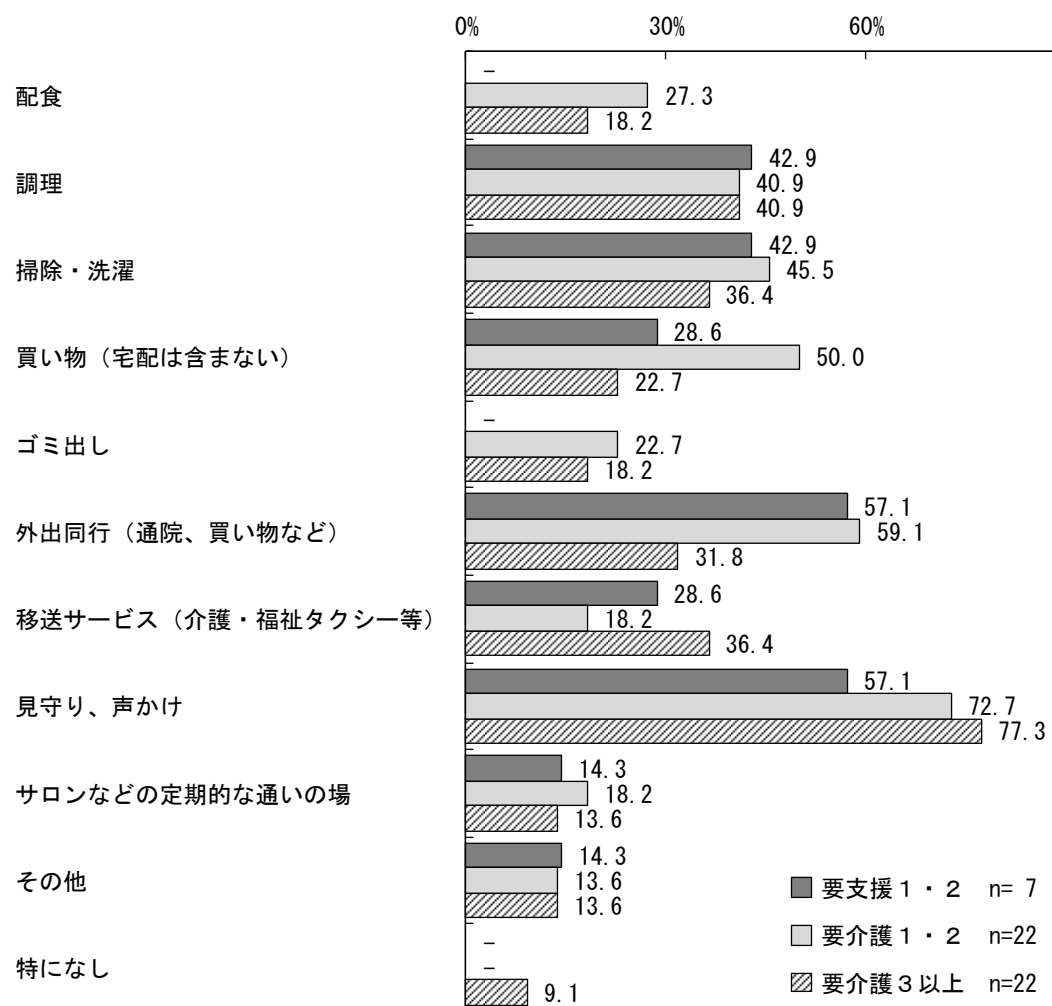
図表4-11 生活の維持が難しくなっている理由(家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)



(8) 充実が必要な生活支援

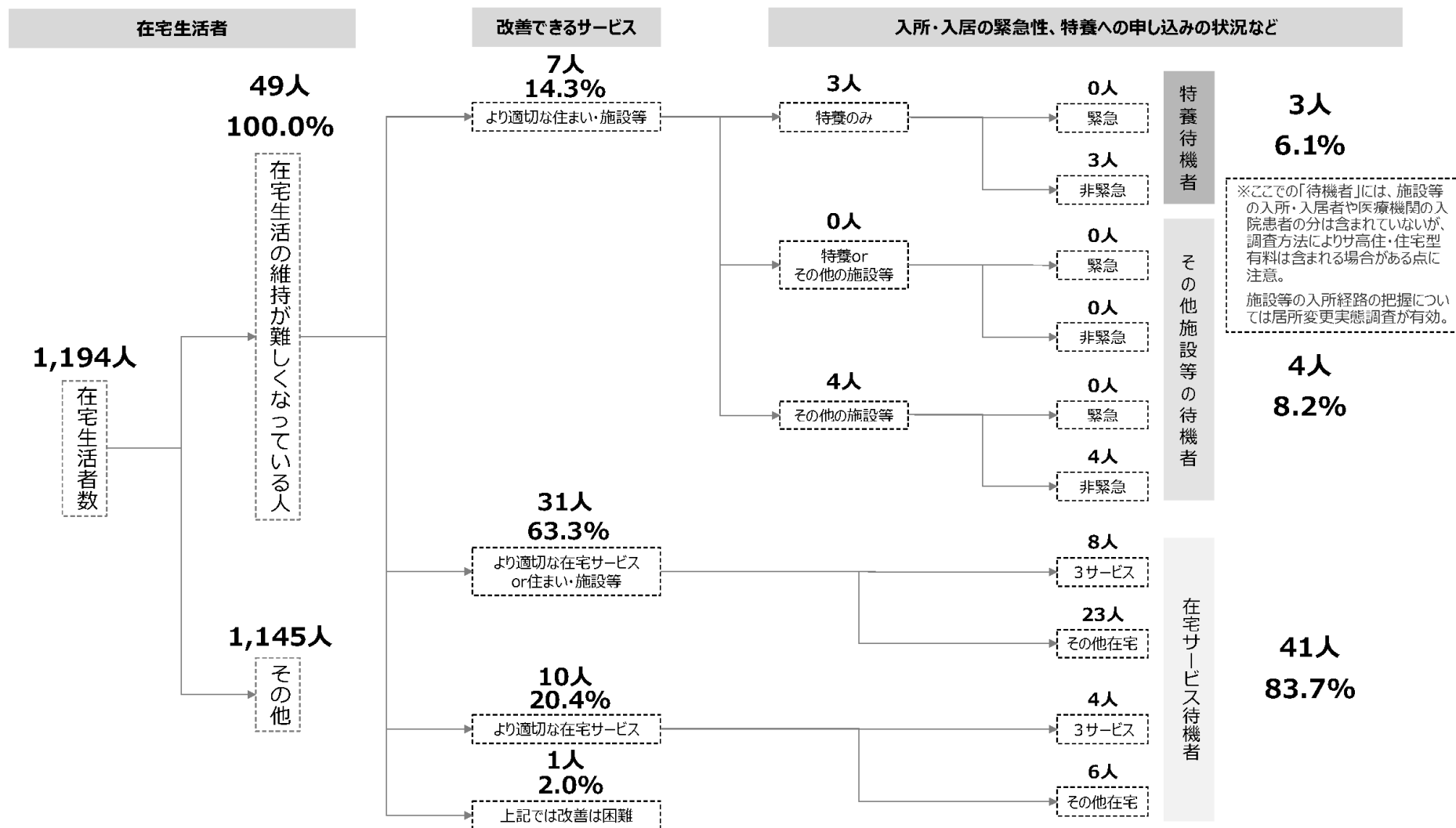
■ 本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援は、要介護度にかかわらず「見守り、声かけ」が最も高くなっており、要支援１・２はここに「外出同行（通院、買い物など）」が加わります。

図表４－１２ 充実が必要な生活支援（複数回答）



(9) 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

図表 4-13 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

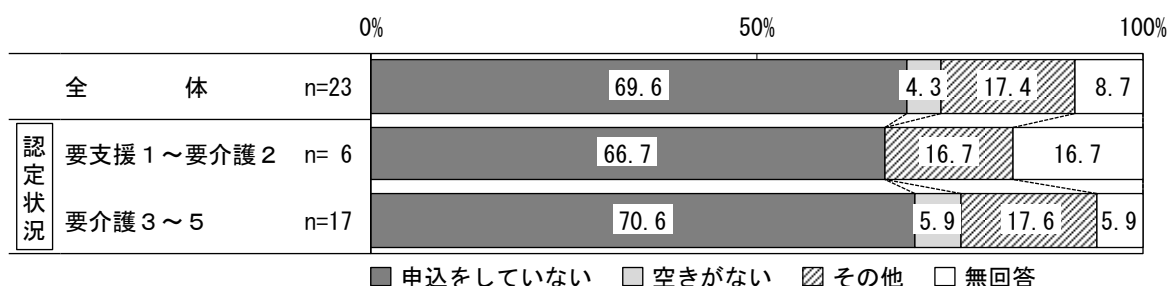


- ※1 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
- ※2 「生活の維持が難しくなっている人」の合計 52 人のうち、上記の分類が可能な 49 人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（％）は、49 人を分母として算出したものです。
- ※3 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の人を含めています。
- ※4 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

(10) 介護老人福祉施設に入所できていない理由

■改善に必要なサービスで、介護老人福祉施設を選択した人が、施設に入所できていない理由は、「申込をしていない」が69.6%を占めており、「空きがない」は4.3%（1人）です。

図表 4-14 介護老人福祉施設に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、介護老人福祉施設を選択した人）

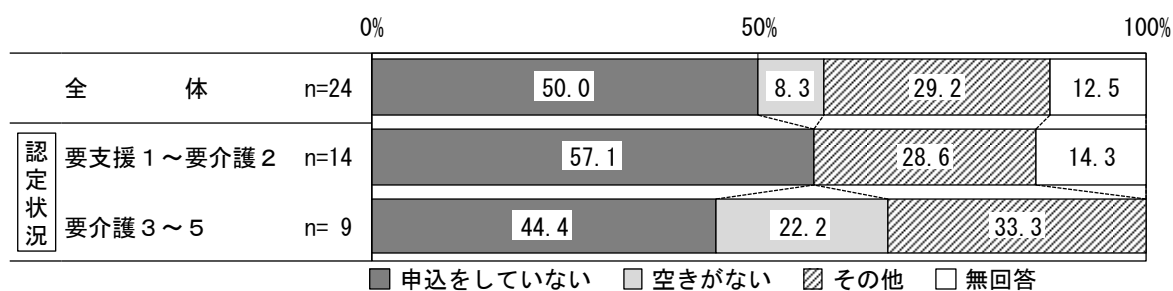


※「希望の施設に空きがない」、「医療処置を理由に入所できない」を選択した人はいませんでした。

(11) 介護老人福祉施設以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由

■改善に必要なサービスで、介護老人福祉施設以外の住まい・施設等を選択した人が、入所・入居できていない理由は、「申込をしていない」が50.0%を占めており、「空きがない」は8.3%（2人）です。

図表 4-15 介護老人福祉施設以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由（改善に必要なサービスで、介護老人福祉施設以外の住まい・施設等を選択した人）



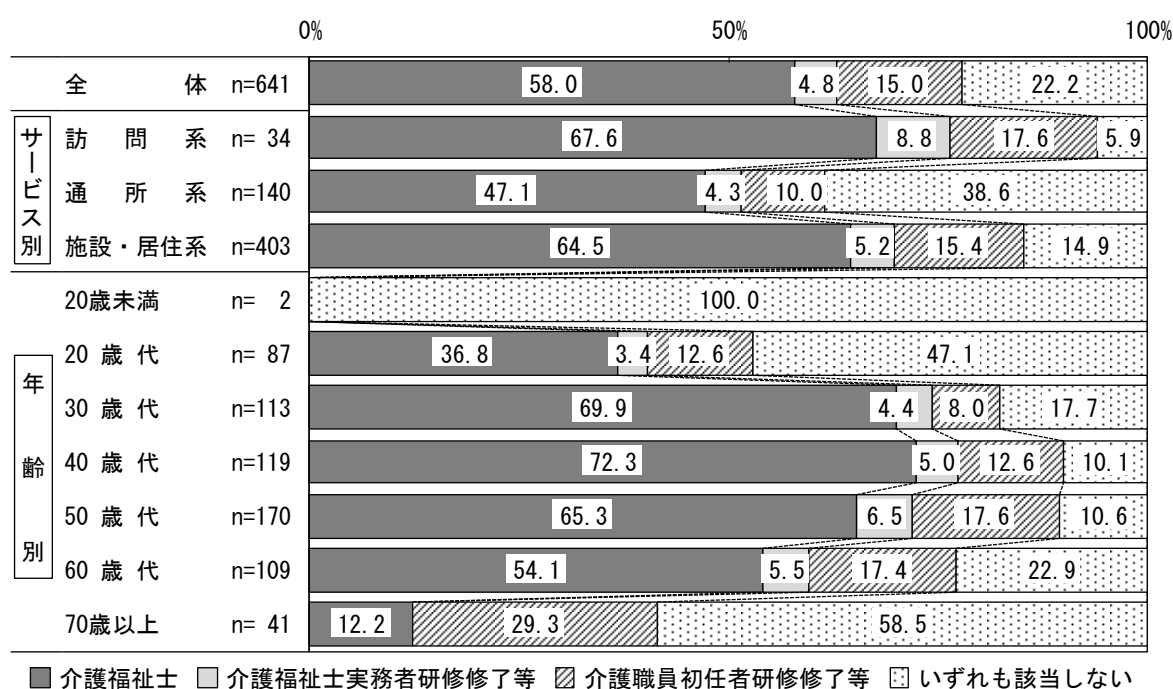
※「希望の施設に空きがない」、「医療処置を理由に入所できない」を選択した人はいませんでした。

Ⅱ 介護人材実態調査

(1) 資格の取得状況

- 介護職員の資格の取得、研修の修了の状況をたずねたところ、「介護福祉士」が58.0%を占めており、次いで「いずれも該当しない」(22.2%)、「介護職員初任者研修修了等」(15.0%)、「介護福祉士実務者研修修了等」(4.8%)の順となっています。
- サービスの種別にみると、訪問系及び施設・居住系は「介護福祉士」が60%以上を占めています。また、通所系は訪問系及び施設・居住系に比べて「いずれも該当しない」が高い割合です。
- 年齢別にみると、「介護福祉士」は40歳代で72.3%とピークとなり、その後は年齢が高くなるにしたがい低下します。また、30歳代以降、年齢が高くなるにしたがい「介護職員初任者研修修了等」が上昇します。さらに、40歳以降、年齢が高くなるにしたがい「いずれも該当しない」が上昇し、70歳以上では過半数を占めます。

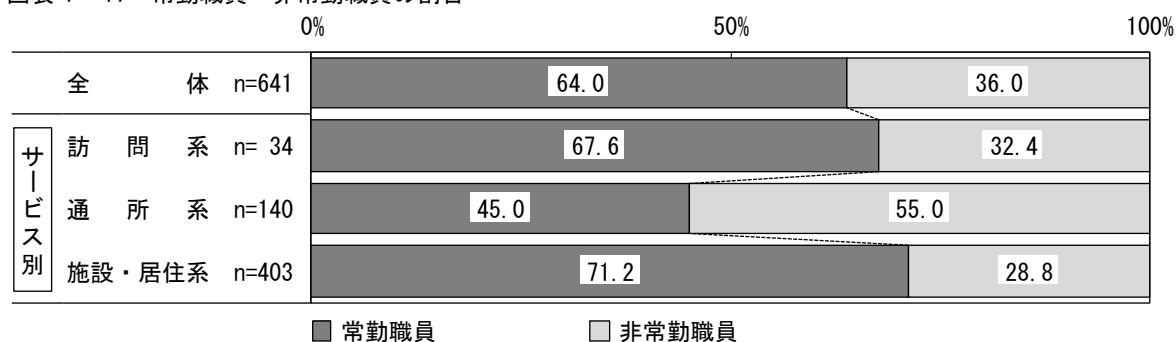
図表4-16 資格の取得状況



(2) 常勤職員・非常勤職員の割合

- 常勤職員・非常勤職員の割合は、「常勤職員」が64.0%、「非常勤職員」が36.0%となっています。
- サービスの種別にみると、訪問系及び施設・居住系は「常勤職員」が70%前後を占めていますが、通所系は「非常勤職員」が過半数を占める高い割合です。

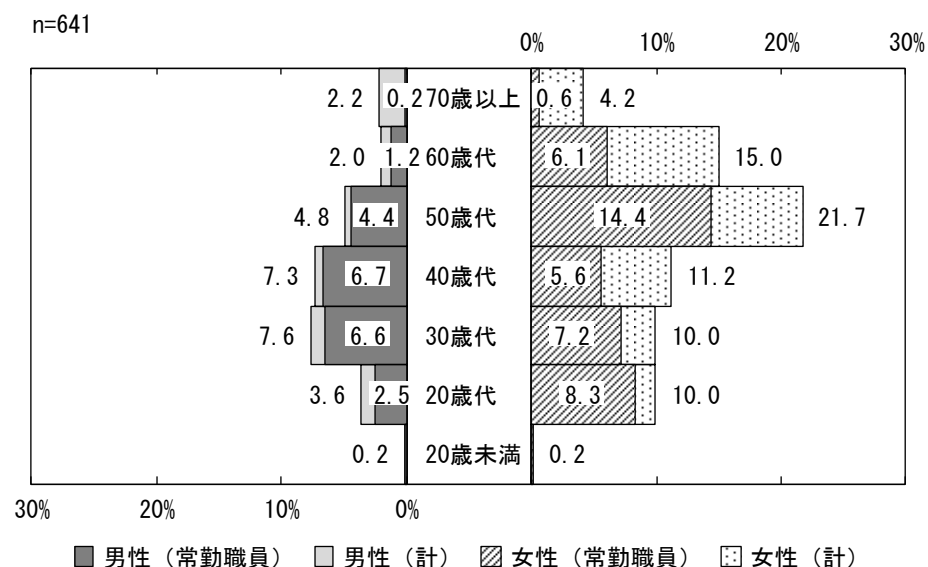
図表 4-17 常勤職員・非常勤職員の割合



(3) 性・年齢別の雇用形態の構成比

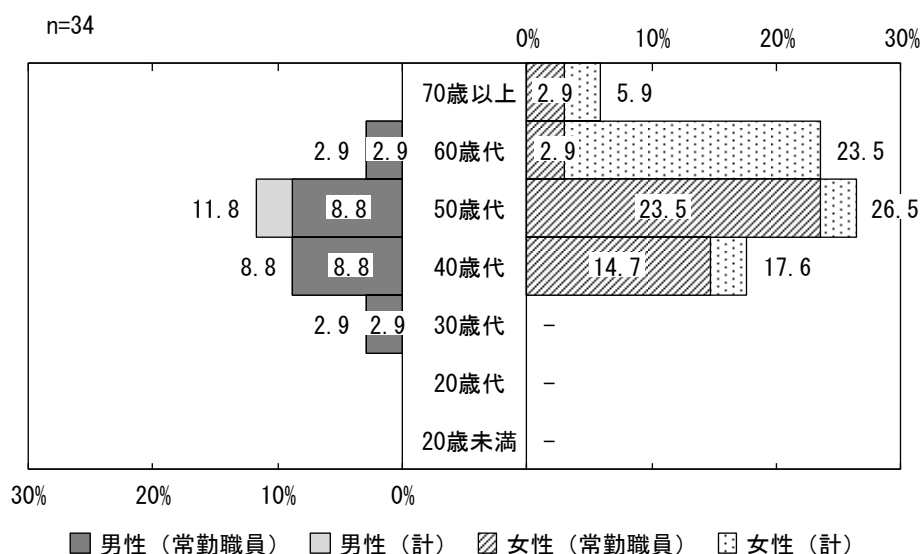
- 性・年齢別の雇用形態の構成比をみると、職員641人のうち、50歳代の女性が21.7%を占めており、次いで60歳代の女性（15.0%）、40歳代の女性（11.2%）の順となっています。
- 「常勤職員」についてみると、50歳代の女性が14.4%と最も高く、次いで20歳代の女性（8.3%）、30歳代の女性（7.2%）の順となっています。

図表 4-18 性別・年齢別の雇用形態の構成比（全サービス）

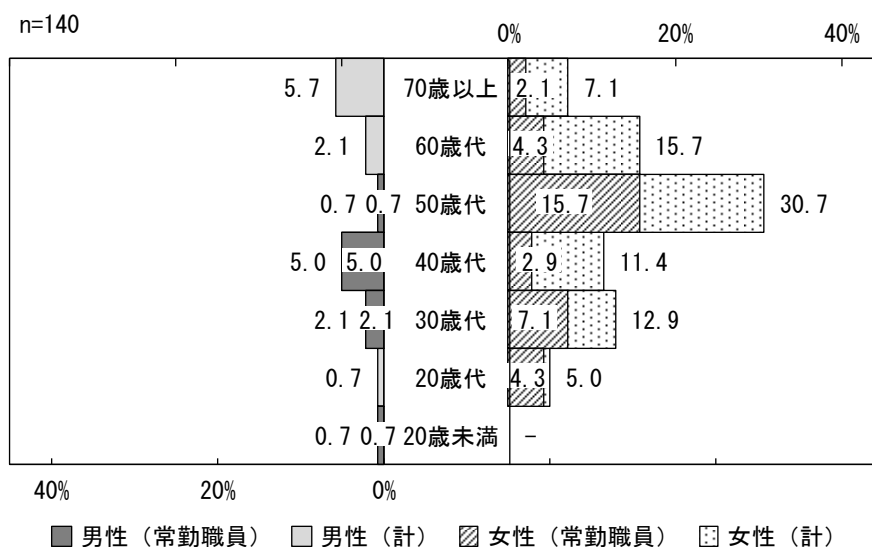


- サービスの種別に性・年齢別の雇用形態の構成比をみると、訪問系サービスの職員34人のうち、50歳代の女性が26.5%と最も高く、次いで60歳代の女性（23.5%）となっています。「常勤職員」は50歳代（23.5%）に次いで40歳代（14.7%）が高くなっています（図表4-19）。
- 通所系サービスの職員140人のうち、50歳代の女性が30.7%と最も高くなっています（図表4-20）。
- 施設・居住系サービスはいずれの年齢層も女性が男性を上回っているものの、訪問系や通所系に比べると男女差は小さくなっています（図表4-21）。

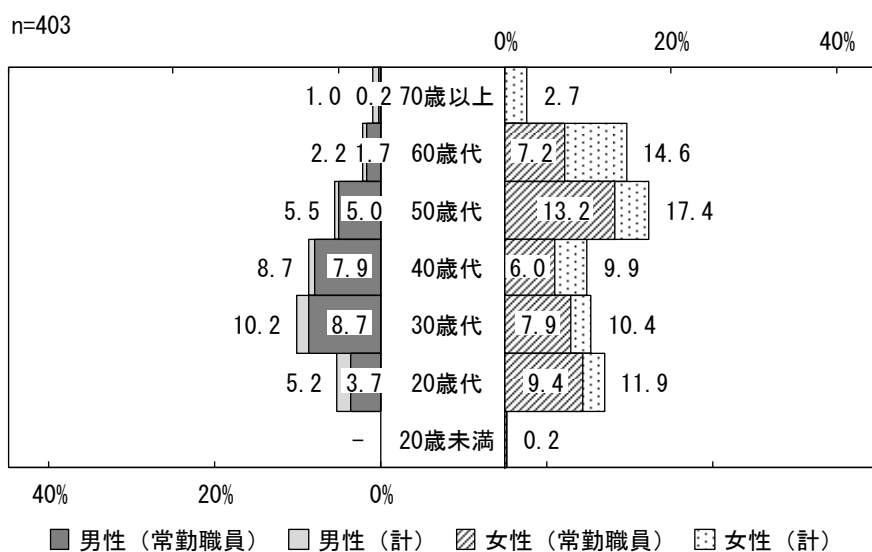
図表4-19 性・年齢別の雇用形態の構成比（訪問系）



図表4-20 性・年齢別の雇用形態の構成比（通所系）



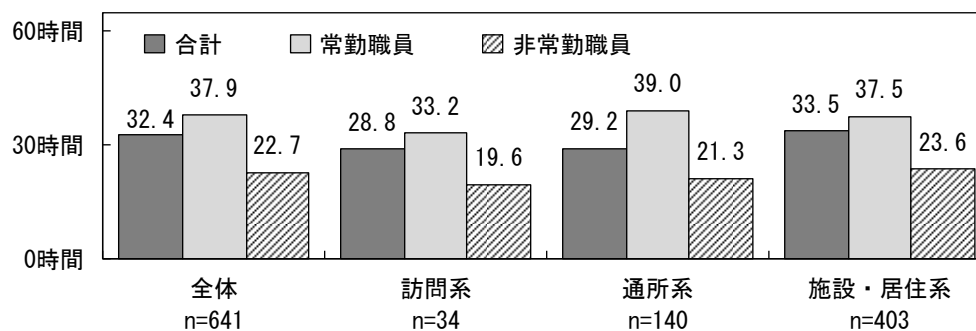
図表 4-21 性・年齢別の雇用形態の構成比（施設・居住系）



(4) 職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間

- 職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間は、常勤職員が37.9時間、非常勤職員が22.7時間となっています。
- サービスの種別に勤務時間をみると、訪問系の常勤職員は33.2時間、非常勤職員は19.6時間となっており、通所系及び施設・居住系に比べてやや短くなっています。

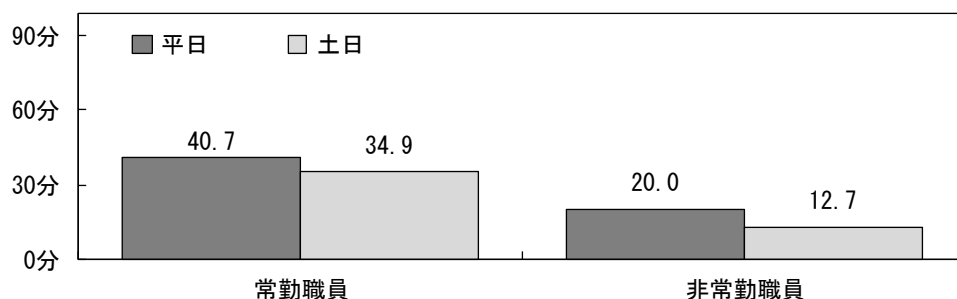
図表 4-22 職員 1 人あたりの 1 週間の勤務時間



(5) 平日・土日別の職員1人・1日あたり訪問介護サービス提供時間

■平日・土日別の職員1人・1日あたり訪問介護サービス提供時間をみると、常勤職員は、平日が40.7分、休日が34.9分、非常勤職員は、平日が20.0分、休日が12.7分となっています。

図表4-23 平日・土日別の職員1人・1日あたり訪問介護サービス提供時間（身体介護）



(6) 介護職員数の変化

■開設から1年以上経過している事業所に介護職員の採用・離職の状況をたずねたところ、全体では、常勤・非常勤職員ともに、採用者数が離職者数を上回っています。

■サービス別にみると、介護職員数（常勤・非常勤）は、訪問系が昨年比102.8%、通所系が昨年比98.7%、施設・居住系が昨年比103.4%となっており、通所系サービスは減少しています。

図表4-24 介護職員数の変化（開設から1年以上経過している事業所）

区 分	n	職員総数（人）			採用者数（人）			離職者数（人）			昨年比（%）		
		常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計	常勤	非常勤	小計
全 体	47	469	383	852	61	77	138	58	64	122	100.6	103.5	101.9
訪 問 系	7	34	112	146	4	26	30	7	19	26	91.9	106.7	102.8
通 所 系	19	68	83	151	11	9	20	7	15	22	106.3	93.3	98.7
施設・居住系	17	330	161	491	39	37	76	34	26	60	101.5	107.3	103.4

(7) 前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所

■前の職場が介護事業所である職員52人に、前の職場の場所をたずねたところ、多治見市内が51.9%（27人）、多治見市外が46.2%24人となっています。

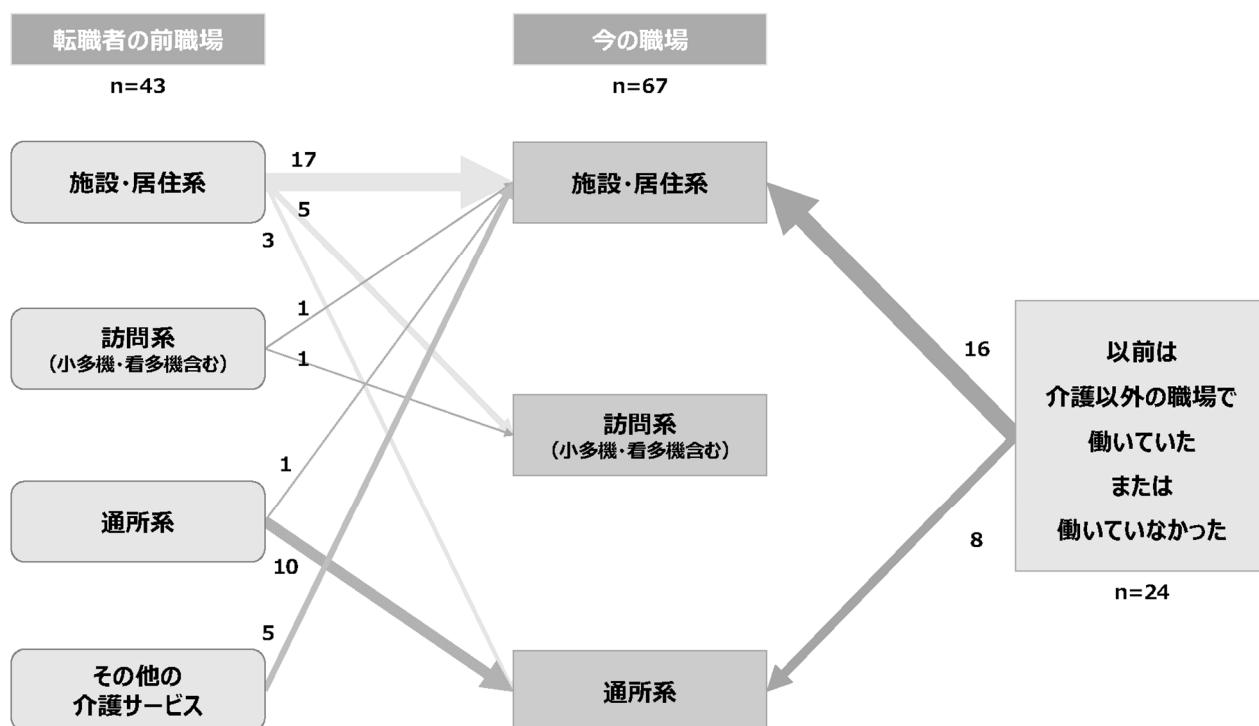
図表 4-25 前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所

前の職場の場所	現在の職場							
	全サービス		訪問系		通所系		施設・居住系	
合計	52 人	100.0%	6 人	100.0%	13 人	100.0%	27 人	100.0%
多治見市内	27 人	51.9%	4 人	66.7%	9 人	69.2%	12 人	44.4%
多治見市外	24 人	46.2%	2 人	33.3%	4 人	30.8%	14 人	51.9%

※「全サービス」にはサービス系統不詳の事業所を含めています。また、「合計」には前の職場の場所が不詳の方を含めています。

(8) 過去 1 年間の介護職員の職場の変化

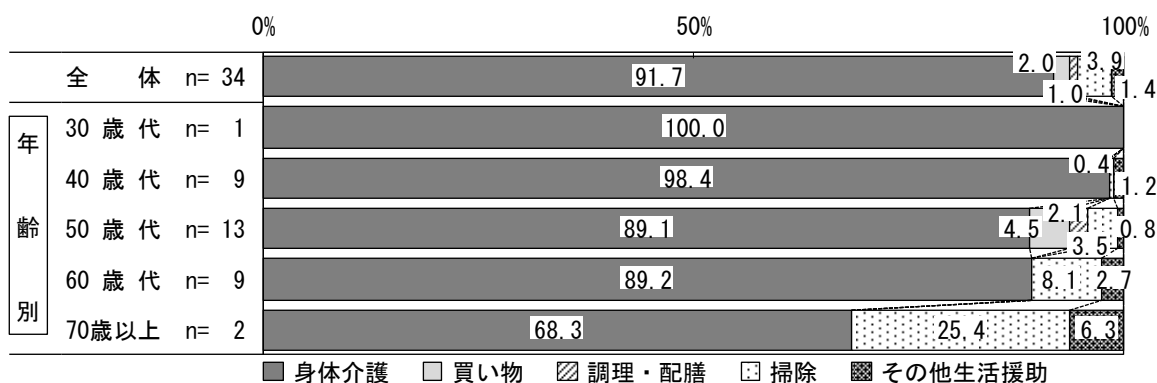
図表 4-26 過去 1 年間の介護職員の職場の変化（同一法人・グループ内での異動は除く）



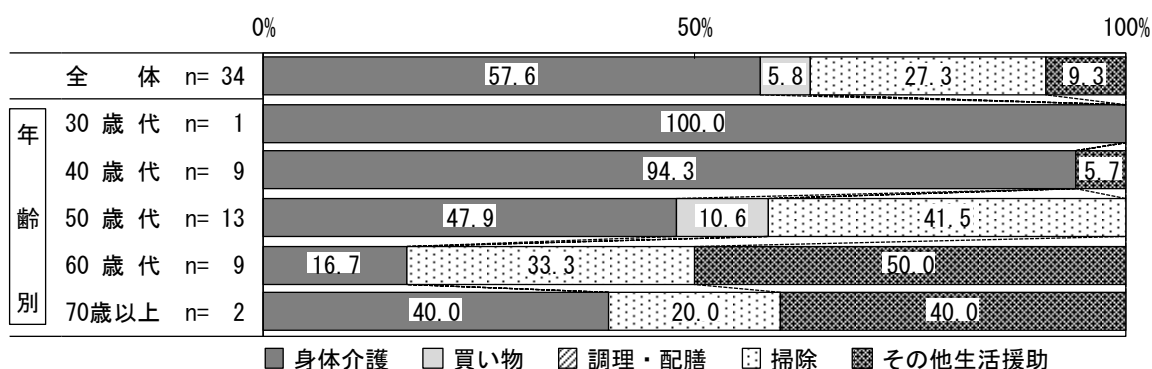
(9) 訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳

- 訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳をみると、介護給付では「身体介護」が91.7%を占めていますが、予防給付・総合事業では57.6%となっており、「買い物」や「調理・配膳」などの生活援助が42.4%を占めています（図表4-27、図表4-28）。
- 介護給付を年齢別にみると、70歳未満は「身体介護」がおおむね90%以上を占めていますが、70歳以上は68.3%とその他の年齢層に比べて低い傾向がみられます（図表4-27）。
- 予防給付・総合事業を年齢別にみると、30～40歳代は「身体介護」が90%以上を占めますが、50歳以上では、生活援助が高くなる傾向がみられます（図表4-28図表4-27）。

図表4-27 訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（介護給付）



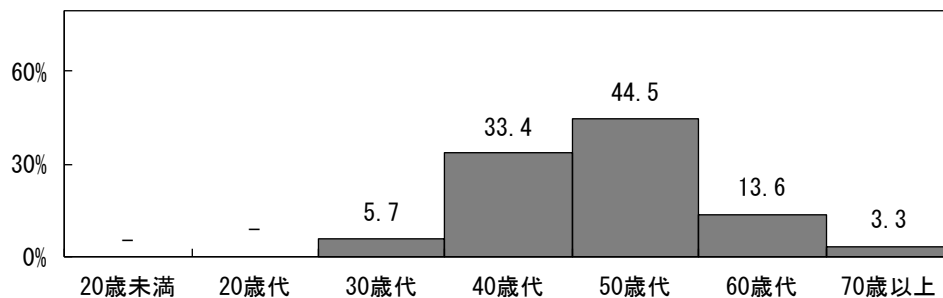
図表4-28 訪問介護のサービス提供時間の内容別の内訳（予防給付・総合事業）



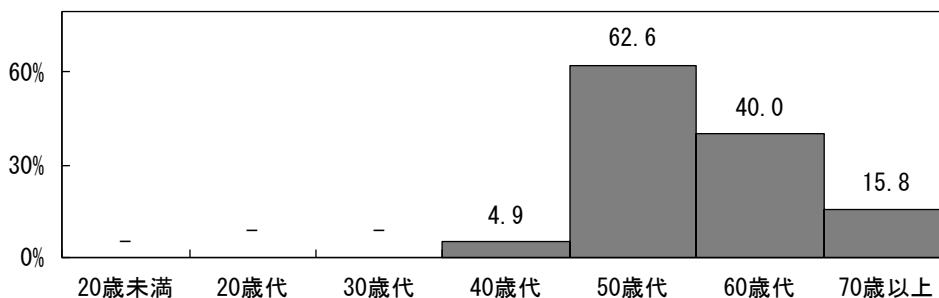
■図表４－２９、図表４－３０は全回答者の総提供時間に占める年齢階級ごとの提供時間の構成比を示したものです。

■身体介護、生活援助ともに50歳代が最も高くなっており、訪問介護サービスの提供において中心的役割を果たしていることがうかがえます。また、身体介護は50歳代に次いで40歳代が高くなっているのに対して、生活援助は次いで60歳代が高くなっており、業務内容によって担い手の年齢構成に違いがみられます。

図表４－２９ 職員の年齢別の訪問介護提供時間（身体介護）



図表４－３０ 職員の年齢別の訪問介護提供時間（生活援助）



(10) 採用や人材定着に関する課題

■採用や人材定着に関する課題をたずねたところ、図表４－３１の内容が記載されていました。

図表４－３１ 採用や人材定着に関する課題

施設・通所系
【人材紹介への依存と費用負担】 8件 ・採用のほとんどが紹介会社経由であるため、人材紹介手数料などに多額の費用を要する一方で、紹介会社経由で採用した職員が短期間に離職する場合もある ・特別養護老人ホームは重度要介護に偏るため、高齢な未経験人材は雇用しにくい。新卒者についても、土日休みや軽度要介護を希望する学生が多く、新卒採用は諦めている状態。上記を踏まえ、人材紹介会社経由での雇用が多くなり、予算を圧迫する状態である。最低賃金をみても隣接の春日井や瀬戸に人材が流れていくが、入ってくることは少なく、介護人材はひっ迫していると思う ・介護業務は身体的・精神的な負担を伴う業務であり、その点が世間一般にも広く認識されていることも、採用や人材定着に影響していると感じています。さらに、人材紹介会社を通じ

た採用が多く、直接応募が少ないため、採用費用の負担が経営上の課題となっています

- ・ 民間の求人サイトはコストがかかりすぎる
- ・ 単独事業の予算としては紹介事業を使えない
- ・ 人材紹介会社への費用発生。年間500万以上支払いあり。国として、制限を設けてほしい。ハローワークの活用を推進してほしい
- ・ 前年度採用8名に対し、紹介会社利用6名、ハローワーク紹介2名。人員を確保するのにも費用がかかり、経営を圧迫している。ハローワークのイベント等にも参加しましたが、採用には至っておりません
- ・ ハローワークでの求人を行うと人材紹介会社がすべて奪ってしまい、高額な紹介料を払わなければならない、どうにかならないものか

【人材確保のための募集】4件

- ・ ハローワークに求人を出しても、一切のアクセスがない
- ・ なかなか求人に集まらない
- ・ 求人を出しても思うように応募が集まらず、せっかくご応募いただいたても条件面が合わないことが多く苦慮しています
- ・ 介護を希望する人材が減っていること。介護以外の仕事、送迎業務への不安と負担が大きいため人材不足に繋がっていることを実感させられているが、外部委託もいろいろな問題があり、上手くいかない

【介護職の魅力と業務負担】4件

- ・ 介護現場は切実に人材不足です。労働としても賃金の面でも魅力に欠けると思います。今後基準を守れない場合は閉鎖もやむなしかと考えています
- ・ 若い人材がいない。長続きしない。福祉の仕事は大変で給料が安いというイメージがついてしまっている。事務仕事を減らすと国等は言っているが、加算をとれば事務仕事が増え、アンケートや調査等の書類が多く、委員会や研修等も増えているため、介護職員も介護以外の仕事が増えて負担になっている。給料を増やせばいいという問題ではないと思う
- ・ 未経験者の採用多く、現場での育成の負担が大きく、業務に追われてしっかり教えてあげられない
- ・ 採用後すぐに契約日数・時間帯の変更の申し出や業務（レクリエーションや体操・人前で話したくない）ができない・やりたくないと言われることあり、可能な限り対応したが難しかった。必ず一緒に行動し続けられるスタッフの確保ができないため

【ドライバーの確保】3件

- ・ 送迎ドライバーの確保に苦慮しています
- ・ 年齢の上昇。運転手の確保が難しい。運転技術（判断力）を鑑みると70歳程度までが望ましいが、求人では75歳以上の方の募集がある。昨今の高齢ドライバーの事故を考慮すると雇用はできない
- ・ 運転業務が可能な介護職の採用が難しい。特に女性は運転を希望しない方が多い

【職員の高齢化】3件

- ・ 年齢の上昇
- ・ 現存の従業員及び応募者（新規採用者）の高齢化
- ・ 定着率は高いが、職員が高齢になり病気がちである

【人材の定着】2件

- ・ 福祉業界は昔から人材定着率低く、ある程度退職されるのはやむを得ないと考えております。処遇改善等で給与は改善されていますが、決して高い水準ではなく、待遇面を優先して選ばれる業種ではありません
- ・ 採用においては、専門技術だけでなく、人柄も考慮して採用を決めている。人材定着においては、働きやすい環境づくりを心がけています

■訪問系

- ・ 求人を出してもこない
- ・ スタッフが定着してくれているのでありがたいのですが、求人しても応募はありません
- ・ ずっと募集しているが、応募がない。主力の非常勤ヘルパーの平均年齢も70歳になり、事

業継続できるかの瀬戸際である

- ・同行期間をきちんととる。新人の方への研修。人間関係での離職が多い
- ・採用に関して、ハローワーク経由の応募が少なく人材紹介会社へ紹介料の負担が大きい。職員の勤続年数は1年未満が5人、5年以上が4人。令和元年の開設以来の勤務者は4名と定着率は高く、入職からの勤務年数は安定している

(11) 人材確保に関して、多治見市に期待するサポート

- 人材確保に関して、多治見市に期待するサポートをたずねたところ、図表4-31の内容が記載されていました。

図表4-32 人材確保に関して、多治見市に期待するサポート

■施設・通所系

【人材の紹介】3件

- ・市で介護の入門的研修を実施し、修了者を市内事業所へご紹介いただくことは、業務理解のある人材の確保や定着促進につながると考えます
- ・自治体主導で持続可能な地域の採用インフラを構築していただきたい。具体的には、地域限定の介護就職ポータルサイトの運営及び広報、学生へのインターンシップ奨励、リタイアした層や育児が落ち着いた層などの潜在的求職者へのマッチング、住居確保の公的支援など
- ・異職種からの転職希望者の紹介。多治見市にある施設の一覧の発信

【情報の発信・啓発活動】6件

- ・広報誌等に福祉人材が不足していることを情報提供していただけないでしょうか。また、駅北校舎4階の会議室を使用し、就職説明会を開催していただけないでしょうか
- ・物価高騰への対応として、介護報酬や食費・居住費の基準額が実態に即して検討されることは、事業所の安定運営を通じた人材確保・定着につながると考えられるため、市から国や県へ事業者の実情を共有いただけるとありがたく存じます
- ・多治見市の介護業界（事業所）の実態について、平均賃金などを分析し公表をしてほしい
- ・広報やチラシなどでの呼びかけ、学校での介護職の啓蒙活動をお願いしたい。若い人にも尊い仕事であるということを学校などで伝えてほしい。単発バイトなどの職業斡旋などをお願いしたい
- ・介護を魅力的にアピールするお力添え
- ・介護職に対するネガティブな印象の刷新。

【費用の補助】2件

- ・ハローワークを利用して仕事を探すのではなく、紹介会社が求職者に職場を提案する時代です。人材確保に係る費用の補助があると助かります
- ・補助金等（多治見市独自の処遇改善金等）

【その他】2件

- ・地域区分見直しにおいては、採用や人材定着に関する課題の状況を勘案してほしい
- ・資格取得のバックアップ。費用の補助や研修中の給与補助。移乗支援ロボットや見守りセンサー等の導入支援で、業務の軽減

■訪問系

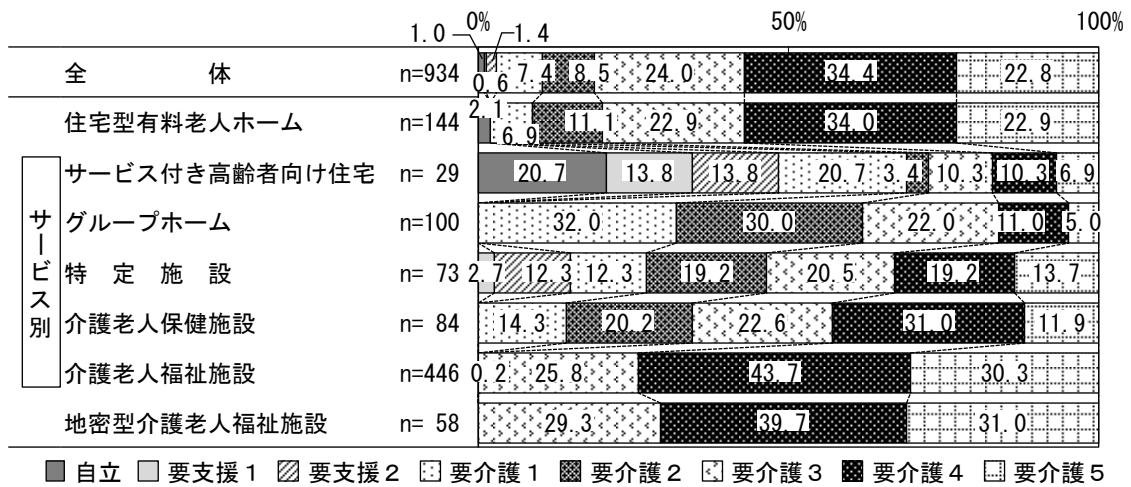
- ・介護人材は、入ってくる人数よりも去っていく人数の方が明らかに多く、今の人手不足の状況を解消していくには手数料の高額な紹介会社よりも、行政主導で医療・福祉人材を斡旋する事業を行っていただきたいと考えています
- ・介護保険でいただく収入の半分は公費であり税金です。それをシステムだけつくって利用しているだけの業者に払わないと人材が確保できないのは、税金を払っている人々もいい気はしません。
- ・企業展など、大きい会社だけではなく中小企業向けにもあるとよい。職種で分けるなど。多治見市内の企業でつくる、無料求人サイトなど（多治見市内で働ける企業の紹介）
- ・入職から6か月程度を目処に在職できている等の状況をクリアした人には、補助金を支給していただきたい
- ・ハローワーク経由での入職者には、入職祝金を支給（10万円）している

Ⅲ 居所変更実態調査

(1) 現在の入所・入居者の要支援・要介護度

- 現在の入所・入居者の要支援・要介護度は、「要介護4」が34.4%と最も高く、次いで「要介護3」(24.0%)、「要介護5」(22.8%)の順となっており、〈要介護3以上〉が81.2%を占めています。
- 「自立」～「要介護2」を合計した比較的軽度である〈要介護2以下〉についてみると、サービス付き高齢者向け住宅は72.4%、グループホームは62.0%と高い割合となっています。

図表4-33 現在の入所・入居者の要支援・要介護度



(2) 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

- 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合をみると、退居・退所者469人に対して、居所変更が53.9%、死亡が46.1%となっています。サービス別に死亡の割合をみると、住宅型有料老人ホームは80.5%、介護老人福祉施設は78.6%と、看取りまでできている割合が高くなっています。

図表4-34 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

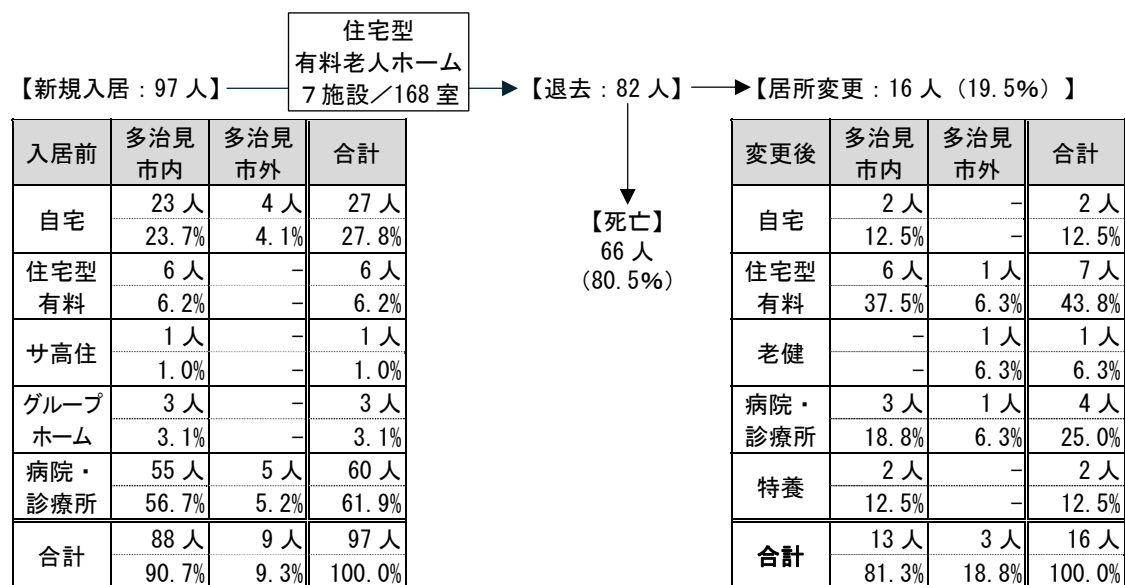
単位：人（％）

区 分	n	居所変更	死亡	合計
住宅型有料老人ホーム	7	16 (19.5)	66 (80.5)	82
サービス付き高齢者向け住宅	2	7 (87.5)	1 (12.5)	8
グループホーム	6	18 (56.3)	14 (43.8)	32
特定施設	1	18 (47.4)	20 (52.6)	38
介護老人保健施設	1	121 (93.1)	9 (6.9)	130
介護老人福祉施設	5	70 (42.4)	95 (57.6)	165
地密型介護老人福祉施設	2	3 (21.4)	11 (78.6)	14
合 計	24	253 (53.9)	216 (46.1)	469

(3) 過去1年間の施設・居住系サービスの入居及び退居の流れ

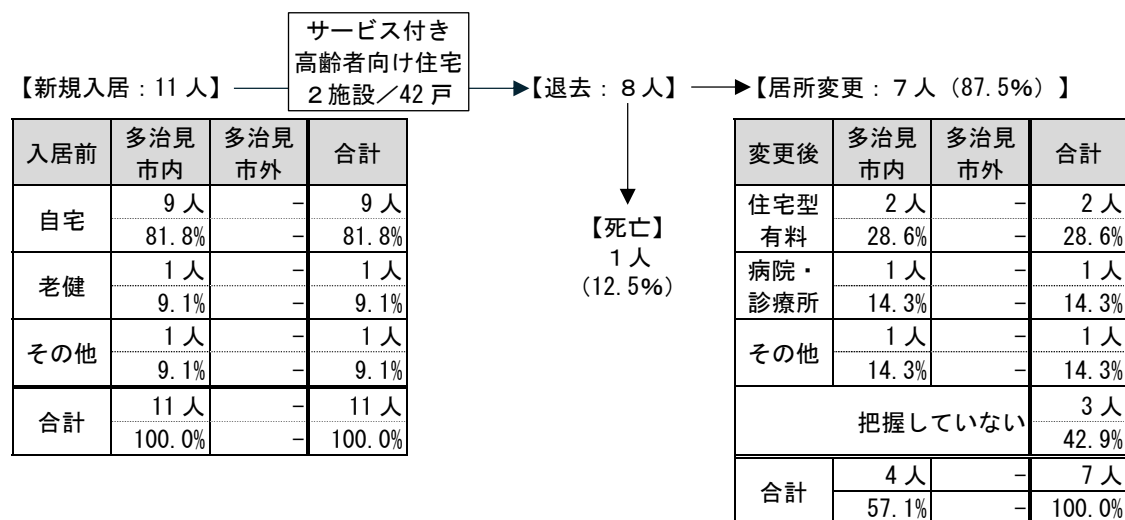
① 住宅型有料老人ホーム

図表4-35 過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居及び退居の流れ



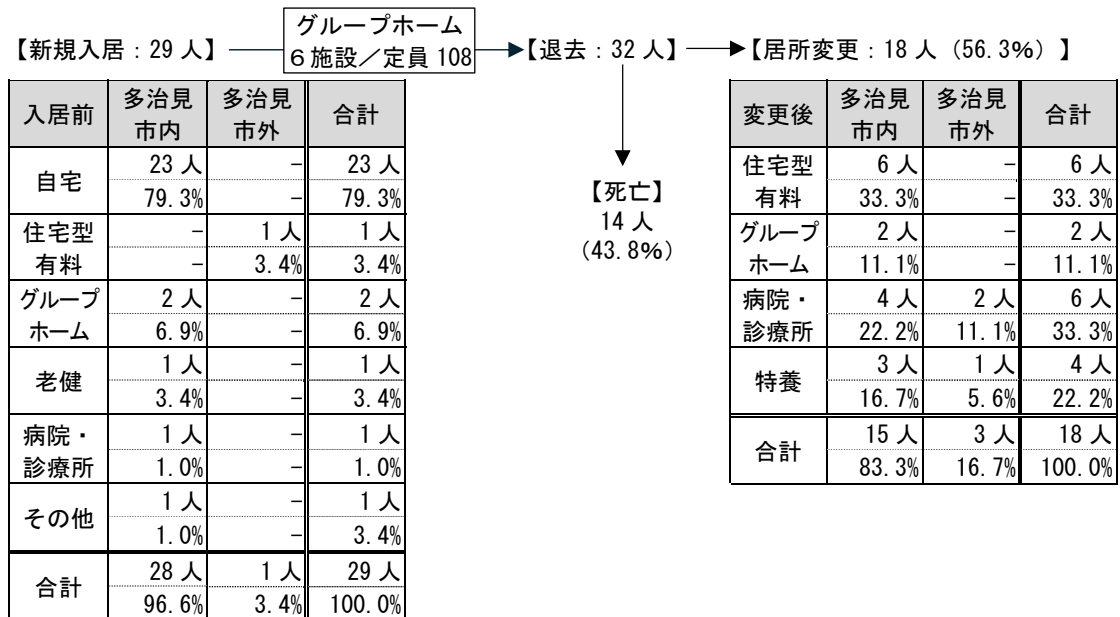
② サービス付き高齢者向け住宅

図表4-36 過去1年間のサービス付き高齢者向け住宅の入居及び退居の流れ



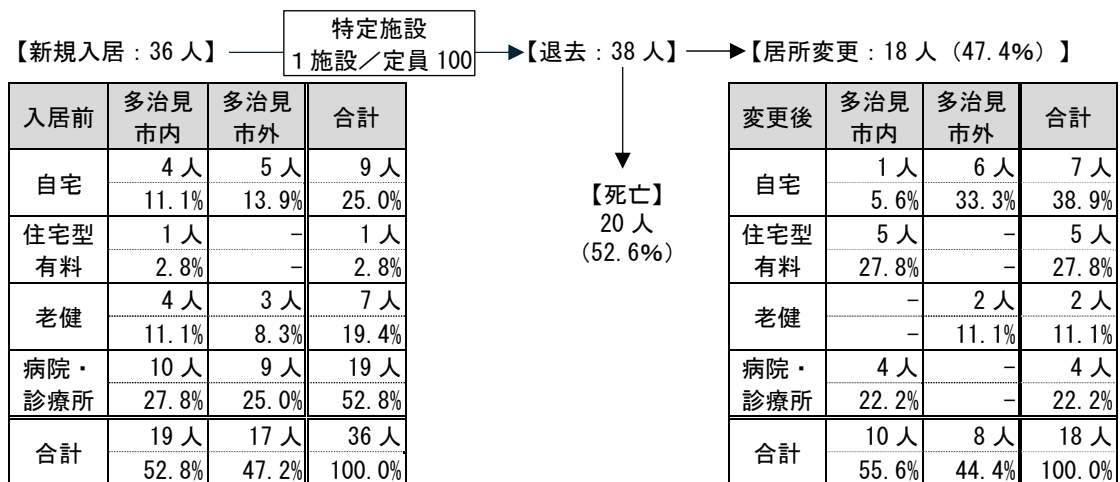
③ グループホーム

図表 4-37 過去 1 年間のグループホームの入居及び退居の流れ



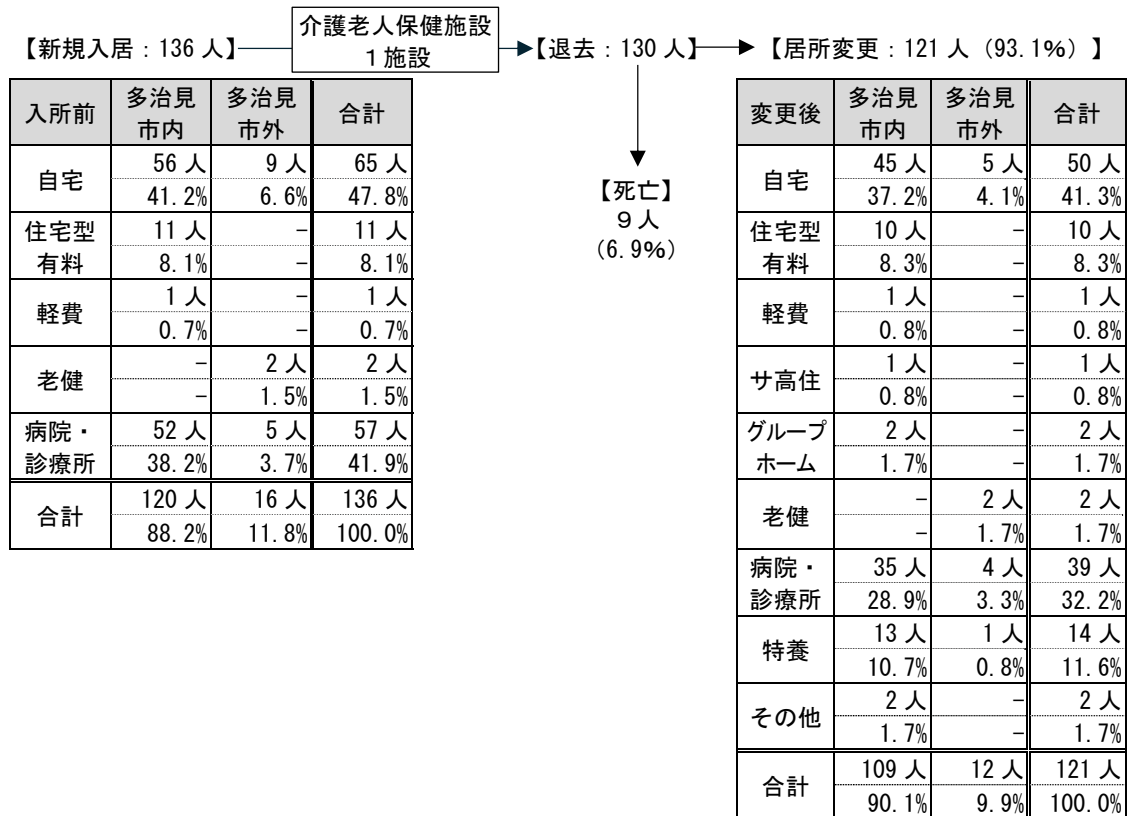
④ 特定施設

図表 4-38 過去 1 年間の特定施設の入居及び退居の流れ



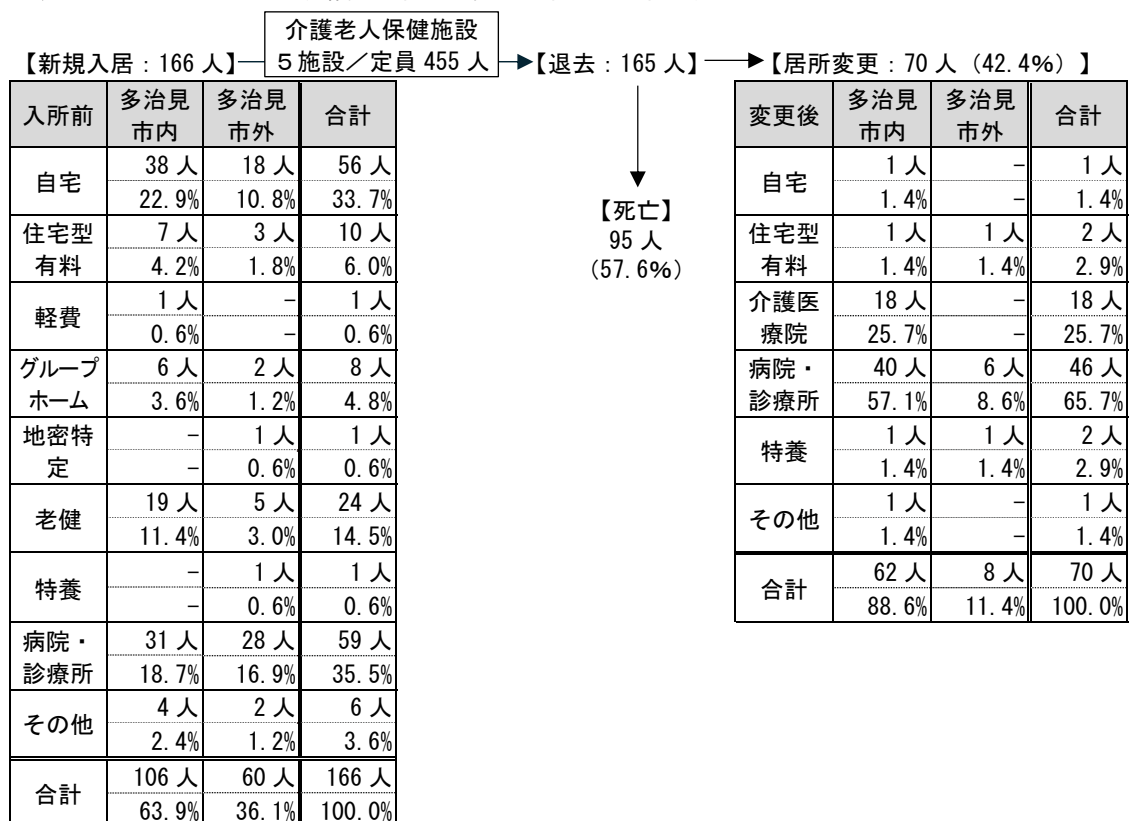
⑤ 介護老人保健施設

図表 4-39 過去 1 年間の介護老人保健施設の入居及び退居の流れ



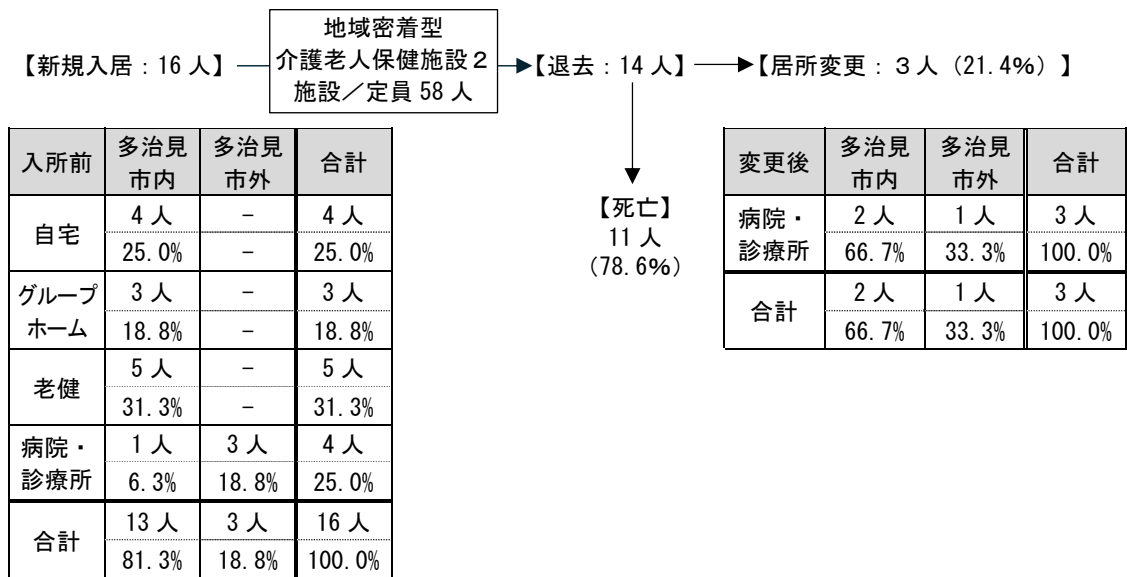
⑥ 介護老人福祉施設

図表 4-40 過去 1 年間の介護老人福祉施設の入居及び退居の流れ



⑦ 地域密着型介護老人保健施設

図表 4-41 過去 1 年間の地域密着型介護老人保健施設の入居及び退居の流れ



(4) 居所変更した人の要支援・要介護度

- 居所変更した人の要支援・要介護度をみると、「死亡」が42.8%と最も高く、次いで「要支援 4」（18.7%）、「要介護 3」（11.4%）の順となっています。
- 介護老人保健施設を除いてみると、「死亡」が59.4%となっています。また、要介護 2 以下の居所変更は8.7%となっています。

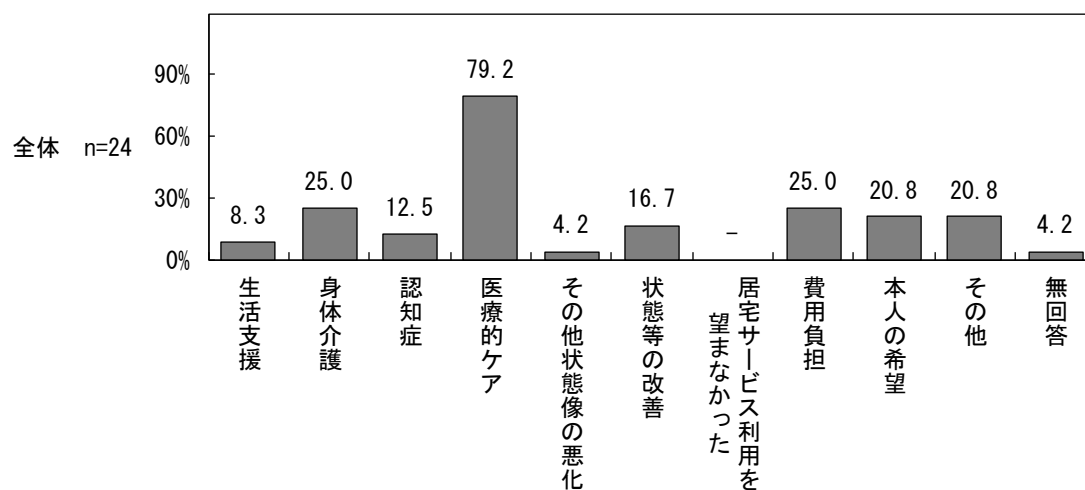
図表 4-42 居所変更した人の要支援・要介護度

区 分	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	死亡	合計
全 体 n=24	1人 0.2%	1人 0.2%	5人 1.2%	20人 4.9%	41人 10.0%	47人 11.4%	77人 18.7%	43人 10.5%	176人 42.8%	411人 100.0%
老健を除く n=23	1人 0.4%	1人 0.4%	5人 1.8%	3人 1.1%	14人 5.0%	21人 7.5%	35人 12.5%	34人 12.1%	167人 59.4%	281人 100.0%

(5) 居所変更した理由

■ 居所を変更した理由をたずねたところ、「医療的ケア」が79.2%と最も高く、次いで「身体介護」及び「費用負担」がそれぞれ25.0%となっています。

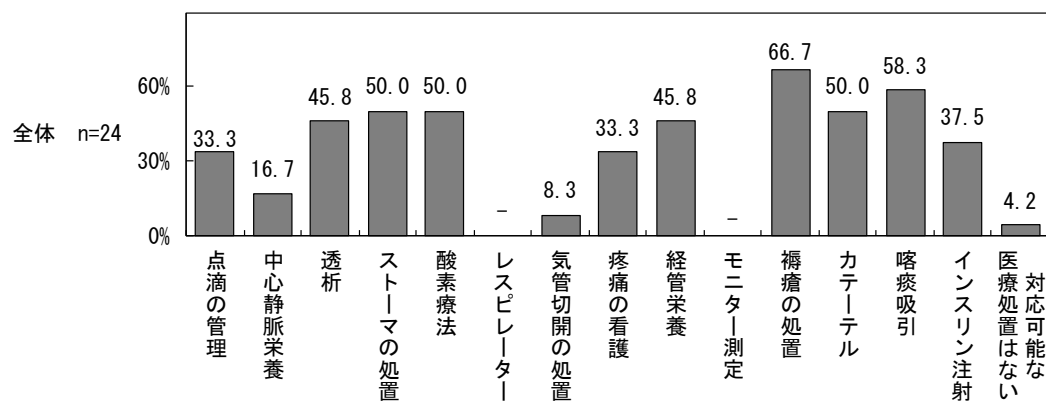
図表 4-43 居所変更した理由（3つまで）



(6) 受け入れ可能な医療処置の種類

■ 受け入れ可能な医療処置の種類をたずねたところ、「褥瘡の処置」が66.7%と最も高く、次いで「喀痰吸引」(58.3%)の順となっています。

図表 4-44 受け入れ可能な医療処置の種類（複数回答）



(7) 医療処置が必要な入所・入居者数の割合

■医療処置が必要な入所・入居者数の割合は、住宅型有料老人ホームが22.2%（32人）、介護老人福祉施設が9.6%（43人）、特定施設が6.8%（5人）、グループホーム及び介護老人保健施設がそれぞれ4.0%（4人）、地密型介護老人福祉施設が5.2%（3人）となっています。

図表 4－45 医療処置が必要な入所・入居者数の割合

区分	住宅型有料老人ホーム	グループホーム	特定施設	介護老人保健施設	介護老人福祉施設	地密型介護老人福祉施設	合計
n	7	6	1	1	5	2	24
人数（人）	32	4	5	4	43	3	91
割合（%）	22.2	4.0	6.8	4.0	9.6	5.2	9.6

※割合は各セルの人数を施設等ごとの入居・入所者数で除して算出しています。

調査票

☆アンケートに関するお問い合わせ先

多治見市役所 市民福祉部 高齢福祉課

電話:0572-23-5821/FAX:0572-25-6434

多治見市 高齢者保健福祉計画策定のための
高齢者実態調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろより市政発展のため、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本市では、高齢者の皆様の生活実態や課題を把握するとともに、ご意見やご要望を広くお聞きし、今後の施策に反映させるためのアンケート調査を実施することといたしました。この調査結果は、令和8年度の「多治見市高齢者保健福祉計画（計画期間：令和9年度～令和11年度）の基礎資料」として策定する新たな「多治見市高齢者保健福祉計画」に活用させていただきます。

なお、このアンケート調査は、令和 7 年 11 月 1 日現在、要介護 1～5 の認定を受けていない 65 歳以上の市民の方から、3,000 人を無作為に抽出して実施するものであり、回答は統計的に処理されます。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、高齢者が元気で住み慣れた地域や自宅等で自分らしく暮らし続けられるまちづくりを進めるため、調査への協力を賜りますようお願いいたします。

令和7年12月 多治見市長 高木 貴行

ご回答にあたってのお願い

■このアンケートは、宛名のご本人がご回答ください。ご本人が回答できない場合は、ご家族の方や介護者の方が、ご本人の立場でご回答ください。

■回答は、令和7年12月1日現在の状況でお答えください。「その他」に○をつけた場合は、()内に具体的に内容をご記入ください。

■無理してすべての質問に答えていただく必要はありません。答えられる範囲で“回答ください”。

■回答はWEBでも可能です。①書面または②WEBのどちらかで回答してください。

①書面回答の場合

■回答いただいた調査票は、令和7年12月25日(木)までに同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、ポストに入れてください。

②WEB回答の場合

■右記の二次元コードまたは下記 URL からアクセスし、回答フォームより回答してください。

URL: <https://forms.gle/iAJUhHu42wihnpia6>

令和7年12月25日(木)までにご入力ください。

■回答IDは、調査票の表
かれています数字です。

※ご返送いただいた調査票の集計、分析は多治見市から委託を受けた(株)エディケーションが行います。

個人情報情報の取り扱いについて

皆さまの個人情報（住所、氏名等）の保護及び活用目的は次のとおりですので、ご確認ください。

【個人情報の保護及び活用目的について】

■この調査は、効果的な介護予防政策を検証し、事業の効果を評価するために行うものです。今回の調査で得られた情報に基づきましては、多治見市高齢者保健福祉計画策定の目的以外には利用しません。また、情報については、多治見市が適切に管理します。

■ただし、高齢者保健福祉計画策定時に今回の調査で得られたデータを活用するために、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人がわからない形で利用することがあります。

調査票を記入される方についてお聞きます。

問1 調査票を記入されたのはどなたですか。(1つに○)

1. 宛名のご本人が記入
2. ご家族が記入（ご本人から見た様柄）
3. その他

ご家族や生活状況についてお聞きます。

問2 家族構成をご回答ください。(1つに○)

1. ひとり暮らし
2. 夫婦2人暮らし (配偶者 65 歳以上)
3. 夫婦2人暮らし (配偶者 64 歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

※問2-1は、問2で「1. ひとり暮らし」以外に○を付けた方にお聞きします。

問2-1 日中、一人になることがありますか。(1つに○)

1. よくある
2. たまにある
3. ない

問3 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

※問3-1は、問3で「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。

問3-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(○はいくつでも)

1. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	9. 腎疾患 (透析)
2. 心臓病	10. 視覚・聴覚障害
3. がん (悪性新生物)	11. 骨折・転倒
4. 呼吸器の病気 (肺炎腫・肺炎等)	12. 骨格異常
5. 関節の病気 (リウマチ等)	13. 高齢による衰弱
6. 認知症 (アルツハイマー病等)	14. その他 ()
7. パーキンソン病	15. 不明
8. 糖尿病	

※問3-2は、問3で「3. 現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお聞きします。

問3-2 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(1つに○)

1. 配偶者	4. 孫	6. 介護サービスのヘルパー
2. 子	5. 兄弟・姉妹	7. その他 ()
3. 子の配偶者		

問4 現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。(1つに○)

1. 大変苦しい	3. ぶつう	5. 大変ゆとりがある
2. やや苦しい	4. ややゆとりがある	

問5 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○)

1. 持家 (一戸建て)	3. 公営賃貸住宅	5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)
2. 持家 (集合住宅)	4. 民間賃貸住宅 (一戸建て)	6. その他

からだを動かすことについてお聞きします。

問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしてない	3. できない
--------------	--------------	---------

問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしてない	3. できない
--------------	--------------	---------

問8 日頃 (日常的に) 15分位続けて歩いていきますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしてない	3. できない
--------------	--------------	---------

問9 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○)

1. 何度もある	2. 一度ある	3. ない
----------	---------	-------

問10 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○)

1. とても不安である	3. あまり不安でない
2. やや不安である	4. 不安でない

問11 週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

1. ほとんど外出しない	3. 週2～4回
2. 週1回	4. 週5回以上

問12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○)

1. とても減っている	3. あまり減っていない
2. 減っている	4. 減っていない

問13 外出を控えていますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

※問13-1は、問13で「1. はい」と回答した方にお聞きします。

問13-1 外出を控えている理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 病気	6. 目の障がい
2. 障害 (脳卒中の後遺症など)	7. 外での楽しみがない
3. 足腰などの痛み	8. 経済的に出られない
4. トイレの心配 (失禁など)	9. 交通手段がない
5. 耳の障がい (聞こえの問題など)	10. その他 ()

問14 外出する際の移動手段は何ですか。(○はいいくつでも)

1. 徒歩	6. 自動車 (知り合いに乘せてもらう)	11. 車いす
2. 自転車	7. 電車	12. 電動車いす (カート)
3. バイク	8. 路線バス (東鉄バス)	13. 歩行器・シルバーカー
4. 自動車 (自分で運転)	9. コミュニティバス (ききょうバス)※	14. タクシー
5. 自動車 (家族に乘せてもらう)	10. 病院や施設のバス	15. その他 ()

※コミュニティバス (ききょうバス) とは、5つのルート (坂上・前山・宝町・オリベ観光・自主運行バス諏訪線) を走る「うながっば」が目印のバスです。諏訪線を除いて、100～200 円で乗車できます。

問15 将来の自動車運転免許証の返納意向についてご回答ください。(1つに○)

1. 1年以内に返納したい	4. 免許証を返納する気はない
2. 1～3年以内に返納したい	5. 免許証を持っていたが既に返納した
3. 3年より後に返納したい	6. 免許証を取得したことがない

※問15-1は、問15で「1. 1年以内に返納したい」、「2. 1～3年以内に返納したい」と回答した方にお聞きします。

問15-1 自動車運転免許証を返納した場合の移動手段は何ですか。(○はいいくつでも)

1. 徒歩	8. 病院や施設のバス
2. 自転車	9. 車いす
3. 自動車 (家族に乘せてもらう)	10. 電動車いす (カート)
4. 自動車 (知り合いに乘せてもらう)	11. 歩行器・シルバーカー
5. 電車	12. タクシー
6. 路線バス (東鉄バス)	13. その他 ()
7. コミュニティバス (ききょうバス)	

※問15-2は、問15で「3. 3年より後に返納したい」、「4. 免許証を返納する気はない」と回答した方にお聞きします。

問15-2 自動車運転免許証を返納しない理由は何ですか。(○はいいくつでも)

1. まだ運転できるから	5. 公共交通機関が不便だから
2. 仕事で運転免許証が必要だから	6. 家族・隣人等から移動の協力が得られないから
3. 買い物などの生活維持が難しいから	7. その他 ()
4. 緊急時に必要になるかもしれないから	

問16 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

食べることにしてお聞きします。

問17 あなたの身長と体重を教えてください。(枠内に数字を記入)

【身長】	cm	【体重】	kg
------	----	------	----

問18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問19 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問20 口の渇きが気になりますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問21 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問22 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)。(1つに○)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

※問22-1は、問22で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお聞きします。

問22-1 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問23 噛み合わせは良いですか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ	3. どちらともいえない
-------	--------	--------------

問24 6か月で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問25 どなたかと食事をともにする機会はありますか。(1つに○)

1. 毎日ある	4. 年に何度かある
2. 週に何度かある	5. ほとんどない
3. 月に何度かある	

問26 1日の食事の回数は何回ですか。(1つに○)

1. 朝昼晩の3食	4. 昼晩の2食
2. 朝晩の2食	5. 1食
3. 朝昼の2食	6. その他()

※問26-1は、問26で「5. 1食」と回答した方にお聞きします。

問26-1 食事をするのはいつですか。(1つに○)

1. 朝	2. 昼	3. 晩
------	------	------

毎日の生活についてお聞きします。

問27 物忘れが多いと感じますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問28 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしていない	3. できない
--------------	---------------	---------

問29 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしていない	3. できない
--------------	---------------	---------

※問29-1は、問29で「2. できるだけしていない」「3. できない」と回答した方にお聞きします。

問29-1 食品・日用品の買物をする人は主にどなたですか。(1つに○)

1. 同居の家族	3. ヘルパー	5. その他
2. 別居の家族	4. 配達を依頼	

問30 自分で食事の用意をしていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしていない	3. できない
--------------	---------------	---------

※問30-1は、問30で「2. できるだけしていない」「3. できない」と回答した方にお聞きします。

問30-1 食事の用意をする人は主にどなたですか。(1つに○)

1. 同居の家族	3. ヘルパー	5. その他
2. 別居の家族	4. 配達を依頼	

問31 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしていない	3. できない
--------------	---------------	---------

問32 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに○)

1. できるし、している	2. できるだけしていない	3. できない
--------------	---------------	---------

問33 5分前に自分が何をしていたかを思い出せますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問34 その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

1. 困難なくできる
2. いくらか困難であるが、できる
3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要
4. ほとんど判断できない

問35 人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

1. 伝えられる	3. あまり伝えられない
2. いくらか困難であるが、伝えられる	4. ほとんど伝えられない

問36 食事は自分で食べられますか。(1つに○)

1. できる
2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる
3. できない

問37 いつも同じことを聞くなどと言われますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

地域での活動についてお聞きします。

問38 以下のような会・グループ等にとどのくらいの頻度で参加していますか。
(それぞれ1つに○)

項 目	週4回 以上	週2～3 回	週1回	月1～3 回	年に数回	参加して いない
① ボランティアの グループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係の グループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 介護予防のための通 いの場（ひまわりサ ロン等）	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ (燈光クラブ)	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

問39 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いさい
きた地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたい
と思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい	3. 参加したくない
2. 参加してもよい	4. 既に参加している

問40 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いさい
きた地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）とし
て参加してみたいと思いますか。(1つに○)

1. 是非参加したい	3. 参加したくない
2. 参加してもよい	4. 既に参加している

問41 あなたの地域であればよいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1. 配食の手伝い	7. 見守り、声かけ
2. 調理	8. サロンなど、通いの場のサポート
3. 掃除・洗濯	9. 外出時の送迎
4. 買い物代行	10. 特にない
5. 外出同行（通院、散歩など）	11. その他（ ）
6. ゴミ出し	

問42 あなたは地域でどんな支援ができると思えますか。(○はいくつでも)

1. 配食の手伝い	7. 見守り、声かけ
2. 調理	8. サロンなど、通いの場のサポート
3. 掃除・洗濯	9. 外出時の送迎
4. 買い物代行	10. 特にない
5. 外出同行（通院、散歩など）	11. その他（ ）
6. ゴミ出し	

就労についてお聞きします。

問43 現在のあなたの就労状態はどれですか（○はいくつでも）

1. 職に就いたことがない	5. 自営業
2. 引退した	6. 求職中
3. 常勤（フルタイム）	7. その他 （ ）
4. 非常勤（パート・アルバイト等）	

※問43-1は、問43で「2. 引退した」と回答した方にお聞きします。

問43-1 あなたはいつ引退しましたか（和暦または西暦でご記入ください）

【和暦で回答】

1. 昭和	年	2. 平成	年	3. 令和	年
-------	---	-------	---	-------	---

【西暦で回答】

					年
--	--	--	--	--	---

たすけあいについてお聞きします。

問44 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他 ()
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない
3. 別居の子ども	6. 友人	

問45 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他 ()
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない
3. 別居の子ども	6. 友人	

問46 あなたが病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他 ()
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない
3. 別居の子ども	6. 友人	

問47 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 配偶者	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	7. その他 ()
2. 同居の子ども	5. 近隣	8. そのような人はいない
3. 別居の子ども	6. 友人	

問48 家族や友人・知人以外で、困った時に相談する相手をお答えください。(○はいくつでも)

1. 自治会・町内会・老人クラブ	3. ケアマネジャー	6. その他 ()
2. 社会福祉協議会・民生委員	4. 医師・歯科医師・看護師・薬剤師	7. そのような人はいない
	5. 地域包括支援センター・市役所	

問49 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つに○)

1. 毎日ある	3. 月に何度かある	5. ほとんどない
2. 週に何度かある	4. 年に何度かある	

問50 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つに○)

1. 0人 (いない)	3. 3～5人	5. 10人以上
2. 1～2人	4. 6～9人	

問51 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(○はいくつでも)

1. 近所・同じ地域の人	5. 趣味や関心が同じ友人
2. 幼なじみ	6. ボランティア等の活動での友人
3. 学生時代の友人	7. その他 ()
4. 仕事での同僚・元同僚	8. いない

健康についてお聞きします。

問52 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○)

1. とてもよい	3. あまりよくない
2. まあよい	4. よくない

問53 あなたは、現在のどの程度幸せですか。(1つに○)

とても不幸							とても幸せ			
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

問54 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問55 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問56 タバコ (電子タバコを含みます) は吸っていますか。(1つに○)

1. ほぼ毎日吸っている	3. 吸っていたがやめた
2. 時々吸っている	4. もともと吸っていない

問57 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(○はいくつでも)

1. ない	11. 外傷 (転倒・骨折等)
2. 高血圧	12. がん (悪性新生物)
3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	13. 血液・免疫の病気
4. 心臓病	14. うつ病
5. 糖尿病	15. 認知症 (アルツハイマー病等)
6. 高脂血症 (脂質異常)	16. パーキンソン病
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	17. 目の病気
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	18. 耳の病気
9. 腎臓・前立腺の病気	19. その他 ()
10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	

問58 お酒は飲みますか。(1つに○)

1. ほぼ毎日飲む	3. ほとんど飲まない
2. 時々飲む	4. もともと飲まない・飲めない

認知症についてお聞きます。

問59 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問60 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問61 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。(1つに○)

1. 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる
2. 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
3. 認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
4. 認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
5. 認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう
6. その他 ()
7. わからない

問62 令和6年、国は「認知症施策推進基本計画」において「新しい認知症観」を示しました。多治見市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまらだと思いませんか。(1つに○)

※認知症になったから何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人ひとりが個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方。

1. 思う	4. 思わない
2. どちらかといえば思う	5. わからない
3. あまり思わない	

問63 あなたは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を知っていますか。(1つに○)

1. 活動内容まで知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
3. 知らない

人生の最終段階についてお聞きます。

問64 あなたが人生の最終段階において望む医療・ケアについて、ご家族等や医療介護関係者とのくらしい話し合ったことがありますか。(1つに○)

1. 詳しく話し合っている
2. 一応話し合っている
3. 話し合ったことはない

問65 あなたが人生の最終段階において、もしも以下の3つの状況となった場合、どこで過ごしたいですか。(それぞれ1つに○)

	医療機関	介護施設	自宅
①末期がん、食事や呼吸が不自由であるが、痛みがなく、意識や判断能力は健康な時と同様な場合	1	2	3
②重度の心臓病で、身の回りの手助けが必要であるが、意識や判断能力は健康な時と同様な場合	1	2	3
③認知症になり、身の回りの手助けが必要で、かなり衰弱が進んできた場合	1	2	3

問66 地震などの災害時のことで、あなたが普段不安に感じていることは何ですか。
(○はいくつでも)

1. 災害発生直後に、救助が必要なことを人に知らせることができるか
2. 災害発生直後に、近所の人に救助してもらえるか
3. 災害発生直後に、必要な情報を得られるか
4. 避難所まで移動できるか
5. 自分のけがや病気の状態が悪くならないか
6. その他（ ）
7. 特に不安はない

在宅における医療と介護の連携についてお聞きします。

問67 かかりつけ医はいますか。(1つに○)

1. いる
2. いない
3. わからない

問68 近くに訪問診療（自宅に来て診察すること）をしてくれる医師はいますか。
（1つに○）

1. いる
2. いない
3. わからない

問69 訪問診療をしてくれる医師がいたら、利用したいと思いませんか。(1つに○)

1. 利用したい
2. 利用しようとは思わない
3. わからない

ご協力ありがとうございます。記入もれがないか、今一度お確かめください。

令和7年12月25日(木)までに投函してください。(切手不要)

多治見市 高齢者保健福祉計画策定のための
要介護認定者調査

A票 認定調査員が概況調査等と並行して記載してください。

被保険者番号 ()

● A票の聞き取りを行った相手の方はどなたですか。(○はいくつでも)

1. 調査対象者本人	4. 調査対象者のケアマネジャー
2. 主な介護者となっている家族・親族	5. その他
3. 主な介護者以外の家族・親族	

問1 世帯類型についてご回答ください。(1つに○)

1. 単身世帯	2. 夫婦のみ世帯	3. その他
---------	-----------	--------

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(1つに○)

1. ない	2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
	3. 週に1～2日ある
	4. 週に3～4日ある
	5. ほぼ毎日ある

※問2-1から問2-5は、問2で「2.」「5.」のいずれかを回答した方にお聞きします。

問2-1 主な介護者はどなたですか。(1つに○)

1. 配偶者	3. 子の配偶者	5. 兄弟・姉妹
2. 子	4. 孫	6. その他

問2-2 主な介護者の方の性別についてご回答ください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2-3 主な介護者の方の年齢についてご回答ください。(1つに○)

1. 20歳未満	4. 40代	7. 70代
2. 20代	5. 50代	8. 80歳以上
3. 30代	6. 60代	9. わからない

問2-4 現在、主な介護者が行っている介護等についてご回答ください。(○はいくつでも)

	1. 日中の排泄	7. 屋内の移乗・移動
	2. 夜間の排泄	8. 外出の付き添い、送迎等
身体介護	3. 食事の介助(食べる時)	9. 服薬
	4. 入浴・洗身	10. 認知症状への対応
	5. 身だしなみ(洗髪・歯磨き等)	11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)
	6. 衣服の着脱	
生活援助	12. 食事の準備(調理等)	14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
	13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	
その他	15. その他	16. わからない

問2-5 ご家族やご親族の中で、ご本人(調査対象者)の介護を主な理由として過去1年間に仕事を辞めた方はいませんか。現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。(○はいくつでも)

※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ここから再び全員にお聞きします。

問3 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについてご回答ください。
(○はいくつでも)

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

1. 配食	7. 移送サービス (介護・福祉タクシー等)
2. 調理	8. 見守り、声かけ
3. 掃除・洗濯	9. サロンなどの定期的な通いの場
4. 買い物 (宅配は含まない)	10. その他 ()
5. ゴミ出し	11. 利用していない
6. 外出同行 (通院、買い物など)	

問4 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む) について、ご回答ください。(○はいくつでも)

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

1. 配食	7. 移送サービス (介護・福祉タクシー等)
2. 調理	8. 見守り、声かけ
3. 掃除・洗濯	9. サロンなどの定期的な通いの場
4. 買い物 (宅配は含まない)	10. その他 ()
5. ゴミ出し	11. 利用していない
6. 外出同行 (通院、買い物など)	

問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況についてご回答ください。(1つに○)

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護支援センター、特設施設 (有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別介護老人ホームを指します。

1. 入所・入居は検討していない	3. すでに入所・入居申し込みをしている
2. 入居・入所を検討している	

問6 ご本人 (調査対象者) が現在抱えている傷病についてご回答ください。(○はいくつでも)

1. 脳血管疾患 (脳卒中)	9. 認知症
2. 心疾患 (心臓病)	10. パーキンソン病
3. 悪性新生物 (がん)	11. 難病 (パーキンソン病を除く)
4. 呼吸器疾患	12. 糖尿病
5. 腎疾患 (透析)	13. 眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)
6. 筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、骨髄狭窄症等)	14. その他 ()
7. 膠原病 (関節リウマチ含む)	15. なし
8. 変形性関節疾患	16. わからない

問7 ご本人 (調査対象者) は現在、訪問診療を利用していますか。(1つに○)

※訪問科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

問8 現在、(住宅改修・福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

※問8-1は、問8で「2. 利用していない」と回答した方にお聞きします。

問8-1 介護保険のサービスを利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	6. 利用したいサービスが利用できない・身近にない
2. 本人にサービス利用の希望がない	7. 住宅改修・福祉用具貸与・購入のみを利用するため
3. 家族が介護をするため必要ない	8. サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった	9. その他 ()
5. 利用料を支払うのが難しい	

- 問2で「2.」～「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。
- 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人 (調査対象者の方) にご回答・ご記入をお願いしてください (ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

B票

主な介護者の方、もしくはご本人（調査対象者）にお聞きします。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つに○）

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

1. フルタイムで働いている	3. 働いていない
2. パートタイムで働いている	4. 主な介護者に確認しないと、わからない

※問1-1から問1-3は、問1で「1.」「2.」と回答した方にお聞きします。

問1-1 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていきますか。（○はいくつでも）

1. 特に行っていない	4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、退社・早帰・中抜け等）」しながら、働いている	5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問1-2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで○）

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実	7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
3. 制度を利用しやすい職場づくり	8. 介護をしている従業員への経済的な支援
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	9. その他（ 10. 特にない
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問1-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1つに○）

1. 問題なく、続けていける	4. 続けていくのは、かなり難しい
2. 問題はあるが、何とか続けていける	5. 主な介護者に確認しないと、わからない
3. 続けていくのは、やや難しい	

※ここから再び全員にお聞きします。

問2 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等についてご回答ください。現状で行っているか否かは問いません。（3つまで○）

身体 介護	1. 日中の排泄	7. 屋内の移乗・移動
	2. 夜間の排泄	8. 外出の付き添い、送迎等
	3. 食事の介助（食べる時）	9. 服薬
	4. 入浴・洗身	10. 認知症への対応
	5. 身だしなみ（浴顔・歯磨き等）	11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）
生活 援助	6. 衣服の着脱	
	12. 食事の準備（調理等）	14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
その他	13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	
	15. その他	17. 主な介護者に確認しないと、わからない
	16. 不安に感じていることは、特にない	

問3 人生の最終段階において要介護者（調査対象者）の方が望む医療・ケアについて、ご家族等や医療関係者とのくらし話し合ったことがありますか。（1つに○）

1. 詳しく話し合っている	3. 話し合ったことはない
2. 一応話し合っている	4. 無回答

問4 令和6年、国は「認知症施策推進基本計画」において「新しい認知症観※」を示しました。多治見市は、認知症になっても住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまぢだと思いませんか。（1つに○）

※認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らすことができるという考え方。

1. 思う	3. あまり思わない	5. わからない
2. どちらかといえば思う	4. 思わない	

問5 多治見市には認知症の方や家族、地域の人が気軽に相談し、話せる居場所である認知症カフェがあります。あなたは、認知カフェに参加してみたいですか。（1つに○）

1. 参加したことがある	4. 知らないし、参加したくない
3. 知らないが、参加してみたい	5. わからない
2. 知っているが、参加したくない	

問6 あなたは、認知カフェにどのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

1. 認知症の人と交流ができること	6. 頻繁に開催されること
2. 介護者同士の交流ができること	7. 多世代の人と交流できること
3. 気軽に専門的な相談ができること	8. 文化活動やスポーツができること
4. 認知症や介護に関する知識が得られること	9. その他 ()
5. 身近な場所で開催されること	10. わからない

問7 認知症の人が自分らしく、地域で生活するために必要なことは何だと思いますか。(3つまで〇)

1. 認知症の早期発見・早期対応のしくみづくり
2. 認知症の人が社会参加できる機会の充実
3. 地域における認知症の人への理解や見守りの推進
4. 家族介護者同士の交流会や相談会の充実
5. 認知症高齢者に対する福祉サービス制度の充実
6. グループホームなどの住まいの場の整備
7. 成年後見制度や虐待防止などの権利擁護の取組の充実
8. 若年性認知症に対する支援
9. その他 ()

問8 多治見市の高齢者福祉についてご意見がございましたらご自由にご記入ください。

質問は以上で終わります。ご協力いただきありがとうございました。

在宅生活改善調査【事業所票】

※令和7年12月1日現在の状況について、 の中にご回答ください。

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。〔数値を記入〕

1) 所属するケアマネジャーの人数	人
2) 「自宅等（3）を除く）」にお住まいの利用者数	人
3) 「サ高住」・「在宅型有料」・「経費老人ホーム」にお住まいの利用者数	人

ここからは、貴事業所において、過去1年の間（令和6年12月1日～7年11月30日）に「自宅等（サ高住・在宅型有料・経費老人ホームを除く）」から、居場所を変更した利用者」と「自宅等で死亡した利用者」についてお答えします。

問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・在宅型有料・経費老人ホームを除く）」から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」をご記入ください。〔数値を記入〕

※入居後に自宅等に戻った方、現在一時的に入居中の方は含めないでください。
※介護先等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②自宅等での死亡」、
※搬送先から転院等の後に死亡したケースは「③自宅等から、居場所を変更した利用者」に含めてください。

①自宅等から、居場所を変更した利用者						②自宅等での死亡	合計★
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明

問3 貴事業所において、過去1年間の間に「自宅等（サ高住・在宅型有料・経費老人ホームを除く）」から、居場所を変更した利用者数」を行先別にご記入ください。〔数値を記入〕

※入居した後自宅等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。
※搬送後、搬送先から転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居所変更」として、該当する行先をカウントしてください。

※問3の合計（★）と、問2の合計（★）が一致することをご確認ください。

行先	多治見市内	多治見市外
1) 兄弟・子ども・親戚等の家		
2) 在宅型有料老人ホーム		
3) 経費老人ホーム（特定施設除く）		
4) サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）		
5) グループホーム		
6) 特定施設		
7) 地域密着型特定施設		
8) 介護老人保健施設		
9) 介護医療院		
10) 特別介護老人ホーム		
11) 地域密着型特別介護老人ホーム		
12) 病院・診療所 ※一時的な入居を除く		
13) その他		
14) 行先を把握していない		
15) 自宅等での死亡 ※搬送先での死亡を含む		
合計★		

合計人数が一致する「1」と「2」を確認ください

問4 貴事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いですか。
よくあるケースについてお答えください。（自由回答）

貴事業所についてご記入ください。

事業所名	
ご担当者氏名	
電話番号	
Eメールアドレス	

調査は以上となります。ご協力ありがとうございます。

「自宅等」、「付帯住」、「住宅型有料」、「障害者ホーム」にお住いの方のみが「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」または「介護等介護者の対応援助が難しくなっている利用者」が対象です。
例えば「巡回訪問介護が必要」となると、現在の訪問介護の利用では対応が困難で、定期巡回サービスの利用がよいと判断し「利用者」、「訪問前」にケアプラン決定の強化により、介護者の負担が軽減され、グループホームへの入居がよいと判断し「利用者」が対象です。

の中に、令和 7 年 12 月 1 日現在の状況について回答してください。

は、四捨五入のため、修正してください。Eー内容は、C列～D列を参照ください。

は、回答・選択不要部分です。

問1. 対象となる利用者の状況等について、お聞かせください。				問2. 対象となる利用者の主な家族等介護者の状況等について、お聞かせください。																			
問1-0	問1-1	問1-2	問1-3	問1-4	問1-5	問2-1	問2-2	問2-3															
利用者の 所在地	「施設サービス利用 者」で、生活の能 力維持に必要と する利用者に「施設 サービス」に「常駐 」している。	「介護サービス利用 者」で、生活の能 力維持に必要と する利用者に「施設 サービス」に「常駐 」している。	世帯類型	現在の居所	要支援、要介 護度	主な家族等介護 者の年代	主な家族等介護 者の方 の現在の勤形態	今後の在宅生活の継続、または家族等介護者の就労継続に向けて、特に 家族等介護者の負担になっている介護 (3つまで選択)															
1. 障害小中学校 2. 養育小中学校 3. 児童小中学校 4. 施設小中学校 5. 療養小中学校 6. 養育小中学校 7. 施設小中学校 8. 養育小中学校 9. 養育小中学校 10. 養育小中学校 11. 養育小中学校 12. 養育小中学校 13. 養育小中学校	1. はい 2. いいえ	1. はい 2. いいえ	1. 他居 2. 同居の家族 3. 同居の家族 4. その他の同居	1. 他居 2. 同居の家族 3. 同居の家族 4. その他の同居	1. 要支援 1 2. 要支援 2 3. 要介護 1 4. 要介護 2 5. 要介護 3 6. 要介護 4 7. 要介護 5 8. 要介護 6 9. 要介護 7 10. 要介護 8 11. 要介護 9 12. 要介護 10 13. 要介護 11 14. 要介護 12 15. 要介護 13 16. 要介護 14 17. 要介護 15 18. 要介護 16 19. 要介護 17 20. 要介護 18 21. 要介護 19 22. 要介護 20 23. 要介護 21 24. 要介護 22 25. 要介護 23 26. 要介護 24 27. 要介護 25 28. 要介護 26 29. 要介護 27 30. 要介護 28 31. 要介護 29 32. 要介護 30 33. 要介護 31 34. 要介護 32 35. 要介護 33 36. 要介護 34 37. 要介護 35 38. 要介護 36 39. 要介護 37 40. 要介護 38 41. 要介護 39 42. 要介護 40 43. 要介護 41 44. 要介護 42 45. 要介護 43 46. 要介護 44 47. 要介護 45 48. 要介護 46 49. 要介護 47 50. 要介護 48 51. 要介護 49 52. 要介護 50 53. 要介護 51 54. 要介護 52 55. 要介護 53 56. 要介護 54 57. 要介護 55 58. 要介護 56 59. 要介護 57 60. 要介護 58 61. 要介護 59 62. 要介護 60 63. 要介護 61 64. 要介護 62 65. 要介護 63 66. 要介護 64 67. 要介護 65 68. 要介護 66 69. 要介護 67 70. 要介護 68 71. 要介護 69 72. 要介護 70 73. 要介護 71 74. 要介護 72 75. 要介護 73 76. 要介護 74 77. 要介護 75 78. 要介護 76 79. 要介護 77 80. 要介護 78 81. 要介護 79 82. 要介護 80 83. 要介護 81 84. 要介護 82 85. 要介護 83 86. 要介護 84 87. 要介護 85 88. 要介護 86 89. 要介護 87 90. 要介護 88 91. 要介護 89 92. 要介護 90 93. 要介護 91 94. 要介護 92 95. 要介護 93 96. 要介護 94 97. 要介護 95 98. 要介護 96 99. 要介護 97 100. 要介護 98 101. 要介護 99 102. 要介護 100 103. 要介護 101 104. 要介護 102 105. 要介護 103 106. 要介護 104 107. 要介護 105 108. 要介護 106 109. 要介護 107 110. 要介護 108 111. 要介護 109 112. 要介護 110 113. 要介護 111 114. 要介護 112 115. 要介護 113 116. 要介護 114 117. 要介護 115 118. 要介護 116 119. 要介護 117 120. 要介護 118 121. 要介護 119 122. 要介護 120 123. 要介護 121 124. 要介護 122 125. 要介護 123 126. 要介護 124 127. 要介護 125 128. 要介護 126 129. 要介護 127 130. 要介護 128 131. 要介護 129 132. 要介護 130 133. 要介護 131 134. 要介護 132 135. 要介護 133 136. 要介護 134 137. 要介護 135 138. 要介護 136 139. 要介護 137 140. 要介護 138 141. 要介護 139 142. 要介護 140 143. 要介護 141 144. 要介護 142 145. 要介護 143 146. 要介護 144 147. 要介護 145 148. 要介護 146 149. 要介護 147 150. 要介護 148 151. 要介護 149 152. 要介護 150 153. 要介護 151 154. 要介護 152 155. 要介護 153 156. 要介護 154 157. 要介護 155 158. 要介護 156 159. 要介護 157 160. 要介護 158 161. 要介護 159 162. 要介護 160 163. 要介護 161 164. 要介護 162 165. 要介護 163 166. 要介護 164 167. 要介護 165 168. 要介護 166 169. 要介護 167 170. 要介護 168 171. 要介護 169 172. 要介護 170 173. 要介護 171 174. 要介護 172 175. 要介護 173 176. 要介護 174 177. 要介護 175 178. 要介護 176 179. 要介護 177 180. 要介護 178 181. 要介護 179 182. 要介護 180 183. 要介護 181 184. 要介護 182 185. 要介護 183 186. 要介護 184 187. 要介護 185 188. 要介護 186 189. 要介護 187 190. 要介護 188 191. 要介護 189 192. 要介護 190 193. 要介護 191 194. 要介護 192 195. 要介護 193 196. 要介護 194 197. 要介護 195 198. 要介護 196 199. 要介護 197 200. 要介護 198 201. 要介護 199 202. 要介護 200 203. 要介護 201 204. 要介護 202 205. 要介護 203 206. 要介護 204 207. 要介護 205 208. 要介護 206 209. 要介護 207 210. 要介護 208 211. 要介護 209 212. 要介護 210 213. 要介護 211 214. 要介護 212 215. 要介護 213 216. 要介護 214 217. 要介護 215 218. 要介護 216 219. 要介護 217 220. 要介護 218 221. 要介護 219 222. 要介護 220 223. 要介護 221 224. 要介護 222 225. 要介護 223 226. 要介護 224 227. 要介護 225 228. 要介護 226 229. 要介護 227 230. 要介護 228 231. 要介護 229 232. 要介護 230 233. 要介護 231 234. 要介護 232 235. 要介護 233 236. 要介護 234 237. 要介護 235 238. 要介護 236 239. 要介護 237 240. 要介護 238 241. 要介護 239 242. 要介護 240 243. 要介護 241 244. 要介護 242 245. 要介護 243 246. 要介護 244 247. 要介護 245 248. 要介護 246 249. 要介護 247 250. 要介護 248 251. 要介護 249 252. 要介護 250 253. 要介護 251 254. 要介護 252 255. 要介護 253 256. 要介護 254 257. 要介護 255 258. 要介護 256 259. 要介護 257 260. 要介護 258 261. 要介護 259 262. 要介護 260 263. 要介護 261 264. 要介護 262 265. 要介護 263 266. 要介護 264 267. 要介護 265 268. 要介護 266 269. 要介護 267 270. 要介護 268 271. 要介護 269 272. 要介護 270 273. 要介護 271 274. 要介護 272 275. 要介護 273 276. 要介護 274 277. 要介護 275 278. 要介護 276 279. 要介護 277 280. 要介護 278 281. 要介護 279 282. 要介護 280 283. 要介護 281 284. 要介護 282 285. 要介護																		

図3. 現在のサービス利用では、本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由等について、お答えください。

図3-1	図3-2	図3-3	図3-4
現在のサービス利用では、本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由等についてお答えください			
(1) 本人の状況等に属する理由 (複数選択可) 1 家族などなし 2 必要となる生活費の増大 3 必要となる生活費の増大 4 必要となる生活費の増大 5 必要となる生活費の増大 6 必要となる生活費の増大 7 必要となる生活費の増大 8 必要となる生活費の増大 9 必要となる生活費の増大 10 必要となる生活費の増大	(2) 主に本人の意向等に属する理由 (複数選択可) 1 家族などなし 2 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 3 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 4 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 5 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 6 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 7 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 8 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 9 本人が「一部の家賃サービス」を希望している 10 本人が「一部の家賃サービス」を希望している	(3) 主に家族等介護者の意向、負担等に属する理由 (複数選択可) 1 家族などなし 2 介護者の負担が大きい 3 介護者の負担が大きい 4 介護者の負担が大きい 5 介護者の負担が大きい 6 介護者の負担が大きい 7 介護者の負担が大きい 8 介護者の負担が大きい 9 介護者の負担が大きい 10 介護者の負担が大きい	本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続のために、実施が必要となる「生活支援」をお答えください。(複数選択可) 1 家族などなし 2 必要となる生活費の増大 3 必要となる生活費の増大 4 必要となる生活費の増大 5 必要となる生活費の増大 6 必要となる生活費の増大 7 必要となる生活費の増大 8 必要となる生活費の増大 9 必要となる生活費の増大 10 必要となる生活費の増大

問4-3 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっているもしくは「家族等が介護者の記録維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の改善等について、お答えください。

問4-4 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっているもしくは「家族等が介護者の記録維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の改善等について、お答えください。

問4-1 本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください。（複数選択可）

※ 英語版サービスがある場合は1から10まで選択し、利用希望サービスについて「利用したいサービス」を選択してください。
 ※ 英語版サービスがないサービスは「不要」を選択し、必要となるサービスが何もない場合は「必要ないサービス」を選択してください。

問4-2 【問4-1で「2」・「19」を選択した場合は必須項目】										問4-3 【問4-1で「2」・「19」・「8(常時)」を選択した場合は必須項目】										問4-4 【問4-1で「19」・「8(常時)」を選択した場合は必須項目】									
利用者の入所・入居の緊急程度をお答えください										利用者の入所・入居の緊急程度をお答えください										利用者の入所・入居の緊急程度をお答えください									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1

※令和7年12月1日現在の状況について、の中に、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（1つに○）

※本調査票の送付先（郵便・メール等の宛先となる事業所）で行うサービスについて、ご回答ください。

1. 施設・居住系サービス

特別養護老人ホーム（地域密着型含む）、介護老人保健施設、介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設（地域密着型含む）、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、経営老人ホーム

2. 通所系サービス

（通所介護（地域密着型含む）、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護、通所型サービス（総合事業））

問2 貴事業所（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する介護職員について、お伺いします。
※ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません。）

問2-1 介護職員の人数を、ご記入ください。（数値を記入）
※前月に出勤のない、長期休暇（育児休業等）中の職員は人数に含めないでください。
※「外国人」には、EPA・技能実習・在留資格「介護」、特定技能により勤務している人数をご記入ください。

介護職員の総数	人	左記のうち常勤職員	人
		左記のうち非常勤職員	人
外国人職員数	人	派遣職員数	人

問2-2 貴事業所は開設から1年以上経過していますか。

1. はい ⇒問2-3へ

2. いいえ ⇒問3へ

(1つに○)

問2-3 令和7年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。
過去1年間（令和6年12月1日～7年11月30日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別に
ご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。（数値を記入）

	採用者数	離職者数
常勤職員		
非常勤職員		
合計		

問3 採用や人材定着に関する課題をご回答ください。（自由記述）

問4 人材確保に関して多治見市に期待するサポートがあれば、ご回答ください。（自由記述）

貴事業所についてご記入ください。

事業所名	
ご担当者氏名	
電話番号	
Eメールアドレス	

続いて、調査票（Q5）の設問（問5）にお答えください。

介護人材実態調査【事業所票】訪問系

※令和7年12月1日現在の状況について、 の中に、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（1つに○）

※本調査票の送付先（郵便・メール等の宛先となっている事業所）で行うサービスについて、ご回答ください。

☐	1. 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
☐	2. 小規模多機能型居宅介護
☐	3. 看護小規模多機能型居宅介護
☐	4. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

問2 貴事業所（問1で○をつけたサービス種別の事業所）に所属する介護職員について、お伺いします。

※ここでの「介護職員」は、賃金の支払いを受けている方に限ります。（ボランティアの方は含みません。）

問2-1 介護職員の人数を、ご記入ください。（数値を記入）

※前月に出勤のない、長期休暇（育児休業等）中の職員は人数に含めないでください。

※「外国人」には、EPA・技能実習・在留資格「介護」、特定技能により勤務している人数をご記入ください。

介護職員の総数		人	左記のうち常勤職員		人
			左記のうち非常勤職員		人
外国人職員数		人	派遣職員数		人

問2-2 貴事業所は開設から1年以上経過していますか。
(1つ選択)

☐	1. はい ⇒問2-3へ
☐	2. いいえ ⇒問3へ

問2-3 令和7年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。

過去1年間（令和6年12月1日～7年11月30日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別に記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。（数値を記入）

	採用者数	離職者数
常勤職員		
非常勤職員		
合計		

問3 採用や人材定着に関する課題をご回答ください。（自由記述）

問4 人材確保に関して多治見市に期待するサポートがあれば、ご回答ください。（自由記述）

貴事業所についてご記入ください。

事業所名	
ご担当者氏名	
電話番号	
Eメールアドレス	

調査は以上となります。ご協力ありがとうございました。

介護人材実態調査 職員票（訪問系）

※この調査票は、訪問サービス・訪問介護を行う介護職員の方（非常勤含む。ボランティア除く）が対象です。
※今年7年12月1日現在の状況について、 の中へ、ご回答ください。

問1 あなたが、本調査票を受け取った事業所で提供するサービス種別（介護予防を含む）、ご回答ください。〔1つ選択〕

- ☐ 1. 訪問系サービス（訪問介護、訪問入浴、夜間対応型訪問介護、訪問型サービス（総合事業））
- ☐ 2. 小規模多機能型居宅介護
- ☐ 3. 看護小規模多機能型居宅介護
- ☐ 4. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

問2 あなたの資格の取得、研修の修了の状況について、ご回答ください。〔1つ選択〕

- ☐ 1. 介護福祉士（認定介護福祉士を含む）
- ☐ 2. 介護福祉士実務者研修修了、または（旧）介護職員基礎研修修了、または（旧）ヘルパー1級
- ☐ 3. 介護職員初任者研修修了、または（旧）ヘルパー2級
- ☐ 4. 「1.」～「3.」のいずれにも該当しない

問3 あなたの雇用形態、性別、年齢、年齢、過去1週間の勤務時間等について、ご回答ください。

1)雇用形態（1つに○）	☐ 1. 常勤職員	☐ 2. 非常勤職員
2)性別（1つに○）	☐ 1. 男性	☐ 2. 女性
3)年齢（1つに○）	☐ 1. 20歳未満	☐ 2. 20代
	☐ 4. 40代	☐ 5. 50代
	☐ 7. 60代以上	☐ 6. 60代
4)過去1週間の勤務時間（数値を記入）	週 時間	※残業時間を含む。 休勤時間は除く。
※間1で回答した勤務先における時間		
6)現在の事業所での勤務年数（1つに○）	☐ 1. 1年以上→基準に到達	☐ 2. 1年未満→間4と基準に到達

問4 【問3の5)で「2.」と回答された方】現在の事業所に勤務する直前の職場について、以下にご回答ください。

☐ 1. 現在の職場が初めての勤務先⇒【裏面に回答】
☐ 2. 介護以外の職場⇒【裏面に回答】
☐ 3. 特養、老健、療養型・介護区療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設
☐ 4. 訪問介護・入浴、夜間対応型
☐ 5. 小多機能、看護多機能、定期巡回サービス
☐ 6. 通所介護、通所リハ、認知症デイ
☐ 7. 住宅型有料、高齢生（特定施設以外）
☐ 8. その他の介護サービス

⇒【「3.」～「8.」の場合は問5へ】

問5 【問4で「3.」～「8.」と回答された方】ご回答いただいた直前の職場について、以下にご回答ください。

1)場所（1つに○）	☐ 1. 現在の事業所と、同一の市区町村内
	☐ 2. 現在の事業所と、別の市区町村内
2)法人（1つに○）	☐ 1. 現在の事業所と、同一の法人・グループ
	☐ 2. 現在の事業所と、別の法人・グループ

職員票（訪問介護員向け）裏面

この調査は、「訪問介護員」を対象とした調査です。「訪問介護」、「訪問入浴」、「夜間対応型訪問介護」、「訪問型サービス（総合事業）」、「定期巡回サービス」、「小規模多機能型居宅介護」、「看護小規模多機能型居宅介護」に従事されている方にお聞きします。

※表裏の両面「(4)」過去1週間の勤務時間（★欄）で回答した7日間の勤務時間について、身体介護・生活援助を提供した時間（分）を記入してください。

（例）休職日を開始日とする場合、休職日（開始日）から次週の休職日までの7日間の情報を記入してください。

※多機能型、特設型、特設型を含む。〔買い物〕は、店舗での買い物に要する標準的な時間及び利用者の自宅に要する訪問介護に要する標準的な時間を含む。〔移動時間〕を含む。

※「掃除」には、ゴミ出しも含まれます。

※訪問介護サービスの提供は除いてください。

※介護給付による提供、介護予防給付・総合事業による提供は分けて記入してください。

※記入する時間は「5分単位」とします。（例）32分→30分と記入。

■介護給付による訪問について右詰めで記入

曜日	身体介護		生活援助					
			買い物	調理・配膳	掃除	その他の生活援助		
記入例	60	分	20	分	20	分	20	分
月		分		分		分		分
火		分		分		分		分
水		分		分		分		分
木		分		分		分		分
金		分		分		分		分
土		分		分		分		分
日		分		分		分		分
週の合計		分		分		分		分

■介護予防給付・総合事業による訪問について右詰めで記入

曜日	身体介護		生活援助					
			買い物	調理・配膳	掃除	その他の生活援助		
記入例	30	分	0	分	0	分	20	分
月		分		分		分		分
火		分		分		分		分
水		分		分		分		分
木		分		分		分		分
金		分		分		分		分
土		分		分		分		分
日		分		分		分		分
週の合計		分		分		分		分

※自立生活支援・重症化防止のための居守り的援助（当立支援、ADL・IADL・QOL向上の観点から安全を確保しつつ常時介助できる状態で行う見守り等）は、身体介護を含む

週の合計時間
時間

居所変更実態調査

※令和7年12月1日現在の状況について、 の中に、ご回答ください。

問1 該当するサービス種別をご回答ください。 (1つに○)

1. 住宅型有料老人ホーム	6. 地域密着型特定施設
2. 延寿老人ホーム (特定施設除く)	7. 介護老人保健施設
3. サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)	8. 介護医療院
4. グループホーム	9. 特別養護老人ホーム
5. 特定施設	10. 地域密着型特別養護老人ホーム

※本調査では、上記のサービス種別をまとめて「施設等」と表記します。

問2 費施設等の概要について、以下にご記入ください。

1) 施設等の名称	(人/戸/室)
2) 定員数など	
3) 入所・入居者数	人
4) (費施設等の) 待機者数	人
5) 特別養護老人ホームの待機者数 (申込者数)	人

※「2) 定員数など」は、サービス付き高齢者向け住宅の場合は「住戸戸数」、住宅型有料老人ホーム・延寿老人ホームの場合は「居室数」、その他の施設等の場合は「定員数」をご回答ください。

※4)と5)は、該当者がいない場合は「0」を、不明の場合は「-」を記載してください。

※6)は、特養・地域密着型特養は回答不要です。

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護別の人数について、ご記入ください。(数値を記入)

自立	要支援	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	合計

問4 費施設等で、以下の医療処置が必要な利用者の受け入れは可能ですか。(あてはまる項目全てに○)

※1人でも受け入れが可能であれば、○とご記入ください。

1) 点滴の管理	8) 疼痛の看護
2) 中心静脈栄養	9) 経管栄養
3) 透析	10) モニター測定
4) スリーマの処置	11) 褥瘡の処置
5) 酸素療法	12) カテーテル
6) レスビレーター	13) 喀痰吸引
7) 気管切開の処置	14) インスリン注射
	15) 上記に対処可能な医療処置はない

問5 現在、上記の医療処置を受けている入所・入居者の合計人数をご回答ください。(数値を記入)

問4の医療処置を受けている入所・入居者の合計(実人数)	人
-----------------------------	---

ここからは、過去1年間の新規の入所・入居者についてお伺いします。

問6 過去1年間 (令和6年12月1日～7年11月30日) に、費施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。(数値を記入)

※ 費施設等に入所・入居している方で、一時的な入所等で費施設等に居た方は含めなくてください。

新規の入所・入居者数 (合計★)	人
------------------	---

問7 問6の過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。(数値を記入)

※「合計★」と、問6「新規の入所・入居者数 (合計★)」が一致することを確認ください。
※ 一時的な入居の後に費施設等に入所・入居した場合は入居前の居場所をご記入ください。入居前の居場所がわからない場合は、「12) 病院」を選択してください。
※ 1) 自宅に、ショートステイの長期利用者の入所・入居も含まれます。

	市 (区町村) 内	市 (区町村) 外
1) 自宅 (※兄弟・子ども・親戚等の寄舎も)		
2) 住宅型有料老人ホーム		
3) 延寿老人ホーム (特定施設除く)		
4) サービス付き高齢者向け住宅 (特定施設除く)		
5) グループホーム		
6) 特定施設		
7) 地域密着型特定施設		
8) 介護老人保健施設		
9) 介護医療院		
10) 特別養護老人ホーム		
11) 地域密着型特別養護老人ホーム		
12) 病院・診療所 (一時的な入所を除く)		
13) その他		
14) 入所・入居する前の居場所を把握していない		
合計★		

合計人数が一致するようご注意ください

ここからは、過去1年間の退去者についてお伺いします。

問8 過去1年間（令和6年12月1日～7年11月30日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

※ 時的な入居等から貴施設等に居た方、現在 時的に入居中の方（貴施設等との契約が継続している方）は含めないでください。

※ 「死亡」には、「貴施設等で亡くなった方」に加え、「病棟等への搬送後に死亡された方」も含みます。

退去者数（合計）※死亡を含む 人 ☆

問9 問8の過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。（数値を記入）

※ 死亡した人については、「①退去者」欄ではなく、「②貴施設等での死亡、欄にその人数をご記入ください。

※ 病棟等への搬送後に死亡した場合、搬送先で死亡したケースは「②貴施設等での死亡」、

搬送先からの転院等の後に死亡した場合は「①退去者」に含めてください。

※ 「合計☆」と、問8の「退去者数（合計）」が一致することをご確認ください。

①退去者										合計☆
自立	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	②貴施設等での死亡 ※搬送先での死亡を含む	合計 ☆		※①②の合計

問10 問8でご記入いただいた過去1年間の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。

※ 一時的に入居して貴施設等以外の居場所に移った場合は、退院後の居場所をご記入ください。

※ 搬送先からの転院等の後に死亡した場合は、死亡ではなく「居宅変更」として、該当する行先にカウントしてください。

※ 「合計☆」と、問8の「退去者数（合計）」、問9の「合計☆」が一致することをご確認ください。

	多治見市内	多治見市外
1) 自宅（※兄弟・子ども・親戚等の含む）		
2) 住宅型有料老人ホーム		
3) 軽費老人ホーム（特定施設除く）		
4) サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）		
5) グループホーム		
6) 特定施設		
7) 地域密着型特定施設		
8) 介護老人保健施設		
9) 介護医療院		
10) 病院・診療所（上記19）を除く）		
※ 一時的な入居は含みません		
11) 特別養護老人ホーム		
12) 地域密着型特別養護老人ホーム		
13) その他		
14) 行先を把握していない		
15) 死亡（※搬送先での死亡を含む）		
合計☆		

合計人数が一致することを、ご確認ください

問11 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として最も多いものを3つまで選択してください。（3つまで○）

※ 死亡した方は除く、退去者についてお答えください。

	3つまで○
1) 必要な生活支援が発生・増大したから	
2) 必要な身体介護が発生・増大したから	
3) 認知症の症状が悪化したから	
4) 医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	
5) 「1」～「4」以外の状態像が悪化したから	
6) 入所・入居者の状態等が改善したから	
7) 入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	
8) 費用負担が重くなったから	
9) 本人が希望したから	
10) その他	

問12 貴事業所で入居・入所者が退去するのはどのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。（自由回答）

貴事業所についてご記入ください。

事業所名	
ご担当者氏名	
電話番号	
Eメールアドレス	

調査は以上となります。ご協力ありがとうございます。

多治見市 高齢者保健福祉計画策定のための
高齢者実態調査結果

○発行日 令和８年８月
●編集 多治見市 市民福祉部 高齢福祉課
住 所 〒507-8787 多治見市音羽町 1-233
ＴＥＬ 0572-23-5821
ＦＡＸ 0572-25-6434